

全学共通科目シラバス・履修案内

平成 26 年度
(2014 年)



大阪市立大学学生支援課

目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目的と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	2
5. 全学共通科目の履修について	3
6. 履修登録等について	3
7. 障害を有する学生の受講等について	3
8. 試験及び成績について	3
(1) 定期試験等	3
(2) 成 績	4
9. 各種掲示板について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	4
11. 単位互換について	4
12. 全学共通科目 Q & A	5
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目の履修案内	8
2. 平成26年度全学共通科目の授業科目一覧	9
参考(1) 平成26年度新設等科目一覧	22
参考(2) 平成13年度から26年度までの総合教育科目の開講実績一覧	23
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目 A	29
2. 総合教育科目 B	49
3. 基礎教育科目	131
4. 外国語科目	169
(1) 第1部	169
○外国語科目クラス分け	170
○外国語科目の履修について	172
○シラバス	187
(2) 第2部	227
5. 健康スポーツ科学科目	237
(1) 健康・スポーツ科学科目の履修について	238
(2) 実習授業時の集合場所	239
(3) シラバス	240
IV. 教室等施設配置図	263
V. 学 則	271
VI. 各学部等の電話番号・所在地	295

平成26年度カレンダー（第1部）

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	
4月			1	2	3	4	5	1日(月)～6日(日) 春季休業
	6	7	8	9	10	11	12	1日(火) 新入生ガイダンス
	13	14	15	16	17	18	19	3日(木) 新入生TOEFL
	20	21	22	23	24	25	26	7日(月) 入学式
	27	28	29	30				8日(火) 新入生健康診断
								9日(水) 前期授業開始
								17日(木) 新歓祭5限休講
								18日(金) 新歓祭午後休講

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土		
11月				1	2	3	4	1日(水) 後期授業開始	
	5	6	7	8	9	10	11		
	10	12	13	14	15	16	17	18	17日(金) 振替授業日
	19	20	21	22	23	24	25		(月曜の授業を実施)
	26	27	28	29	30	31			31日(金) 大学祭5限休講

	日	月	火	水	木	金	土	
5月					1	2	3	1日(木) 振替授業日
	4	5	6	7	8	9	10	(火曜の授業を実施)
	11	12	13	14	15	16	17	7日(水) 振替授業日
	18	19	20	21	22	23	24	(月曜の授業を実施)
	25	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土	
11月							1	4日(火) 大学祭休講
	2	3	4	5	6	7	8	大学祭11月1日(土)～4日(火)
	9	10	11	12	13	14	15	5日(水) 振替授業日
	16	17	18	19	20	21	22	(月曜の授業を実施)
	23	24	25	26	27	28	29	6日(木) 振替授業日
	30							(火曜の授業を実施)

	日	月	火	水	木	金	土	
6月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						

	日	月	火	水	木	金	土	
12月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	23日(火)～1月7日(水)
	28	29	30	31				冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土	
7月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	23日(水)～8月5日(火)
	27	28	29	30	31			授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土	
1月					1	2	3	15日(木) 振替授業日
	4	5	6	7	8	9	10	(月曜の授業を実施)
	11	12	13	14	15	16	17	16日(金) センター試験に伴う
	18	19	20	21	22	23	24	休講措置
	25	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土	
8月						1	2	5日(火)～9月15日(月)
	3	4	5	6	7	8	9	夏季休業期間
	10	11	12	13	14	15	16	(ただし5日(火)は授業・
	17	18	19	20	21	22	23	試験を実施)
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

	日	月	火	水	木	金	土	
2月	1	2	3	4	5	6	7	2日(月)～16日(月)
	8	9	10	11	12	13	14	授業・試験期間
	15	16	17	18	19	20	21	16日(月) 振替試験・授業日
	22	23	24	25	26	27	28	(水曜の授業・試験を実施)
								17日(火)～3月19日(木)
								研修期間

	日	月	火	水	木	金	土	
9月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	16日(火)～30日(火) 研修期間
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土	
3月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	20日(金)～春季休業期間
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

平成26年度カレンダー（第2部）

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

1日(月)～6日(日)春季休業
9日(水)前期授業開始

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

1日(水)後期授業開始
17日(金)振替授業日
(月曜の授業を実施)

	日	月	火	水	木	金	土
5月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

1日(木)振替授業日
(火曜の授業を実施)
7日(水)振替授業日
(月曜の授業を実施)

	日	月	火	水	木	金	土
11月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

5日(水)振替授業日
(月曜の授業を実施)
6日(木)振替授業日
(火曜の授業を実施)

	日	月	火	水	木	金	土
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土
12月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

23日(火)～1月7日(水)
冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
7月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

23日(水)～8月5日(火)
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
1月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

15日(木)振替授業日
(月曜の授業を実施)
16日(金)センター試験に伴う
休講措置

	日	月	火	水	木	金	土
8月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

5日(火)～9月15日(月)
夏季休業期間(ただし5日(火)
は授業・試験を実施)

	日	月	火	水	木	金	土
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

2月(月)～16日(月)
授業・試験期間
16日(月)振替試験・授業日
(水曜の授業・試験を実施)
17日(火)～3月19日(木)
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
9月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

16日(火)～30日(火)研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

20日(金)～春季休業期間

□振替授業日 ■休業期間 ■休講日 ■授業・試験期間

平成26年度学年暦

	第 1 部	第 2 部
学 年 開 始	4月1日 (火)	同 左
新入生ガイダンス	4月1日 (火)	
入 学 式	4月7日 (月)	
新入生健康診断	4月8日 (火)	
前期授業開始	4月9日 (水)	同 左
振替授業日	5月1日 (木) 火曜日の授業実施	同 左
振替授業日	5月7日 (水) 月曜日の授業実施	同 左
創立記念日	6月1日 (日)	同 左
授業・試験期間	7月23日 (水)～8月5日 (火)	同 左
夏 季 休 業	8月5日 (火)～9月15日 (月)	同 左
研 修 期 間	9月16日 (火)～9月30日 (火)	同 左
後期授業開始	10月1日 (水)	同 左
振替授業日	10月17日 (金) 月曜日の授業実施	同 左
振替授業日	11月5日 (水) 月曜日の授業実施	同 左
振替授業日	11月6日 (木) 火曜日の授業実施	同 左
冬 季 休 業	12月23日 (火)～1月7日 (水)	同 左
振替授業日	1月15日 (木) 月曜日の授業実施	同 左
授業・試験期間	2月2日 (月)～2月16日 (月)	同 左
振替授業・試験日	2月16日 (月) 水曜日の授業・試験実施	同 左
研 修 期 間	2月17日 (火)～3月19日 (木)	同 左
春 季 休 業	3月20日 (金)～	同 左

※ 振替授業日 —— 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。

※ 研 修 期 間 —— 集中講義や補講などが行われることがある。

※ 授業・試験期間 —— 定期試験や授業を行う。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、1セメスターで授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業(・試験)日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。(平成26年度においては8月5日が夏期休業期間であるが、授業・試験を実施)

☆ 参 考 (案)

- ・新入生歓迎祭開催に伴う休講

4月17日(木) 1部5時限、18日(金) 1部3～5時限

[歓迎祭開催日程：4月17日(木) 5限、18日(金) 午後～19日(土)]

- ・大学祭開催に伴う休講

10月31日(金) 1部5時限、11月4日(火) 1部全時限

[大学祭開催日程：11月1日(土)～11月4日(火)]

- ・センター試験準備に伴う休講

平成27年1月16日(金) 1, 2部全時限(予定)

[センター試験：1月17日(土)・18日(日)]

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

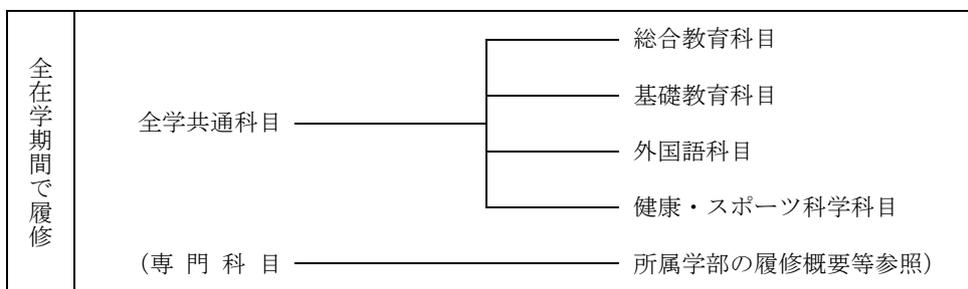
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意：履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。
所属学部の履修概要は、4月上旬に配布される予定です。

2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目Aと総合教育科目Bの二つに区分されます。

- ① 総合教育科目Aは、人類の生存や市民生活等に直接かかわり、すぐれて現代的・実質的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目Aは、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限（第1部）に開講されています。
- ② 総合教育科目Bは、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」という四つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに九つの主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目A・Bの中から、各々の関心や興味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。
- ③ 総合教育科目Bの演習科目は平成10年度から開講されたもので、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ④ 総合教育科目Aの特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目Bの初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新入生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的と

しています。さらに、総合教育科目Bの特別枠「単位互換科目」は（P. 4 参照）、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを目的として大学コンソーシアム大阪（平成18年度より）及び大阪府立大学、大阪商業大学（平成14年度より）との協定によって科目が提供されます。

（注）平成23年度の総合教育科目では、履修登録をするだけで、受講しない者が多く見受けられました。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。今後は、履修する科目を慎重に選んで履修登録をするように注意してください。

履修希望者が教室定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

（2）基礎教育科目

主として理科系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

（注）実験、実習科目では安全かつ効果的に実習を行うため、選択科目として履修を希望する学生の受講人数を制限することがあります。

（3）外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

（4）健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準の規定に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

〔新修外国語〕特修…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、1時間の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間（回数）	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

4. 授業時間

〈第1部〉

第1時限	9時00分～10時30分
第2時限	10時40分～12時10分
第3時限	13時00分～14時30分
第4時限	14時40分～16時10分
第5時限	16時20分～17時50分

〈第2部〉

第1時限	18時00分～19時30分
第2時限	19時40分～21時10分

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なっていたり、科目数を指定している場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

(注) 外国語科目及び健康・スポーツ科学科目の履修については、シラバス (P. 173、P. 240) を参照してください。

◎ 「演習科目」

平成10年度から開講された総合教育科目Bの「演習科目」は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。「演習科目」は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

◎ 留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として「日本語」1A～5B (P. 223参照)、総合教育科目Bとして「日本事情」IA～IIB (P. 93～95) が開講されています。

このうち、「日本事情」IIA、IIBについては、留学生と日本人学生の交流をかねて、クラス定員(20～25名程度)を上回らない範囲で留学生以外の学生の履修を認めます(日本人学生の履修希望者数が多い場合、留学生履修者数とのバランスを考え、選考を行う予定です。)

6. 履修登録等について

単位を修得しようとする科目は、各セメスター前の履修登録期間中にWeb履修システムにて履修登録を行って下さい。

(1) 履修登録及び確認

- ① 前期の履修登録時に申請する授業科目は、前期・集中講義・通年(専門科目のみ)の科目です。後期開講の授業科目については、後期履修登録時(9月末)に行います。また、集中講義は後期には登録できません。
- ② 登録は「Web履修システム操作マニュアル」や各所属学部からの説明にしたがって行って下さい。履修登録内容確認日に登録内容を各自点検のうえ、エラー表示のある場合や登録内容に誤りがある場合は、確認修正登録期間に必ず修正登録をしてください。期間内にエラー表示のある科目及び登録内容の誤りを修正しないときは、当該科目の登録が無効になるので注意してください。
- ③ 確認修正登録期間を過ぎた後は、修正は認められませんので登録漏れのないようによく確認をしてください。
- ④ 履修登録ができていない場合は、当該授業科目を履修し、受験することができません。

(2) 登録上の注意

- ① 「Web履修システム操作マニュアル」を参照して下さい。
- ② 別途願い出が必要な科目を履修する場合は、履修許可願等(指定外クラス履修許可願等)の提出を必要とすることがありますので、学生サポートセンター所属学部担当に申し出てください。

7. 障害を有する学生の受講等について

障害を有する学生の受講等について要望があるときは、第1部にあっては学生サポートセンター所属学部担当に、第2部にあっては2部事務室に申し出てください。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに一定期間の各授業時間に実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後に、受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、学生サポートセンター所属学部担当に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は各学部履修概要で確認してください。

(注) 試験に関する詳細は適宜、学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)に掲示します。また、追試験を許可された者の氏名及び実施日程等も、定期試験終了後定められた日に、学生支援課共

通教育専用掲示板に掲示します。

(2) 成績

平成24年度までの入学者は、合格科目→「A・B・C」表記、不合格科目→「E」表記をもって通知します。平成25年度以降の入学者は合格科目→「AA・A・B・C」表記、不合格科目→「F」表記をもって通知します。成績通知はWeb履修サイト上で確認することができます。成績通知日は所属学部からお知らせします。

9. 各種掲示板について

全学共通科目に関する事項（授業、休講、履修等）やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。

全学共通科目に関する第1部の掲示板は、主に授業時間割関係、休講・補講通知、教室変更、学生呼び出し等の掲示を行う学生支援課共通教育専用掲示板（全学共通教育棟1階ピロティ東側）とします。また、本学HPポータルサイトに掲載する情報もあります（全学共通科目以外の事項は学生サポートセンター等に掲示します）。第2部の掲示板は、2部事務室前に設置しています。

10. 交通スト、台風時等の授業について

(1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR阪和線
- ② 私鉄（近鉄、阪急、阪神、南海、京阪）の1社以上
- ③ 地下鉄及びJR環状線が同時

(2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府下に暴風警報」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

第1部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

第2部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午後3時以前		全時限
午後3時を過ぎても解除されない場合	全時限	

11. 単位互換について（講義概要等は別冊）

(1) 単位互換

平成14年度から、教育分野における交流を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、大阪府立大学及び大阪商業大学との間で単位互換を実施しています。さらに平成18年度から新たに大学コンソーシアム大阪として単位互換事業が実施されています。なお、単位互換科目を履修する際には、所属学部によって単位認定等の取り扱いが異なりますので、必ず所属学部履修規程等を参照してください。

(2) 平成24年度の履修について

- ① 履修及び卒業に必要な単位として認めるかどうかは、各所属学部によって異なります。各所属学部履修規程を必ず参照してください。
- ② 提供される科目ごとに受講者数の制限があります。
- ③ 単位互換科目の講義概要の配布は全学共通教育棟2F学生支援課事務室と2部事務室で行います。また、講義

概要の閲覧は学生サポートセンター各所属学部担当でも可能です。

- ④ 大学コンソーシアム大阪単位互換科目のシラバスは、Webを参照して下さい。
(<http://www.consortium-osaka.gr.jp/univ/syllabus.php>)
- ⑤ 「単位互換履修出願票」の受付は、下記期間中に学生支援課事務室（第1部学生）と2部事務室（第2部学生）で行います。
- ・大学コンソーシアム大阪単位互換科目 3月24日（月）～4月10日（木）
 - ・大阪府立大学、大阪商業大学の間で実施する単位互換科目 3月24日（月）～4月4日（金）
- ⑥ 詳細については、学生支援課共通教育担当（06-6605-2935）までお問い合わせください。

12. 全学共通科目 Q & A

Q 1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の専門を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこもることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持って考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修して下さい。

Q 2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修をすることで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q 3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためです。在学中の履修計画を立てるために必ず目を通して下さい。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q 4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、残念ながら医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用して下さい。

Q 5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取ってしまうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q 6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

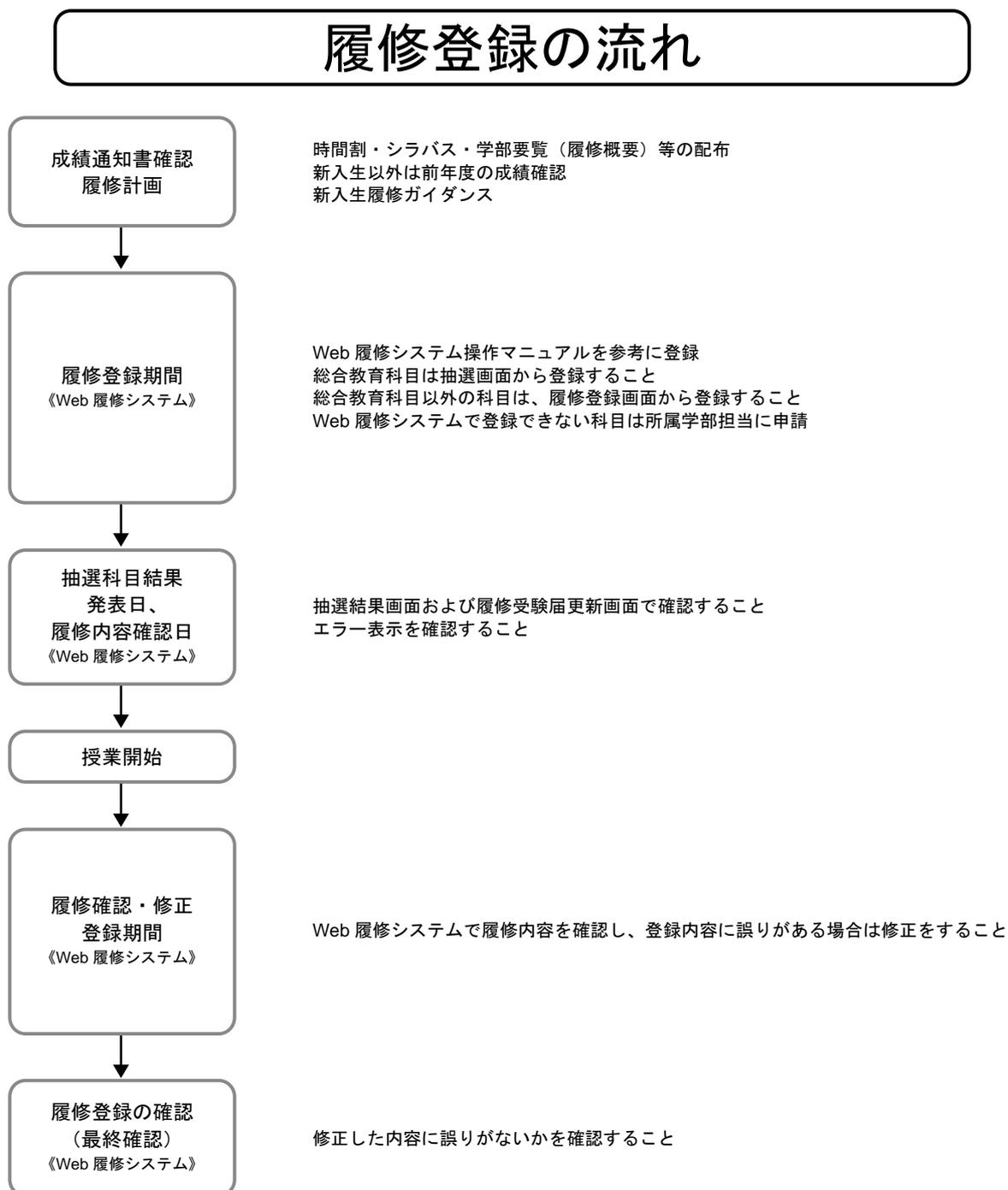
（注）授業の空登録（受講の決心をしていないのに登録だけしておく）は、本当に受けたい人の受講を妨げること

になりますので、絶対にやめてください。また、履修登録が確定した科目の授業は必ず受けてください。

Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目（第1部）なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実際的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の教材が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。

【履修登録の流れ】



Ⅱ 全学共通科目の授業科目

1. 全学共通科目の履修案内

日 本 語			英 語		
総合教育科目 A			Integrated General Courses A		
	主 題	人 間 と 環 境 都 市 ・ 大 阪 生 命 と 人 間 特 別 枠		主 題	Humanity and the Enviroment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目 B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主 題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権		主 題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主 題	歴 史 地 域 と 文 化 文 学 と 芸 術		主 題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主 題	現代の自然科学 自然科学と人間		主 題	Modern Natural Science Natural Science and Humanity
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主 題	情 報 と 人 間		主 題	Information and Humanity
科目群	初 年 次 教 育		科目群	First Year Experience	
	主 題	初 年 次 教 育		主 題	First Year Experience
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主 題	数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学		主 題	Mathematics Physics Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主 題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences; HESS		
	主 題	健康スポーツ科学講義 健康スポーツ科学実習 { 実験実習 スポーツ実習		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences throughtout Life Practice Courses { Experimental Education for HESS Practice-Field Work for HESS

2. 平成26年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目A

総合教育科目Aでは、すぐれた現代的・実的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つ一つの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つ一つ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
人間と環境	環 境 と 歴 史	2	2		全：水・5				
	日 本 の 公 害	2	2		全：木・4				
	技 術 と 環 境	2	2	全：水・5					
	環 境 と 健 康	2	2	全：金・5					
	開 発 と 環 境				全：金・5				
都 市 ・ 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪	2	2		全：水・5				
	大 阪 の 自 然	2	2		全：金・5				
	都 市 生 活 と 人 間 福 祉	2	2	全：金・5					
	大 阪 の 地 理	2	2	全：水・5					
	現 代 都 市 論	2	2		全：水・5				
	都 市 の 経 済 と ビジネス	2	2		全：水・5				
	国 際 地 域 経 済 と 都 市	2	2		全：水・4				
	大 阪 落 語 へ の 招 待	2	2		全：金・5				
	都 市 ・ 地 域 政 策	2	2	全：金・4					
市 大 都 市 研 究 の 最 前 線	2	2		全：金・5					
生 命 と 人 間	戦 争 と 人 間	2	2	全：火・1					
	生 命 と 進 化	2	2		全：水・5				
	現 代 の 医 療	2	2	全：水・5					
	生 命 と 法	2	2		全：金・5				
	健 康 へ の ア プ ロ ー チ	2	2	全：金・5					
	技 術 と 生 命	2	2		全：水・5				
	光 と 生 命	2	2		全：金・5		全：金・1		
特 別 枠	大 阪 市 大 で ど う 学 ぶ か	2	2	全：水・5					

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
人間 と 知 識 ・ 思 想	論 理 学 入 門	2	2		全：火・4				
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	全文：月・3		全：月・1			
				全文：木・4					
				全理：火・3					
				全理：金・1					
	性 格 心 理 学 入 門	2	2		全：金・2				
	対 人 行 動 の 影 響 と 意 味	2	2	全：月・3					
	ゲ ー ム で 学 ぶ 社 会 行 動	2	2		全：木・3				
	日 常 の 中 の 不 思 議 を 探 ず 演 習	2	2		全：火・3				
	教 育 と 発 達 の 心 理 学	2	2	全：火・2					
	教 育 と 発 達 の 心 理 学 演 習	2	2		全：木・3				
リテラシー教育の思想と方法	2	2		全：火・4					
心理学・認知科学と人間	2	2	全：火・4						
現 代 社 会 と 人 間	現代文化の社会学	2	2		全：水・3				
	社会科学のフロンティア	2	2		全：火・2				
	日 本 国 憲 法	2	2	全：火・1					
	都市的世界の社会学	2	2	全：木・3					
	日本と世界の教育	2	2		全：木・2				
	宗 教 と 社 会	2	2	全：木・4					
	現代社会学入門	2	2	全：月・2					
	現代の社会問題	2	2			全：水・1			
	世界のなかの日本経済	2	2	全：火・4					
	現代経済学入門	2	2	全：金・3					
	法 と 社 会	2	2		全：木・4				
	現 代 の 経 営	2	2	全：木・4				商学部学生は履修不可	
	現 代 社 会 と 健 康	2	2	全：水・3	全：水・3				
				全：木・2	全：木・2				
	家 族 と 社 会	2	2	全：木・1					
	現代社会におけるキャリアデザイン	2	2		全：火・3				
現 代 社 会 と 大 学	2	2	全：木・4						
現代社会と大学 演習	2	2		全：木・3					

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
社 会 と 人 権	現代の部落問題	2	2	全：金・2					
	メディアと人権	2	2	全：金・1					
	部落解放のフロンティア	2	2		全：金・1				
	部落差別の成立と展開	2	2	全：金・1			全：金・1		
	世界のマイノリティ	2	2		全：金・2		全：金・2		
	障がい者と人権Ⅰ	2	2	全：金・2					
	障がい者と人権Ⅱ	2	2		全：金・2				
	ジェンダーと現代社会Ⅰ	2	2	全：金・2					
	ジェンダーと現代社会Ⅱ	2	2		全：金・2				
	ジェンダーと現代社会	2	2			全：月・2			
	エスニック・スタディ入門編	2	2	全：金・2					
	エスニック・スタディ応用編	2	2		全：金・2				
	企業と人権	2	2	全：金・1					
	地球市民と人権	2	2	全：金・2					
	人権と多様性の研究演習	2	2		全：金・4				
	平和と人権	2	2		全：金・2				

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
歴史	日本史の見方	2	2	全：火・3					
	東洋史の見方	2	2	全：木・2					
	西洋史の見方	2	2	全：火・4					
	日本社会の歴史	2	2		全：木・3				
	東洋社会の歴史	2	2		全：木・1		全：木・2		
	西洋社会の歴史	2	2		全：火・3				
	現代の歴史	2	2		全：木・4				
	考古学入門	2	2		全：火・2				
	ことばの歴史	2	2		全：月・3				
	歴史学の世界 演習	2	2	全：木・1					
地域と文化	現代の地理学	2	2				全：火・1		
	都市の地理学	2	2		全：月・3				
	文化人類学入門	2	2	全：火・3					
	環境と文化	2	2	全：火・1					
	アジアの文化	2	2	全：月・3					
	アジアの地域と文化 演習	2	2	全：月・2					
	民族と社会	2	2		全：火・3				
	日本事情 I A	2	2	全：火・2					
	日本事情 I B	2	2		全：火・2				
	日本事情 II A	2	2	全：水・2					
	日本事情 II B	2	2		全：木・4				
	観光研究入門	2	2	全：水・3					
観光と文化	2	2		全：水・3					
文学と芸術	日本の古典文学	2	2	全：火・2					
	東洋の文学	2	2		全：木・2				
	西洋の文学	2	2	全：火・3					
	日本の詩歌	2	2	全：火・3					
	芸術の世界	2	2	全：月・2					
	東洋美術の流れ	2	2		全：火・2				
	音楽の諸相	2	2	全：水・3					
	文学と芸術へのいざない演習	2	2		全：木・3				

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生、生活科学部人間福祉学科と医学部看護学科の学生を対象とする。

主題「自然科学と人間」は、文科系及び理科系の学生を対象とする。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
現代の自然科学	数学の考え方 1	2	2		全文：月・2	全：月・1		理科系学生は履修不可	
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	全文：木・2					
	マイクロとマクロの世界	2	2		全文：火・3				
	化学の世界	2	2	全文：月・3					
	現代の分子科学	2	2		全文：火・3				
	新しい動物行動学	2	2	全文：金・3					
	生物学への招待	2	2	全文：水・3					
	地球の科学	2	2		全文：火・1				
	実験で知る自然の世界	4	3		全文：水3-4				
地球学入門	2	2		全文：火・1					
自然科学と人間	科学と社会	2	2	全：水・3					
	現代科学と人間	2	2	全：木・4					
	近代科学の成立	2	2		全：木・4		全：木・1		
	心と脳				全：月・2				
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		全：水・3				
	森林環境と人間社会	2	2	全：火・3					
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	2	2		全：火・3				
	植物の機能と人間社会	2	2		全：月・2				
植物と人間 演習	2	2	全：集中						

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
情報 と 人間	情報基礎	4	2	9クラス 曜日・時 限はシラ バス参照	全：水1-2 全：金1-2	全：金 1・2			
	プログラミング入門	4	2	全：月 3-4 全：金 3-4	3クラス 曜日・時 限はシラ バス参照				
	情報の探索と利用	2	2	全：火・2	全：水・1 全：水・2				
	地図と地理情報	2	2		全：火・2				
	情報化の光と影	2	2		全：木・2				

科目群：初年次教育

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
初年 次 教 育	初年次セミナー	2	2	曜日・時 限はシラ バス参照					
	地域実践演習 (GATSUN)	2	2	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照				

「特別枠」

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
特別 枠	単位互換科目	2	別冊 参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照	曜日・時 限はシラ バス参照		

○基礎教育科目（曜日・時限はシラバス参照）

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		備考	シラバス 掲載項
			前期	後期		
数 学	線形代数 I	2	2	○		
	線形代数 II	2	2		○	
	解析 I	2	2	○		
	解析 II	2	2		○	
	解析 III	2	2	○		
	解析 IV	2	2		○	
	応用数学 A	2	2	○		
	応用数学 B	2	2		○	
	応用数学 C	2	2		○	
	基礎数学 A	2	2	○		第2部開講（前期）
	基礎数学 B	2	2		○	第2部開講（後期）
	統計学 A	2	2	○		
	統計学 B	2	2		○	
物 理 学	基礎物理学 I	4	4	○		週2コマ開講
	基礎物理学 II	4	4		○	週2コマ開講
	基礎物理学 I - A	2	2		○	
	基礎物理学 II - A	2	2	○		
	基礎物理学 I - E	2	2	○		
	基礎物理学 II - E	2	2		○	
	基礎物理学 III	2	2	○		
	基礎物理学 IV	2	2		○	
	基礎物理学 IV - E	2	2		○	
	物理学 I	2	2	○		
	物理学 II	2	2		○	
	物理学 A	2	2	○		
	物理学 B	2	2		○	
	入門物理学 I	2	2	○		
	入門物理学 II	2	2		○	
	入門物理学実験	4	2		○	
	基礎物理学実験 I	6	3	○	○	
基礎物理学実験 II	6	3	○	○		
化 学	基礎物理化学 A	2	2	○	○	
	基礎物理化学 B	2	2		○	
	基礎有機化学	2	2	○		
	基礎有機化学 I	2	2	○		
	基礎有機化学 II	2	2		○	
	基礎無機化学	2	2	○	○	
	基礎分析化学	2	2	○		

授 業 科 目		毎週 時間数	単位数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期		
化 学	基礎有機化学 M	2	2		○		
	入門化学	2	2	○			
	基礎化学実験 I	6	3	○	○		
	基礎化学実験 II	6	3	○	○		
	化学実験	4	2		○		
生 物 学	生物学概論 A	2	2	○	○		
	生物学概論 B	2	2		○		
	生物学概論 C	2	2		○		
	生物学概論 D	2	2	○			
	生物学概論 I	2	2	○			
	生物学概論 II	2	2		○		
	生物学概論 III	2	2	○			
	生物学 A	2	2	○			
	生物学 B	2	2		○		
	生物学実験 A	4	2	○			
	生物学実験 B	4	2		○		
	生物学実験 M	6	1		○		
地 球 学	一般地球学 A - I	2	2	○			
	一般地球学 A - II	2	2		○		
	一般地球学 B - I	2	2	○			
	一般地球学 B - II	2	2		○		
	建設地学	2	2		○		
	建設地学実習	2	1		○		
	地球学実験 A	4	2	○			
地球学実験 B	4	2		○			
図 形 科 学	図形科学 I	2	2	○			
	図形科学 II	2	2		○		

○外国語科目（曜日・時限はシラバス参照）

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
College English I	2	1	○							
College English II	2	1	○							
College English III	2	1		○						
College English IV	2	1		○						
College English V	2	1	○		○					
College English VI	2	1		○		○				
英語										
ACE:TOEIC650	2	1	○	○						
ACE:TOEFL80	2	1	○	○						
ACE:TOEFL80+	2	1		○						
ACE:Films	2	1		○						
ACE:Media English	2	1	○	○						
ACE:Critical Writing	2	1	○	○						
ACE:Presentation	2	1		○						
ACE:Intensive Reading	2	1	○	○						
ACE:Discussion	2	1	○							
ACE:Literature	2	1	○							
ACE:Comperative Culture	2	1	○							
ドイツ語 基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講			
基礎1	2	1								
基礎2	2	1								
基礎3	2	1		○						
基礎4	2	1		○						
応用1A	2	1	○							
応用2A	2	1		○						
応用1B	2	1	○							
応用2B	2	1		○						
特修1	2	2			○					
特修2	2	2		○						
特修1a	2	2	○							
特修1b	2	2	○							
特修3a	2	2	○							
特修3b	2	2	○							
特修4	2	2		○						
特修5	2	2	○							
特修6	2	2		○						
特修7	2	2	○							
特修8	2	2		○						
特修9	2	2	○							
特修10	2	2		○						

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
フランス語 基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講			
基礎1	2	1								
基礎2	2	1								
基礎3	2	1		○						
基礎4	2	1		○						
応用1A	2	1	○							
応用2A	2	1		○						
応用1B	2	1	○							
応用2B	2	1		○						
特修1	2	2	○		○					
特修2	2	2		○						
特修3	2	2	○							
特修4	2	2		○						
特修5	2	2	○							
特修6	2	2		○						
特修7	2	2	○							
特修8	2	2		○						
特修9	2	2	○							
特修10	2	2		○						
中国語 基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講			
基礎1	2	1								
基礎2	2	1								
基礎3	2	1		○						
基礎4	2	1		○						
応用1A	2	1	○							
応用2A	2	1		○						
応用1B	2	1	○							
応用2B	2	1		○						
特修1	2	2	○		○					
特修2	2	2		○						
特修3	2	2	○							
特修4	2	2		○						
特修5	2	2	○							
特修6	2	2		○						
特修7	2	2	○							
特修8	2	2		○						
特修9	2	2	○							
特修10	2	2		○						

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス掲載頁			
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部	
								前期	後期	前・後期	
ロシア語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講			
	基礎1	2	1								
	基礎2	2	1			○					
	基礎3	2	1		○						
	基礎4	2	1		○		○				
	応用1 A	2	1	○							
	応用2 A	2	1		○						
	応用1 B	2	1	○							
	応用2 B	2	1		○						
	特修1	2	2	○							
	特修2	2	2		○						
	特修3	2	2	○							
特修4	2	2		○							
朝鮮語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講			
	基礎1	2	1								
	基礎2	2	1								
	基礎3	2	1		○						
	基礎4	2	1		○						
	応用1 A	2	1	○							
	応用2 A	2	1		○						
	応用1 B	2	1	○							
	応用2 B	2	1		○						
	特修1	2	2	○							
	特修2	2	2		○						
	特修3	2	2	○							
特修4	2	2		○							
日本語	1 A			○				留学生のみ対象			
	1 B				○			〃			
	2 A			○				〃			
	2 B				○			〃			
	3 A			○				〃			
	3 B				○			〃			
	4 A			○				〃			
	4 B				○			〃			
	5 A			○				〃			
5 B				○			〃				

○健康・スポーツ科学科目

(健康・スポーツ科学講義)

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス 掲載頁
			前期	後期	前期	後期		
たばこと健康問題	2	2					休講	
健康運動科学	2	2	火2 全 木4 全	火2 全 木4 全		火1 全	旧：健康運動科学論	
体カトレーニング科学	2	2	木3 全	木3 全			旧：体カトレーニング科学論	
スポーツ実践科学	2	2	木3 全 木4 全	木3 全			旧：スポーツ実践科学論	

(健康・スポーツ科学実習)

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス 掲載頁
			前期	後期	前期	後期		
健康運動科学実験実習1	2	1	火3 CL I (全文)	火3 CL I (全文)			旧：健康運動科学科目1	
			木1 EJ I (全文)	火4 全				
			木2 ST I (全理)	木2 ST I (全理)				
健康運動科学実験実習2	2	1					旧：健康運動科学科目2 休講	
体カトレーニング科学実験実習1	2	1		木3 全			旧：体カトレーニング科目1	
体カトレーニング科学実験実習2	2	1					旧：体カトレーニング科目2 休講	
スポーツ実践科学実験実習1	2	1		木1 EJ I (全文)				
バスケットボール1	2	1	火3 CL I (全文)	火3 CL I (全文)				
			火4 全	火4 全				
			水2 全 木1 EJ I (全文)					
バスケットボール2	2	1		木2 ST I (全理)				
バレーボール1	2	1	火3 CL I (全文)					
			火4 全					
バレーボール2	2	1		火3 CL I (全文)				
				火4 全				
サッカー1	2	1		火3 CL I (全文)				
				火4 全				
			木1 EJ I (全文)	木1 EJ I (全文)				
			木2 ST I (全理)					
			木3 全	木3 全				
			木4 全	木4 全				
サッカー2	2	1					休講	
ハンドボール1	2	1	木3 全	木3 全				
			木4 全	木4 全				
ハンドボール2	2	1					休講	
陸上競技1	2	1					休講	
陸上競技2	2	1					休講	

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス 掲載頁
			前期	後期	前期	後期		
アーチェリー 1	2	1	火3 CL I (全文) 火4 全 木2 ST I (全理)					
アーチェリー 2	2	1		水1 全				
ソフトボール 1	2	1	火1 全 火2 全 火3 CL I (全文) 木1 EJ I (全文) 木3 全					
ソフトボール 2	2	1	火4 全					
テニス 1	2	1	火3 CL I (全文) 火4 全 木1 EJ I (全文) 木2 ST I (全理) 木3 全 木4 全					
テニス 2	2	1		木1 EJ I (全文) 木2 ST I (全理) 木3 全 木4 全				
卓 球 1	2	1			火1 全			
卓 球 2	2	1					休講	
バドミントン 1	2	1					休講	
バドミントン 2	2	1					休講	
ゴルフ 1	2	1					休講	
ゴルフ 2	2	1					休講	
フットサル 1	2	1	火3 CL I (全文) 火4 全			木1 全		
ジョギング・マラソン 1	2	1	火3 CL I (全文) 火4 全 木1 EJ I (全文)	火3 CL I (全文) 木2 ST I (全理)				
ジョギング・マラソン 2	2	1		火4 全				
ダンス 1	2	1		火3 CL I (全文) 火4 全				
空 手 道 1	2	1	火4 全					
健康管理 1	2	1	火4 全	火2 全				
健康管理 2	2	1					休講	

参考(1)

平成26年度 新設等科目一覧

平成26年度から下記のとおり科目を新設、廃止及び科目名の変更をします。

新設・廃止・変更	教 科	科目群	主 題	科 目 名	備 考
新設科目	総合教育科目 B	人間と社会	社会と人権	世界のマイノリティ	
新設科目	総合教育科目 B	人間と社会	人間と知識・思想	心理学・認知科学と人間	
新設科目	総合教育科目 B	歴史と文化	地域と文化	観光研究入門	
新設科目	総合教育科目 B	歴史と文化	地域と文化	観光と文化	
新設科目	総合教育科目 B	初年次教育		地域実践演習 (GATSUN)	COC関連
廃止科目	総合教育科目 B	人間と社会	社会と人権	部落差別の近現代史	
科目名変更	総合教育科目 B	歴史と文化	地域と文化	環境と文化	旧：景観と文化
科目名変更	総合教育科目 B	自然と人間	現代の自然科学	新しい動物行動学	旧：新しい動物行動学 入門

(参考) 平成25年度中に新設した科目

新設・廃止・変更	教 科	科目群	科 目 名	備 考
新設科目	外国語科目	英語	Advanced College English:Comperative Culture	平成25年度後期開講

参考(2)

平成13年度から26年度までの総合教育科目の開講実績一覧

[科目名は、26年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。
 ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む]
 (○：開講、 — ：未開設を示す)

○総合教育科目A

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度			
		1部	2部																												
人間と環境	環境と歴史		○	○			○	○				○			○			○						○				○			
	日本の公害	○			○			○			○				○	○					○				○	○			○		
	技術と環境	○		○		○				○	○			○	○					○			○					○			
	環境と健康					○				○	○				○						○							○			
	開発と環境				○			○	○			○	○			○					○				○				○		
	環境と法・行政									○	○			○								○	○				○		○		
	環境と経済											○								○							○	○	○	○	
	人間と居住環境																			○	○				○			○			
都市・大阪	歴史のなかの大阪		○	○		○			○	○			○		○	○				○	○			○			○		○		
	大阪の自然	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	○					○		○		○	○		○	○		
	都市生活と人間福祉																				○		○				○		○		
	大阪の都市づくり			○		○		○		○				○	○							○			○			○		○	
	都市の経済とビジネス			○		○		○		○				○	○						○		○				○		○		
	大阪の地理			○		○		○		○				○	○						○		○				○		○		
	現代都市論				○		○		○		○			○	○						○		○				○		○		
	大阪の空間文化論				○	○		○		○				○	○																
	国際地域経済と都市									○	○			○	○							○	○			○		○		○	
	大阪落語への招待													○	○							○	○			○		○		○	
	都市・地域政策																								○			○		○	
	市大都市研究の最前線																			○	○								○		
生命と人間	生と死の倫理	○		○		○		○	○			○		○	○					○	○			○			○		○		
	戦争と人間	○			○	○		○		○		○	○		○	○				○	○	○		○			○		○		
	生命と進化	○		○		○		○		○			○	○							○		○		○			○		○	
	現代の医療	○	○	○		○		○		○			○	○							○		○		○			○		○	
	人体を考える			○	○			○					○								○						○		○		
	生体のしくみ	○						○	○																○						
	生命と法	○		○		○		○							○	○					○	○			○	○		○		○	
	健康へのアプローチ			○		○				○	○				○	○						○		○				○		○	
	技術と生命	○		○		○		○						○	○							○		○			○		○		○
	光と生命																									○		○		○	○
特別枠	大阪市大でどう学ぶか					○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
人間と知識・思想	哲学入門	○		○		○			○		○				○				○										
	論理学入門	○			○			○	○					○				○		○	○		○						○
	心理学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋の思想							○				○		○	○														
	東洋の思想	○	○	○			○																						
	論理学の展開																												
	認知の仕組み					○	○				○					○				○							○		
	文化と社会の心理	○				○						○						○				○					○		
	性格心理学入門			○				○						○															○
	人間と宗教	○		○				○			○	○			○		○	○				○					○		
	倫理学入門	○		○			○				○	○			○				○			○					○		
	行動と学習の心理	○							○					○							○				○				
	感覚と知覚の心理		○						○																				
	対人行動の影響と意味										○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	ゲームで学ぶ社会行動										○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	日常の中の不思議を探す 演習										○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	教育と発達の心理学												○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	教育と発達の心理学 演習												○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	リテラシー教育の思想と方法																					○	○		○	○		○	○
	心理学・認知科学と人間																												○
現代社会と人間	現代文化の社会学			○				○					○	○				○	○				○	○		○	○		○
	社会科学のフロンティア	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本国憲法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市的世界の社会学	○		○			○			○			○			○			○			○			○			○	
	日本と世界の教育	○	○	○	○						○			○					○	○						○	○		○
	宗教と社会	○				○				○				○				○	○			○	○				○		○
	現代社会学入門	○		○	○	○		○	○		○			○				○	○		○	○		○			○		○
	現代の社会問題	○	○										○		○		○		○		○		○		○		○		○
	世界のなかの日本経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代経済学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法と社会	○	○	○	○	○				○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	政治と人間	○	○	○	○	○	○																						
	現代の経営		○		○	○	○				○	○				○	○			○	○			○	○			○	
	日本の企業	○	○	○				○	○			○	○	○	○				○	○			○	○			○	○	
	ライフサイクルと教育	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	現代社会と健康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	家族と社会	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
メディアの社会学					○		○			○			○		○						○		○		○		○		
現代社会におけるキャリアデザイン										○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
現代社会と人間	現代社会と大学									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	基礎会計学									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代文化の社会学 演習	○				○								○	○														
	現代の経営 演習	○		○		○								○				○											
	日本の企業 演習							○				○		○			○												
	国際理解と教育 演習	○						○								○								○					
	現代の社会問題 演習			○		○																							
	現代社会と大学 演習										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会と人権	現代の部落問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	メディアと人権																							○	○	○	○	○	
	部落解放のフロンティア	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	部落差別の成立と展開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	世界のマイノリティ																										○	○	
	部落差別の近現代史																							○	○				
	障がい者と人権 I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障がい者と人権 II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障がい者と人権																										○		
	ジェンダーと現代社会 I																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ジェンダーと現代社会 II																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ジェンダーと現代社会																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ入門編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ応用編			○	○			○	○			○	○			○			○					○			○		
	企業と人権																							○	○	○	○	○	
	大阪の部落産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	地球市民と人権																							○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ 演習	○				○					○			○				○				○			○				
人権と多様性の研究 演習									○	○		○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
平和と人権																											○		

科目群：歴史と文化

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
歴史	日本史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	東洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	西洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本社会の歴史	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			
	東洋社会の歴史	○		○			○			○			○	○			○	○			○	○			○	○		○	
	西洋社会の歴史		○	○		○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		○	
	現代の歴史				○			○			○			○			○			○	○			○	○		○		
	考古学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ことばの歴史	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	歴史学の世界 演習	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		
		1部	2部																											
地 域 と 文 化	現代の地理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	都市の地理学	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	文化人類学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文化とコミュニケーション	○				○					○				○						○								○	
	言語学入門	○	○	○			○	○			○									○							○			
	ことばと文化		○	○		○			○	○		○			○							○			○					
	環境と文化	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	アジアの文化										○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	西洋の文化	○			○	○					○		○									○					○			
	民族と社会					○	○		○	○		○								○								○		
	アジアの地域と文化 演習											○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情 I A	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情 I B	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情 II A	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情 II B	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	観光研究入門																													○
観光と文化																													○	
文 学 と 芸 術	日本の古典文学									○	○			○				○					○				○		○	
	東洋の文学				○											○				○		○					○		○	
	西洋の文学	○	○	○			○	○		○	○		○	○		○		○		○		○		○		○		○		
	日本の詩歌	○		○			○	○				○	○						○	○		○		○		○		○		
	日本の近代文学																										○		○	
	視覚文化の世界																			○	○					○		○		
	芸術の世界	○		○		○	○				○											○		○				○		
	美の本質	○		○		○																								
	東洋美術の流れ	○	○	○	○			○				○				○						○					○		○	
	西洋美術の流れ	○			○	○				○				○								○					○			
	音楽の諸相					○	○		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	文学と芸術へのいざない 演習	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○

科目群：自然と人間

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
現 代 の 自 然 科 学	数学の考え方 1											○	○			○			○	○			○	○			○	○	
	数学の考え方 2									○	○			○	○				○	○			○	○			○	○	
	ニュートンからアインシュタインへ	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	ミクロとマクロの世界	○	○			○	○			○	○			○	○					○	○					○	○		○
	化学の世界	○	○			○	○			○	○			○	○						○	○				○	○		○
	現代の分子科学			○	○			○	○			○	○			○	○				○	○			○	○		○	
	新しい動物行動学																										○		○
	生物学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		
		1部	2部																											
現代の自然科学	地球の科学	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		
	実験で知る自然の世界	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	地球学入門							○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	現代の理学A													○				○		○		○		○		○		○		
自然科学と人間	科学と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代科学と人間	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	近代科学の成立			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○	
	日本の科学技術	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			
	心と脳			○			○			○			○			○			○			○			○			○		
	ドキュメンタリー・環境と生命			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	実験で知る自然環境と人間							○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	森林環境と人間社会								○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題										○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	植物の機能と人間社会															○			○			○			○			○		
	植物と人間 演習	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		

科目群：情報と人間

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		
		1部	2部																											
情報と人間	情報基礎											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	プログラミング入門											○	○	○		○	○	○	○	○		○		○		○		○		
	情報の探索と利用											○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	地図と地理情報		○	○					○		○			○		○			○		○		○		○		○		○	
	情報化の光と影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会と統計												○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○	

科目群：初年次教育

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
初年次教育	初年次セミナー																	○		○		○		○		○		○	
	地域実践演習 (GATSUN)																												○

○総合教育科目B

特別枠

主題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度	
		1部	2部																										
特別枠	単位互換科目											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

科 目 名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単 位 数
英文科目名		

②は第2部 ①は第1部
表示が無い場合は第1部

環境と歴史

Environment and History

(後期 水・5 全)

2 単位

文学研究科 大黒 俊二

●科目の主題

環境という視点から世界の歴史をふり返る。人間は環境に規定され、環境に働きかけながら歴史を作ってきた。この当然の事実が意識されるようになってきたのは最近のことにすぎない。長く歴史の主役は人間以外にはないと素朴に信じられてきた。「進歩」、「発展」、「開発」という言葉は、いずれもこうした人間中心史観を表している。しかし人々は、「発展」や「開発」による環境破壊を前にして、ようやく環境に規定された人間の姿に気づくようになってきた。環境が歴史のもう一つの主役として登場してきたのである。こうした視点から過去を見直す試みが「環境史」である。講義では最近の環境史研究の成果を系統的に紹介したい。

●授業の到達目標

環境史は歴史を単純な「進歩」の過程としてはみない。また環境と人間を対等の主役としてあつかう。講義の第一の目的は、こうした「環境の中の人間」という視点から歴史をふり返り、「進歩」の意味を問い直すことである。第二に、環境を「問題」として意識する私たち自身も歴史的存在である。環境はこれまでにいかに意識化されてきたか、その軌跡をたどることが第二の目的である。第三に、環境と人間の関係に焦点を合わせると、従来の時代区分は意味をなさなくなる。環境史においては20世紀以後とそれ以前の断絶が決定的な意味をもってくる。環境史における20世紀の意味を問い直すことが第三の目的である。

●授業内容・授業計画

- ① 環境と歴史への視点
- ② 自然と文化のはざま(1)—黒死病と14世紀の危機
- ③ 自然と文化のはざま(2)—予防抑制と17世紀の人口

- ④ 自然と文化のはざま(3)—工業化前後の人口変動
- ⑤ 動物裁判とディープ・エコロジー
- ⑥ 移動と環境変化(1)—コロンブスの交換
- ⑦ 移動と環境変化(2)—コロンブスの不等価交換
- ⑧ 移動と環境変化(3)—ウォールデンの森から
- ⑩ 地域の環境史(1)—ヴェネツィアとラグーナ
- ⑪ 地域の環境史(2)—満洲の森
- ⑫ 地域の環境史(3)—岡山県のはげ山
- ⑬ 「日のもとに新しきものあり」—20世紀環境史
- ⑭ 「自然と権力」—環境史は現代を異化する
- ⑮ 環境と歴史への視点、再考

●評価方法

出席20点、レポート40点、定期試験40点。

●受講生へのコメント

本講義は文字どおり「環境」と「歴史」の双方に関わるが、具体的な内容は歴史の方に重点がある。世界史上のさまざまな事例にふれることになるので、高校世界史のアウトライン程度は復習しておいてほしい。

●教材

教科書：なし

- 参考書：1. A・クロスビー(佐々木昭夫訳)『ヨーロッパ帝国主義の謎—エコロジーから見た10～20世紀』岩波書店、1998年。
2. D・アーノルド(飯島・川島訳)『環境と人間の歴史—自然、文化、ヨーロッパの世界的拡張』新評論、1999年。
3. J・ラートカウ(海老根・森田訳)『自然と権力』みすず書房、2012年。
4. J・マクニール(梅津・溝口他訳)『20世紀環境史』名古屋大学出版会、2011年。

日本の公害

Environmental Pollution in Japan

(後期 木・4 全)

2 単位

経営学研究科 除本 理史

●科目の主題

この科目では、日本の公害問題の歴史を学び、今日の環境問題解決のために活かすべき教訓について考える。

●授業の到達目標

この科目では、環境論や環境政策などの学習において、必要な基礎的知識を習得するためのものである。

日本の公害問題史に関する基本的知識を習得し、今日の環境問題解決において、市民として何ができるか、考え行動できるようになることをめざす。

●授業内容・授業計画

以下の要領で進める予定である。

1. 日本の公害問題史の概観(1～2回)
2. 産業公害(水俣病、大気汚染)(3～7回)
3. 都市・生活型公害(自動車排ガス汚染など)(8～10回)
4. 福島原発事故と日本の公害(11回～)

●評価方法

定期試験(70%)およびレポート(30%)による。

●教材

授業中に指示する。

技術と環境

Technology and Environment

(前期 水・5 全)

2 単位

工学研究科 川合 忠雄 他

●科目の主題

技術の発展は、我々の生活を便利で快適で安全なものにしてきた。その反面、工場からの廃棄物による環境の悪化や化石燃料の使用による温暖化が問題とされている。環境への負荷を抑えつつ生活の快適さを維持するための新エネルギーの開発、省エネルギーのための機器の高効率化、環境の浄化に関する技術について概説する。今日の機械工学が環境問題に果たす役割について理解を深める。

●授業の到達目標

技術の発展と環境の保全という一見相反する課題に対して、工学がどのように対処してきたのか、また今後どのように対処しようとしているかについて理解する。

●授業内容・授業計画

- ① 序論とガイダンスー機械工学における環境問題への取り組み：川合忠雄
- ② エネルギーと地球環境 1ー人間の活動とエネルギー消費の現状・地球環境問題：西村伸也
- ③ エネルギーと地球環境 2ー低炭素化社会に向けた先進エネルギーシステム：西村伸也
- ④ 自動車と環境ー自動車における環境対策：瀧山武
- ⑤ 発電原理と充電ー風力や水力で得られる回転運動を電気変換して充電機にため込む方法：高田洋吾
- ⑥ 燃料電池ー固体高分子形燃料電池の基本構造とその発電システムの概要：高田洋吾

- ⑦ 波力発電の現状と未来ー世界各国で研究・開発が進められている波力発電システム：脇本辰郎
- ⑧ 機械や構造物の効率や安全性維持のための考え方・手法ー機械等の機能や効率、安全性の低下を適切なメンテナンスによって防ぐ手法：川合忠雄
- ⑨ 水環境と材料 1ー自然の浄化作用と上水・排水処理の歴史、安全な水・水環境と材料：横川善之
- ⑩ 水環境と材料 2ー高度上水処理・排水処理と材料、ウォータービジネス：横川善之
- ⑪ 微生物を用いた資源の回収と創成ー低濃度分散金属資源の活用：川上洋司
- ⑫ バイオマス・マテリアルと生分解性材料ー土に戻る材料：逢坂勝彦
- ⑬ 30年後はどうなっている？ー食品機械から考えるエネルギー・人・環境：伊與田浩志
- ⑭ まとめ：川合忠雄

●評価方法

テーマごとのレポートまたは試験の総合点で評価する。

●受講生へのコメント

「環境」は人類にとって重要なキーワードであることは論を待たない。機械工学の技術がどのように環境問題に貢献しうるか、理解と考えを深めてほしい。

●教材

各テーマにおいて適宜配布する。

環境と健康

Environmental Health

(前期 金・5 全)

2 単位

医学研究科 金子 明 他

●科目の主題と目標

ヒトは物理的、化学的、生物的、社会的な常に変化する環境の中で生きている。ヒトと環境の相互作用を様々な角度から理解し、世界保健機関 (World Health Organization, WHO) 憲章に示された積極的な意味での健康の保持増進の立場から環境を考える。

●授業内容・授業計画

「様々な環境と人類との関わり (1) (2) (3)」について、圓藤吟史が担当する。生命の誕生の地球環境から今日までの変遷、人口動態と環境、感染症との戦い、人間社会がもたらす影響、地球環境保全、健康に生きる権利、持

続性のある発展などを概説する。

「肝がんと肝炎ウイルス」は、福島若葉が担当する。肝がんの疫学、主要な肝炎ウイルスと感染後の自然経過、肝炎ウイルス検査の意義について概説する。

「インフルエンザ対策とワクチン接種」は、大藤さここが担当する。毎年繰り返すインフルエンザのインパクト、その予防としてのワクチン接種の位置づけ、および新型インフルエンザ発生のメカニズムと対応について概説する。

「細菌感染症の脅威 (1) (2)」は、仁木満美子が担当する。真正細菌は、真核生物と比較するときわめて単純な

構造しか持たない微小生命体にも関わらず、多様な代謝系と旺盛な増殖力を持ち、極限環境を含む地球上のあらゆる環境に生息している。そのなかでも生体に侵入し増殖する能力を獲得した細菌が感染症を引き起こし、ペニシリンをはじめとする抗菌薬の発見以降も人類の生命を脅かし続けている。また、人に限定せず感染性を有するものも多く存在し、新興感染症は人類の未到達であった環境の微生物を人間社会に持ち込んだケースが多い。このように環境と感染症は密接に関わっており、本講義では細菌感染症と環境のリンクを解説し考察する。

「ウイルスと人間との関わり(1)(2)」は、綾田稔が担当する。まず、ウイルスとは何か、ウイルスによって起こる代表的な感染症を紹介する。また、これまで人間がどのようにウイルス感染症に対処してきたのか、環境の変化や人間の活動によって起こるウイルス感染症の変化や、今後新たに起こりうる脅威についても概説する。

「熱帯地域の環境とマラリア(1)(2)」は、金子明が担当する。マラリアは熱帯地域を中心に流行する原虫症で

あり、今なお地球上の人口の40%が流行地に住み毎年100万人が死亡しているとされる。近年の自然および社会経済的環境の変化によるマラリア流行状況の推移についてGlobal Healthの観点から概説する。

「日本における環境と寄生虫病」は、寺本勲が担当する。本邦においては食生活の変化や国際化に伴い寄生虫症の様相にも変化が見られる。これらの生活環境に密接した寄生虫症を概説する。

「免疫と環境(1)(2)」は、中嶋弘一が担当する。免疫の基本的なしくみの概略を話した後、環境と免疫疾患との関わり、アレルギーの成り立ちについて概説する。

●評価方法

講義担当者による個別の評価を総合して判定する。それぞれレポートまたは授業中の小テストをもとに評価する。

●教材

教科書は特に指定しない。

開発と環境

Development and Environment

後期履修登録期間までに掲示にて詳細を発表します。

(後期 ・)

2単位

担当者 未定

歴史のなかの大阪

History of Osaka

(後期 水・5 全)

2 単位

文学研究科 塚田 孝

●科目の主題

「近世都市大阪の社会組織と民衆生活」

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の社会組織と民衆生活にしばって紹介する。

●授業の到達目標

近世大阪の都市社会の基本的なことを理解する。それを通して、私たちが現在くらしている現代都市大阪について、過去との共通性・異質性の両面から相対化して考えられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この講義では、はじめに舞台となる大阪の都市空間の形成過程と構造について触れ、その後は、都市社会の主人公である都市民衆の生活に光を当てていく。その際、都市の住民生活の基礎単位である「町」に着目して、町の構造と機能をベースにしなが、そこで生きた家持や借屋などの生活をうかがっていく。

なお、各回の講義では、鍵となる近世の史料（活字）を入り口として話を進める。これにより大阪の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

- ① 三郷絵図・・・大坂の広がりとは三郷

- ② 安井家の由緒書・・・道頓堀の開発と惣年寄
 ③ 水帳（土地台帳）と宗旨人別帳・・・町の空間と住民構成
 ④ 町掟（町法）・・・自律的な共同組織としての町
 ⑤ 孝子褒賞と忠勤褒賞・・・都市民衆の生活世界を探る
 ⑥ 裏借屋の人びと・・・小営業と働き渡世、女性の活計
 ⑦ 大店の盛衰・・・職人と商人
 ⑧ まとめ・・・近世から近代へ

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日に実施）。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所（史跡など）に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

●教材

教科書：『史料から読む近世大坂《試行版》』2012年

参考書：塚田孝『歴史のなかの大阪』岩波書店、2002年

大阪の自然

Natural History in and around Osaka Plain

(後期 金・5 全)

2 単位

理学研究科 三田村 宗樹 他

●科目の主題と目標

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀（およそ260万年前から現在まで）に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況と見られる。

ここでは、大阪平野とそれを取り巻く地質環境や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷（三田村担当）
 大阪周辺の山地・丘陵地・台地・低地で見られる地層や岩石を中心にして、地球の歴史や地球規模の現象が地域に対してどのような働きをしているのかを考える。
 - (1) 山地の地質 大阪周辺の山地を主として構成する古生代～中生代の地層の形成過程とプレートテクトニクス(2回)。斜面災害と山地の地質(2回)。
 - (2) 丘陵の地質 泉南・泉北、千里丘陵など現在ベッドタウンとして開発されている丘陵地を構成する地層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷。氷河性海水準変動・ミランコビッチサイクル

と丘陵地の地層や化石（2回）。

- (3) 平野の地質 縄文海進と平野の地層。建設工事と地盤災害に関係する平野の地層とその特性（2回）。山地と低地間に介在する活断層と地震（1回）。

2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史（塚腰 実担当）

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生（2回）。
- (2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響（3回）。

●評価方法

授業の初期に与えるフィールドワーク課題に関するレポート（20点）と期末試験（80点）で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書：地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店（三田村・塚腰担当）、大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』（塚腰担当）。

都市生活と人間福祉

Urban life and well-being

（前期 金・5 全）

2単位

生活科学研究科 中井 孝章 他

●科目の主題

現代社会では、多くの人々が都市において生活を営んでいるが、社会の変化の中で様々な生活問題が顕在化し、これらに対応するための取り組みが実施されている。本講義では、人間福祉学の立場から、都市における生活上のニーズの特性、ニーズ充足のための人的・物的資源の現状、福祉に関する諸制度・施策の課題について理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

本科目は、受講者が今日の都市生活で起こる様々な生活問題を自分なりに発見し、解決することを目標としている。講義を通して学んだことを知識として習得するだけでなく、それを踏まえた上で、受講者が自分で様々な生活問題について考察することができることを到達目標と考えている。毎授業終了時に課すレポートは、受講者によってそうした授業目標が達成されているかを評定する目安と位置づけられる。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が授業を担当する（順不同）。

- ・オリエンテーション：中井 孝章
- ・リスク社会における子どもの安心・安全：中井 孝章
- ・都市生活と居住福祉：野村 恭代
- ・都市生活と家族臨床：虐待・引きこもり・SNEPの背

景：畠中 宗一

- ・共生社会を考える：要田 洋江
- ・都市生活と青年期の心理学：後藤 佳代子
- ・都市生活と臨床心理学：三船 直子
- ・都市生活と権利擁護：鶴浦 直子
- ・都市生活の子育て・子育て：長濱 輝代
- ・都市と学校生活（2回）：多田 美智子
- ・都市生活と子ども・家族①（2回）：大堀 彰子
- ・都市生活と子ども・家族②（2回）：小積 律子

●評価方法

毎回、講義の最後に課すレポートに対し、講義担当者がその都度評価を行い、その評価の総計によって評価を行う（出席点も含む）。なお、1回のレポートは、10点満点とし、その合計得点を最終的に100点満点に調整し、評価とする。

●受講生へのコメント

レポート作成・提出のため、結果的に授業時間が延長されることになるので十分留意すること。第1回目の授業から出席すること。

●教材

各々の授業中に、担当者から指示する（※オムニバス方式の授業形態を採るため、授業全体の教材はない）。

大阪の地理

Geography of Osaka

（前期 水・5 全）

2単位

都市研究プラザ・文学研究科 水内 俊雄

●科目の主題

現代都市、特に大阪府、大阪市をベースに生起するさまざまな社会問題の起源、歴史、現状について、実地に

都市のフィールドワーク3回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。

●授業の到達目標

都市社会地理学として、都市社会の現状を「批判的」にどのように見るか、そして語り、文章にまとめることを少しでも身につけてもらいたい。その次に要請される、提言、そして実践など、水内が関わっている調査活動の紹介などを通じて、地理学が大阪にどのように貢献するのかを紹介してみたい。そのことと通じて、学問が現実社会にどのようにアプローチしていくかの醍醐味を味わっていただきたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 地図からみた杉本町と大阪市立大学の歴史
- 2) 絵図からみた近世都市空間
- 3) 明治初期の都市空間の特徴
- 4) フィールドワーク1 (大坂城下町)
- 5) 明治末期の大阪の都市景観
- 6) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 7) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 8) ベルエポック大阪 1930年代

- 9) フィールドワーク2 (郊外住宅地)
- 10) 戦争と都市
- 11) 空襲、そして戦後復興
- 12) バラック、闇市
- 13) 高度成長期の都市改造、都市再開発
- 14) フィールドワーク3 (大都市の光と影)

●評価方法

コミュニケーションカードの毎回の提出を出席の平常点とし、これに加えて、3回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

水内俊雄 他共著『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)、2008年を参考書としてお勧めする。

現代都市論

Contemporary Urban Studies

(後期 水・5 全)

2単位

経済学研究科 長尾 謙吉

●科目の主題

総合教育科目A「都市・大阪」科目群にあって、本科目は都市の歴史や現実とともに、理論的視座とその有効性について考える比率が高い「理屈っぽい」要素をあわせ持った講義である。本年は都市論とともに、転換期の大都市圏を捉える観点を大阪の産業活動を題材として学ぶ。

●授業の到達目標

転換期の大都市圏を、流行に乗った観点からだけではなく、考えることができる能力を養う。

●授業内容・授業計画

- 1: 授業計画の説明
- 2~3: 都市とは何か、大都市圏とは何か
- 4~5: 都市論の系譜と大阪

6: 転換期の大都市圏

7~8: 大阪大都市圏の歴史と産業構造

9~12: 産業活動の多様性と都市集積

13~14: 大都市圏の産業政策の課題

15: まとめ

●評価方法

期末テスト50、講義時の課題50。

●受講生へのコメント

大阪大都市圏に関心を持つとともに、理論や方法論に関する議論を好む学生を歓迎する。

●教材

配布資料とテキストを使用する。テキストは、開講前に指示する。

都市の経済とビジネス

Urban Economy and Business

(後期 水・5 全)

2 単位

創造都市研究科 小長谷 一之 他

●科目の主題

いま都市は激動の時代に入っています。とくに先進国の都市は、以下のような大きな課題に直面しているのです。

- (1) 人口減少・高齢化社会
- (2) 産業空洞化
- (3) グローバル化
- (4) クリエイティブ化

同時に、知識集約型の産業や、イノベーション・アイデアに基づくクリエイティブ産業の段階に移行しつつあり、経済の主体・単位として「国家」よりも「都市」がますます重要となってきました。大阪・関西の活性化も都市産業の振興にかかっているといって過言ではありません。

本科目では、都市型産業・ビジネスの代表例である「製造業（ものづくり）」「商業・流通」「観光（集客）・IT等」の3つの大きなジャンルから、都市の経済とビジネスの現在の課題と今後の活性化のてがかりを展望していきます。

●授業の到達目標

都市の経済とビジネスの一般論と、身近な自分のまちの変化のつながりを理解し、都市の活性化を自分の課題として考えてもらうことを目標とします。

●授業内容・授業計画

- 第1回（2014年10月1日）
「都市と製造業（ものづくり）1」
- 第2回（2014年10月8日）
「都市と製造業（ものづくり）2」
- 第3回（2014年10月15日）
「都市と製造業（ものづくり）3」
- 第4回（2014年10月22日）
「都市と製造業（ものづくり）4」

第5回（2014年10月29日）

「都市と製造業（ものづくり）5」

《※2014年11月5日水曜日は月曜振り替えで休み》

第6回（2014年11月12日）

「都市と観光・IT1」

第7回（2014年11月19日）

「都市と商業・流通1」

第8回（2014年11月26日）

「都市と商業・流通2」

第9回（2014年12月3日）

「都市と観光・IT2」

第10回（2014年12月10日）

「都市と商業・流通3」

第11回（2014年12月17日）

「都市と商業・流通4」

第12回（2015年1月14日）

「都市と観光・IT3」

第13回（2015年1月21日）

「都市と観光・IT4」

第14回（2015年1月28日）

「都市と観光・IT5」

第15回（2015年2月4日）

最終日試験

●評価方法

期末の筆記試験（論述式）を原則とする。

●受講生へのコメント

とにかく気楽に教材を読んでみてください。内容はわかりやすく説明します。

●教材

小長谷一之他編(2014)『観光まちづくりマネジメント』古今書院。

国際地域経済と都市

International Regional Economy and Cities

(後期 水・4 全)

2 単位

創造都市研究科 小長谷 一之 他

●科目の主題

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自

の暮らしと経済活動があり、グローバル化に対抗したり、地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった働きも欠かすことができません。私たちの都市の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによってきまるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の経済の動きをわかりやすく説明し、都市との関係、その振興策について考えてみたいと思います。

●授業の到達目標

経済のグローバルな動き、ローカルな動き、リージョナルな動きがみな連動していることを、自分のまちの変化が世界とつながっていることを理解してもらうことを目標とします。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じる。

[1] グローバルな経済の動き

- 第1回 イントロダクションー三層の地理的レベル (有賀) 10月1日
- 第2回 グローバル化と国内のリージョンー関西広域圏と東海広域圏の対比 (有賀) 10月8日
- 第3回 中国における日本企業の現地経営 (有賀) 10月15日

[2] リージョナルな経済の動き

- 第4回 中国の産業集積地域(渤海湾、華東、華南) (1) (朴) 10月22日
- 第5回 中国の産業集積地域(渤海湾、華東、華南) (2) (朴) 10月29日

《※2014年11月5日水曜日は月曜振り替えて休み》

- 第6回 中国経済と上海の地域金融(1) (王) 11月12日
- 第7回 中国経済と上海の地域金融(2) (王) 11月19日
- 第8回 中国における都市と農村の経済問題 (王) 11月26日

[3] アジア都市の状況

- 第9回 タイの都市の現状(1) (金子) 12月3日
- 第10回 タイの都市の現状(2) (金子) 12月10日

[4] 地域経済の動きと都市の振興

- 第11回 アジア都市発展論(1) (小長谷) 12月17日
- 第12回 アジア都市発展論(2) (小長谷) 1月14日
- 第13回 アジア都市発展論(3) (小長谷) 1月21日
- 第14回 まとめ (小長谷) 1月28日
- 第15回 試験 (試験期間内) 2月4日

●評価方法

評価方法：期末の筆記試験（選択式）を原則とする。100点満点、論述式2問選択（各50点配分）

●受講生へのコメント

出席が大原則。

●教材

『都市経済再生のまちづくり』（小長谷一之著）、古今書院。

『東海地域と日本経済の再編成』（関下・有賀著）、同文館。

大阪落語への招待

Introduction to Osaka Rakugo

(後期 金・5 全)

2単位

文学研究科

久堀 裕朗

桂 春之輔・春雨 他

●科目の主題

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸（東京）を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語（らくご）」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家を

講師に迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情（優しさと思いやりと）」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。

●授業の到達目標

落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落語を分析する。(テーマ) 落語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。(テーマ) 長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。(テーマ) 落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

⑮ 授業全体のまとめ、レポート提出

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見(コミュニケーションカードに記入・提出)と期末のレポートによる(評価の比重は、前者50%・後者50%)。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として成績評価を行わない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語家名鑑 第二版』(出版文化社)、豊田善敬編『桂春団治はなしの世界』(東方出版)、保志学著『上方落語考—笑いの世界、咄と噺のはなし—』(鳳書院)、DVD「極付十番 三代目 桂春団治」(松竹芸能株式会社)

都市・地域政策

Urban Regional Policy

(前期 金・4 全)

2単位

創造都市研究科 藤塚 吉浩 他

●科目の主題

都市や地域が抱える現代的課題について知識を深め、政策的思考を身につける。

●授業の到達目標

都市や地域の経済や政策に関する問題について分析的に思考・表現することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

扱うテーマは、①超高齢社会における地域、コミュニティとソーシャルビジネス、②都市のマイノリティ文化の観光資源化、③都市における成長管理と衰退地区の再生などである。各回、具体的な地域のトピックを取り上げる。①では、「コミュニティ」「地域産業」「官民協働」をキーワードに超高齢社会の地域の新たな営みについて考えたい。また、コミュニティとは何か、経済活動におけるソーシャルな志向は何を意味するのかを考えたい。②では、シドニーを事例に、都市におけるマイノリティの政治活動や文化が観光資源として利用される過程について、③では、イギリス・北アメリカ・オーストラリアの都市を事例に用途地域と成長管理、中心市街地や衰退地区の再生政策について詳述する。

第1回 都市・地域政策イントロダクション

第2回 地域コミュニティの最前線

第3回 地域に産業があることの意義

第4回 中山間地域の取り組みにみる創造性

第5回 官民協働の地域経営とは

第6回 流刑囚の歴史と文化の観光資源化

第7回 労働者の生活と政治活動の観光資源化

第8回 ビーチの若者文化の観光資源化

第9回 エスニシティの商品化と観光資源化

第10回 同性愛者のエンターテインメントの観光資源化

第11回 ウォーターフロントの開発

第12回 シティセンターの再生

第13回 ゾーニング

第14回 衰退地区の再生

第15回 都市の成長管理

(担当) 第1～5回 松永桂子(創造都市研究科)

第6～10回 吉田道代(和歌山大学観光学部)

第11～15回 藤塚吉浩(創造都市研究科)

●評価方法

期末テスト、授業の参加意欲、出席状況等から総合的に判断する。

●受講生へのコメント

都市や地域での活動に興味を持つ学生の受講を歓迎。
携帯電話の電源を切ってから、教室に入ること。

●教材

教科書：(松永) 松永桂子『創造的地域社会』新評論、2012年。

(吉田・藤塚) 阿部和俊編『都市の景観地理 イギリス・北アメリカ・オーストラリア編』古今書院、2010年。

参考書：(松永) 広井良典『コミュニティを問いなおす』筑摩書房、2009年。

鳥越皓之『「サザエさん」的コミュニティの法則』

日本放送協会出版、2008年。

(吉田) 青木義英・神田孝治・吉田道代編『ホスピタリティ入門』新曜社、2013年。

(藤塚) 漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編『図説 世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007年。

伊東 理『イギリスの小売商業 政策・開発・都市—地理学からのアプローチ』関西大学出版部、2011年。

香川貴志『バンクーバーはなぜ世界一住みやすい都市なのか』ナカニシヤ出版、2010年。

市大都市研究の最前線

Concepts of Mathematics

(後期 金・5 全)

2単位

都市研究プラザ ジョン ホンギョ 全 泓奎 他

●科目の主題

大阪の抱える都市問題、地域問題は全国のなかでも、複雑で根が深いものとなっている。右肩上がりの地域成長が望めない中、いまわれわれに求められている方策は、縮小社会のなかで、どのように効果的、効率的に地域を運営、エンパワーしてゆくかである。行政の再編成の真ただ中、自治体と民間組織(NPO)、そして大学との連携のもとに形成される新しい公共の役割(共治=ガバナンス)は大変大きい。本講義では、大阪を中心として、さまざまな地域再生の取り組みを官民学共同で行っている現場の実践家を招き、それぞれの実践について、関連教員のイントロダクションと、実践家の報告から構成される。毎回、実践家に登壇願い、授業内容・授業計画に提示している分野において、アクティブな活動の息吹を、関連教員のイントロダクションも入れて行う。双方向の対話は、コミュニケーションカードを用いて、理解の深度をたかめてゆく。

●授業の到達目標

自治体と民間組織、NPOの連携による共治=ガバナンスが今後の地域再生の一つのカギとなること、それに対して現場の第一線で活躍され、発言されている実践家の取り組みをまず学び、理解することが求められることである。またコミュニケーションカードを通じ、常に学生側のコメントと、それに対する話者の回答という双方向の意見交流も組み込むことにより、学生同士の切磋琢磨や、話者の気づきなどの仕掛けも組み込んでいる。これらを通じて明示的に暗示的に地域の再生の取り組みの新しい公共の役割(共治=ガバナンス)を理論的にも実践的にも理解してほしい。同時に公助・共助・自助の仕組みを理解し、課題把握、分析、対策立案能力の取得の最初の体験、共感をもって、大阪市立大学で都市や地域のことを学ぶ優位点、今後の受講生のキャリア形成の第一歩としたい。特に公務員志望や、NPOや海外のNGO、企

業の社会的責任部門などに関心のある方には最適の授業であると自負している。

●授業内容・授業計画

毎回講義の際は、紹介教員に加え実践家とペアで講義を行う(担当講師名は初回講義の際に提示する)。

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義する。授業の分野カテゴリーは大きくは3つにわかれており、想定される授業テーマを細かく例示しているが、変更の可能性もある。

【ガイダンス】(第1回)

カテゴリー1：大阪市の区政、大阪府下市政と地元の連携(第2～3回)

- ・大阪市の区政と地元との連携
- ・多文化共生政策の表裏

カテゴリー2：大阪のセーフティネットを担う人々(第4～9回)

- ・暮らしサポートのまちづくりと地域共生
- ・文化のプラットフォームを担うNPO
- ・さまざまな地域における国際化の取り組み
- ・地域福祉を担う民間組織
- ・生きにくい人々によりそう民間支援
- ・就労支援の最前線

カテゴリー3：企業の社会的責任と地域への投資を考える(第10～14回)

- ・中小企業と地域
- ・公益企業の新しいありかた
- ・アートが都市を再生させるのか?
- ・ローカル・ガバナンスとコミュニティ・シンクタンク

【総括】(第15回)

●評価方法

毎回の講義(関連教員のイントロダクション+実践家のレクチャー)の終了時に提出するコミュニケーションカードと最終レポートとをともにして、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

講義は担当教員が招聘する非常勤講師、自治体職員、NPO、企業の実践家を中心にオムニバス形式で行うが、実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、コミュニケーションカードについては、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃から地域の再生について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。なおこのコミュニケーションカードに対する全般的、個別的な回答を、話者からもいただく形で、実践家にも学生にも、そして教員にもフィードバックで

きるやり取りを総括として用いるので、各講義後の短い時間でのコミュニケーションカードの記入には、真剣に取り組んでいただきたい。また講師の都合で順番が入れ替わることもあるので、授業期間中の掲示に注意すること。

●教 材

講義では、プロジェクターやOHP、スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントを配布や、参考文献の紹介を行う。

戦争と人間

War and Human

(前期 火・1 全)

2 単位

文学研究科 佐賀 朝

●科目の主題

本講義では、1931年の満洲事変に始まり、1945年の日本の敗戦によって終わった「日中十五年戦争」の歴史について、その推移を追うとともに、重要なトピックについては掘り下げる形で論じる。あわせて、靖国神社をめぐる問題をはじめとして、この戦争を起源とする現代の諸問題についても考察したい。

●授業の到達目標

この講義では、現代の戦争と平和をめぐる問題ともかかわって様々な場で議論になっている日本の侵略と加害の問題について、史実にもとづいて基本的な知識を得ることを第一の目標とする。その上で、今後、日本やアジアがどのような道を歩むべきかについて、アジアの人びとと冷静で誠実な対話が可能となるための方向性を探っていききたい。

●授業内容・授業計画

第1回 はじめに―「十五年戦争」とは何か

第2回～第5回

- ・大日本帝国／満洲事変と排外主義／「満洲国」と華北分離工作

第6回～第9回

- ・日中全面戦争と総動員体制／南京大虐殺／戦時下の市民生活

第10回～第12回

- ・アジア・太平洋戦争への道／「大東亜共栄圏」の実態／朝鮮人・中国人強制連行と「従軍慰安婦」／沖縄戦／本土空襲と原爆投下

第13回 戦争責任と戦後補償問題

第14回 靖国神社問題とは何か

第15回 おわりに―日本国憲法の現代的意義

●評価方法

平常点・小レポート(約40～50%)、定期試験(約50～60%)により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本が中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国に多大な損害をあたえたこの戦争にかかわる史実を、史料にもとづいた歴史研究を基礎として認識・理解することは、今後、私たちがアジアの人びとと共に生きていこうとする上で不可欠である。現在、靖国神社や歴史教科書をめぐり問題では、史実を無視し、あるいは歪めた形の認識の上に立った「勇ましい」議論が横行しているが、過去の事実と誠実に向き合うことなくして人間の未来はない。

●教材

随時、プリント等を配付するが、参考文献は以下の通り。

- ・江口圭一『十五年戦争小史〔新版〕』(青木書店、1991年)
- ・藤原彰『新版 南京大虐殺』(岩波ブックレット、1988年)
- ・藤原彰・今井清一編『十五年戦争史』1～4(青木書店、1988～89年)
- ・吉田裕『アジア・太平洋戦争』(岩波新書、2007年)
- ・加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社、2009年)

以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

生命と進化

Life and Evolution

(後期 水・5 全)

2 単位

理学研究科 若林 和幸 他

●科目の主題

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、私達を含めた現在の生命体に残されている。この科目では、主に細胞と分子レベルで進化について紹介する。

●授業の到達目標

現代社会における医療や環境、食糧、農業などの様々な問題を正しく理解するためには、ある程度の生物学の知識が必要である。社会人として、現代社会を生きる際に求められる教養の1つとして、私達を含む「生き物」の成り立ちや多様性を学習し理解する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化(若林和幸担当)

地球の誕生から約10億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞へと進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

2. 分子の進化(小柳光正担当)

進化の研究は、分子生物学の技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について

具体的に解説する。

- (1) イントロダクション
- (2)・(3) 細胞の種類、構造と細胞小器官の機能。
- (4) 化学進化から生命の誕生。
- (5)・(6) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞小器官の形成。
- (7) 細胞のエネルギー獲得系の進化。
- (8)・(9) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (10)・(11) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎となる概念を説明する。
- (12)・(13)・(14) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムに

ついて、方法論を交えて紹介する。

- (15) まとめと試験

●**評価方法**

期末試験で評価する。

●**受講生へのコメント**

本講義は、細胞や分子レベルの内容を中心としている。

●**教材**

主な参考書：ニコラスH. パートンほか著、宮田隆監訳「進化」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、宮田隆「分子進化学への招待」(講談社ブルーバックス)、中村運「細胞の起源と進化」(培風館)

現代の医療

Recent Advance in Medical Treatment

(前期 水・5 全)

2単位

医学研究科 鶴田 大輔 他

●**科目の主題**

近年、医療技術は目覚ましい進歩を遂げ、疾病の早期診断や最先端治療が行われるようになってきた。特に、悪性腫瘍（がん）は各種画像診断技術や内視鏡の進歩で早期診断が可能になり、最新の治療により、侵襲の少ない治療法でも治癒しうようになってきた。また、進行癌に関しても、新しい分子標的薬などの出現でその予後が改善しつつある。悪性疾患としては、胃がん、大腸がん、肝臓がん、子宮がん、乳がん、白血病等の早期発見、治療の進歩について解説する。一方、メタボリックシンドロームという言葉をよく耳にする様になったが、肥満と飽食の時代を迎え、糖尿病、高脂血症、高血圧をすべて合併する疾患が注目を集めている。メタボリックシンドロームを予防することは、最終的には心臓病や脳血管障害への予防へとつながるため、社会人が十分認識しておく必要があり、成人だけでなく、小児期からの運動不足や身体的ケアの必要性が問われている。手術に関しては、以前と比べるとできるだけ患者に加える負担を少なくする工夫が行われており、各種内視鏡手術も増加してきている。職場や人間関係のあつれきから生じるうつ病や認知症など、精神科的、神経内科的疾患も増えている。本格的な高齢化社会へと突入した我が国では、人口構造の変化が急激に伴って、疾患発症年齢や疾患の種類も刻々と変化している。このように医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、国民の医療や福祉に対する関心も高まりつつある。そのため医療従事者でなくとも、現代の医療に対して、一定の知識を有することが望ましいと考える。

●**授業の到達目標**

臓器別の講義を行う。画像診断学、救急医学のように全身の臓器全般にかかる講義もある。14回の講義全体を

通して、現代の医療に関しての知識を深めてもらう。

●**授業内容・授業計画**

1. 救急医療
2. 循環器疾患（心臓血管、高血圧）
3. 肝臓病
4. 消化器疾患
5. 遺伝子から見た疾患の成因
6. 血液疾患
7. 現在の脱毛症治療
8. 神経精神疾患—気分障害を中心に—
9. 産婦人科学
10. 整形外科学
11. 腫瘍外科学
12. 循環器外科学
13. 放射線医学（画像診断・放射線治療など）
14. 小児科学

●**評価方法**

14回の講義のうち一番印象に残った講義についてのレポート提出（A4指定 1000字～2000字）

レポートの表紙に

・講義日・講義担当者・講義の題名・学籍番号・名前を記載すること（記載漏れがあった場合採点しない）

提出期限 7月18日（金）17:00共通教育事務室へ

※講義とは関係のないレポートは採点対象外とする

※WEB等からの盗作であったり、他人のものを写したと判明した場合は不正行為とみなし成績無効とする。

●**受講生へのコメント**

健康、医療についての一定知識は、社会人として必須のものである。現代の医療についての理解を深めてほしい。

●**教材**

特定のものを使用しない。

生命と法

Life and Law

(後期 金・5 全)

2 単位

法学研究科 木下 秀雄 他

●科目の主題

「生命に係わる法的諸問題」を主題とする。科学の進歩は、人類に多くの福音をもたらしてきたが、同時に公害や原発事故など未曾有の禍をもたらしてきた。生命と法については、古くから墮胎や安楽死の問題が論じられてきたが、現在、一方では、胎児以前の胚の保護、他方では尊厳死や脳死などが問題になっている。過労死、医療を受ける権利、臓器移植、医療事故、医療における自己決定権、医療品アクセス問題など、関連する問題は多方面にわたる。現代科学は人の生命を操作することができる段階に入ったのであるが、医学や生命倫理のみならず、法学にもそれへの対処が迫られている。

●授業の到達目標

本講義では、生命と法をめぐる諸問題の中から重要だと思われる問題を、オムニバス方式で論じていく。全学共通科目であることを考慮し、できるかぎり初心者にもわかりやすく講義する。先端の医療、法律、倫理の学問の現場から人間の生死の現在及び未来像を多面的にグローバルな視点で検討する。

●授業内容・授業計画

授業は、医事法を始め、社会法、中国法、国際経済法を専攻する本学あるいは他大学の法学関係教員が講師となり、オムニバス形式で行われる。各回の授業では、それぞれ以下のようなテーマを取り上げることを予定しているが、変更になることもありうる。各回の授業のより詳細な内容については、最初の授業の時間に示す予定である。

- 第1回 「生命と法」授業説明 木下秀雄
- 第2回 患者の自己決定権・説明義務 手嶋 豊
- 第3回 医療事故の処理 手嶋 豊
- 第4回 生殖補助医療 手嶋 豊
- 第5回 実験的医療 手嶋
- 第6回 終末期医療・臨死介助の問題 手嶋 豊
- 第7回 感染症対策 手嶋 豊
- 第8回 中国における臓器移植と法 王 晨
- 第9回 中国法における医療損害責任 王 晨
- 第10回 過労死と法 木下秀雄
- 第11回 医療の公的保障と法 木下秀雄
- 第12回 知的財産権と医薬品アクセス問題
- 第13回 人や動植物の生命および健康を保護するための貿易制限の扱い—WTO(世界貿易機関)における紛争事例を通じて 平覚
- 第14回 全体のまとめ 木下秀雄
- 第15回 試験

●評価方法

通常の試験による。

●受講生へのコメント

本テーマに興味を持ち、広い視野に立って、自ら考える姿勢で受講してほしい。

●教材

講義の際に、必要に応じて資料等を配布する。当該期限のみの配布とし、後からの配布要求は受け付けない。受領し忘れることのないよう注意すること。

健康へのアプローチ

Approach to health

(前期 金・5 全)

2 単位

生活科学研究科 古澤 直人 他

●科目の主題と目標

生活様式の多様化・高齢化などにより社会状況が急速に変化し、食生活を取り巻く環境も大きく様変わりしてきた。これに伴い人の健康に関しても複雑、かつ多岐にわたる問題が生じている。近年、「食」の持つ新しい機能も次々と明らかにされ、医食同源と言われるように食と健康の関わりは極めて密接なものである。

本講義では、食品・衛生学、栄養学および医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師から健康な生活へ近づくための様々なアプローチ法を学びます。

●授業内容・授業計画

以下のサブテーマ（もしくはキーワード）について、当研究科の教員7名ならびに非常勤講師7名によるオムニバス形式で講義します（1名1回）。

- 1) イントロダクション他
- 2) 幼児期から育む食を営む力
- 3) 世界の健康・栄養問題—栄養の二重苦、発展途上国も先進国も—
- 4) ウイルス感染症、麻しん
- 5) 代謝、生と死
- 6) 食水系感染症、細菌性食中毒および結核
- 7) 日本人の食生活と疾病の発症
- 8) 遺伝子レベルで人の健康を見る（リポタンパク質

代謝)

- 9) 古くて新しい生活習慣病
- 10) 現代の食料供給事情
- 11) 一人暮らしを始めた人のための健康へのアプローチ
- 12) 食事と季節
- 13) 食中毒予防概論
- 14) 人体でのエネルギーの産生と利用

15) 試験

●評価方法

出席点を考慮します。最終回に記述式試験を行います。

●受講生へのコメント

健康に生きて行くためのヒントが多く含まれていますので、是非ご自身の生活にも役立てて下さい。

●教材

適宜、プリント等を配布します。

技術と生命 —情報と暮らし—

Technology and Life -Information and Life-

(後期 水・5 全)

2単位

工学研究科 阿多 信吾 他

●科目の主題と目標

電話、テレビ、コンパクトディスクやコンピュータ等を使って、ほしい情報を持ってきたり加工したりする技術は「情報通信技術」と呼ばれ、我々の現代生活にはなくてはならない技術の一つになってきた。この情報通信技術を支えているのはエレクトロニクスであり、我国のこれまでの発展にエレクトロニクスは大きく貢献してきたし、今後貢献し続けることには疑う余地はない。本科目は、エレクトロニクスの誕生とその情報通信技術への応用により、私の生活がどのように変わってき、また、今後どのように変わっていくかについて概説する。

●授業内容・授業計画

(担当者の日程調整により開催順が変更される場合があります)

- 第1回 エレクトロニクスの誕生 三極管からトランジスタへ：辻本
- 第2回 電子回路と集積化技術 素子をまとめて基板に装着する技術：宮崎
- 第3回 レーザの発明 半導体レーザとオプトエレクトロニクス：向井
- 第4回 磁石って、もう古い？ 磁石からスピンまで：仕幸
- 第5回 コンピュータのしくみ ハードウェアとソフトウェア：岡
- 第6回 情報理論のはじまり 情報に単位をつけて大

小を比較する：鳥生

- 第7回 符号化、暗号化、セキュリティ 情報を正確に伝送し、保護する：辻岡
- 第8回 インターネットの考え方 コンピュータを上手につなぐ：阿多
- 第9回 「いつでも、どこでも、誰とでも」の実現携帯電話はなぜつながる？：原
- 第10回 人工知能、学習、推論 コンピュータにものを考えさせる：上野
- 第11回 画像処理 画像の加工からコンピュータグラフィクスまで：(講師未定)
- 第12回 ヒューマンインタフェース コンピュータと人間をうまくつなげる：高橋
- 第13回 医療応用 安全・安心のために情報通信技術を活かす：中島
- 第14回 ユビキタスって何だ？ いたるところにコンピュータがある社会へ：杉山
- 第15回 試験

●評価方法

期末試験 100満点で60点以上合格。

●受講生へのコメント

「エレクトロニクス」、「情報」や「通信」に関心のある学生を歓迎する。

●教材

各講義で適宜プリント等を配布する。

光と生命

Light and Life

(後期① 金・5 全)

2単位

理学研究科 寺北 明久

●科目の主題

太陽光は植物によって化学エネルギーに変換され、そのエネルギーは、地球上のほぼ全ての生物の生命活動を支える。さらに、生物は、光環境と様々にかかわりながら生命活動を営んでいる。この科目では、生物と光のさ

まざまなかわりを題材として、生命現象やそのしくみを個体・細胞・分子のレベルでわかりやすく紹介する。

●授業の到達目標

生物と光のかかわりから、生命現象を科学的に理解する能力を修得するとともに、生命現象のしくみを考える

ための基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

1：動物と光のかかわり(1) (寺北明久担当)

- (1) ガイダンス、序論
- (2)・(3) 光を感じる・見る：さまざまな環境で生活する動物が持つ多様な眼とそれを用いた視覚の特徴について解説する。
- (4) 光を放つ生物：動物はなぜ発光するのか。その生物学的意味、発光するメカニズムや生物発光物質の応用について紹介する。
- (5) 光と動物のさまざまなかかわり：光は遺伝子に損傷を与えるなどさまざまな影響もたらす。光が生物にもたらすさまざまな影響・効果やそれらに対する生体の応答について紹介する。

2：生物時計と光のかかわり (志賀向子担当)

- (1) 日長が動物・植物に与える影響：地球上では日の長さが場所と季節によって大きく異なる。どれくらい違うのか、動物・植物はそれにどう対応しているのか(ヒトへの影響も含めて)について解説する。
- (2)・(3) 光と体内時計：光と体内時計を手掛かりに生物は活動時間帯を決めているその意味とメカニズムについて概説する。
- (4)・(5) 動物・植物の光周性と季節適応：生物は日の長さを手掛かりに季節に適応している。その実例、地理的変異などを紹介する。

3：植物と光のかかわり (飯野盛利担当)

- (1) 光と植物：植物はその成長と生活に必要なエネルギーを光から得ている。まず、その仕組み(光合成)について解説する。植物は光を成長や生活環境を調節するためのシグナルとしても利用している。シグナルとしての役割を環境適応戦略および植物多様性の視点から考える。
- (2) 植物の光受容体：植物が光を環境シグナルとして利用するために使っている3種類の光受容体(フィトクロム、クリプトクロム、フォトトロピン)について、研究史的背景、分子的性質などの視点から解説する。
- (3)・(4) 個別の光環境応答反応：光をシグナルとする植物の光応答反応の代表的な例について、その生態学的役割(環境適応上の役割)、反応に関与する光受容体、および光シグナルの受容から反応の発現までの仕組みについて解説する。

●評価方法

定期試験で評価する。但し、試験を受ける条件は出席回数10回以上とする。

●受講生へのコメント

ヒトにとって身近な存在である「光」とさまざまな生命との関係を題材に、生命現象やそのしくみの理解につながる話題を提供します。

●教材

講義の際、配布、紹介する。

光と生命

Light and Life

(後期② 金・1 全)

2単位

理学研究科 寺北 明久 他

●科目の主題

太陽光は植物によって化学エネルギーに変換され、そのエネルギーは、地球上のほぼ全ての生物の生命活動を支える。さらに、生物は、光環境と様々にかかわりながら生命活動を営んでいる。この科目では、生物と光のさまざまなかかわりを題材として、生命現象やそのしくみを個体・細胞・分子のレベルでわかりやすく紹介する。

●授業の到達目標

生物と光のかかわりから、生命現象を科学的に理解する能力を修得するとともに、生命現象のしくみを考えるための基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

1：動物と光のかかわり(1) (寺北明久担当)

- (1) ガイダンス、序論
- (2)・(3) 光を感じる・見る：さまざまな環境で生活する動物が持つ多様な眼とそれを用いた視覚の特徴について解説する。
- (4) 光を放つ生物：動物はなぜ発光するのか。その

生物学的意味、発光するメカニズムや生物発光物質の応用について紹介する。

- (5) 光と動物のさまざまなかかわり：光は遺伝子に損傷を与えるなどさまざまな影響もたらす。光が生物にもたらすさまざまな影響・効果やそれらに対する生体の応答について紹介する。

2：生物時計と光のかかわり (志賀向子担当)

- (1) 日長が動物・植物に与える影響：地球上では日の長さが場所と季節によって大きく異なる。どれくらい違うのか、動物・植物はそれにどう対応しているのか(ヒトへの影響も含めて)について解説する。
- (2)・(3) 光と体内時計：光と体内時計を手掛かりに生物は活動時間帯を決めているその意味とメカニズムについて概説する。
- (4)・(5) 動物・植物の光周性と季節適応：生物は日の長さを手掛かりに季節に適応している。その実例、地理的変異などを紹介する。

3：植物と光のかかわり（飯野盛利担当）

- (1) 光と植物：植物はその成長と生活に必要なエネルギーを光から得ている。まず、その仕組み(光合成)について解説する。植物は光を成長や生活環境を調節するためのシグナルとしても利用している。シグナルとしての役割を環境適応戦略および植物多様性の視点から考える。
- (2) 植物の光受容体：植物が光を環境シグナルとして利用するために使っている3種類の光受容体(フィトクロム、クリプトクロム、フォトトロピン)について、研究史的背景、分子的性質などの視点から解説する。
- (3)・(4) 個別の光環境応答反応：光をシグナルとす

る植物の光応答反応の代表的な例について、その生態学的役割(環境適応上の役割)、反応に関与する光受容体、および光シグナルの受容から反応の発現までの仕組みについて解説する。

●評価方法

定期試験で評価する。但し、試験を受ける条件は出席回数10回以上とする。

●受講生へのコメント

ヒトにとって身近な存在である「光」とさまざまな生命との関係を題材に、生命現象やそのしくみの理解につながる話題を提供します。

●教材

講義の際、配布、紹介する。

大阪市大でどう学ぶか

What and How to Learn in OCU

(前期 水・5 新入学生)

2単位

大学教育研究センター 大久保 敦 他

●科目の主題

2011年3月11日発生した東日本大震災とそれに続く原発事故は人間社会や地球環境へ直接的に大きな衝撃を与えただけでなく、価値観や人生観、あるいは自然観を始めとする、つまり私たち人間の内面にまで大きな影響を与えました。このような中、今年みなさんは本学の大学生となりました。震災・原発事故からの復興はもとより、これからの社会に何を求め、どのように築いていくかは皆さんに掛かっています。さらに市民としてどのように関わり、どのように自己実現をはかっていくかは、これからの大学生活掛かっていると言っても良いでしょう。その第一歩がこの授業です。

これからの社会において、大学とは何か、そこで学ぶ意義は何か、また自分がこれから学ぶ市大がどのような大学なのかを知り、そこで何をどう学び、どう人生をデザインし、どのような人間になり、そしてどのように社会に貢献していきたいかを入学直後のこの期間に考えます。

なお、科目の趣旨から、授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います。2回生以上で受講を希望する人は最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を受けてください(履修登録だけでは受講できません)。

●授業の到達目標

- ① 大学とは何か、高校と大学の学びの違いを理解し、大阪市立大学で学ぶことの意味や意義を考えるきっかけとすること。
- ② 大学4年間(医学科は6年間)を通した学びの基本的デザインを行うこと。
- ③ 各学問分野等への興味・関心・意欲を涵養すること。
- ④ 大学で学んだことを卒業後どのように生かすのかを考えること。

●授業内容・授業計画

学長はじめ学内外よりその道の専門家が授業をオムニバ形式で担当し、大学とは何か、大学で学ぶ意義、そして大阪市大や各学部・研究科の生い立ちから現在そして未来への展望、また各学問分野の魅力やその誘い、あるいは自らの学生時代などの体験談を基にしたアドバイス等々、各教授陣の個性を發揮した1回完結型の授業構成となっています。

- ① オリエンテーション
- ② 大阪市立大学を知る1(本学の教育と研究)
- ③ 大阪市立大学を知る2(本学の歴史)
- ④ 大阪市立大学での学び(大学の学び)
- ⑤ 大阪市立大学での学び(心の健康管理)
- ⑥ 大阪市立大学での学び(身体の健康管理)

- ⑦ 大阪市立大学での学び(国際化)
- ⑧ 大阪市立大学での学び(国際化と語学)
- ⑨ 大阪市立大学での学び(大学とキャリア形成)
- ⑩ 大阪市立大学での学び(大学とキャリア形成)
- ⑪ 大阪市立大学での学び(大学とキャリア形成)
- ⑫ 大阪市立大学での学び(大学とキャリア形成)
- ⑬ 大阪市立大学での学び(なぜレポートを書くか1)
- ⑭ 大阪市立大学での学び(なぜレポートを書くか2)
- ⑮ まとめ

※上記は授業内容の項目を示したものです。実際の授業日程は初回授業で知らせます。

●評価方法

- ① 最初の授業で、大学で学ぶことや市大への期待・抱負、これからの人生計画などをレポートにまとめます。
- ② 2回目以降の各授業で、その日の授業内容の要点をまとめ、それをもとに考えたことを授業の最後に小レポートにまとめます。
- ③ 最後の授業で、「この授業で学んだことは何か、それを今後の学習や人生にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートをまとめます。

成績評価は上記①から③のレポートで行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は例えるならば、大学での学びや、その先の人生を歩むためのルートマップ作りと捉えることができます。ここで作ったルートマップを用いて勉強を進めたり、その先の人生を歩むためには、それなりの心構えと基本的能力が必要です。つまり、心構えとは、大学での学びは高校までと大きく異なり、自ら学ぶ態度が求められます。一方基本的能力とは、例えば最近では、インターネットによる情報の検索やコンピューターを活用した学習や研究など、IT技術を効果的に活用する能力が求められています。このような学びを効率的・効果的にするための基本的な能力をスタディ・スキルといいます。1回生の間にぜひスタディ・スキルの基礎を身につけてください。そのために全学共通教育の1回生だけを対象に少人数演習形式で行う「初年次セミナー」や各学部で開講される1回生対象の演習科目を合わせて受講することを推奨します。

●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

2. 総合教育科目 B

科 目 名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単 位 数
英文科目名		

②は第2部 ①は第1部
表示が無い場合は第1部

論理学入門

Introduction to Logic

(後期 火・4 全)

2 単位

文学研究科 美濃 正

●科目の主題

論理学は推論とその原理について研究する学問である。正しく推論できる能力がなければ、分野を問わず、どんな学問的研究も適切に行うことはできないし、どんな学問を習得することもできないだろう。そのように勉学を志す者なら誰にとっても重要な推論能力を養い、推論の正しさに対する鋭敏な感覚を磨くために、論理学の基礎を学習することを主題とする。

●授業の到達目標

この科目では、現代論理学の最も基礎的な部分である「命題論理」を完全に習得するとともに、さらに進んだ「述語論理」の基礎的部分についての理解をもつことをも目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1課 論理学とはどんなものか
- 第2課 論理的結合子の導入と説明Ⅰ
- 第3課 論理的結合子の導入と説明Ⅱ
- 第4課 結合子の特性とシェファー・ストローク
- 第5課 真理表
- 第6課 推論の妥当性と真理値分析Ⅰ
- 第7課 推論の妥当性と真理値分析Ⅱ
- 第8課 恒真命題（トートロジー）
- 第9課 推論の妥当性と文集合の矛盾性
- 第10課 命題論理における「真理の木」の方法Ⅰ

第11課 命題論理における「真理の木」の方法Ⅱ

第12課 命題論理の健全性と完全性

第13課 述語論理をちょっとだけⅠ

第14課 述語論理をちょっとだけⅡ

第15課 全体のまとめ

●評価方法

2回程度の小テストと2回程度のレポート（出題された演習問題に対する解答を1週間後にレポートとして提出する）の点数にもとづいて成績評価を行う予定。期末試験は行わない予定。出席点は考慮しない。

●受講生へのコメント

学生諸君の理解を促進するため、小テストの答案、レポートはすぐに採点し、原則として1週間後に返却する。出席はとらないが、欠席を重ねて小テストを受けそこねたり、レポート提出を怠ると、単位修得がかなり難しくなるので要注意。

少しでも分からないことがあったら遠慮せずに質問する積極性がこの科目では特に望まれる。

また、小テスト・レポートの採点を短時間で行わなければならないので、受講者数は100名程度に制限する。

●教材

R. ジェフリー『形式論理学』（産業図書）を教科書として用いる（参考図書は授業中に紹介）。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 月・3 全文)

2 単位

文学研究科 佐伯 大輔

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのできることは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に

に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業では、教科書に示した以下の章立てに従って、心理学分野の全般にわたり、講義形式で授業を進める。

- (1) 心理学の歴史
- (2) 心理学の方法
- (3) 感覚
- (4) 知覚
- (5) 学習
- (6) 複雑な学習

- (7) 動機づけと情動
- (8) 記憶
- (9) 意思決定
- (10) 思考と言語
- (11) 発達
- (12) パーソナリティ
- (13) 社会的行動
- (14) 心理臨床
- (15) まとめ

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

- ・同じ心理学であっても、研究分野によって、研究者の視点、研究対象、研究方法は異なる。受講生には、心理学における様々な考え方を習得し、幅広く知識を身につけることを期待する。
- ・心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：伊藤正人（編）「現代心理学：行動から見る心の探求」（昭和堂 2013）

心理学への招待

Introduction to Psychology

（前期 木・4 全文）

2 単位

非常勤 新居 佳子

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのできることは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講

義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理実験を実施することもある。内容は、おおよそ以下の通りである。各テーマに1～3回程度充てる予定である。ただし、授業の進捗状況により、それぞれのトピックの順序を変更したり、内容を一部省略する可能性がある。

1. 心理学の歴史：哲学から科学へ
2. 感覚と知覚
3. 学習
4. 記憶
5. 思考
6. 動機づけ
7. 心の発達

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績にもとづき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に実験への参加協力を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜、プリントを配布。

心理学への招待

Introduction to Psychology

（前期 火・3 全理）

2 単位

文学研究科 池上 知子

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といっ

た理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって

明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのできるのことは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査や心理実験を実施し、ビデオ教材等も活用

する。内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 精神疾患の脳生理
4. 心と身体疾患
5. 行動異常と心の力学
6. 心を動かす源泉：欲求と感情
7. 心の個人差と形成因

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

OHP、ビデオ、DVDを使用する予定。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 金・1 全理)

2単位

非常勤 田端 拓哉

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのできるのことは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに1回また

は2回程度充てる予定である。ただし、授業の進捗状況により、それぞれのトピックの順序を変更したり、内容を一部省略する可能性がある。

1. 心の捉え方の変遷：心理学の歴史と方法
2. 脳科学と心理学
3. 感覚と知覚
4. 記憶と学習
5. 動機づけと情動
6. 自己と対人関係
7. 性格
8. 心の発達
9. 心の健康と精神疾患

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期② 月・1 全)

2 単位

文学研究科 山 祐嗣

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのできるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

●授業の到達目標

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査や心理実験を実施することもある。内容は、

およそ以下の通りである。各テーマに1回または2回程度充てる予定である。

1. 心理学の歴史：哲学から科学へ
2. 脳科学と心理学
3. 感覚と知覚
4. 学習
5. 記憶と思考
6. 精神の発達
7. 動機づけと情動
8. 対人関係と集団
9. 性格
10. 精神分析・分析心理学

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績にもとづき評価する。

●受講生へのコメント

講義形式の授業ではあるが、参加型の授業を目指したため、授業時間中に受講者に発言を求めることが多くなる。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教 材

教科書：山祐嗣他編『基礎から学ぶ心理学・臨床心理学』（北大路書房）。

性格心理学入門

Introduction to Personality Psychology

(後期 金・2 全)

2 単位

非常勤 田端 拓哉

●科目の主題

「性格」とは日常的な用語であり、自己や他者をもつ特徴を説明するときによく用いられる。また、4択の質問に答えるだけで隠された性格が簡単にわかるという類の話がマスメディアで時折紹介されており、自分の選択が示す結果に人は一喜一憂している。性格は、現代心理学誕生以前のはるか大昔から関心が高く、様々な領域で研究対象とされてきた。その考え方は、今日の日本でも、顔貌や、生まれた月日と星座や、血液型といったものによる性格判断といった形で、私たちの日常的な性格の捉え方に影響を与えている。

現代の性格心理学は、それらの性格判断を疑問視し、性格の捉え方を問い直して、新たに構築した性格心理学の観点から性格とはいかなるものかを論じる。

本講義では、性格心理学による性格の捉え方と、主要な性格の理論について概説し、性格心理学と星座や血液型といったものによる性格判断との違いを示す。本講義

はその対比を通じて、性格心理学の理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常的に感じてきた性格と性格心理学における性格の違いを理解し、性格心理学の知識を通じて自身の日常を見つめ直すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

性格心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに1回または2回程度充てる予定である。ただし、授業の進捗状況により、それぞれのトピックの順序を変更したり、内容を一部省略する可能性がある。

1. 古典的な性格理論
2. 性格の捉え方—測定方法
3. 性格の捉え方—分類方法
4. 性格の捉え方—ビッグファイブと他の性格特性
5. 知能

6. 性格は氏か育ちか—遺伝と環境
7. 古典的な性格理論の問題点

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間

外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：小塩真司著 『はじめて学ぶパーソナリティ心理学 個性をめぐる冒険』（ミネルヴァ書房）

対人行動の影響と意味

Various Effects and Meanings of Interpersonal Behavior

(前期 月・3 全)

2単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題

この授業で主に取り上げるのは、社会心理学の中でも特に、説得的コミュニケーションと呼ばれる分野に関することである。説得的コミュニケーションとは、人々の態度や行動を変化させることを目的とする複合的なコミュニケーションのことである。

この授業を通じて、受講生には、日常的な対人場面においてさまざまな説得的コミュニケーション技法が用いられていることを知っていただくとともに、それらの技法によってわれわれにどのような影響がもたらされるかを理解していただきたい。特に、実際の対人行動場面においてこれらの技法がわれわれの生活にマイナスの影響を及ぼす形で利用される可能性を知り、そのような場面において己の身を守るために何が必要かを自覚し、日常的・積極的な防衛意識・行動へと結びつけるきっかけとしてこの授業を活用していただきたい。

●授業の到達目標

この授業の到達目標は、①説得的コミュニケーションに関する学術的知見の基礎を理解できること、②各種課題を通じて、日常的な対人行動と説得的コミュニケーションに関する学術的知見とを具体的に結びつけて理解できること、の2点である。

●授業内容・授業計画

この授業は、active learning（学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式）を可能な限り組み入れて運営される。受講生は、説得的コミュニケーションに関連する講義を受けつつ、他受講生とともに学術的知見と日常的な問題とのマッチングを図る各種課題（小話、短編演劇シナリオ、セールス戦略など）に取り組む。なお、授業期間中に2度、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

第1回：ガイダンス＋導入課題

第2～6回：ユニット1＝説得的コミュニケーションに関する講義および各種課題作成、相互評価

第7～11回：ユニット2＝説得的コミュニケーションに関する講義および各種課題作成、相互評価

第12～14回：ユニット3＝ここまで扱った説得的コミュニケーション技法を用いた大規模グループワーク、相互評価

第15回：まとめと総合自己評価

●評価方法

- (1) 平常点（学ぼうとする意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、時間・期限を順守できていたか、授業期間中に行う小テスト、自己評価等）：80点満点
- (2) 各種課題に対する学生同士の相互評価：20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講希望者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・この授業では、グループワークを多用する。
- ・全15回のうち、13回以上の授業への誠実な参画が単位認定の最低ラインである。
- ・授業は3つのユニットから成っている。授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提として毎回の授業を進行する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つ学生の受講を強く希望する。

●教材

- ・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。
- ・なお、教材となりうる素材を受講生自身が集めて持ち寄る場合もある。

ゲームで学ぶ社会行動

Learning about Social Behavior with Experimental Games

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題

この授業は、自分のキャリア(=労働を含む「生き方」全般)について「他者とともに、自分で考え、あらかわす」授業である。より具体的には、キャリアカウンセリング理論の基礎を学ぶとともに、ゲーミング・シミュレーション教材作成、および、意思決定ゲーミング・シミュレーションへの参画を通じて、受講生それぞれが自分を取り巻く環境(世界/社会)との折り合いをつけ、いかにして自分のキャリアを発達させるために行動するか/しないかについて少し時間をかけて考え、かつ、考えたことを頭の中だけにとどめず、自分の言葉で説明し、あらかわして確認する機会を提供する授業である。

●授業の到達目標

この授業の到達目標は、①キャリアカウンセリング理論の基礎を理解できること、②各種課題を通じて自分のキャリアについて分析・考察し、自身を取り巻く環境と折り合いをつけながら生きる自立した人となるために必要なことを自分なりの視点から見出せること、の2点である。

●授業内容・授業計画

この授業は、active learning(学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式)を可能な限り組み入れて運営される。受講生には、キャリアカウンセリング理論についての講義を受け、他受講生とともに各種課題(教材作成、グループワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画など)に取り組みながら、いかに自身のキャリアを発達させるために行動するか/しないかを問い、語り、気づき、考えていただきたい。

第1回: ガイダンス+導入課題

第2~10回: ユニット1=大学生向けキャリアデザイン・ゲーミング・シミュレーション教材をつくる(キャリアカウンセリング理論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価、ナラティブ・キャリアカウンセリングワーク)

第11~15回: ユニット2=意思決定ゲーミング・シミュレーションを通じて「自分」と「社会」を知る(ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価)、まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に2度、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

●評価方法

- (1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、時間・期限を順守できていたか、授業期間中に行う小テスト、自己評価等): 80点満点
- (2) 各種課題に対する学生同士の相互評価: 20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講希望者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・この授業では、グループワークを多用する。
- ・全15回のうち、13回以上の授業への誠実な参画が単位認定の最低ラインである。
- ・授業は2つのユニットから成っている。授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提として毎回の授業を進行する。
- ・他受講生との協同を通じて「積極的に自己と向き合い、表出し、確認し、いかに生きるかを考えること」が求められる授業である。他受講生とともに、自分の優れた側面を発見するのはもちろんのこと、不十分な点や曖昧な点、迷いや恐れ等々も含めて過去と現在の姿を受け止めつつ、自分の足で将来へと歩み進んでいく準備ができていのかどうか、よく見極めたい。つまり、「(今はまだ)自分のキャリアについて考えたくない、考える必要がない」と思っている人には向かない。

●教材

- ・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。
- ・なお、教材となりうる素材を受講者自身が集めて持ち寄る場合もある。

日常の中の不思議を探す 演習

Seminar: Let's find out wonders in our daily life

(後期 火・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題

本演習は、少人数によるactive learning（学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式）を介して、われわれの周りにある身近な情報や、日々置かれている状況を当たり前と受け流さず、思い込みにとらわれず、鵜呑みにせず、今一度自分の全身（目・耳・頭・手足）を使って捉えなおしながら、総合的思考力（＝実践を伴う筋の通ったものの考え方）の確立を目指す科目である。

●授業の到達目標

本演習の主な到達目標は、受講生各自が自分に合った総合的思考力の基礎を確立できることである。あわせて、他受講生とともに創造的な討論の場を作るエンハンサー（促進者）としての役割を果たせるようになることを副次的目標とする。

●授業内容・授業計画

本演習では、個人またはグループで各種active learning課題に取り組む。演習のスケジュールは以下のとおりである。

第1回：ガイダンス＋導入課題

第2～6回：演習1（身近なテーマに関する討論、質疑応答、振り返りによる自己評価、相互評価）

第7～10回：演習2（「社会ではたらくこと」に関する調査、発表／討論、質疑応答、相互評価、自己評価）

第11～14回：演習3（解きたい問題を発見し、本質を見極める調査、成果物作成、発表／討論、相互評価、自己評価）

第15回：まとめと総合自己評価

本演習は、単なる発表・討論スキルアップ講座ではない。自立した大人に資する総合的思考力とは何かを受講生「自らが」掴み、「自分なり」の思考方法を見出すための演習である。専攻・学年の異なる他受講生との交流の中で、自らの立ち位置を確かめつつ、柔軟に思考し、失

敗を恐れずに試行錯誤してみる積極性と行動力が求められる。

●評価方法

- (1) 平常点（参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等）：80点満点
- (2) 各種課題に関する学生同士の相互評価：20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講希望者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画、②節目ごとに行う個人目標とその達成度評価の提出、が単位認定の最低ラインである。
- ・本演習は3つのユニットから成っている。授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・演習の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提に毎回の演習を進行する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばしたい／積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。

●教材

- ・教材は演習中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講生自身が調査の上、集めて持ち寄る場合もある。

教育と発達の心理学

Psychology on Education and Development

(前期 火・2 全)

2 単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題

人間の発達に関する3人の研究者の発達理論とその理論の成立背景を学びながら、「人間の発達とは何か」「すべての人の発達する権利を保障するために教育はどのような役割を果たすのか」という問題について考えます。

●授業の到達目標

- ① ピアジェ、ヴィゴツキー、田中昌人の3名の人間発達理論のエッセンスとその成立背景を理解すること
- ② 自分自身の発達過程を多面的に分析することを通

じて、現代社会における教育と発達に関わる諸問題について、より広い視野から検討できるようになること

- ③ 「発達する権利」について理解し、その権利が保障される社会の創出に参画する市民として自己認識を持つこと

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
 第2週 ピアジェの発生的認識論
 第3週 ヴィゴツキーの発達理論
 第4-6週 「夜明け前の子ども達」鑑賞と考察
 第7週 発達する権利とその保障
 第8-13週 田中昌人による発達理論
 第14-15週 「光の中に子ども達がいる」鑑賞と考察

●評価方法

「授業に参加して、授業中も授業時間外も考えて、そして書く」このプロセスと成果をもとに成績評価を行います。具体的には、レポートが22点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは43点、宿題が35点の計100点満点で評価します。60点以上が合格。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論するという態度で受講してください。

レポート課題の他に、ミニアドベンチャーという宿題を出します。これは、授業の内容理解を深めてもらうためのものです。

なお、授業には遅刻せずに毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

次の本を教科書として指定します。必ず購入しておくこと。手元にないとレポートを書くことができません。

中村隆一「発達の旅—人生最初の10年 旅支度編」クリエイツかもがわ (1,700円)

教育と発達の心理学 演習

Seminar: Psychology on Education and Development

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題

すべての人が「健康に発達する権利」が保障されなければならないという発達保障の思想を基盤に、「大学生活をゆたかにする心理学—心の科学への招待 (心理科学研究会編)」を読み解きながら、青年期を中心に生涯発達について検討します。

●授業の到達目標

- ① 発達する権利とその保障について、基本的な考え方を理解すること
 ② 自ら探究する課題を設定し、それについて資料等を収集しながら検討し、ひとつの回答を立てられること
 ③ 自ら設定した課題とその回答を、他の受講生と共有し、レポートにまとめられること。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
 第2-3週 発達保障論とその背景
 第4-10週 「大学生を豊かにする心理学」の講読
 ① 「心をは何か—心理学への誘い」
 ② 「青年期としての大学時代」
 ③ 「大学で学ぶことの意味」
 ④ 「人間関係の中での自己成長—平和心理学への誘い—」
 ⑤ 「自己の確立と進路決定」

- ⑥ 「大学生活の中での危うい行動」

- ⑦ 「脳科学の知見」

第11-13週 レポート作成

第14-15週 総合討論会

●評価方法

「大学生活を豊かにする心理学」購読と議論への貢献50点、レポート30点、平常点20点の割合で評価します(満点は100点)

●受講生へのコメント

受講生数を16名程度以下に制限します。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。次の2つは、単位認定に値するレポートを作るための必要条件になりますので、そのつもりで履修登録をしてください。

- ① 遅刻や欠席をせずに授業に参加すること

- ② 自習時間を授業に出席する時間(1週間あたり90分)より多く確保すること。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の2時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示する。

●教材

次の書籍を教科書として指定します。手元にないと受講することができませんので、必ず購入しておいてください。

心理科学研究会(編)「大学生活をゆたかにする心理学
—心の科学への招待—」福村出版(1,700円)

リテラシー教育の思想と方法

Philosophical and Psychological Issues on Literacy Education

(後期 火・4 全)

2 単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題

リテラシーは読み書き能力という意味が基本ではあるが、実際には単純な概念ではない。本授業では、リテラシーという概念の多面的な意味を踏まえながら、リテラシーとその教育が人間個人と社会の発達において果たす役割について考え、これからのリテラシー教育のあり方について考察する。

●授業の到達目標

- ① 機能的リテラシー、批判的リテラシー等のリテラシー概念を理解し、多様に展開されているリテラシー教育について、その目的や意義を理解するとともに、批判的に検討できるようになること。
- ② 自らが巻き込まれているリテラシー学習について、その目的と意義を理解しながら、批判的に検討できること。

●授業内容・授業計画

- | | |
|--------|---------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 言葉を自覚する |
| 第3週 | 機能的リテラシー |
| 第4-5週 | 映画「学校1」の鑑賞と検討 |
| 第6-8週 | パウロ・フレイレの教育思想と実践 |
| 第9-10週 | 「生きなおすことば」を読む |
| 第11週 | 中間まとめ |
| 第12週 | 科学リテラシーと言語活動の充実 |
| 第13週 | 大学生の発達とアカデミックライティング |
| 第14週 | レポートの相互評価 |
| 第15週 | 映画「こんばんは」の鑑賞と検討 |

●評価方法

期末レポートが30点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは40点、宿題が30点の計100点満点で評価します(配

点はおおよその目安です。5点程度は変動する可能性があります。初回の授業の際に確定した数値を出します)。60点以上が合格。

●受講生へのコメント

受講生の多くの方は受けたことがないと思われるリテラシー教育について知るために、参考資料を宿題として読み、それについて、授業中にディスカッション(グループトーク)をします。授業を聞くだけではなく、参加するという姿勢で取り組んでください。

期末レポート課題に相当するレポート課題を、正月明けに出してもらいます。1月の授業ではそれをもとにしたグループトーク等も計画しています。そのつもりをしておいてください。レポート課題の他に、ミニアドベンチャーという宿題を出します。これは授業で討論する内容等についてあらかじめ認識を広めたり深めたりしてもらうためのものです。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

大沢敏郎(著)「生きなおす、ことば一書くことのちから—横浜寿町から」太郎次郎エディタス(1,800円)を教科書とします。授業で使うので、必ず購入しておくこと。

小柳正司(著)「リテラシーの地平:読み書き能力の教育哲学」(大学教育出版)(1,600円)を参考書とします。授業を聞くだけでは理解できない部分はこの本を読んで復習してください。

心理学・認知科学と人間

Psychology, cognitive science, and human beings

(前期 火・4 全)

2 単位

大学教育研究センター 平 知宏

●科目の主題

本授業では、心理学および認知科学と呼ばれる、学問の一分野として発展とその成果を概観し、「人間とは何か」という問いかけに対しての「暫定的で」「多角的で」「多領域にわたる」考え方を見ていく。

●授業の到達目標

「人間とは何か」という問題点から、人間のものの考え方やものの認識の仕方に対する理解を深めることを目的としている。いくつかのテーマ・観点から基礎知識を身につけることを目標としている。その上で、自分なりに「人間とは何か」という問いに対する答えを、自発的に出せるようになること、またそうした自分なりの答えに

応じて、他者と積極的に関わること、協働することの意義について理解できるようになることも目標としている。

●授業内容・授業計画

- 01回：初回ガイダンス
- 02回：歴史的背景
- 03回：方法論とその意味
- 04回：生物としての人間(1) 神経科学
- 05回：生物としての人間(2) 発達
- 06回：人間の在り方(1) 感覚と知覚
- 07回：人間の在り方(2) 注意・意識
- 08回：人間の在り方(3) 学習
- 09回：情報と人間(1) 記憶
- 10回：情報と人間(2) 思考・知能
- 11回：情報と人間(3) 言語
- 12回：文化・社会と人間(1) 感情
- 13回：文化・社会と人間(2) 適応と障害
- 14回：文化・社会と人間(3) 文化・社会
- 15回：まとめ

●評価方法

授業内課題の提出 (30点)

毎回の授業時出す小テストの提出を出席点がわりとする。小テストの点数そのものは、成績評価の対象外であり、提出のあるなしのみを評価の対象とする。

期末試験 (70点)

講義内容に基づく期末試験を実施する。試験問題は、毎回授業時に出す課題の一部と応用問題より構成されている。

その他

別途実験・調査への参加を依頼することがある。実験・調査への参加は成績評価の必須要件ではないが、参加してもらった場合には、参加頻度に応じて、成績評価にボーナスをつける。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用Webページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。

また本授業は講義形式であるが、積極的な参加を求める。取り扱うテーマについてのコメントの記入だけでなく、話題提供や講義進行中に行う質問への回答などを求めることがある。

●教材

教材については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用Webページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

現代文化の社会学

Cultural sociology and Sociology of arts

(後期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 笹島 秀晃

●科目の主題

文化の社会学は、宗教・科学技術・メディア・ジェンダーなど幅広い現象を対象とするが、本講義では芸術に関わる論点を取り上げる。

●授業の到達目標

文化・芸術に対する社会学的思考の基礎を理解することを旨とする。すなわち、個別の作品の表象分析ではなく、芸術作品・芸術家をめぐる政治経済的・組織的・制度的背景の分析を行う。

●授業内容・授業計画

授業は、「西洋と東洋」(第2回～第4回)、「大衆・複製芸術」(第5回～第7回)、「権力と芸術」(第9回～第11回)、「社会階層と芸術」(第12回～第14回)の4つのセクションからなる。

- 第1回 文化の社会学・芸術の社会学とは？
- 第2回 オリエンタリズム：西洋と東洋
- 第3回 近代西洋芸術の合理性：M・ウェーバー
- 第4回 近代日本における「美術」の構築
- 第5回 文化産業への批判：フランクフルト学派

- 第6回 複製技術時代の芸術：W・ベンヤミン
- 第7回 限界芸術論：鶴見俊輔
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治の美学：全体主義と芸術
- 第10回 放送禁止歌：権力と表現
- 第11回 文化政策
- 第12回 嗜好と地位：P・ブルデュール
- 第13回 逸脱集団としての芸術家：H・ベッカー
- 第14回 儀礼を通じた抵抗：労働者階級の若者文化
- 第15回 期末テスト

●評価方法

平常点：30% (出席 (15%) + コメントペーパー (15%))
+ 中間テスト：30% + 期末テスト：40%

●受講生へのコメント

1. 出席は、毎回、コメントペーパーの提出で確認。
2. 中間・期末テストでは、用語説明と論述を予定。

●教材

教科書：なし (講義では、適宜プリントを配布する)
参考書：なし

社会科学のフロンティア

Frontier of Social Science

(後期 火・2 全)

2 単位

経済学研究科 橋本 文彦

●科目の主題

異なるルール (言語・文化・慣習・規則・法律など) を持つ集団が、それらのルールを持ち始めた理由から「科学的に」探求を始めて、ルール統一の可能性を探る。

すなわち、ルールや文化は異なる集団 (社会) 間で統一が可能なのか否か、また統一が良いことなのか否か、を考える。

●授業の到達目標

社会集団がどのように形成されるのか、「規則の形成」を「可能世界意味論」という論理学の観点から理解することを小さな目標とし、これをきっかけに受講者諸君がみずから属している大小の集団の意味を問い始めることを大きな目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 「社会」「集団」の様々な定義を確認する。
2. 次に「科学的な探求」の意味を確認する。
3. 言語・慣習がいかんして形成されたかを歴史的・理論的に読み解く。
4. 可能世界意味論に至る論理を確認する。
5. 上記の議論を現実の社会に当てはめて検討する。

授業の板書は、PCからスクリーンに提示する形式で行う。提示した内容は、授業終了後に担当者のHP上に掲載するので、受講者は板書を書き写すことに意識を配らず、授業内容の理解に集中してほしい。

(もちろん、理解のためにメモをとることを排除するものではない)

●評価方法

授業期間内に「たまに」出席を兼ねた調査を行う。

期末試験はすべて記述式で、授業の内容に対する諸君の理解と批判的検討を問う。(授業のテーマに即していれば、授業内容を論駁するものでもかまわない)。

期末試験の成績に、上記出席点を加味して成績評価を行う。

●受講生へのコメント

数学・論理学・哲学・言語学・社会学等の幅広い分野を扱うので、どの学部を受講生に対しても専門外の領域を学ぶことになる。

●教材

毎回の講義時間中に、2～3冊の書籍を紹介する。

すべてを読む必要はないが、最低でも何冊かは読むこ

とを期待する。

日本国憲法

The Constitution of Japan

(前期 火・1 全)

2 単位

法学研究科 米澤 広一

●科目の主題

教育を通じて日本国憲法を読み解く

●授業の到達目標

「日本国憲法」は教員免許取得のための必修科目に指定されているため、受講生の多くが教育問題に関心を持っている。そこで、本講義では、後掲の教科書に沿って、学校教育での憲法問題について解説を加え、日本国憲法への関心と理解を深めることを、目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1 明治憲法から日本国憲法へ
- 2 未成年者の人権享有主体性、生徒の自己決定権
- 3 日の丸・君が代と学校
- 4 宗教と公立学校、生徒と政治
- 5 教育情報の本人開示と公開
- 6 教科書の検定、採択、給付、使用
- 7 学校事故の賠償と防止
- 8 障害児の教育を受ける権利
- 9 外国人の子どもの教育を受ける権利
- 10 親の教育の自由

- 11 教師の「教育の自由」
- 12 私立学校と憲法、児童の権利条約
- 13 国会
- 14 内閣
- 15 裁判所

●評価方法

学期末に行う定期試験によって評価する。

最終学年の者のみ、レポートの提出を認め、定期試験の成績に加味する。

●受講生へのコメント

法学部生に対しては、本講義は、教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。

教職の単位を必要としない法学部生は、専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

教科書：米沢広一『憲法と教育15講』[第3版]（北樹出版）

都市的世界の社会学

Sociology of Urbanization

(前期 木・3 全)

2 単位

文学研究科 伊地知 紀子

●科目の主題

都市的世界を社会学の視点から考察する。モノ・ヒト・情報がさまざまなボーダーを越えて移動する現代世界では、グローバル化が一つのキーワードとなり、日本もまたその流れのなかにある。この講義では、グローバル化のなかで生じる日本の都市的世界を朝鮮半島との関わりのなかから考える。具体的には、明治期から現代までを射程に入れ、大阪が多民族・多文化社会となっていく様子を韓国・済州島との関わりを考察対象とする。

●授業の到達目標

都市を重層的に捉える視点を身につけ、自分に身近な歴史や生活を見直すなかで、視野を広げ汎用性の高い世界観を養う。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本社会とエスニシティ(1)
3. 日本社会とエスニシティ(2)
4. 韓国・済州島／日本・大阪(1)

5. 韓国・済州島／日本・大阪(2)
6. 越境する生活圏－解放前(1)
7. 越境する生活圏－解放前(2)
8. 越境する生活圏－解放後(1)
9. 越境する生活圏－解放後(2)
10. オールド・カマーとニュー・カマー(1)
11. オールド・カマーとニュー・カマー(2)
12. 都市化と移動
13. 多文化と共生(1)
14. 多文化と共生(2)
15. 試験

●評価方法

授業中のミニレポートを含む平常点40%、期末試験60%。

●受講生へのコメント

授業終了後に配布資料を熟読すること。

●教材

井上俊・伊藤公雄編『都市的世界』(社会学ベーシック

ス4) 世界思想社。伊地知紀子『生活世界の創造と実践 -韓国・済州島の生活誌から』御茶の水書房。その他、

授業中に適宜指示する。資料配布、ビデオやスライドも使用予定。

日本と世界の教育

Education in Japan and the World

(後期 木・2 全)

2 単位

文学研究科 柏木 敦

●科目の主題

日本でも数年来、PISA、TIMSSなどの国際的な学力比較調査に関心が高まっている。諸外国の教育状況と日本のそれとを比較することで、日本の教育政策への関心のみならず、諸外国の教育のありようについても一般の関心を集めつつある。またそのような興味関心は、単に彼我の優劣を問うだけではなく、双方の文化的相違や学校教育そのものに対する相対的視点をもたらしつつあるといつてよい。

本講では、各国の義務教育制度、基礎的・学校知の習得の意味や生涯教育の位置づけやありようなどを検討し、「学校で学ぶ」ことの意味を幅広い観点から考えるための視点を養う。

●授業の到達目標

教育、とくに学校と社会に関わる基本的な問題について、日本全体、さらには国際比較の観点から理解するための基本的知識と視点とを身に付けることを目標とする。

●授業内容・授業計画

次のような構成で講義を進め、各テーマについて3～4回程度の講義を行う。

序：教育改革の国際的動向

(1) 各国の教育制度

初等・中等・教育の概要

各国教育制度の背景

(2) リテラシーの現状と問題

識字能力獲得の意味

各国の識字状況

(3) 各国の教育政策の動向

アメリカ合衆国の教育政策および教育事情

イギリス、欧州諸国の教育政策および教育事情

アジア諸国の教育政策および教育事情

(4) 教育問題への対応

いじめ問題

不登校問題

●評価方法

小テスト20点、期末試験80点の配分で評価する。なお小テストは半期の間、ランダムに実施する。

●受講生へのコメント

社会にとって「教育」とはどのような意味を持つのか、「教育」について知ることによって何が展望できるのかといったことを念頭に置きながら受講するのが望ましい。

●教材

参考文献

・米村明夫編著『世界の教育開発』明石書店

・文部科学省生涯学習政策局『諸外国の教育動向』明石書店

・池上彰・増田ユリヤ『突破する教育 世界の現場から、日本へのヒント』岩波書店

その他授業中に適宜指示する。

宗教と社会

Religion and Human Society

(前期 木・4 全)

2 単位

文学研究科 仲原 孝

●科目の主題

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式で様々な角度から考察して行く。

●授業の到達目標

宗教と社会の関係をめぐら問題に関して、各自が自分独自の見解を形成することができるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年は「宗教多元主義」の問題について考察する。あ

らゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすものであり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、この問題に取り組んだ先人の思想を吟味しながら、宗教共存の可能性を探る。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく）。

1. 宗教多元論の問題

2. ヒックの宗教多元論の原理

3. 排他主義・包括主義・多元主義

4. ヒックの宗教多元論の限界
5. ラーナーの「無名のキリスト教」論
6. ラーナーとカント
7. 宗教的アプリオリは存在するか
8. ニーチェの道徳的パースペクティヴィズム
9. 貴族的道徳と奴隷的道徳
10. パースペクティヴィズムと永遠回帰思想
11. ニヒリズムと宗教多元論
12. 西谷啓治の「空」の宗教哲学
13. 仏教とキリスト教
14. 「空」は宗教多元論と調和するか
15. あるべき宗教多元論とは

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき

課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はあり得ない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答えは最低の評価となるので注意すること。

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。

現代社会学入門

Invitation to Contemporary Sociology

(前期 月・2 全)

2 単位

文学研究科 進藤 雄三

●科目の主題

現代社会で起きている多様な社会現象を素材に、社会学的分析を提示する。

●授業の到達目標

1. 社会学という学問領域についての概括的知識を習得する。
2. 現代社会の多様な現象に関する理解を深めるとともに、社会学的思考法についての理解を深める。

●授業内容・授業計画

1. 社会学：オリエンテーション
2. 自己論：「私」という存在を問う/「個人化」
3. 逸脱：犯罪は凶悪化/増大したか？
4. 医療：「医師不足」はなぜ起きた？
5. 政治：支配と権力/世界史における日本
6. 情報・メディア：メディアはメッセージ？
7. 教育：資格社会の陥穽/日本型学歴社会

8. 宗教：世界における宗教/苦難と幸福の神義論

9. 家族：「婚活」の誕生/家族のゆくえ

10. ジェンダー：「家父長制」と資本制？

11. エスニシティ論：「エスニシティ」の誕生

12. エイジング論：高齢社会の誕生/「エイジズム」

13. グローバリゼーション論：それは何を意味するのか

14. 現代社会の歴史的位相：日本、世界の共時変容

15. 結語：社会学的想像力

●評価方法

出席2・コメント3・試験5の三者によって判定する。

●受講生へのコメント

次回講義のさいに使用されるキーワードを指示するので、参考書の該当箇所を読んでくること。

●教材

参考書：『新しい世紀の社会学中辞典』（ミネルヴァ書房、2005）

現代の社会問題

Contemporary Social Problems

(前期② 水・1 全)

2 単位

文学研究科 川野 英二

●科目の主題

近代化とともに生まれた「社会問題」とその変容の歴史のプロセスをたどりつつ、現代の新しい社会問題の特徴について論じる。講義では、労働と貧困に関する社会問題の歴史と現代におけるその変容をヨーロッパやアジア、日本、とくに大阪の都市問題と関係づけながら、「社会的なもの」のあり方を考える。

●授業の到達目標

現代の社会は、非正規雇用やワーキングプアの増加、相対的貧困率の高さ、ホームレスやネットカフェ難民など、新たな社会問題に取り組みざるをえなくなっている。これら現代の社会問題に関する問題意識を深めると同時に、関連する統計や映像、インタビューなど様々なデータを読み解き、解釈する能力を養う。

●授業内容・授業計画

第1・2講 近代と社会問題

- 第3・4講 貧困と「社会問題」の登場
- 第5・6講 福祉国家と社会問題
- 第7・8講 新しい貧困と社会的排除の登場
- 第9・10講 都市貧困と社会的排除
- 第11・12講 貧困と社会的排除の国際比較
- 第13・14講 社会的不安定化の諸問題

●評価方法

出席とコミュニケーションカード(40%)、試験(60%)の結果を総合的に判断して評価する。

●受講生へのコメント

本講義をつうじて、新聞やニュースなどメディアで取り上げられるようなアクチュアルな問題を、歴史や社会構造などマクロな社会の変化と関係づけてとらえる想像力を養ってほしい。

●教材

教科書は使用しない。

参考図書は授業中に適宜指示する。

授業で使用する資料は随時以下のサイトにアップする。

<https://sites.google.com/site/syakaimondai/>

世界のなかの日本経済

Japanese Economy from the World Viewpoint

(前期 火・4 全)

2単位

非常勤 佐藤 光

●科目の主題

世界経済の現状を概観したあと、日本経済が現在直面する課題を初心者見向けに解説し、これから建設すべき新しい日本の姿を模索する。

●授業の到達目標

基礎知識の習得と問題意識の喚起を目指す。

●授業内容・授業計画

1. はじめに
2. 世界経済の現状
 - (1) 金融危機①——「アメリカ発の金融危機」とは何だったのか
 - (2) 金融危機②——ヨーロッパの信用不安
 - (3) 雇用不安と産業変動
 - (4) 先進諸国の停滞とBrics (中国、インドなど)の台頭
 - (5) 中国をどう見るか
 - (6) 地球環境問題と天然資源
3. 日本経済の過去

- (1) 高度成長とその終わり
- (2) 日本的経済システムの光と影
4. 日本経済の現在
 - (1) 低成長と「派遣切り」
 - (2) デフレーション
 - (3) 財政危機と高齢化社会
 - (4) エネルギー問題——原発か再生エネルギーか
 - (5) TPPと農業問題
5. 日本経済の将来——「美しい日本」に向かって

●評価方法

通常の試験

●受験生へのコメント

予備知識は不要だが、世界と日本の現状についての関心があることが不可欠。

●教科書

佐藤光『カール・ポランニーと金融危機以後の世界』晃洋書房、2012年。

現代経済学入門

Introduction to Modern Economics

(前期 金・3 全)

2単位

非常勤講師 長沼 進一

●科目の主題

経済学の目的は「さまざまな制約条件のもとにおいて人間の存在価値を最大にするための合理的かつ効率的な方法を見いだすこと」にある。人間の生存に必要な資源はかぎられているため、それをどのように調達し、どのような用途にもちいるかは制約がある。世界の国々でそれらをどのように分け合うのか、一国においてもそれをどのような階層の人々で分け合うかは誰も大きな関心をもっているであろう。希少資源を無駄なく用いるための心構えはすべての人が心がけねばならない重要課題で

ある。

経済ということばは経世済民を意味し、世の中の秩序をただし民衆の生活を援けるという儒教的精神が込められている。他方、ギリシャ語のエコノミー (economy) の語源には家産の管理法則という意味があり、そこから節約や儉約という意味が派生してきた。それらのことを考えると、私たちがエコノミー・マインドを身につけるということは私たちの生き方に非常に役に立つということである。経済学を学び、エコノミー・マインドを身につけることが本講義の課題である。

●授業の到達目標

第1に人間の生存と経済とのかかわりを理解し、その基本的仕組みがわかること。第2に経済ニュースの核心が何かを把握できること。第3に経済的選択が実際にできるようになること。以上の三つが本講義の目標である。

●授業内容・授業計画

授業は語学であれば文法に相当する経済学の原理について説明する。経済学の原理はかなり抽象的な命題を解くかたちになるので、それを具体的に把握する最新のトピックスを取り上げ、現在起こっている経済現象の分析へとつなげていく。授業は以下の計画にしたがってすすめることにする。

- 第1回 経済学は何のために学ぶのか
- 第2回 人間の生存がモノの消費であること
- 第3回 満足度と効用関数
- 第4回 需要曲線の導き方
- 第5回 あれかこれかの選択と効用極大
- 第6回 供給曲線の導き方

- 第7回 生産と利潤極大
- 第8回 経済的豊かさの指標GDP
- 第9回 消費関数の型
- 第10回 投資関数の型
- 第11回 国民所得の決定と失業
- 第12回 経済成長と経済循環
- 第13回 貨幣需要と貨幣供給
- 第14回 財市場と貨幣市場の同時均衡
- 第15回 自由貿易と経済厚生

●評価方法

中間小テストと期末テストの成績を総合して評価する。

●受講生へのコメント

授業を面白く聴くには日ごろから経済ニュースに関心をもつこと。新聞の見出しだけでも目を通しておくと授業の話題についていける。

●教材

どのようなものであれ、経済学の入門書を手元に置くこと便利。参考書については授業中にその都度指摘する。

法と社会

law and society

(後期 木・4 全)

2単位

法学研究科 恒光 徹

●科目の主題

ミシェル・フーコー「監獄の誕生」を素材に、近代社会の刑事司法制度を、そして近代社会の構造を考える。また、日本の現代社会と刑事司法を考える視点を示す。今年も、刑務所について考える。

●授業の到達目標

日常の犯罪報道や刑事裁判報道などを批判的に（否定的という意味ではなく、現実を無条件で肯定するのではなく、伸ばすべき点と変革すべき点を見極めるという意味で）理解するのみならず、現代社会と法を批判的に検討する力を身につけることを目標とする科目である。

●授業内容・授業計画

- ①～⑥ フーコーの監獄の誕生「第2部 処罰 第2章 刑罰のおだやかさ」を検討し、ベッカリアら刑事司法改革者たちの構想とそこにおける監獄の位置づけ、近代的刑罰の中心としての監獄刑が実現するまでの過程を検討する。

- ⑦～⑭ 同第3部 規律・訓練 第1章 従順な身体 第2章 良き訓育の手段 第3章 一望監視方式 近代社会の「自由と平等」な社会の裏の構造、監獄刑を刑罰の中心にした近代社会の規律・訓練的一望監視的構造を示す。

●評価方法

定期試験60点、予告なしの2回の小テスト40点で評価します。

●受講生へのコメント

授業中の質問は大歓迎です。ただし、私語、途中退室は厳禁です。授業後の質問も受け付けます。

●教材

参考書：ミシェル・フーコー著、田村俣訳「監獄の誕生」新潮社。チェーザレ・ベッカリア著、小谷眞男訳「犯罪と刑罰」東京大学出版会
毎回、資料を配布します。

現代の経営

Contemporary Business Management

(前期 木・4 全)

2単位

特任 岩崎 安伸
商学部学生は履修不可

●科目の主題

1990年代からの「失われた20年」への対応や非効率な社会構造に対する反省から、日本の産業界はアメリカ型

の成果主義や、目標管理など、数字に表現できる結果だけを追い求める経営を導入して来た。定量的、抽象的で普遍的な客観のみを重視するあまり人間活動の根本にあ

るはずの主観をないがしろにした経営手法では、組織が潤っても働く人々が苦しむ状態になっている。しかし、2008年のリーマン・ショック以降、株主を重視した経営や短期の業績のみに重点をおいた経営の問題や反省から、社会の中で組織の存在意義を問いたず経営に移行して来ている。人口構造が大きく変化する今後の日本において、高齢者や生活弱者とともに若い世代をはじめ全世代がいきいきと生活できる社会の一員としての組織および人の経営を学ぶ。

●授業の到達目標

組織が社会において存在する価値や目的を明確に理解でき、さらに過去の成功事例や失敗事例から問題を分析的に判断でき、未来の価値を生み出す方法を予測できる視点を養うことが目標である。

●授業内容・授業計画

経営学を専門科目としない学生が経営学的な視点で社会や組織を見ることが出来る内容である。そのため、以下のテーマに従い、適宜学生によるプレゼンテーションおよび討論も行う。

- 第1回 経営とは
- 第2回 顧客と顧客価値
- 第3回 資源
- 第4回 「知」
- 第5回 モチベーション
- 第6回 サービス
- 第7回アントレプレナー

- 第8回 マーケティング
- 第9回 非営利組織の経営
- 第10回 リーダーシップ
- 第11回 イノベーション
- 第12回 ストーリー
- 第13回 倫理
- 第14回 町づくり
- 第15回 プロフェッショナルとキャリア

●評価方法

授業の中で、実践例の紹介を取り入れながらチームでのプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションに基づくレポート（60%）、及び討論への参加（40%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

現在の予測では日本の人口構造は2060年に向けて大きく変わる見込みである。すなわち、2008年にピークになった日本の総人口は現在減少し始めており、2060年には8,700万人程度に減少する。その間に増加するのは75歳以上のみである。まさにこの間、職業人としてのキャリアを重ねて行く現在の学生は、この社会の変化を常に意識しなければならない。経営学の勉強を通して、自分のおかれている日本の社会および組織そして自分を鳥瞰的に考え、行動できるようになることが履修者への願いである。

●教材

特になし。参考図書は適宜、紹介する。

現代社会と健康

Modern health science

(前期 水・3 全)	2 単位
(前期 木・2 全)	2 単位
(後期 水・3 全)	2 単位
(後期 木・2 全)	2 単位
医学研究科 運動生体医学 吉川 貴仁	

●科目の主題

文明の急速な進歩に伴い、我々の暮らす現代社会は便利でかつ快適になった。その反面、社会機構や人間関係は複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。産業廃棄物や原発事故などによる環境汚染、歪んだ食欲とアンバランスな食生活、運動不足、複雑な人間関係によるストレスなどの健康を阻害する要因で満ち溢れている。一方で、社会の高齢化が進み、健康寿命は延長しているが、生活習慣病や癌は増加の傾向を示し、メタボリック症候群や種々のアレルギー疾患の増加、HIVや新型インフルエンザのような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになっていく。

“現代社会と健康”の授業では、自分自身や身の回りの人々の健康をキーワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりを支援する科目

である。健康は自分自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識や科学的根拠に基づいて実践する必要がある。

本授業では、健康を守るためには「何が、なぜ必要なのか」に関して、医師としての経験も交えて、パワーポイントスライドやDVDの映写及びレジュメを用い、イラストを多用しながら、誰もが理解できるような形で解説する。

●授業の到達目標

- ・健康を阻害する要因を、内的要因（体質）と外的要因（環境）に分けて理解する。
- ・健康維持のための生活習慣（栄養や運動）の重要性、過食・拒食の問題を理解する。特に、これらは中高年齢者だけでなく、人の一生を通じた問題であることを理解する。
- ・現代人を取り巻く薬物・アルコール問題、禁煙の問

題を理解する。

- ・癌、感染症、アレルギー疾患の成り立ちを知った上で、その予防法を理解する。

●授業内容・授業計画

1. 総論（健康とは、病気とは、現代人の病気の傾向）
2. 健康の生理学
（健康に必要な心肺機能・栄養吸収・代謝機能）
3. 各病気の成り立ちと予防
 - ① 癌（肺癌、胃癌、大腸癌、子宮頸癌、乳癌など）
 - ② メタボリック症候群（肥満、高血圧、糖尿病など）
 - ③ アレルギー疾患（気管支喘息、鼻炎、湿疹など）
 - ④ 感染症（伝染病、結核、インフルエンザなど）
 - ⑤ 血管障害（心筋梗塞、狭心症、脳卒中など）
4. 健康と欲求（食欲・食行動）—現代病との関係
5. 健康と薬物（麻薬・覚醒剤について）
6. 健康と嗜好品（タバコ、アルコールなど）

—受講生のアルコール分解酵素の測定実習を行う—

●評価方法

期末試験を中心に、平常の出席状況も加味して評価する。

●受講生へのコメント

自分自身や身の回りの人々の健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を歓迎します。特に、心身の成長が一段落したこの時期に、一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。

また、医師と学生の交流の場と考えて、授業時間を問わず、授業内容に限らず、気軽に質問してください。

●教材

1. スライドとプリントで提供する。
2. 参考図書があれば、授業の中で紹介する。

家族と社会

Family and Modern Society

（前期 木・1 全）

2 単位

非常勤 佐々木 洋子

●科目の主題

家族は、多くの人にとって非常に身近なものである。それゆえ私たちは、家族について、自身の経験から考察しがちである。しかし、家族（および家族生活）は、個人的な事柄であるだけでなく、文化的、社会的、歴史的なものでもある。本講義では、家族社会学の立場から家族にアプローチし、家族をめぐる様々な現象について考察する。

●授業の到達目標

家族に関する基礎的なデータや理論枠組みの理解を通じて自身の家族経験を相対化し、家族をめぐる諸現象について考察する。

●授業内容・授業計画

1. 家族イメージ
2. 家族とは
3. 統計で見る家族の姿
4. 近代家族の誕生
5. 家族の形成
6. 「婚活」現象
7. 子どもをもつということ
8. 夫婦関係と性別役割分業

9. 子育てと親子関係

10. 家族と貧困

11. 高齢期と家族

12. 家族と暴力

13. 脱家族

14. 家族と社会（まとめ）

15. テスト

●評価方法

論述形式を含む期末試験（100%）で評価を行う。

●受講生へのコメント

毎回講義内容についてのコメントを提出してもらい、次回以降でフィードバックしていく。また、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為（私語など）を行う者には、退出を求めることがあるので、留意すること。

●教材

教科書：特に指定しない。資料を配付する。

参考書：神原・杉井・竹田編、2009『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房。その他、授業中に適宜紹介する。

現代社会におけるキャリアデザイン (後期 火・3 全)

2 単位

Career Design in Modern Society

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題

本科目は、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリア（社会人としての人生）のあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考える科目である。就職支援・対策のための科目ではなく、教養教育の一環としてキャリアデザインを考える。

知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む中で、社会・世界のあり方も変化し、多様で複雑な課題が生じている。「就職」で人生の大半が決まるという従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルも変化・多様化している。そのような状況の中で、我々1人1人が、多様な価値観の中で、自らの「質の高い人生」をそれぞれに構築していくことや、「より上手に機能する社会」の実現に向けて多様な人々とともに協働しながら取り組んでいくことが必要となってきている。本科目では、こうした社会変化の中で求められる力や姿勢についても考え、その基本を学んでいく。

●科目の到達目標

急速な変化のなかにある社会において、個人の「質の高い人生」と「より上手に機能する社会」の両方を実現していくためには、「自ら取り組むべき課題に気づき、自ら考えつつ、多様な人々と協力しつつ解決に向けて行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが重要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考えたり、自分の意見をまとめ・他者に伝え、相互に理解し合おうとしたりする力・姿勢の基礎の修得を目指す。また、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリアのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考える中で、最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

1-2回目：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？ なぜ今キャリアデザイン？—大学へ行く意味の変化

2回目～15回目の授業の中では、以下の1.～4.の側

面についてそれぞれ3～4回分の授業を使って扱い、考えていく予定である。

1. 現代社会における職場・仕事をめぐる動向
2. キャリア選択の多様性と若年労働者を中心とする状況
3. 21世紀に必要とされる能力・スキルとは？
4. 自らのキャリアデザインについて考える（自己イメージと他者から見た自分像・仕事のイメージと現実・これからの自らの人生と現在の自分、現代社会におけるキャリアデザインとは等）

前半は講義を中心に、グループワークや毎回の小レポート課題に書かれた意見のフィードバックを行い、中盤～後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッション等を取り入れた学生参加をより重視した授業を行う予定。

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと発表など授業参加度55点、および2) 期末レポート等課外課題（複数の課外課題を予定）45点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の3分の2以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内レポートや課外課題等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後の人生・キャリア・働くということについて考えることを通して、現在の自己や社会を相対化し把握する契機としてほしい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

現代社会と大学

University and Modern Society

(前期 木・4 全)

2 単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題

同世代の2人に1人以上が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義やあり方を社会から問われている。

「大学」とはそもそもどのような場か？自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか？当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。大学および学生に対する社会からの現在の評価はいつ頃生まれたのか。本科目では、これらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

●科目の到達目標

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、今後の大学のあり方、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、大学とは何かを自分なりに考え、自分の大学の色（特色）を実感して、そこから広がる現代社会を考えつつ、これからの大学のあり方や学生としての自分を相対化して捉え直すことを目指す。

●授業内容・授業計画

以下の5つの側面について考えていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか？～大学「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生～大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか？～「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということとは？～教育機能と21世紀の教養教育
5. これからの大学はどうなっていくのか？
～法人化・大学評価・学士課程教育等

授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2

～6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7～10回目で2.と3.について、11～15回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●評価方法

評価割合は1) 毎時間提出のレポート課題と授業内活動参加度合いが60%、2) 期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは本授業が単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義を聴き知識をただ吸収するだけではなく、大学に関するテーマについて、自らの問題として考えることを通して、「学生」としての自らの立場や「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の歴史』(あるいは『大阪市立大学の125年』)を使用する。

現代社会と大学 演習

Seminar: University and Modern Society

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題

本授業では、現代の大学が抱える多様な問題を共通題材として調べ考え発表・ディスカッションすることによって、「大学」のあり方や「自分自身が大学で学ぶ意味」をより客観的に捉えなおしたり、考察したりすることを目指す。現代社会において大学が抱える諸問題や大学と学生の位置づけのあり方等さまざまなテーマについて、自分で調べ、考え、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う中で、自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験をする受講生参加型の演習授業である。

●科目の到達目標

その経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・相互の考えを深めるコミュニケーションを行う力の基礎の修得を目指す、

このように大学という存在のあり方について考え、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の7つのテーマ（他に興味のあるテーマがあれば応相談）の中から、各自ないしはグループの調査希望に沿って選んだ4～5つのテーマに関して進める。

- 【テーマ】
1. 大学の大量化と学生の学力の問題
 2. 社会から求められる能力・スキル
 3. 社会への出口としての大学(院)と質保証
 4. 大学の入り口と初年次教育
 5. 21世紀に求められる教育内容
 6. グローバル化と大学
 7. 大学の目的・あり方や理想の大学像

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・収集と調査のまとめ方指導
- 4～15 回目：上記4～5テーマについて、テーマ毎に授業2～3回分を1サイクル（発表と補足講義・補足資料の配付→論点決定→次週までに論点に関する配付資料を読んだり自分の意見を考えたりしておく→次週にディスカッション）として授業を進める。

●評価方法

1) 授業内提出課題、2) テーマについての調査報告発表の相互評価、3) それをもとにまとめた最終レポート、4) ディスカッションへの参加度合い、5) 授業活動全体への参加度合いをそれぞれ20%ずつ総合評価する。(20点×5項目=100点)

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の3分の2以上の出席回数が最低限求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を18名程度に制限する

●教 材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(前期 金・2 全)

2 単位

人権問題研究センター 特任 野口 道彦

●科目の主題

部落問題とはどんな問題か。今も差別は、なぜ残っているのか。21世紀になって、どのように変わったのか。部落差別は、解消の過程にあるのだろうか。これらの間を解いていくことで、日本の社会の現実がみえてくる。社会の構造が浮かび上がってくる。

さまざまな差別問題に共通することは、「差別はもうない」という意見と、「まだある」という意見に分かれることだ。部落差別をめぐるのもそうである。問題認識の出発点での認識の食い違いが、どうして生まれるのだろうか。

講義では、まず具体的な差別事件を通して、今、部落差別はどのような形であらわれているのかを考える。そこから、差別がなくなりつつあるのか。新しいバージョンの差別が生まれてきているのかを考える。

もう一つの主題は、パラダイムの転換である。部落問題の常識的な見方を疑ってみる。「部落」とは何だろうか、「部落民」とは誰のことをいうのだろうか。今まで、わかりきったことと思っていることも、あらためて考えてみると、あやふやな知識に頼っていたり、カテゴリカルな見方をしていることに気づく。

●科目の到達目標

差別をなくすためには何をしたらよいのだろうか、これを一人ひとりの学生が自分の頭で考えることだ。でき

あいの解答ではない、一人一人にとってのユニークな意見をもつことを目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は、次のようなテーマを中心に考える。

- 1) 今日の部落差別
- 2) 結婚忌避
- 3) 地縁忌避
- 4) 雇用差別と行政の取り組み
- 5) 社会システムと差別
- 6) 部落問題の三位一体的認識からのパラダイム転換

●評価方法

コミュニケーション・カードの内容、期末の試験により評価を行う。

●受講生へのコメント

授業に関連した本を少なくとも3冊読むことを期待している。毎回、コミュニケーション・カードに、講義内容に関連した意見や疑問を書いてもらう。次回にはそのうちのいくつかを紹介し、コメントする。このようなやりかたを通して、できるだけ一方通行の講義にならないようにしたい。積極的な受講態度を期待している。

●教材

寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待－資料と解説、第2版』(2006年、解放出版社)

メディアと人権

Media and Human Rights

(前期 金・1 全)

2 単位

非常勤 中村 一成

●科目の主題

「人権」を軸にメディアを読み、そこから抽出した問題について考えるのが科目の主題である。

人々の「知る権利」に応え、人権の伸長(=社会的平等の実現)に資するのがマス・メディアの大きな存在意義だが、現存するメディアはその役割を果たしているといえるだろうか？

既存メディアの地盤沈下を進めてきた最大の要因であるインターネットの普及は、事実上、国家や大企業が独占していた情報の送受信を個人レベルで可能にした反面、従来では考えられなかった人権侵害をも生み出している。

「報道の自由」と人権との兼ね合いは？ マス・メディアはマイノリティを取り巻く問題をどのように報じて、あるいは無視して来たのか？ 「表現の自由」に限界はあるのか？あるならどこに？ 報道被害や、人権問題へ

の対応を例にマス・メディアの構造的問題について考えると共に、これを読む皆さんが被害者、加害者双方に成り得るネット時代の問題についても考えたい。

●授業の到達目標

メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、複数の情報を突き合わせて多角的に読む意識を持つこと。『知る権利』『言論の自由』と人権』について自らの考えを展開できること。

●授業内容・授業計画

- ① オリエンテーション (講座全体の流れと評価方法)。メディア史の概観。
- ②～④ 『『犯罪報道』を読む』耳目を集めた大事件について、マス・メディアの報道と、独立系メディアの作品を見比べて「何が報じられていないのか」「それは何故なのか」を考える。

そして忘れてはならないのは情報を日々、発信する記者の存在である。彼女らはどのような教育を受け、どのようなフィルターを通して情報を取捨選択し、記事を生産していくのか？そこを紐解けば見えてくるのは、日本の企業文化そのものでもある。過剰報道に乗じて企図されてきたメディア規制の動きなどについても取り上げる。

- ⑤～⑨ 「メディアはマイノリティをどう扱ってきたか」メディアにおいて「部落民」や「障害者」「病者」はいかに報じられて来たのか？いくつかの「差別報道」問題や、いわゆる「放送禁止歌」の数々。マス・メディア内の「用語集」などを切り口に、ニュースにかかるフィルターの一つ、「タブー」について考える。
- ⑩～⑭ 「総メディア時代の『メディアと人権』」2013年春以降、「ヘイトスピーチ」が社会問題化した。差別デモをネットで送受信する行為は「表現の自由」の範囲なのか？欧米の例も取り上げ「差別的法規制」について取り上げる。

- ⑮ 総括『『この時代』に考える『表現の自由』と『知る権利』』

●評価方法

レポートの提出と、毎回のコミュニケーションカードの内容などを元に総合的に判断する。詳細は初回に説明する。

●受講生へのコメント

講師は新聞記者出身のフリージャーナリスト。自身の取材体験も盛り込みながら、なるべく多くの「問い」を皆さんに提供し、思考を展開する材料（映画や書籍）を紹介していきたい。授業ではドキュメンタリー映画や講師自身が取材したインタビュー動画など、映像資料や音楽を頻繁に活用する。コミュニケーションカードは授業の進行に取り込む。積極的に記入して欲しい。

●教材

プリントなどその都度配布する。いわゆる「時事ネタ」を使うことも多いので、ネットでも気になったニュースについては新聞各紙をチェックするなど自分なりの問題意識をもってほしい。

部落解放のフロンティア

Frontiers of Buraku Liberation

(後期 金・1 全)

2 単位

特 任 野口 道彦

非常勤 谷元 昭信、大北 規句雄、友永 雄吾

●科目の主題

部落問題は、現代の日本社会の構造に根ざした問題である。部落を解放する営みは、日本の社会運動に大きな影響を与えてきた。21世紀にどのような社会を作っていくのかということを考える場合にも、差別からの解放をどのように構想していくのが、重要なポイントとなる。

この講義は、部落解放の最先端（フロンティア）で取り組んでいる三人の講師を招き、今、何が課題となっているのか、それぞれの立場から語る。

部落解放とは何かということについて、過去にも何度も議論されてきたが、不況と混迷がつづく今の時代に、あらためて新鮮な問題意識をもって、既成の観念にとらわれず考えていく必要がある。

●授業の到達目標

部落解放の重点の置き方は、論者によって意見は異なる。そのために、部落解放のフロンティアといっても一つではなく、さまざまなフロンティアがある。講師たちの講義に触発されて、受講者自身がそれぞれに自分の人権社会創造のフロンティアを見いだすことを目標とする。

●授業内容・授業計画

この講義は、オムニバス形式で行う。谷元昭信先生は、部落解放同盟綱領の2011年改正にあたって中心的役割をはたされた。その中で「差別克服への3つの戦略課題」を提起された。それがどのような問題意識から生まれた

のかを、じっくりと話をしてもらおう。大北規句雄先生は、隣保館活動の重要性を一貫して主張されてきた方であり、また茨木で「福祉と人権のまちづくり」をまったく新しい手法で実践されている。友永雄吾先生は、オーストラリアのアボリジニ問題にも詳しく、部落差別の撤廃を目指す運動を国際人権NGOや国連の人権諸機関と連携しつつ展開されている。そうした動きを中心に話をさせていただく。

野口道彦(本学、人権問題研究センター)が全体をコーディネートする。

授業計画は次の通りである。

- 第1回目：＜野口担当＞部落解放運動の歩みを振り返る
(「水平社創立」関係のビデオ)
- 第2回目：＜谷元担当＞部落差別の実相と現状に関する認識論
- 第3回目：＜谷元担当＞明治維新以降の部落差別の実態変遷
- 第4回目：＜谷元担当＞部落差別を生みだす社会的背景への考察
- 第5回目：＜谷元担当＞部落解放運動の歴史と日本の社会運動
- 第6回目：＜谷元担当＞部落差別克服への基本方向と課題
- 第7回目：＜大北担当＞排除と隔離の100年を問う
- 第8回目：＜大北担当＞2000年大阪府部落実態調査が示

したもの

- 第9回目：＜大北担当＞セツルメントから隣保館へ
- 第10回目：＜大北担当＞福祉と人権のまちづくりへの挑戦
- 第11回目：＜大北担当＞部落の経験を社会発展の糧に
- 第12回目：＜友永担当＞部落解放運動の国際展開(1)
- 第13回目：＜友永担当＞部落解放運動の国際展開(2)
- 第14回目：＜野口担当＞まとめと補足的な講義
- 第15回目：試験

●**評価方法**

出席状況と、毎回提出してもらったコミュニケーションカードの内容と試験によって総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

この講義は部落問題について知らない人を排除するものではないが、問題解決という実践的課題に焦点を絞る

ために、すでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育を受けていない人には、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

●**教材**

『2014年度 部落解放のフロンティア---講義レジュメと資料』を、第1回目に配布する。

参考図書などについては、『講義レジュメと資料』を参照。

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(前期① 金・1 全)

2単位

非常勤 上杉 聡

●**科目の主題**

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、学生諸君はもうすでに小、中、高の段階である程度学んできたと思う。「土農工商えた非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初めにあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究は、とくにこの20年間めまぐるしく進展し、その固定観念は大きく変えられた。本講義では、そうした最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史（中世から現代まで）について、平易に、しかし本格的に検討していく。

●**授業の到達目標**

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることが、現状を知り、将来の展望を導き出すために不可欠だ。大学に学んでいるこの機会に、部落問題をいちど根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、ぜひとも歴史学（実証と全体性）を通して深く学び考える方法を知ってもらいたいと考えている。

●**授業内容・授業計画**

- 第1回 なぜ部落の歴史を勉強するのか
- 第2回 「土農工商穢多・非人」のまちがい
- 第3回 「社会外」という部落のあり方
- 第4回 「部落は江戸時代に作られた」のまちがい
- 第5回 中世の部落の姿
- 第6回 討論

- 第7回 差別制度が江戸時代に本格化
- 第8回 差別のゆるみと強制
- 第9回 賤民制度の廃止と限界
- 第10回 近代の差別と水平社の挑戦
- 第11回 日本国憲法と戦後の部落
- 第12回 大阪市立大学と部落差別
- 第13回 被差別部落からのお話（外部講師）
- 第14回 討論

●**評価方法**

期末試験と出席で評価する。

●**受講生へのコメント**

真実は人を自由にする。厳しく不条理な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私たちの精神は自由となり、解放される。部落の歴史を知ることが楽しい。もし、お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がいれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしたい。

●**教材**

- 教科書（毎回授業で使用するので、必ず入手すること）
- 上杉 聡『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社）
- 参考書
- 上杉 聡『これでなっとく！部落の歴史』（解放出版社）
 - 同 上 『天皇制と部落差別』（解放出版社）
 - 同 上 『部落史がかわる』（三一書房）

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(後期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 駒井 忠之

●科目の主題

授業では、市民の意識調査からうかがい知れる結婚差別や土地差別など、現在も残っている部落差別の現状を把握したうえで、なぜそうした差別が発生し、継続されてきたのかを具体的な資料を交え、歴史的見地から考察する。さらに、中世以降、被差別民が担ってきた職能や、また、部落解放をめざして創立された全国水平社の歴史や水平社が創立大会で発した「水平社宣言」の内容について学習する。

本講義の主題は、歴史研究を基礎とした部落差別の成り立ちについての概括的理解であるが、部落差別を基軸として差別というものの本質を捉えるとともに、人間関係を構築する上で最重要と考えられる人権感覚を身につけることも主題に含むこととする。

●授業の到達目標

部落問題や部落の歴史に関する基礎的な知識を身につけることはいうまでもなく、部落問題解決にむけた展望を見据えてもらいたい。

また、部落差別だけではなくあらゆる差別に共通するその本質を理解し、何が差別なのか、何が差別ではないのかを見抜くセンスを養い、人権とは何かを理解してもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 問題意識の確認、相互情報交換

- 第2回 講義スケジュールと部落差別の現状について
- 第3回 部落の歴史を学ぶ
- 第4回 「ケガレ」と「キヨメ」
- 第5回 中世・近世の被卑賤視民
- 第6回 近代日本と部落問題
- 第7回 全国水平社の創立と展開
- 第8回 「水平社宣言」について
- 第9回 戦後の解放運動と差別事件
- 第10回 食肉と皮革
- 第11回 差別解消の展望

●評価方法

授業への参加の積極性などの平常点と最終レポートによって総合的に評価する。比率は平常点50%、レポート50%とする。

●受講生へのコメント

被差別民の歴史や部落問題を学習する基礎的な講義である。率直な質問や忌憚のない意見をだしてもらい、議論しながら講義をすすめたいため、テーマから想像できる内容を自分なりに調査し、講義に臨んでもらいたい。

●教材

毎回レジュメを配布する。

世界のマイノリティ

Minorities of the World

(後期① 金・2)

2 単位

非常勤 友永 雄吾

●授業の主題

温暖化、災害、資源の枯渇、乱開発といった多岐にわたる環境にかかわる問題は、人間の生きやすなわち広い意味での人間の文化の問題にかかわっていることが認識されている。そこでは、自然環境のみでなく社会環境の崩壊や不均衡が現れてきている。本講義では、地球規模や国家レベルで生じるそうした環境の諸問題を視野に置きつつ、もう一方で日常の社会で起きる出来事を見据えることができる環境人類学について学習する。その際、先住民族を中心としたマイノリティと環境との関係に注目し、個人、組織、国家さらには国家間で自然環境や社会環境の諸問題を解決へと導くためのコミュニケーション能力を養う。そのうえで多文化共生の在り方について検討する。さらに、重要な用語などは日本語と英語で示すことにより、国際的な場で必要となるコミュニケー

ション能力の向上を目指す。

●授業の到達目標

環境人類学の視点に立って世界のマイノリティにおける自然環境や社会環境との関係について理解する。さらに環境問題を取り巻くさまざまな利害関係者の視点を分析し、環境問題の解決策を導きだし、多文化共生社会の実現に必要なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、①「民族と開発」、②「環境正義」、③「生物多様性」、④「資源管理」といった4テーマを中心に扱う。

- 第1回 ガイダンス (講義の内容、進め方)
- 第2回 環境人類学と世界のマイノリティ
- 第3回 先住民族と開発 (概論)

- 第4回 先住民族と開発（先住民族と持続可能な内発的発展）
- 第5回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第6回 環境正義（概論）
- 第7回 環境正義（ウラン鉱山開発と原発問題）
- 第8回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第9回 生物多様性（概論）
- 第10回 生物多様性（先住民の伝統的知識と生物多様性）
- 第11回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第12回 資源管理（概論）
- 第13回 資源管理論（グローバル・コモンズとしてのクジラ）
- 第14回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表

第15回 まとめ

●評価方法

コミュニケーション・カードの内容（20%）、授業内レポート課題やグループ討議及び発表（60%）を総合して評価する。

●教科書・教材・参考書

教科書や資料は特に指定しない。各テーマ内容に関する資料、レポート課題を適宜、配布ないしは紹介する。また、各テーマ内容に関連するビデオ教材を利用する。

●受講生へのコメント

各テーマに関連するレポート課題を必ず提出すること。さらに、グループ討議とグループ発表を実施こともあるので、授業には積極的に参加すること。

世界のマイノリティ

Minorities of the World

（後期② 金・2 全）

2単位

非常勤 友永 雄吾

●授業の主題

温暖化、災害、資源の枯渇、乱開発といった多岐にわたる環境にかかわる問題は、人間の生き方すなわち広い意味での人間の文化の問題にかかわっていることが認識されている。そこでは、自然環境のみでなく社会環境の崩壊や不均衡が現れてきている。本講義では、地球規模や国家レベルで生じるそうした環境の諸問題を視野に置きつつ、もう一方で日常の社会で起きる出来事を見据えることができる環境人類学について学習する。その際、先住民族を中心としたマイノリティと環境との関係に注目し、個人、組織、国家さらには国家間で自然環境や社会環境の諸問題を解決へと導くためのコミュニケーション能力を養う。そのうえで多文化共生の在り方について検討する。

●授業の到達目標

環境人類学の視点に立って世界のマイノリティにおける自然環境や社会環境との関係について理解する。さらに環境問題を取り巻くさまざまな利害関係者の視点を分析し、環境問題の解決策を導きだし、多文化共生社会の実現に必要なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、①「民族と開発」、②「環境正義」、③「生物多様性」、④「資源管理」といった4テーマを中心に扱う。

- 第1回 ガイダンス（講義の内容、進め方）
- 第2回 環境人類学と世界のマイノリティ
- 第3回 先住民族と開発（概論）

- 第4回 先住民族と開発（先住民族と持続可能な内発的発展）
- 第5回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第6回 環境正義（概論）
- 第7回 環境正義（ウラン鉱山開発と原発問題）
- 第8回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第9回 生物多様性（概論）
- 第10回 生物多様性（先住民の伝統的知識と生物多様性）
- 第11回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第12回 資源管理（概論）
- 第13回 資源管理論（グローバル・コモンズとしてのクジラ）
- 第14回 ビデオ教材とグループ討議およびグループ発表
- 第15回 まとめ

●評価方法

コミュニケーション・カードの内容（20%）、授業内レポート課題やグループ討議及び発表（60%）を総合して評価する。

●教科書・教材・参考書

教科書や資料は特に指定しない。各テーマ内容に関する資料、レポート課題を適宜、配布ないしは紹介する。また、各テーマ内容に関連するビデオ教材を利用する。

●受講生へのコメント

各テーマに関連するレポート課題を必ず提出すること。さらに、グループ討議とグループ発表を実施するので、授業には積極的に参加すること。

障がい者と人権Ⅰ

Human Rights of Peoples with Disabilities

(前期 金・2 全)

2 単位

非常勤 松波 めぐみ

●科目の主題

「障害者」と呼ばれる人たちは、なぜ他の人と分け隔てられ、近所の子と別の学校に行かされたり、社会参加を断念させられたり、「障害を乗り越えてがんばってる」と勝手に思いこまれたりするのだろうか？ そもそも、「障害」って何なんだろう？ ——それを何より問うてきたのは、障害をもつ人たちである。かれらは1970年頃から、健常者中心の社会のあり方（社会構造や価値観）を告発し、地域社会のなかで「共に生きる」ことを模索してきた。その結果、まちは少しずつ変わってきた。さらに障害者運動の主張を理論化する努力が実を結び、2006年に国連で障害者権利条約が採択された。（日本もついに2014年1月に条約を批准した。）

この授業では「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害(者)のことを学んでいく。障害者はどのように社会を見つめ、権利を獲得してきたのか、そして未だにどのような差別があるのかを学ぶことを通して、社会のあり方を多角的に捉えなおしていく。障害をもつゲストの方を数回、教室にお呼びし、直接お話をうかがう予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」「インクルーシブ教育」など、障害者権利条約の基本概念を理解するとともに、現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分な

りの問題意識をもてるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自立生活について、ゲスト講義（予定）
- 第3回 障害者はどう社会を変えてきたのか？・1
- 第4回 障害者はどう社会を変えてきたのか？・2
- 第5回 世界が認めた「障害者権利条約」
- 第6回 誰もが乗れるバス、電車をめざして
- 第7回 災害のとき、障害者は？
- 第8回 ゲスト講義（予定）
- 第9回 情報・コミュニケーションの権利
- 第10回 「盲ろう者」とコミュニケーション
- 第11回 とともに学び育ちあうインクルーシブ教育
- 第12回 ゲスト講義（予定）
- 第13回 当事者どうして支え合い地域を変える
- 第14回 差別のないまちを目指して
- 第15回 課題レポート作成

●評価方法

コミュニケーションカードの内容、および最終回に作成する課題レポートにより評価を行う。

●受講生へのコメント

積極的な受講を期待する。

●教材

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

障がい者と人権Ⅱ

Human Rights of Peoples with Disabilities

(後期 金・2 全)

2 単位

非常勤 松波 めぐみ

●科目の主題

「障害」の世界にパラダイム・シフトが起こっている。かつて「障害」とは医学的・個人的問題であり、治療やリハビリテーションによって克服すべきものとされてきた。障害をもつてうまれてきた子ども（障害を負った人）は、「障害の軽減、克服」のためには地域で暮らすことや、共に学ぶことや遊ぶことをあきらめることを余議なくされ、他の人と同じ「権利」が無くてもしかたがないとされてきた。

そんな社会に対して、障害者は異議をとなえ、「障害の社会モデル」（個人の身体的欠陥ではなく、バリアや偏見などの「社会的障壁」こそが、障害者と括られた人を生きづらくさせている。変わるべきは社会である）という考え方をうみだし、それをテコに社会を変えてきた。この「障害の社会モデル」を理論化したのが、1980年代か

ら発展してきた「障害学」（ディスアビリティ・スタディーズ）である。

この授業では、「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害(者)のことを学んでいく。「障害者と人権Ⅰ」が、障害者運動や障害者権利条約に力点があったのに対して、Ⅱでは「障害学」にふれ、「文化」を含め、より多角的に社会のあり方を見ていきたい。Ⅰと同様、ゲストの方を数回お呼びする予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」という概念を深く理解し、さまざまな事象をこの角度から捉えられるようになる。また、自分なりの問題意識を発展させる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「障害」ということばと「障害学」

- 第3回 「障害の社会モデル」とその意義
- 第4回 「障害」は無いにこしたことがない、のか？
- 第5回 ゲスト講義（予定）
- 第6回 「ろう文化」の世界
- 第7回 発達障害と「文化」
- 第8回 精神障害をもつ人のコミュニティ
- 第9回 今ここにある「優生思想」
- 第10回 ゲスト講義（予定）
- 第11回 複合差別を考える・1（女性障害者）
- 第12回 複合差別を考える・2（外国人ほか）
- 第13回 「働くこと」を考える

- 第14回 改めて考える「障害者の権利」
- 第15回 課題レポート作成

●**評価方法**

コミュニケーションカードの内容、および最終回に作成する課題レポートにより評価を行う。

●**受講生へのコメント**

「障害者と人権Ⅰ」を既に受講していることが望ましい。できれば日常から、障害者と接する機会を積極的に持って欲しい。

●**教材**

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

ジェンダーと現代社会Ⅰ

Gender in the Modern Society Ⅰ

（前期 金・2 全）

2 単位

人権問題研究センター 古久保 さくら 他

●**科目の主題**

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域と、大学を卒業して出て行く労働社会の領域を中心に、ジェンダー化された社会の現状について、考察したい。

●**授業の到達目標**

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるもののできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

そのうえで、大学卒業後の生活においてジェンダー化されている社会の中で、主体的に生きる力を身につけることを期待する。

●**授業内容・授業計画**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～5回 メディアにおけるジェンダー
- 第6回 グループディスカッション
- 第7回～10回 教育におけるジェンダー平等をめざして
- 第11回～14回 変容期にあるジェンダー
- 第15回 まとめ 質疑応答

●**評価方法**

毎回提出するコミュニケーションカードに基づく出席

点（40点）・中間レポート（10点）・最終レポート（50点）により評価する。

中間レポートの提出と出席8回以上がない者の最終レポートの提出を認めない。

レポートの課題などについては、初回授業時に説明する。

●**受講生へのコメント**

本科目では、ジェンダー平等教育のための市民活動の実践経験のある非常勤講師をお迎えする。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード（感想文）の提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。

ボランティアとして関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

20分以上の遅刻はみとめない。

●**教材**

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。

それ以外にも随時指示する予定である。

何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

ジェンダーと現代社会Ⅱ

Gender in the Modern Society Ⅱ

（後期 金・2 全）

2 単位

人権問題研究センター 古久保 さくら 他

●**科目の主題**

本科目では、ジェンダースタディーズという学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中

心に取り上げる。とくに、メンズ・リブ運動の社会活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具

体的方策などを講義いただく予定であり、セクシュアリティとジェンダーをめぐる課題を人権という視点から考察する。

●授業の到達目標

各テーマに関連して様々な観点からの問題提起型の授業を通じて、それぞれのテーマのもつ複雑さを理解し、関連問題の克服のための方策をともに考えるという姿勢を習得することが、本科目の到達目標である。

それは、物事を複眼的に考察するという能力を養う事でもあると考える。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 若者の性行動におけるジェンダー
- 第3回 異性愛だけが性愛か？
- 第4回 グループディスカッション
- 第5回 男性性とセクシュアリティ DVという問題
- 第6回 性暴力被害者の心理と援助者の役割
- 第7回 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントという問題
- 第8回 ワークショップ:アサーティブ・トレーニング
- 第9回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ
- 第10回 労働としての性の商品化
- 第11回 ジェンダー視点からみた性の商品化
- 第12回 グループディスカッション
- 第13回 生殖をめぐる商品化

- 第14回 まとめにかえて「自己責任」を考える
- 第15回 質疑応答とレポート提出

●評価方法

毎週提出するコミュニケーションカードに基づいた出席点（40点満点）ならびに最終授業時に提出するレポート（60点）による。

出席回数が8回以下の者はレポート提出を認めない。
レポートの課題などについては、授業初回に指示する。

●受講生へのコメント

ある程度のジェンダに敏感な視点をもった学生を対象としており、「ジェンダーと現代社会Ⅰ」を既習していることを前提に授業を進める。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、10分以上の遅刻はみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

ジェンダーと現代社会

Gender in Modern Society

(前期② 月・2 全)

2単位

非常勤 日野 玲子

●科目の主題

「婦人問題講座」「女性学」を受け継ぎながら、女性学・男性学・ジェンダー研究の視点から現代社会を検討することを課題とする。制度的な取組みの整備だけでなく、大学におけるセクシュアル・ハラスメント、デートDVなど、権力関係の視点で現代社会をみると、さまざまな課題が浮き彫りになってくる。暮らしの中にあるジェンダー秩序に気づき、ジェンダー平等な関係を考える機会としたい。

●授業の到達目標

- ① ジェンダー概念を理解する
- ② 現代社会にあるジェンダー秩序に気づき、課題を考察できる
- ③ 自らの課題として個別テーマを考察する

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 暮らしをジェンダー・チェック
- 第3回 ジェンダー化される身体
- 第4回 ジェンダー意識の形成(1)

- 第5回 ジェンダー意識の形成(2)
- 第6回 自然化された文化の検討(1)
- 第7回 自然化された文化の検討(2)
- 第8回 男女共同参画社会基本法について
- 第9回 男性学の課題と主張
- 第10回 女性に対する暴力を考える
セクシュアル・ハラスメント
- 第11回 配偶者間暴力について
- 第12回 デートDV 暴力防止のために
- 第13回 ジェンダー秩序を考える(1)
- 第14回 ジェンダー秩序を考える(2)
- 第15回 試験

*授業展開によって内容の変わる場合がある。

●評価方法

授業時におけるレポート30%
試験 70%

●受講生へのコメント

実践的なテーマを扱うため、積極的な参加を求める。

●教材

時間ごとにプリント資料を配布。
視聴覚教材も使用。

<参考図書>

・木村涼子・古久保さくら編著『ジェンダーで考える

教育の現在』(解放出版社2008)

・天野正子・木村涼子編『ジェンダーで学ぶ教育』(世界思想社2003)

エスニック・スタディ入門編

Ethnic Study I

(前期 金・2 全)

2 単位

経済学研究科 朴 一

●科目の主題

この講義では、在日外国人の人権をめぐる諸問題について学ぶ。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても大きく減少せず、在日外国人の実数は 200 万人を超えている。このうちの日本に最も永い居住歴を持っているのは在日コリアンで、彼らの多くは、戦前・戦中期にさまざまな事情で日本に渡ってきた人達とその子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本で育ち、日本社会のさまざまなフィールドで活躍している。

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、労働条件、結婚、新居探しなど人生のさまざまな場面で、日本社会から人種的な迫害や差別を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が起こるのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業の到達目標

在日外国人問題についての基本的知識を身につけ、社会人としての人権感覚を養う。

●授業内容

1. 私の生い立ち
2. ダーリンは外国人
3. 外国人への入居拒否は区別か差別か
4. 日本の中の外国人学校
5. あなたは在日の歴史を知っていますか
6. 二つの大震災と在日外国人
7. 神風特攻隊として散った在日コリアン
8. 忘れられた皇軍兵士たち
9. 外国人への指紋押捺をめぐる論争
10. 無年金外国人は訴える
11. 同情するなら職をくれ
12. 永住外国人への参政権に付与問題
13. ある帰化代議士の神話
14. 孫正義の挑戦
15. 在日コリアン新世代の生き方

●評価方法

出席(最低 6 割以上の出席が必要)、レポート、テストを総合して採点。

●教科書

・朴一『僕たちのヒーローはみんな在日だった』講談社

エスニック・スタディ応用編 ~世界の民族問題

Ethnic Study II

(後期 金・2 全)

2 単位

経済学研究科 朴 一 他

●科目の主題

20世紀は、世界のあらゆる地域で民族紛争が繰り返された時代であった。ロシア(旧ソ連)、東欧、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アラブ、北米など、世界中で民族独立運動や民族間の抗争、衝突が繰り返され、そして現在も異なる民族やエスニック集団の間で「文明の衝突」が起こっている。なぜ、これほど民族紛争は繰り返されるのか。また人類はこうした民族紛争を解決するために、どのような処方方を提示してきたのか。講義では、フランス、インド、日本などの国を事例にして、6名の担当教員が現代世界の民族問題について解説する。

●授業の到達目標

世界の民族問題についての基本的知識を身につけ、社

会人としての教養・人権感覚を養う。

●講義の概要

1. 日本における外国人労働者問題①
2. 日本における外国人労働者問題②
3. 日本における外国人労働者問題③
4. インドにおけるエスニック問題①
5. インドにおけるエスニック問題②
6. インドにおけるエスニック問題③
7. フランスにおける移民問題①
8. フランスにおける移民問題②
9. フランスにおける民族問題③
10. 民族問題への理論的アプローチ①
11. 民族問題への理論的アプローチ②

12. 民族問題への理論的アプローチ③
13. ゲスト・スピーカー
14. ゲスト・スピーカー
15. ゲスト・スピーカー

●評価方法

出席、レポート、試験を総合して採点

●受講生へのコメント

エスニック・スタディ入門編との連続性はありません。

●教材

そのつどプリントを配付。参考書はそれぞれの講義で提示する。

企業と人権

Business and Human Rights

(前期 金・1 全)

2 単位

非常勤 李 嘉 永

●科目の主題

今日、企業の社会的責任（CSR）を求める動きが、各方面で高まっています。CSRとは、事業活動に社会的公正さや環境への配慮を組み込み、多様なステークホルダーに対して説明責任を果たしていくことを指しますが、その重要な問題領域の一つのとして、人権問題が挙げられます。その背景には、経済不況のもとで、職場が余裕をなくし、しばしば人権侵害が発生していることが指摘されています。

そこで、この講義では、企業経営のさまざまな側面で発生している人権問題について概観し、その改善のために実施されているCSRの取り組みを紹介したいと考えています。

●授業の到達目標

企業を評価する際に、経済的指標に留まらず、社会的指標・環境的指標を含めた「トリプル・ボトムライン」を用いて判断できる思考を習得してほしいと考えています。また、企業が事業展開するにあたって、社会問題、とりわけ人権に関わる問題に対し、肯定的な影響を及ぼしうる配慮を組み込む工夫を理解していただければと思います。

●授業内容・授業計画

概ね、次のような構成で講義を進めたいと考えています。

1. イントロダクション：企業の社会的責任の概念
2. CSR促進の多様なツール
3. 労働問題(1)
4. 労働問題(2)
5. セクシュアル・ハラスメント
6. パワー・ハラスメント

7. 女性と労働
8. 障がい者の雇用促進
9. 非正規労働をどう考えるか
10. 児童労働・強制労働
11. 少子化対策
12. 消費者保護
13. サプライチェーンと人権
14. 人権問題解決に向けた社会貢献活動・NGOとの協働(1)
15. 人権問題解決に向けた社会貢献活動・NGOとの協働(2)

●評価方法

期末に試験を実施しますが、授業中にも、数回小テストを実施できればと考えています。小テストは、数回の講義を簡単に振り返るものですから、復習を欠かさないようにしてください。

配点は次の通りです。

期末試験：80点

小テスト：20点

●受講生へのコメント

毎回コミュニケーション・カードをお配りしますので、ご意見・ご感想を自由に書いてください。

また、ご質問等については、レジュメにメールアドレスを記載しますので、メールでも受け付けています。

●教材

教科書は特には指定しません。毎回レジュメを配布します。その際に、いくつか参考文献を提示しますので、各項目で関心を持たれた際には、それらを参照してください。

地球市民と人権

Global Citizenship and Human Rights

(前期 金・2 全)

2 単位

創造都市研究科 阿久澤 麻理子

●科目の主題

18世紀末のフランス革命は、王や貴族などの特権階級

だけでなく、「市民」の誰もが生まれながらに権利を持ち、「国家」には市民の権利を実現する義務があることを歴

史の中で位置づけた。市民は自分たちの人権を実現してくれる国家を主体的に選び、国家は市民に選ばれたことによって、存在の根拠を持つようになった。しかし、「国家」が「市民」の権利を実現するという人権のモデルには、いくつかの「底抜け」があった。人権の実現は、あくまで市民と国家間の決めごと（契約）であるから、「市民ではない（市民権を持たない）人は、契約外ということになる。また、私的な世界で起こる権利侵害（例えばジェンダーに関わる問題）は、長らく人権の枠組みの外にあった。また、市民の人権を実現する責務をもつのが国であるのだとすれば、死刑制度の存在はどのように議論されるのか？いろいろな疑問がわくはずである。本講義では、こうした課題に焦点をあて、「人権と刑罰」「ジェンダー」「越境・人種差別」、人権を実現するための多様な取り組みのありようを考える。

●授業の到達目標

人権についての基本的な概念を理解するとともに、異なる課題を、「人権の視点」から考えることができるようになること。

●授業内容・授業計画

1. 人権とは何か、人権の底抜けとは何か
《ジェンダー》
2. 私的世界の「底抜け」とジェンダー…フランス革命から、「名誉犯罪」まで
3. 日本の憲法と女性の権利…憲法と人権の関係から

4. 国際人権基準が変えること…女性差別撤廃条約
《刑罰と人権》
5. 死刑制度と人権、死刑廃止条約
6. 刑罰とはなにか
7. 刑務所と福祉の間…地域定着支援という新たな取組
8. 映画を通じて考える

《越境と人種差別》

9. 人種差別撤廃条約
10. 在日外国人と日本社会
11. ヘイトクライム
12. 映画を通じて考える
13. 難民とは

《まとめ》

14. 応用問題を考える
15. 質疑応答

●評価方法

出席とテスト

●受講生へのコメント

個別具体的な課題に対する知識や理解を深めるだけでなく、「人権の視点からものを考えるとはどういうことか」を考えながら受講してほしい。

●教材

本的に授業ではレジュメを配布するので、特定の教科書を指定しない。

人権の多様性の研究 演習

Seminar: Research of Human Rights and Diversity

(後期 金・4 全)

2 単位

人権問題研究センター 特任 野口 道彦

●科目の主題

差別や排除、暴力やハラスメント、あるいはいじめなど人権侵害ではないかと思われる事象は、じつは私達の身の回りにたくさんある。

「これは差別ではないか」、「ちょっと、おかしいのでは？」と直感的に思っていることは、だれにも一つや二つはある。普段は、それを深く考えたり、友達と議論する機会もあまりないだろう。そのようなことについてグループで議論を深め、自分の問題意識を明確にすることをテーマとする。

●授業の到達目標

考察を深め、議論を通して、自分なりに論理的に主張できるような能力を高めることを、本演習では目標としたい。自己の考えに説得力を持たせるために、当事者からじっくり話を聞いたり、既存の研究の成果や社会調査や世論調査の結果を利用する方法も習得することもねらいとしている。

●授業内容・授業計画

「この事象は人権問題・差別の問題ではないか？」「こ

の問題を放置しておいてよいのだろうか？」「この社会問題をどうすれば解決できるのだろうか？」という問題意識がある学生の受講を基本とする。

演習では、1)まず、各人が関心をもっている差別問題・人権問題について発表する。2)それについて、議論を行う。それにより、見落としていた視点に気づいたり、各人の問題意識の明確化を行う。3)それを踏まえて、さらに研究のテーマを絞りこみ、中間発表をする。4)さらに深く考察するために関連した調査研究、実践記録など資料を探索・分析したり、どのような先行研究があるのか調べる。5)他の人の報告や意見を参考にしながら、最終的なレポートにまとめる。受講生が多ければ、グループに分けることもある。グループ内でそれぞれの問題意識を発表し、議論して、グループとしての共通した研究テーマを決める。また、グループのテーマにそって、各人がサブ・テーマや役割分担を決める。

また、必要となれば、外部から講師をお招きし、議論することも予定している。

●評価方法

授業への参加の積極性などの平常点と最終レポートによって評価する。発表、議論への参加など、動的参加が要請される。したがって、出席さえしていれば単位がとれるというものではない。受講するにはそれなりの覚悟が必要である。

●受講生へのコメント

主題「社会と人権」に属する科目のいくつかをすでに受講したか、受講中であることを参加の前提とする。演習科目であるので、各人の発表、議論への参加など、能

動的な授業参加が期待される。また、持続的な討論を行うために出席は極めて重要である。

演習のため受講者数は20名以内が望ましいので受講制限をすることもある。

●教材

教材はとくに定めない。発表する人は、レジュメを用意し、必要な資料を全員に配布するように、あらかじめ準備する。配布資料については、人権問題研究センターのコピー機を利用できる。

平和と人権

Peace and Human Rights

(後期 金・2 全)

2 単位

人権問題研究センター 高 誠晩

●科目の主題

本講義では、「平和」と「人権」を、1945年を前後とするアジア太平洋、その中でも特に島嶼地域における紛争経験を中心に、遺跡（特に、戦争遺跡）、モニュメント（モニュメントや記念館）、吊い、人々の暮らしなどをキーワードにして考察する。

●授業の到達目標

植民地支配、「太平洋戦争」、東西冷戦構造の出現というアジア太平洋に激動をもたらした20世紀中葉における暴力現象とその「後」について着目して、なにゆえこうした事件が生じたのか、そしてその経験はどのように記憶され言説化されてきたのか、さらにその「不正義」はいかに償われ、正義と和解が達成されようとしているのかという、今日のアジア太平洋地域の根幹を規定する問題を解明する可能性を模索することに本講義のねらいがある。具体的には、20世紀前半の東アジアにおいて植民地体制の中心部であった日本と、そこからマージナルな島嶼地域といわれるマリアナ諸島、沖縄、済州島などを射程におさめつつ、また各々の地域からマクロな東アジアの体制移行を検証する国際比較の試みを通して、今後アジア太平洋の平和定着と人権伸長の方途を模索するにあたってのよりダイナミックな見方を考察することが可能になると考える。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2回～5回 20世紀アジア太平洋の島嶼地域における紛争経験といかに向き合うか

第6回～7回 遺跡が語る紛争の記憶

第8回～9回 記念館における紛争の表象と再現

第10回～11回 モニュメントに刻まれた紛争の記憶

第12回～13回 紛争の記憶と吊いのポリティクス

第14回 アジア太平洋における「平和」と「人権」

第15回 まとめ、質問応答

●評価方法

レポート（50%）及び期末試験（50%）の成績を合わせて評価する。

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加することを通して、「平和」と「人権」についての自分なりの問題意識と考え方を整理することを期待する。受講希望者は、第1回のガイダンスに必ず出席すること。

●教材

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。講義は配布資料とビデオやスライドの画像を中心に行う。

日本史の見方

An Introduction to the Japanese History

(前期 火・3 全)

2単位

文学研究科 磐下 徹

●科目の主題

「歴史資料からみた日本史」

本講義は、日本古代史を中心とした多様な資料（古文書、日記、法制史料、出土文字資料、金石文、文学作品）をとりあげ、その読解を通じて日本史の世界を多面的に描き出すことを目的としている。

●授業の到達目標

歴史学研究の基本は資料の読解にある。資料（データ）に即した事実の抽出と考察は、歴史学に限らず広く大学での学びに必要なスキルであり、また社会に出てからも役立つ力である。

本講義を通して「客観的な事実にもとづき、物事を注意深く考える」姿勢を身につけてもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 古文書から見た日本史
- 第5～6回 日記（古記録）から見た日本史
- 第7～9回 法制史料から見た日本史

第10～12回 出土文字資料・金石文から見た日本史

第13～14回 文学作品から見た日本史

第15回 総括

●評価方法

期末の筆記試験を基礎とし（70%）、授業参加態度（感想・質問用紙への記入など、30%）も加味して総合的に評価する。

●受講生へのコメント

高校までの日本史は「暗記科目」としてのイメージが強いかもしれない。だがこの講義では、暗記は全く必要ない。

そうではなく、自ら考える姿勢を重視する。講義を聴いて自分なりの考えを持つことができるよう、積極的な意識・態度で授業に臨んでもらいたい。

●教材

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進めていく。参考文献・論文等に関しては必要に応じてその都度指示する。

東洋史の見方

An Introduction to the Asian History

(前期 木・2 全)

2単位

文学研究科 井上 徹

●科目の主題

中国史における文化統合：現代に至る中国の領域は、漢字を基礎とした文化を共有する民族（漢族）の移住開発によって作り出されました。移住開発の視点から中国の領域の拡大を概観するとともに、とりわけ中国南部（華南）を事例として、非漢族と帝国との対決、漢族への同化（漢化）、文化統合の原理（宗族）などを考察します。

●授業の到達目標

現在の中国が抱える様々な問題を理解するには、巨大な中国の領土やその社会空間がどのように形成されたのかを理解することが欠かせません。文化統合という概念を手がかりとして、この問題にアプローチし、現代に繋がる中国社会の特質を掘り起こすことを目指します。

●授業内容・授業計画

日本や欧米の社会との比較も念頭に置いて、下記の授業計画を立案しています。とくに日本社会から中国がどのように見えているのかに留意します。

- 第1回 問題の所在
- 第2回～第4回 移住開発の歴史
- 第6回 16世紀の変動

第7回 漢族と非漢族との間の抗争

第8回 ローカル・エリートの台頭

第9回 儒教化のコンテクスト

第10回 リネージ（宗族）

第11回～第12回 国家による領土管理

第13回 近代化の意味

第14回 現代と伝統社会

第15回 全体討論

●評価方法

定期試験、ミニレポート、出席率などを総合的に評価します（定期試験70%、そのほか30%）。

●受講生へのコメント

- ・新聞、インターネットなどを活用し、授業に関連する情報を受講生も収集するようにしてください。
- ・受講生は各自、ノートを用意して、自分なりの情報、考え方を整理できるようにしてください。

●教材

テキストは利用しません。毎回、こちらでレジュメ、資料を配付します。

参考文献は授業のなかで紹介します。

西洋史の見方

An Introduction to the Western History

(前期 火・4 全)

2 単位

文学研究科 北村 昌史

●科目の主題

1980年代以降研究手法として定着した観のある社会史研究の成果からみた、西洋史の見方を提示する。具体的には、16世紀から19世紀にいたるヨーロッパ史の動向を、高校の世界史のような政治史や経済史からではなく、人々の日常生活のレベルからヨーロッパ史を描きたい。

●授業の到達目標

できるだけ具体的な史料・素材から話を展開することによって、教科書の記憶が中心の、高校までの「歴史」と異なる、大学で学ぶ「歴史学」についての理解を深める。

●授業内容・授業計画

18世紀後半か19世紀前半にかけての時期が、社会史の観点から見たヨーロッパ史の転換点であるという観点から授業を行う。3から6時間目で長期的な視野に立つ社会史研究の成果に基づき、この転換の流れを確認した後、7時間目以降では転換点前後の時期のヨーロッパ社会の諸相を描く。

- 1 導入・ガイダンス
- 2 社会史研究の背景
- 3 『子供』の誕生
- 4 近代家族
- 5 エリート文化と民衆文化
- 6 食事・都市化

- 7 転換点以前の社会(1)
- 8 転換点以前の社会(2)
- 9 転換点以前の社会(3)
- 10 転換点以前の社会(4)
- 11 転換点以前の社会(5)
- 12 転換点以後の社会(1)
- 13 転換点以後の社会(2)
- 14 転換点以後の社会(3)
- 15 転換点以後の社会(4)

●評価方法

最終成績評価100点満点すべてが定期試験の成績による。

●受講生へのコメント

高校の世界史の知識は特に必要としません。世界史で出てくる人物や事件はあまり授業では出てきません。どちらかといえば、高校までの歴史に抵抗感を感じた人に受講していただきたいです。受講するに当たっては予習や復習などは必要ありませんが、授業で紹介する文献に、図書館などで折を見て触れていただけるとありがたいです。

●教材

参考文献などは授業中適宜指示する。教科書はとくに用いない。教材は、プリントを授業で配布する。

日本社会の歴史

Japanese History and Culture

(後期 木・3 全)

2 単位

文学研究科 仁木 宏

●科目の主題

日本の中世都市は、古代の都(都城)とも、近世の城下町ともちがう個性的な姿かたちや性格をもっていた。西欧の中世都市や宋代・明代の中国都市とくらべると、似ている点、異なる点があって興味深い。

都市はどのような地形環境の所につくられるのか。港町の船着き場はどのような構造になっていたのか。市はどうやって立てられるのか。社寺や武士は都市にどのようにかかわったのか。都市はどのように描かれるのか。安土城下町は安土城ほど画期的であったのか。

現代に生きる私たちからみれば不思議なことがたくさんあった中世という時代(鎌倉・室町・戦国時代)の都市を、北は青森県から南は鹿児島県までの事例によって紹介しながらみてゆく。

●授業の到達目標

都市をキーワードにして日本中世社会の特色を垣間見、日本社会の歴史の多様性、特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことが理解できるようにする。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1 : 日本の中世都市の特徴
- 2 : 平安京から京都へ
- 3 : 市の立つ場所
- 4 : 港町と自然地形
- 5 : 港町ではやった宗派
- 6 : 山岳宗教都市の発見
- 7 : 寺と都市
- 8 : 武士が嫌った都市 武士を嫌った都市
- 9 : 室町時代の城下町

- 10：戦国城下町を守る
- 11：城塞都市＝京都
- 12：安土城下町の力量
- 13：大坂の誕生
- 14：中世都市の潜在力
- 15：まとめ

講義は、プロジェクターの画像と、配布するプリントを中心におこなう。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的に

かかわっているかを、小レポート（30/100）と定期試験（70/100）で評価する。

●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無、暗記的知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

●教材

テキスト：特になし。

参考文献：適宜しめす。

プリント：毎回配布する。

東洋社会の歴史

Asian History and Culture

(後期① 木・1 全) 2単位

(後期② 木・2 全) 2単位

文学研究科 平田 茂樹

●科目の主題

「前近代中国都市社会の光と影」

中国では、長らく続いた「坊市制」(坊や市によって人々の生活を空間、時間的に制限する制度)や「夜禁」(夜間通行禁止)が解体し、10世紀を境として、都市は空間、時間的に開放され、商業や貨幣経済の進展、大衆文化の発達などに見られるように、活況を呈するようになります。本講義では、こうした都市の「光」の部分を紹介するとともに、犯罪、貧困、失業、疾病などの「影」の部分をあわせて紹介し、中国の都市がどのように発展していったのかを振り返る予定です。

●授業の到達目標

歴史学は過去の現象を単に研究する学問ではありません。過去、現在、未来という時間軸を中心に、社会全体の問題を深く考える学問です。本講ではこの問題意識のもとに、中国の過去、現在、未来の問題、並びに日本との関係について多面的に言及することを通じて、日本と世界との関わり、あるいは自己について長期の時間軸を中心に見つめ直すことを狙いとします。

●授業内容・授業計画

1. 中国の伝統都市の特徴
2. 唐から宋への都市の変化
3. 北宋の首都「開封」の景観

4. 南宋の首都「杭州」の景観
5. 明代、清代の「蘇州」の景観
6. 清代の「北京」の景観
7. 中間総括
8. 都市の盛り場「瓦市」
9. 茶館・酒店・妓楼の世界
10. 祠廟・道観・寺院の世界
11. 都市の年中行事
12. 都市のアウトロー
13. 都市の「影」: 貧困、疾病、犯罪
14. 総括

●評価方法

授業中に課す小レポート（50%）とテスト（50%）

●受講生へのコメント

毎回簡単な小レポートを授業中に書いてもらいながら授業の内容の理解を深めていきますので、きちんと毎回出席するようにしてください。

●教材

テキスト：特になし

参考文献：

斯波義信『中国都市史』（東京大学出版会）

伊原 弘『清明上河図を読む』（勉誠出版）

高村雅彦『中国の都市空間を読む』（山川出版社）

西洋社会の歴史

History of Western Society

(後期 火・3 全) 2単位

文学研究科 草生 久嗣

●科目の主題

西洋の地中海世界、その前近代（16世紀以前）の多元文化の共存を支えた「合同生活圏」の思想について、ヨーロッパ社会の歴史的基礎論として論じてゆく。

西洋世界もまた、さまざまな人々、ことば、社会習慣

に満ち溢れた社会であった。しかし我々の西洋理解の中からは、その多様な一面についてしばしば抜け落ちている。古代から中世の地中海世界、ビザンツ帝国の理念的営みであったオイクメネー（合同生活圏）について学ぶことで、西洋社会理解を深めたい。

●授業の到達目標

日本とは多くの意味で異質な世界について、それを学ぶことを通して、自分の今いる社会を見直す手がかりを得る。そして西洋社会を十分な歴史的知識で眺めるきっかけとしたい。ローマ世界、東地中海、キリスト教といった用語について学ぶことになる。

●授業内容・授業計画

講義形式であるが、リアルタイムのイベント情報や受講生自身の知識・関心を重視して、授業に取り入れる。以下の5つのテーマに従って、様々なサブテーマについて論じてゆく。

- 0) イントロダクションー世界史を学ぶ意味ー
 - ・グローバル化社会
 - ・オイクメネス的社會
- 1) 地中海世界の古典古代社会
 - ・ポリス
 - ・都市
 - ・帝国
- 2) ヨーロッパのキリスト教社会
 - ・宗教と信仰
 - ・一神教と一神教でない宗教
 - ・キリスト教諸教会
- 3) ビザンツ帝国の多元社会
 - ・生き残ったローマ帝国
 - ・文明の十字路
 - ・中世のおわり
- 4) まとめ

●評価方法

独自の研究をまとめた小論文と、年度末の一斉筆記試験によって評価します。なお、小論文は、レポートや自由作文ではなく、各自が十分な時間をとって、授業で順次説明されていく執筆の条件を押さえていることが評価の条件とします。筆記試験は主に語句の説明です。

●受講生へのコメント

前提となる歴史知識はそれほど求めません。美術館や博物館、映画館や劇場でのイベントに関心をもつようにしてください。また図書館や、古本屋、大型新刊書店やインターネット書店を駆使してあらゆるタイプの書物に接し、自分であらゆる文献を見つけられるようになってください。

●教材

- ・井上浩一『私もできる西洋史研究—仮想（バーチャル）大学に学ぶ』（大阪市大人文選書）和泉書院…西洋史を専門とはしないが関心のある人のための、技術的独習本。授業でもとりあげ本書の使い方も教示します。
- ・ジャック・ル・ゴフ『子どもたちに語るヨーロッパ史』（ちくま学芸文庫）…タイトルとは裏腹に、大学生レベルにこそもっとも有益な、ヨーロッパ史学の国際的リーダーの書物。
- ・授業にて指定される学術論文（5～10編）…本授業に関連するテーマに従って集められたもの。全部を読了・理解することで、まとまった知識基盤をつくることができます。

現代の歴史

The Modern History

（後期 木・4 全）

2 単位

文学研究科 野村 親義

●科目の主題

講義では、アンガス・マディソンらが構築した数量経済史研究の成果を踏まえ、19世紀から現代に至るアジア現代史の動向を、昨今注目著しいインドに焦点を当てながら、論じます。

19世紀初頭、世界のGDPの6割近くを占めたアジアは、20世紀半ばにはその比率を2割程度まで大きく下落させました。しかしその後、アジアの奇跡などを経、現在は19世紀に得ていた地位を回復しつつあります。本講義の目的は、アジアが世界に占める経済的地位を大きく変化させてきた背景を、工業化、植民地化、帝国主義、ナショナリズム、開発政策など、時々の世界の政治・経済・社会情勢に配慮しつつ、特にインドに焦点を当てながら、理解することにあります。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、世界の注目著しいアジアの200年を、歴史を通じ理解する目を養うことにあります。

●授業内容・授業計画

1. 導入
2. アジアとはどこか
3. 19世紀以前のアジア (1)ーインド
4. 19世紀以前のアジア (2)ー中国・日本
5. 比較対象としての19世紀以前のヨーロッパ
6. 欧米の工業化とアジアの経済的の相対的地位低下
7. 欧米の自由主義プロジェクトとアジアの植民地化
8. 植民地支配下のアジアの経済 (1)ー貿易・金融
9. 植民地支配下のアジアの経済 (2)ー製造業
10. 植民地支配下のアジアの経済 (3)ー労働
11. 植民地支配と独立運動
12. 独立と開発政策
13. 輸入代替型工業化
14. 輸出志向型工業化
15. アジアの奇跡とアジア通貨危機

●評価方法

期末試験で評価します。

●受講生へのコメント

昨今の日本の政治・経済・社会情勢は、アジア諸国の政治・経済・社会情勢と分ちがたく結ばれています。本講義を通じ、アジア諸国、特に昨今注目著しいインドの現代史の理解を深めることで、日本の今後を考える上で重要なアジア諸国の政治・経済・社会情勢をよりよく

理解する一助としてもらえれば幸いです。

あわせて、現代をよりよく理解する上で、歴史を理解することがいかに重要であるかを感じ取ってもらえればより一層幸いです。

●教材

教科書はありません。プリントを授業中に配布します。また、適宜ビデオ等も利用します。

考古学入門

Introduction to Archaeology

(後期 火・2 全)

2 単位

文学研究科 岸本 直文

●科目の主題と目標

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている。これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された痕跡やモノから、そこで生活したひとびとの営みを復元する。考古学により明らかになった日本の歴史をたどり、興味をもってもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代(1) 定住のはじまり

- 6 縄文時代(2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代(1) 米作りの開始
- 8 弥生時代(2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代(3) 墓にみる権力の形成
- 10 古墳時代(1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代(2) 巨大な前方後円墳の誕生
- 12 古墳時代(3) 古墳時代から飛鳥時代へ
- 13 古代 都城と官衙
- 14 北海道と南西諸島の考古学

●評価方法

小レポート提出2回(各15点)。期末試験(70点)。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

ことばの歴史

Japanese and its History

(後期 月・3 全)

2 単位

文学研究科 丹羽 哲也

●科目の主題

日本語の歴史の変遷について、主として、音韻・表記と語彙の分野について講ずる。

●授業の到達目標

例えば、古文で「あふぎ(扇)」と書いて何故「オーギ」と読むのか、これを理解するためには、日本語の音韻と表記の知識が必要である。ハ行音、ア行・ヤ行・ワ行音など日本語の音韻がどのように変化し、それがどのような形で表記に反映しているか、また、日本語の語彙がどのように移り変わってきたかという問題を考察することによって、日本語の歴史に対する理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1・2 現代日本語の音声と音韻
- 3・4 ハ行子音の変化
- 5 その他の子音の変化
- 6・7 「い・ゐ」「え・ゑ」「お・を」の区別と合流
- 8・9 音節構造の変化
- 10・11 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い
- 12～ 和語・漢語・外来語

●評価方法

毎回課される課題の提出(1.5割)と学期末の試験(8.5割)による。

●受講生へのコメント

日本語を扱うとはいえ、難易度が低いというわけでは

なく、古文の知識も前提とする。体系的な理解をするために、知識を積み上げていくという面が強いため、復習が必要である。欠席するとなつていけなくなる恐れが高

い。

●教材

プリントを配布する。

歴史学の世界 演習

Seminar: World of History

(前期 木・1 全)

2単位

文学研究科 上野 雅由樹

●科目の主題

「イスラームから見る世界史」

トルコとアラブ圏を中心に、ヨーロッパやロシア、中央アジア、南アジアに広がる地域の歴史を、ムスリム(イスラーム教徒)との関わりから学ぶ。そうした取り組みを通じて、異なる文化的背景を持つ人々の共生や、宗教的、民族的アイデンティティのあり方、異文化間の関係、さらには、そもそも文化とは何かといった問題を歴史的な視点から議論する。

●授業の到達目標

イスラームと世界史に関する基礎的な知識を歴史的な視点から学ぶとともに、発表や議論の方法を身につける。これにより、大学という場で、歴史学などの人文社会科学を学ぶ土台づくりを目指す。

●授業内容・授業計画

歴史学の研究成果を分かりやすくまとめたリブレットを教材として用い、受講生による発表と議論を中心に進めていく。取り上げるリブレットについては、初回の授業で指定するが、受講生の希望に応じて柔軟に対応する。

第1回：ガイダンス

第2～5回：イスラームの始まりとアラブ地域

第6～8回：ヨーロッパとの関わり

第9～12回：オスマン帝国

第13～15回：イラン、中央アジアから南アジアへ

●評価方法

演習形式の授業であるため、発表や議論など、授業への取り組みを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

世界史に関する知識を事前に持つておくことは要求しません。授業を通じて学んでいく姿勢を重視します。

他の人に対していかに分かりやすく説明するのか、提示された内容をいかに議論していくのかといったことは、経験を通じて早めに身につけていって欲しい技術だと思います。初回の授業で担当を決めたいので、なるべく参加するようにして下さい。

近年、ムスリムをめぐる諸問題が世界的な関心を集めていることは言うまでもありません。とはいえ、日本に暮らす我々にとっては、比較的なじみのない、理解することが難しいという見方もあるでしょう。そうした「他者」も、歴史のなかの行為主体として見ていくと、意外に「普通」に見えるかもしれません。本演習は、そうした糸口をつかむためのきっかけを提供することを目指します。

●教材

山川世界史リブレットおよび「イスラームを知る」リブレットシリーズから選択する。詳しくは初回の授業で説明するが、必ずしも購入する必要はない。準備に必要な参考図書に関しても初回の授業で説明する。

現代の地理学

Current Geography

(後期② 火・1 全)

2 単位

文学研究科 山崎 孝史

●科目の主題

本講義は、現代社会を地理学的に理解する一つ的手段として、政治という側面について考える。

●授業の到達目標

本講義によって、政治的事象が空間や場所といかに密接に結びついているかを理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

政治地理学の入門編として、山崎孝史 (2013) 『政治・空間・場所—「政治の地理学」にむけて [改訂版]』(ナカニシヤ出版) をテキストに、政治地理学の理論と分析方法について数回講述したあと、受講生各自が関連する具体的な事例について考え、発表する。これを4回繰り返す。

- ① イントロ：講義の構成
- ② 第3章 政治地理学の展開と課題
- ③ 第4章 空間分離主義批判
- ④ 第5章 場所の政治的意味
- ⑤ 課題1 空間と場所が緊張する例を考える
- ⑥ 第6章 人間の領域性
- ⑦ 第14章 安全・安心のまちづくり
- ⑧ 課題2 人間の領域性が行使されている例を考える

- ⑨ 第7章 グローバル化とナショナリズム
- ⑩ 第9章 スケールの政治
- ⑪ 課題3 ナショナリズムがローカルに現れる例を考える
- ⑫ 第10章 言説の政治
- ⑬ 第11章 社会運動の領域性
- ⑭ 課題4 地政言説の例を考える
- ⑮ まとめ

●評価方法

週リーディングレポート40%、課題口頭発表60%。

●受講生へのコメント

受講生数が少ないと予想されるので、演習に近い形式で行う。よって出席や課題提出が重視される。前期に開講される「地理学概論 I」と一部内容が重複するので、留意すること。

●教材

山崎孝史 (2013) 『政治・空間・場所—「政治の地理学」にむけて [改訂版]』(ナカニシヤ出版) を購入すること。その他については、以下の担当教員のホームページを参照。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamatoka/home.htm>

都市の地理学

Geography of Urban Area

(後期 月・3 全)

2 単位

文学研究科 大場 茂明

●科目の主題

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について内外の具体的事例を提示しつつ概説する。

●授業の到達目標

この講義では、地理学のアプローチを通じて、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考え、激動する現代社会の諸問題を理解するための術(すべ)を身につけてもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目に従って、映像資料などを用い

て内外の具体的な事例を提示しつつ講述する(数字は授業回数)。なお、最初の20分間を利用して、コミュニケーション・カードに基づき、質疑応答など前回内容の確認を行う。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか?
- ②～④ 都市の形成過程
- ⑤・⑥ 都市機能分化と空間構造の変容
- ⑦・⑧ 日本の都市
- ⑨・⑩ 現代社会と都市問題
- ⑪・⑫ 都市更新事業とまちづくり
- ⑬・⑭ 人口減少と都市の縮退
- ⑮ まとめと今後の展望：都市の未来像

●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に記入してもらうコミュニケーション・カードによる平常点(20%)と、定期試験の点数(80%)によって行う。

●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、

具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。専門用語については、その都度解説や補足説明を加えていくので、授業に集中して臨んでほしい。

●教材

教科書：使用しない（講義資料として、授業時にプリントを配布する）。

参考書：必要に応じて授業時に紹介する。

文化人類学入門

Introduction to Cultural Anthropology

(前期 火・3 全)

2 単位

文学研究科 多和田 裕司

●科目の主題

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて理解する。それとともに、受講者それぞれが「他者／異文化」と実際にかかわることで「他者／異文化理解」を自覚的に経験する。

●授業の到達目標

本講義は文化人類学を初めて学ぶ者にたいする入門的講義であり、文化人類学の基礎的知識や考えかたを身につけることを目標とする。あわせて人類学的フィールドワークの一端を自ら経験することで、「他者／異文化理解」という営為そのものについての理解の深化をはかる。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ フィールドワークおよびレポート作成についての説明と助言

- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解
- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学
- ⑪⑫ 文化を解釈する
- ⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて
- ⑮ 講義の総括

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1)その人が「日本にたいして感じたこと」、(2)自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

本講義では、レポート作成のためのインタビューはもちろんのこと、通常の講義においても能動的な姿勢で学ぶことが求められる。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

文化とコミュニケーション

Culture and Communication

(後期 月・3 全)

2 単位

非常勤 林 嵐娟

●科目の主題

日本語と中国語を中心に、英語とも比較しながら、色と色名、〈ウナギ文〉、および句読点などの現象を取り上げて、言語文化の表象という観点と、コミュニケーションのツールという観点から分析する。

●授業の到達目標

言語文化の表象とコミュニケーションのツールという観点から3言語を比較し、上述の諸現象の共通点と相違点について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 色と色名について(1)
- 第3回 色と色名について(2)
- 第4回 色と色名について(3)
- 第5回 色と色名について(4)
- 第6回 〈ウナギ文〉について(1)
- 第7回 〈ウナギ文〉について(2)
- 第8回 〈ウナギ文〉について(3)
- 第9回 〈ウナギ文〉について(4)
- 第10回 句読点について(1)

- 第11回 句読点について(2)
 第12回 句読点について(3)
 第13回 句読点について(4)
 第14回 まとめ
 第15回 期末試験

●評価方法

平常点(30%)と期末試験(70%)によって評価する。

●受講生へのコメント

日英中3言語の用例を扱うが、中国語の知識を前提とはしない。出席については、文学部の規定に従う。

●教材

適宜、資料を配布する。

環境と文化

Environment and Culture

(前期 火・1 全)

2単位

文学研究科 祖田 亮次

●科目の主題

本講義では、人間－環境関係について、様々な視点から考える。その際、自然科学的な作業から自然現象を明らかにするのではなく、人文科学的な視点から、何を問題と捉え、どのように考えればよいのかということを中心に講義を進める。

●授業の到達目標

自然や環境の意味は、社会状況や時代によって大きく異なるものであることを理解し、我々が「認識」している自然環境と、どのような関係を切り結んでいけばよいのか、多角的・多面的にとらえるための知識と考察方法を身につける。

●授業内容・授業計画

水田や里山は自然なのか？近所を流れる河川はなぜこのような形になっているのか？国立公園や世界自然遺産はどのような意味を持つのか？熱帯雨林の消滅に日本はどのように関わっているのか？エコツーリズムの背景にはどのような政治的意図があるのか？自然災害をどう認識し、克服すべきなのか？

現代は、様々な環境問題が国際政治の場において語られる一方で、人々は「身近な自然」に対しても意識的になりつつある。この講義では、これらの自然や環境に関わる具体的な現象や問題を取り上げながら、私たちがどのように自然や環境と関わっていくべきかを考察する。

考察対象とする具体的事例としては、関西の身近なも

のから、アジア・ヨーロッパなど世界各地のものを取り上げる。

① イントロダクション

②～③ 環境決定論・環境可能論、風土論、政治生態学

④～⑦ 河川改修、自然再生、災害文化、流域社会論

⑧～⑩ 熱帯雨林、プランテーション、バイオマス社会論

⑪～⑫ 焼畑・狩猟採集・水田・里山、半自然・半栽培

⑬～⑮ 国立公園・世界遺産、エコツーリズム

●評価方法

評価のおよその内訳は以下のとおりである。出席:20%、小テスト・課題提出:40%、レポート40%

●受講生へのコメント

本講義は地理学の議論をベースにするが、高校時代に地理を履修していたかどうかは、問題ではない。高校までに地理を履修した人は、地理＝地名や特産品の暗記というイメージを持っているかもしれないが、本来の地理学は、人間－環境関係を考察することを主眼としている。したがって、少しでも環境認識や環境問題、災害文化等に関心があれば、誰でも受講可能である。3～4回に1回の割合で、小テストあるいは課題提出を求める。

●教材

特定のテキストは使用しない。参考図書などがある場合は、講義の際に提示する。

アジアの文化

Culture in Asia

(前期 月・3 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題

アジアにおけるアーツマネジメントの実態や思想について学ぶ。

●授業の到達目標

アジアのなかでも、主として東南アジア、日本におけるアーツマネジメントを、具体例を通して学び、アジア型アーツマネジメントの特色を理解する。欧米の中産階

級の価値観や美意識を前提とした施設利用中心のマネジメントではなく、自然災害や紛争、貧困といった問題に直面する地において、アートがマネジメントを通してコミュニティ構築や再生にどのような役割を果たせるのかという、社会包摂的な実践活動についての理解を深める。また、アジアの民族文化(特にインドネシアとタイ、日本)について詳述し、アジア文化の特質の理解にも努め

る。

●授業内容・授業計画

- (1) イントロダクション
- (2)～(6) 東南アジア（タイ、インドネシア、ベトナムなど）におけるアーツマネジメント各論
- (7)～(13) 日本における社会的排除の強い地域、施設等（障害者施設、病院等）におけるアーツマネジメント
- (14) 東日本大震災とアーツマネジメント
- (15) まとめ

● 評価方法

第2回の講義時に「私のなかのアジア文化」というテーマでレポート（800字程度）を提出することが受講の条件である。この場合の「アジア」には日本は含まない。事前に調べる必要はなく、あなたの体験に即した感想文を

自由に書いてほしい。

最終試験はレポート提出によるが、途中で小レポートの課題も出る。

●受講生へのコメント

「評価方法」の項で書いたように、多くの課題が出される講義なので、生半可な気持ちで受講すると挫折する可能性があるため、注意されたい。

また、レポート等でインターネット検索の文章をそのまま用いるという例が近年散見されるが、それに対しては極めて厳しい態度で臨む。

「アジア」「社会的包摂」「社会正義」などに関心のある学生には受講を勧める。収益重視のマネジメントについて知りたい学生には不向きである。

●教 材

中川 眞『アートの力』和泉書院、2013

アジアの地域と文化 演習

Seminar: Regional and Cultural Studies of Asia

(前期 月・2 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題

インドネシアのガムラン音楽の実習により、地域の文化を肌で感じる。

●授業の到達目標

ガムラン音楽の基礎からはじめ、いくつかの楽器の演奏法を習得し、最終的には3～4曲を合奏できるようになるのが目標である。その過程で、音楽は楽譜ではなく身体にある、ということを実感するだろう。そういった音楽的身体を体験することによって、音楽に対するこれまでの先入観は打ち砕かれていくことを期待する。また授業の成果として最終授業日に公開のミニ・コンサートを行う。



(1号館前広場での授業の成果公開)

●授業内容・授業計画

- (1) ガムランの手ほどき
- (2～6) ランチャラン形式の演奏法習得
- (7) ガムランコンサートの鑑賞（随時）
- (8～12) ラドラン形式の演奏法習得
- (13～14) 演奏の仕上げ
- (15) まとめ

授業は基本的に実習形式であり、初歩からの演奏の手ほどきを行う。音楽経験の有無は問わない。

●評価方法

演奏の習得度をチェックする。学期末の終了時に実技習得の見極めチェックを行って評価とする。

●受講生へのコメント

楽器の数に制約があるため、受講生の数を17名に制限する。受講希望多数の場合は選抜する。ガムランはコミュニティ重視の音楽であり、他者への関心と寛容性を心がけてもらいたい。また合奏であるから、欠席をしないという心構えが必要。

●教 材

授業中に配布する。

民族と社会

Ethnicity and Society

(後期 火・3 全)

2 単位

文学研究科 多和田 裕司

●科目の主題

民族は現代世界を理解する上で重要な概念である。それは、論理的に突き詰めれば内実のない存在であるが、しかし人々に強く働きかける力を持っている。民族意識がしばしば紛争や対立の原因となる一方で、民族意識をよりどころとせざるを得ない人々がいることも事実である。近年では民族文化や民族芸能が商品化され、消費の対象となることも日常的になった。本講義は、民族概念についての検討、ナショナリズムと民族、消費社会における民族、多民族国家の実際などをサブ・テーマとしながら、現代社会における民族について広範に考えていく。

●授業の到達目標

本講義では、受講者が民族概念についての理解を深め、かつ民族が前景化する事象に触れることで、現代社会における様々な民族問題について、より柔軟な視点でとらえる能力を養うことを目的とする。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 民族とはなにか：講義の問題設定
- ② 民族概念の変遷
- ③ 民族意識とナショナリズム
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤ 日本社会における多民族性
- ⑥ 現代世界における民族と国家

- ⑦ 対立と共存の諸相
- ⑧ 消費される民族
- ⑨ 観光における民族の実体化
- ⑩ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(1)
- ⑪ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(2)
- ⑫ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(3)
- ⑬ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(4)
- ⑭ これからの社会へ：民族の共存？解体？消滅？
- ⑮ 講義の総括

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポートについて）

本講義では「日本社会における民族の諸相」をテーマに、インタビューや参与観察等、いわゆるフィールドワークをもとにレポートを作成する。課題やレポート作成の詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

講義、レポート作成ともに能動的に取り組むことを求める。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

日本事情 I A

Current Japanese Culture and Society I A

(前期 火・2 全)

2 単位

非常勤 山東 功

●科目の主題

「日本事情 I A」は留学生に対して現代日本の事情を紹介・解説する科目である。なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、日本の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業の到達目標

日本事情について紹介されたさまざまな文章の読解を通じて、日本に関する基礎知識を身につける。

●授業内容・授業計画

日本事情について紹介されたさまざまな文章の読解を通じて、日本に関する基礎知識を身につける。なお、期間中に学内教員による2回の特別講義が設けられているので、必ず出席すること。さらに、学期中の土曜日に1回、大阪市内の博物館への見学も計画しているので、こ

ちらもできる限り参加してもらいたい。

- ① ガイダンス・授業科目「日本事情」について
- ②～⑫ 日本事情概説 日本語・日本文学、日本文化、日本史、日本（大阪）の地理、日本の政治・経済、など
- ⑬⑭ 特別講義（2回 日程については後日連絡）
- ⑮ まとめ

●評価方法

レポート40% 平常点（出席・コメント）60%

●受講生へのコメント

問題意識を明確にしたレポートを特に評価するが、授業中の積極的な参加・質問等についても重視する。

●教材

プリントを配布する。

日本事情 I B

Current Japanese Culture and Society I B

(後期 火・2 全)

2 単位

非常勤 山東 功

●科目の主題

「日本事情 I B」は留学生に対して現代日本の事情を紹介・解説する科目である。なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、日本の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業の到達目標

日常生活の中で疑問に思ったことについて、スピーチや学生同士の討論などを通して、納得のいく答えが見つげられるようにする。

●授業内容・授業計画

「日本事情」の諸事項について、自分の力で調べ、自分の言葉で説明できるようにする。なお、期間中に学内教員による 2 回の特別講義が設けられているので、必ず出席すること。さらに、学期中の土曜日に 1 回、大阪市内の博物館への見学も計画しているので、こちらもでき

る限り参加してもらいたい。

① ガイダンス・授業科目「日本事情」について

②～④ 日本事情概説 四季、住宅、食生活、など

⑤～⑫ 学生スピーチ 交通事情、買い物、年中行事、祭り、教育(大学)、大衆娯楽、家族、宗教、など

⑬⑭ 特別講義 (2 回 日程については後日連絡)

⑮ まとめ

●評価方法

レポート40% 平常点 (出席・コメント) 60%

●受講生へのコメント

問題意識を明確にしたレポートを特に評価するが、授業中の積極的な参加・質問等についても重視する。

●教材

プリントを配布する。

日本事情 II A

Current Japanese Culture and Society II A

(前期 水・2 全)

2 単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題

現代日本および諸外国のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について検討する。留学生が参加する授業という特性を生かし、受講者間の討議を交えながら授業は進行する。

●授業の到達目標

比較文化論的な観点から現代日本および諸外国の音文化・大衆文化を検討する批判的視座を獲得すること。および映像・音楽をもちいた効果的なプレゼンテーション技術を修得すること。

●授業内容・授業計画

カラオケ、携帯オーディオプレイヤー、多彩なCM音楽、携帯電話着信音楽、J ポップ、レンタルCD店、音楽配信、YouTubeなど、現在の日本の都市空間やメディア空間で目に(耳に)することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本で生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業はゼミ形式を主軸に、ときおり講義を交えるかた

ちで行われる。数回のレポート提出を経た後、受講生は、日本の(あるいは自国の、または他国の)音楽文化について、PCやiPod等のIT機器を使用しつつ映像や音楽を交えたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。日本や諸外国のポピュラー音楽文化についての比較文化論的な知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1) イントロダクションと授業方針の決定

(2～5) J ポップ、歌謡曲における「日本的イメージ」の諸相

(6～9) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(10～15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環境について

●評価方法

発表内容を中心に、出席点、討議への参加度、毎回課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する予定だが、受講者数によっては変更する可能性がある。

●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。受講生を選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること。初回の授業に欠席した学生の受

講は認めない。また、出席と討議への参加度を非常に重視するので積極的な授業参加が望まれる。受講に際しては基礎的な情報処理技能（ウェブ閲覧と必要な情報の検索、音楽・動画の提示、プレゼンテーション資料作成など）を身につけていることが前提となる。発表準備はかなりの負担となるので、覚悟して受講すること。

●教材

- ・鳥賀陽弘道『J ポップとは何か』（岩波新書）
入手の上通読しておくこと。また、次の参考文献も読

んでおくのが望ましい。

- ・輪島裕介『創られた「日本の心」神話-「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書）
- ・津田大介＋牧村憲一『未来型サバイバル音楽論- USTREAM、Twitterは何を変えたのか』（中公新書ラクレ）
- ・円堂都司昭『ソーシャル化する音楽-「聴取」から「遊び」へ』（青土社）

日本事情ⅡB

Current Japanese Culture and Society ⅡB

(後期 木・4 全)

2 単位

非常勤 ヒェラルド・コルナトウスキ

●科目の主題

This course is originally intended for foreign exchange students, but Japanese students who wish to learn more about Japanese society from a different vantage point, or who are interested in urban topics and wish to experience classes taught in English are very welcome as well.

The aim of this course is to examine contemporary urban issues in Japan. We will focus on how structural elements like economic tendencies, cultural ideologies and political decision-making interact with Japan's urban setting and its daily life. I will also provide comparisons with other major East Asian cities for reference.

●授業の到達目標

By examining contemporary urban issues in Japan, the goal is to develop a further understanding of the Japanese society in general and to contextualize current daily-life patterns in particular. Fieldwork will be included in order to become familiar with Osaka's urban structure.

●授業内容・授業計画

Week 1: Introduction

- Week 2 & 3: Urban theories and approaches
- Week 4 & 5: Japan's urban roots
- Week 6 & 7: The economic miracle and its downturn
- Week 8 & 9: Political interest and urban policy
- Week 10 & 11: Culture and consumption
- Week 12 & 13: Fieldwork assignments
- Week 14: Short presentations
- Week 15: Reflections and prognoses

●評価方法

There is no written examination. Grades are based on class attendance (40%) and fieldwork assignments/presentations (60%).

●受講生へのコメント

Class attendance and fieldwork are important for this course. Each class will have 10 to 15 minutes for discussion and opinion-sharing.

●教材

Course materials will be handed out every class.

この授業は英語で行われます。

観光研究入門

Introduction to Tourism Studies

(前期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 天野 景太

●科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半（第2～7回）は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察する。後半（第8～10回）は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づき概観

する。後半（第10～15回）は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ、説明する。

●授業の到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されている。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離を置いて）に、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する
- 第3回 旅と観光の社会史①～古代から近世に至るまでの旅人の相克
- 第4回 旅と観光の社会史②～近代マス・ツーリズムの誕生
- 第5回 旅と観光の社会史③～近代マス・ツーリズムの展開
- 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留、混交点としての駅、空港、世界都市…
- 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の諸類型
- 第8回 日本における国際観光の展開～アウトバウンド編
- 第9回 日本における国際観光の展開～インバウンド編
- 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論
- 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって（観光人類学・文化経済学）
- 第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～観光者の心理と行動をつかむ（観光心理学・観光マーケティング論）
- 第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～“おもてなし”をデザインする（観光経営学・ホスピタリティ論）
- 第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～観光地域をデザイ

ンする（観光まちづくり論・デスティネーションマネジメント論）

- 第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ（愉しみ）方をデザインする（観光メディア論）

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定である。板書は基本的に行わないので、真剣に講義を受け、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていく姿勢が求められる。

●評価方法

毎回授業の最後に、コメントペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。そのコメントペーパーへの回答（30%）、とレポート（35%）、期末試験（35%）で評価する。ただし、コメントペーパーへの回答数（≒出席数）が原則として通算で11回未満の場合、評点にかかわらず成績評価の対象外となる。

●受講生へのコメント

観光研究は、その制度（法律・法令）的側面、経済・経営的側面、社会・文化的側面、工学的側面（都市・交通・景観計画）、福祉・医療的側面（ソーシャル・ツーリズム）など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きの人、将来観光に関連する進路を目指す人、ゼミ等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部、学科からの履修を歓迎したい。

●教材

テキストは用いない。教場で毎回プリントを配布する。参考文献は教場にて随時紹介する。

観光と文化

Tourism and Culture

（後期 水・3 全）

2 単位

文学研究科 天野 景太

●科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。

本科目では、こうした文化が、どのように観光対象として演出（観光化）され、観光者に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討する。

●授業の到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになる。

文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に効果的に呈示する（例：外国の友人に日本の文化を紹介する、日本をガイドする、など）ための想像力の基礎が身につく。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光現象における文化の呈示（インタープリテーション）の諸相
- 第3回 観光と生活文化・民族文化
- 第4回 観光と祭礼文化・宗教文化
- 第5回 観光と都市文化
- 第6回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産観光

- 第7回 観光と文化遺産Ⅱ～遺産の観光化と文化の継承
- 第8回 観光と交通文化
- 第9回 観光と温泉文化・ホテル文化
- 第10回 観光とメディア文化Ⅰ～博覧会とテーマパーク
- 第11回 観光とメディア文化Ⅱ～「バーチャル」と「リアル」の接続
- 第12回 観光と土産品文化
- 第13回 「観光化」がもたらす地域文化の変容Ⅰ～「文化の商品化」のインパクト
- 第14回 「観光化」がもたらす地域文化の変容Ⅱ～グローバル化と地域文化の再発見
- 第15回 まとめ

授業は講義形式で行う。加えて写真や旅番組やCM等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示する。板書は基本的に行わないので、

真剣に講義を受け、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められる。

●評価方法

毎回授業の最後に、コメントペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。そのコメントペーパーへの回答(30%)、とレポート(35%)、期末試験(35%)で評価する。ただし、コメントペーパーへの回答数(≒出席数)が原則として通算で11回未満の場合、評点にかかわらず成績評価の対象外となる。

●受講生へのコメント

レポートでは地元の文化的資源の魅力を観光者にPRすることをシミュレーションするテーマで予定している。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」と併せて履修することが望ましい。

●教材

テキストは用いない。毎回教場にてプリントを配布予定である。参考文献は、随時講義中に紹介する。

日本の古典文学

Introduction to the Classics of Japanese Literature

(前期 火・2 全)

2 単位

文学研究科 小林 直樹

●科目の主題

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがなくなってしまうような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることであろう。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

●授業の到達目標

前近代の日本人が遺した文章と絵画から、我々とは異なる彼らの発想や思惟、世界観を読み取り、現代の「常

識」を相対化する視点を養う。その上で、現代人が古典を読む意義を理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

本年度は、軍記物語の名作の一つ、『平治物語』を絵巻化した『平治物語絵巻』をよむ。詞書（文章の部分）を読んだ後に、それに該当する絵画部分を鑑賞し、物語を総合的に味わう。予定している授業の概略は以下の通り。

ガイダンス（1回）、総説（1回程度）、「三条殿夜討巻」（2回程度）、「信西巻」（2回程度）、「六波羅行幸巻」（2回程度）、「六波羅合戦巻」（1回程度）、「常葉巻」（5回程度）。

●評価方法

試験による。ただし、授業中に書いてもらうコミュニケーションカードの内容も加味する。

●受講生へのコメント

物語や歴史が好きな人にお奨め。授業中はテキストとスクリーンに写される絵画世界にひたすら没頭してほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』（中公新書）他

東洋の文学

Oriental Literature

(後期 木・2 全)

2 単位

非常勤 田淵 欣也

●科目の主題

中国の白話小説『水滸伝』を読む。

●授業の到達目標

『水滸伝』は『三国志演義』などと共に中国の「四大奇書」の一つに数えられる作品であり、明代白話小説、ひいては中国長編小説の代表作と見なされている。日本においても、江戸時代以来、人々に親しまれて多くの翻訳や研究を生み、文学作品にも影響を与えた。本授業では、『水滸伝』を読むことを通じて、中国の古典小説とその背景について知識を得、理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

初めに『水滸伝』の概要について講義する。その上で、各話の名場面などを選んで読み進める。また映像作品を鑑賞し、どのように原作を踏まえ、またアレンジしているのかを確認することもしていく。

おおよその進歩計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 作品選読および解説

第15回 期末試験

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験により評価する。ただし、場合によりコミュニケーションカードの内容も加味する。全体の三分の一、すなわち五回以上の欠席者には単位を与えない。

●受講生へのコメント

原文を扱うため、本来は漢文もしくは中国語の基礎力を身につけていることが望ましいが、適宜解説していくので、そうでない者も興味があれば身構えずに受講してもらいたい。日本文学にも影響を与えた『水滸伝』の魅力を感じ取ってもらえればと思う。

●教材

必要に応じて作成した資料を配布する。

参考書：高島俊男『水滸伝の世界』（大修館書店、一九八七年・筑摩書房、二〇〇一年）

宮崎市定『水滸伝—虚構のなかの史実』（中央論社、一九九三年など）

松村昂・小松謙『図解雑学水滸伝』（ナツメ社、

二〇〇五年）

訳本：駒田信二訳『水滸伝』（平凡社、一九六七年・筑摩書房、二〇〇五年など）

吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水滸伝』（岩波書店、一九九八年など）

西洋の文学

European Literature

(前期 火・3 全)

2単位

非常勤 中村 恵 他

●科目の主題

昨今、命軽視の悲しい現実を数多く見聞きするが、過去の作家たちが命の豊かさやどう向き合い、表現してきたかを、イギリス・フランス・ドイツから例を引きつつ、《命を描く》という統一テーマのもとに、探り、そして迫ってみたい。

まず最初は、イギリスの作家から、ウィリアム・ワーズワース、メアリー・シェリー、カズオ・イシグロの作品を取り上げ、「命・記憶・語り」をキーワードに探っていくと思う。人は誰もが死すべき運命（mortality）から逃れることはできない。それゆえ、その運命を受け止め、命に意義を与えようとする。講義では、それぞれの作家によって、命の存在意義がどのように高められ、語られているのかに注目する。ワーズワースとシェリーの作品は、ナポレオン戦争・農業革命・新しい科学技術に翻弄された19世紀初頭に生まれた。戦死や困窮死と向き合わざるを得ない時代であった一方で、自然生殖なしに命が誕生するという幻影が見られた時代であったことを念頭に読み込んでほしい。イシグロの作品は、クローン技術による命のコピーや遺伝子操作が可能となった現代を背景に生まれている。「命」についての語りを、作品の現代的意義も意識して検討してみたい。

次にフランス文学では、文学作品に描かれた「命」の様々な形態を、記憶と幻想というモチーフを手がかりに考察してみたい。人は時間的動物であるが故に、死すべき運命にあるばかりではなく、否応なく多くの喪失を経験する。しかし、思い出すという心の働き、それが生み出す幻影には、喪失や死をも乗り越え、命を甦らせ、存続させる力があるのではないか。ロマン派の作家達による、幻想的で甘美な回想からなる中編を紹介し、その後、近代科学、とりわけ蓄音機の発明に大きな影響を受けた、19世紀末の作品を紹介する予定である。

最後はドイツの作家ヘルマン・ヘッセ（1877-1962）を取り上げる。キリスト教敬虔主義の説教者の家庭に生まれ育ったヘッセであったが、個人の敬虔な内面的心情に信仰の本質を見出そうとする敬虔主義も、家庭内では硬直したモラルとして現れ、両親の住む、光り輝く明るい世界に憧れつつも、そこからつねに逸脱せざるを得な

い自分にいたく苦しみ、その葛藤のなかから数多くの作品を結晶として産み出してきた。授業では『車輪の下』、『デミアン』、『シッダールタ』、『ガラス玉演戯』の四作を取り上げ、ヘッセの命の軌跡を辿ってみたい。

●授業の到達目標

異なる文化・時代に生きた作家たちが命をどう救い出し、そして描いたかを学ぶことで、命そのものに価値を見出す生き方、社会・時代のあり様に思いを馳せる。

●授業内容・授業計画

- ① オリエンテーション（野田三貴、酒井美貴、中村恵）
- ② ワーズワースの詩（野田）
- ③ 『フランケンシュタイン』（野田）
- ④ 『フランケンシュタイン』から『わたしを離さないで』へ（野田）
- ⑤ 『わたしを離さないで』（野田）
- ⑥ ロマン派の夢と幻想1（酒井）
- ⑦ ロマン派の夢と幻想2（酒井）
- ⑧ 科学と文学1（酒井）
- ⑨ 科学と文学2（酒井）
- ⑩ 『車輪の下』とその周辺（中村）
- ⑪ 『デミアン』とその周辺（中村）
- ⑫ 『シッダールタ』とその周辺（中村）
- ⑬ 『ガラス玉演戯』とその周辺（中村）
- ⑭ まとめ（野田、酒井、中村）
- ⑮ 定期試験（野田、酒井、中村）

●評価方法

定期試験・小レポート・出席状況等を総合的に判断して、評価する。

●受講生へのコメント

授業で取り上げる作品のうち入手可能なものは、翻訳でいいので必ず読んでおくこと。

●教材

教科書：授業中にプリントを配布する。

参考書：

《野田担当》

『ワーズワース詩集』（岩波文庫、田部重治 訳）

『対訳 ワーズワース詩集』（岩波文庫、山内久明 訳）

文学と芸術

ワーズワース著『抒情歌謡集—リリカル・バラッズ』
(大修館書店)

シェリー著『フランケンシュタイン』(創元推理文庫他)
イングロ著『わたしを離さないで』(早川書房)

《酒井担当》

ゴーチエ著『死霊の恋・ポンペイ夜話 他三篇』(岩波文庫)

ネルヴァル著『火の娘たち』(思潮社)

ヴェルヌ著『カルパチアの城』(集英社文庫)

リラダン著『未来のイヴ』(創元ライブラリ)

《中村担当》

『車輪の下』(新潮文庫他)

『デミアン』(岩波文庫他)

『シッダールタ』(新潮文庫他)

『ガラス玉演戯』(新潮文庫他)

ラルフ・フリーデマン著『評伝ヘルマン・ヘッセ』(草思社)

日本の詩歌

Japanese Poetry

(前期 火・3 全)

2 単位

文学研究科 村田 正博

●科目の主題

詩歌は人間を救えるか？

人間を人間としてあらしめる最も根幹をなすものがコトバであり、そのコトバを手段として人現存在の根源に迫ろうとするのが詩歌である一、にもかかわらず、われわれは、詩歌を、不当に軽く見てはいないであろうか？詩歌に対する認識を改め、その意義について思索を深める。

●授業の到達目標

近現代の詩歌を対象として、詩歌がわれわれに何を提言しようとしてきたのか、それを読み解くことを通して、われわれはどのように生きてゆけばよいのであろうか？そんな思案を心の一角に持つことができる一、この授業の到達目標は、じつは、皆さんの将来に託するところが大きい。

●授業内容・授業計画

1. 詩とはなにか？ (4～5回)

2. 詩のことば、日常のことば (4～5回)

3. 新しい時代を拓いた詩 (4～5回)

4. 詩人が追放されない国をめざして (最終回)

5. まとめ・レポート受取 (最終回)

(授業回数は、おおよその目安である。1のなかで2や3の内容にもふれるといったことも、テーマの性格上、おそらくあるだろう。諒とされたい。)

●評価方法

毎回の授業に関する意見・感想(特製出席カードを配布・回収)と期末のレポート(授業の趣意に沿って、諸君が見つけた詩歌作品をめぐる思索を披瀝すること)による。

評価の比重は、前者50%、後者50%。

●受講生へのコメント

教えるとは、夢を語ること、

学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。

これは、フランスの詩人、アラゴンのことば。

詩は、知識の量の問題というより、知恵の質に関わるもの。

したがって、通常の評価にはなじまない面があるが、夢を語り、誠実を胸に刻む時間が実現されるよう、担当者も精一杯の努力を約束するので、受講の諸君のうるわしい協力を期待する。

●教材

プリント配布。

参考書：茨木のり子『詩のこころを読む』(岩波ジュニア新書 — ジュニア用とあなどることなかれ！)

宗 左近『あなたにあいたくて生まれてきた詩』(新潮社)

宗 左近『詩のささげもの』(新潮社)

正津 勉『詩人の愛』(河出書房新社)

芸術の世界

Aesthetics and Science of Art

(前期 月・2 全)

2 単位

文学研究科 高梨 友宏

●科目の主題

「芸術への美学的ないし哲学的アプローチの試み」

人の心を引きつけてやまない芸術作品。人は芸術作品にときに慰めを見だし、ときにそこから生きる希望を与えられてきた。芸術に理屈はいらない。ただ作品を前に

して、心の感じるままにふるまえばよい。そう考えることももちろん間違いではない。しかし、芸術に心惹かれている状態から、一步踏み込んでみよう。するとそこには、私たちが芸術に惹かれるのはなぜか、芸術において、美しいとはどういうことなのか、あるいは一般的に、美

とは何か、芸術は美を乗り越えていくのか自然の美と芸術の美は違うのか同じなのか。芸術の本質は変化するか、変わらないのか。芸術によって人は善くされるのか、堕落させられるのか、芸術は人間にとってどんな意味をもつのか、等々の問いが開かれている。この授業では、こうした問いについて、古来、美や芸術についてなされてきた考えに学びつつ、ともに考えていきたい。

●授業の到達目標

「芸術に関する知識の習得ではなく、芸術についての考え方を身につけること」

上記のような問いを考えていくために、絵画や音楽の作品を実例として紹介することはあるが、こうした芸術作品に関する知識を学ぶことにこの授業の主眼があるわけではない。

むしろ作品の実例を通して、芸術に関する美学的・哲学的な考え方を習得することを目指したい。

●授業内容・授業計画

- ① 「はじめに、または芸術(美)・真理・善」
- ②-⑤ 「芸術と美」

美の所在／自然美と芸術美(2回)／美の判定

⑥-⑨ 「芸術と崇高」

崇高論／崇高と芸術／共感覚と触覚的視覚／美的近代の変様

⑩-⑫ 「芸術と倫理」

美的経験と道徳／芸術による人間形成／芸術と環境

⑬-⑭ 「まとめ(予備)」

●評価方法

学期末試験による評価

●受講生へのコメント

予備知識は特に必要としないが、芸術への関心はもとより、哲学や美学に関心を持つ人を歓迎。面倒な理屈に付き合う覚悟を携えて受講してほしい。

●教材

教科書：ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめて—芸術学・宗教学・哲学の現場から—』萌書房、2007年。

参考書：適宜授業中に指示する。

東洋美術の流れ

History of Eastern Art

(後期 火・2 全)

2単位

非常勤 土井 久美子

●科目の主題

日本を中心に東アジア各地の彫刻・絵画・陶磁・染織・金工・漆工など様々な視覚芸術についての歴史を概観する。

●授業の到達目標

受講生は受講期間中に、授業でとりあげられた作品を、実地見学し、作品に関する客観的知識を単に授業で身につけると同時に、作品を実際に見ることによって、その臨場感を直感的印象を記憶してほしい。

●授業内容・授業計画

- ① 「東洋」と「西洋」の概念、「美術史」について学ぶ。
キーワード；西洋美術、東洋美術、日本美術、美術・工芸、美術史
- ②③ 生活と美術、芸術の関わりについて考える。
キーワード；日常生活sと美術
- ④⑤⑥ 日本の絵画について、中国、西洋との関わりを考える。
キーワード；水墨画、やまと絵、漢画、絵巻、屏風絵、掛け軸
- ⑦⑧⑨ 日本の工芸、中国、朝鮮半島との関わりなどについて学ぶ。
キーワード；正倉院、漆工、陶磁、金工、染織、蒔絵、工芸、美術工藝、クラフト、デザイン、伝統工芸

⑩⑪⑫ 日本の彫刻について学ぶ。

キーワード；仏教美術、仏像、荘厳

⑬⑭

ジャンルを超えて。日本に人の美意識と美術
キーワード；浮世絵、書、印籠・根付、小袖、茶湯、民芸

⑮

レポート(試験)のために(まとめ)

●評価方法

出席は全授業の8割を前提とする。開催中の展覧会、社寺の現地見学を前提とするレポートを必ず各一本、計二本提出すること。提出レポートの内容と本数によって評価する。出席と出席態度を評価の基準に加える。授業態度のよくない学生は退出願うこともある。出席点20点、小レポート1本20点×2本、期末レポート(または試験)40点の100点を持ち点として評価する。

●受講生へのコメント

芸術作品との出会いは現代においては直感的なものとして位置づけられる。しかしこの講義では、歴史的評価の定まった作品を通じて、その作られた背景、制作の意図などについて学習する。作品を通じて、現代生活のなかで忘れられている日本そして東洋文化の伝統を再認識する手がかりにしてほしい。

●教材

受講生の人数が多くならない場合はプリントを配布する。(一定人数を超えた場合は配布しない)

参考図書：『日本美術館』小学館ほか、講義のほかに必要

に応じて示す。

音楽の諸相

Aspects of Musics

(前期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題

英米圏を中心とした20世紀のポピュラー音楽史を講じる。19世紀末に出現し、20世紀前半に欧米から世界中へと普及していったレコードやラジオといった音響複製メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多様なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、視聴覚資料に基づいて概観していく。

●授業の到達目標

20世紀英米ポピュラー音楽史について概括的な知見を獲得し、それを社会的・文化史的な背景と関連づけて理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽形成の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズ、ブルース（アメリカ黒人音楽文化の浮上と複製メディアの役割）
- (5) ロックンロールの誕生（ティーンエイジャーと音楽産業）
- (6) 公民権運動とフォークロック、ビートルズ
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黒人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大と展開
- (11) パンク・ロック
- (12) 70年代黒人音楽の発展（ディスク文化の浮上）
- (13) 80年代のMTV文化とヒップホップ

- (14) 90年代以降のテクノ/クラブカルチャーの展開
- (15) MTV以後の音楽／映像文化の諸相とインターネット

順序は入れ替わったり、二つの主題を一つのコマで行う場合もある。

●評価方法

学期末試験の点数のみにより評価する。出席は一切とらない。授業内容に強く関心を持つ学生の履修を要する。

●受講生へのコメント

例年受講希望者が極めて多く、履修の可否は抽選となる可能性が高い。また、単位取得の困難さが苛烈を極める授業であるので、授業内容に関心が持てない学生は必ずや履修登録を後悔するだろうことを覚悟せよ。単に時間割を埋めるための履修登録は講義内容に関心をもつ学生にとって迷惑となるので厳禁とする。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。視聴覚資料を多用するので、授業中の私語には厳しく対処する。また、Wikipedia、YouTube等を利用して授業外での積極的な自学自習が必須となることも留意のこと。

●教材

授業内容と関連する、あるいは発展的な内容を含む参考書として下記を挙げる。購入の必要はないが、授業期間内に通読しておくことが望ましい。

- ・増田聡・谷口文和『音楽未来形—デジタル時代の音楽文化のゆくえ』（洋泉社）
- ・大和田俊之『アメリカ音楽史—ミンストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ）
- ・長谷川町蔵＋大和田俊之『文化系のためのヒップホップ入門』（アルテスパブリッシング）

文学と芸術へのいざない 演習

Introduction to the Literature and Art

(後期 木・3 全)

2 単位

文学研究科 奥野 久美子

●科目の主題

日本の近代文学作品を精読する。高校までの国語の教科書に掲載されていたような有名な作品でも、その本文には複数の異文が存在し、作品によっては結末が違ってることすらある。受講生が自ら調査研究して本文の変遷をたどる。また、わからない表現や時代背景は徹底して調べるなどして、表面的な読みでは気づきえなかった

作品の新たな読みや魅力をさぐる。

●授業の到達目標

近代文学作品について広く浅く知るとともに、やや深く、その研究に関する基礎的な知識をも身につけることを目標とする。高校までの現代文における文学作品の読みとの違いを実感し、研究の入口を覗くことができればよい。

●授業内容・授業計画

芥川龍之介の「羅生門」を初出雑誌や草稿から調査して精読する。授業の進捗によっては、森鷗外「舞姫」または受講生の希望する他の近代文学作品も同様の方法で研究する。

1. ガイダンス
2. 芥川龍之介について、「羅生門」について
- 3～7. 受講生による研究発表（「羅生門」）
- 8～14. 受講生による研究発表（森鷗外「舞姫」等）
15. まとめ

●評価方法

発表内容と、質疑・討論への参加状況による。

●受講生へのコメント

※受講生の人数は25名前後とする。

演習は受講生が主体の授業である。自分の発表時以外にも質問、疑問を積極的にぶつけ、有意義な議論をつくってゆくこと。作品の下読みなど予習も必要である。

●教材

プリントを配布する。

数学の考え方 1

Concepts of Mathematics

(後期① 月・2 全文・H(人)・M(看)) 2単位

特任 河内 明夫

[平成17年度以前に「数学の考え方」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題

数学は自然科学の基本的言語であることはもとより、人文科学・社会科学においても大切な概念・視点を供給し続けている重要な基礎科学である。しかし現代数学はその豊富な歴史と研究対象の膨大さ・高度に専門化した研究手法の複雑さから、ともしればとても近寄りたがたい対象のようにも見えるだろう。専門用語の複雑さ、その概念構成の厳密さのゆえに、現代数学の最先端の成果を平易に説明することはたいへん困難な状況になっているようにも見える。高度に専門化した数学的訓練を受けなければ、現代数学のもたらす豊かな実りを享受することは出来ないのだろうか。実際には決してそうではないと考える。数学は、もっと素朴な形で日常生活の様々な側面に、その本質を失うことなく静かに息づいていると思う。この講義では、現代数学の中の重要なキーコンセプトを、様々な例を通して列伝的に紹介していく。

●授業の到達目標

現代数学の取り扱っている問題や、『なぜそのように考えるのか』といった発想法にまで立ち入ったことがらを学ぶことにより、数学の面白さを知ることが目標とする。

●授業内容・授業計画

現代数学を語る上で重要な概念を、1～3回のオムニバス形式の講義で取り上げる。各話題の間には緩やかな関連があるが、基本的には各話題は独立である。

●評価方法

出席率、レポート、小テストによって評価する。

●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要ない。高校までの内容で十分である。しかし、数学への興味と論理的思考力があることは不可欠である。

●教材

適宜プリントを配付する。参考書等は講義中に挙げる。

数学の考え方 1

Concepts of Mathematics

(前期② 月・1 全)

2単位

理学研究科 吉田 雅通

●科目の主題

数学は自然科学の基本的言語であることはもとより、人文科学・社会科学においても大切な概念・視点を供給し続けている重要な基礎科学である。しかし現代数学はその豊富な歴史と研究対象の膨大さ・高度に専門化した研究手法の複雑さから、ともしればとても近寄りたがたい対象のようにも見えるだろう。専門用語の複雑さ、その概念構成の厳密さのゆえに、現代数学の最先端の成果を平易に説明することはたいへん困難な状況になっているようにも見える。高度に専門化した数学的訓練を受けなければ、現代数学のもたらす豊かな実りを享受することは出来ないのだろうか。実際には決してそうではないと考える。数学は、もっと素朴な形で日常生活の様々な側面に、その本質を失うことなく静かに息づいていると思う。この講義では、現代数学の中の重要なキーコンセプトを、様々な例を通して列伝的に紹介していく。

●授業の到達目標

現代数学の取り扱っている問題や、『なぜそのように考えるのか』といった発想法にまで立ち入ったことがらを学ぶことにより、数学の面白さを知ることが目標とする。

●授業内容・授業計画

現代数学を語る上で重要な概念を、1～3回のオムニバス形式の講義で取り上げる。各話題の間には緩やかな関連があるが、基本的には各話題は独立である。

●評価方法

出席率、レポート、小テストによって評価する。

●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要ない。高校までの内容で十分である。しかし、数学への興味と論理的思考力があることは不可欠である。

●教材

適宜プリントを配付する。参考書等は講義中に挙げる。

ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(前期 木・2 全文、H(人)、M(看)) 2単位

非常勤 内藤 清一

●科目の主題

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達によって工夫、発見された種々の物理的思考法を、出来るだけ易しく理解できるように講義する。

●授業の到達目標

この“文科系学生の為の講義”を通して、次のような「21世紀的認識」を獲得出来るようになる事を(講義者の)“大きな目標”とする: 「絶対的真理」が(我々の人類世界を含む)全宇宙を支配している」と云う基本的認識は、“21世紀に生きる文科系若者達にとっても、欠かすことが出来なくなってくる”であろう。「ああ言えば、こうも言える」との従来の学問では、最早21世紀の諸問題に対処できず、21世紀を救うことは出来ない。

●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

- 1) ニュートンの法則
- 2) リンゴと月
- 3) 調和振動
- 4) 宇宙の航行
- 5) エネルギーの保存
- 6) 運動

量の保存 7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則 14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール

更に、“物理学読本”(朝永振一郎編、みすず書房)を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

- 1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。
- 2) 光が波であるとはどういう意味か。
- 3) エネルギーの旅
- 4) 電気振動
- 5) 原子論の発展
- 6) 原子内部の構造
- 7) 量子の概念と物理学の将来

●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わることがある。数式は若干使用する。

●教材

教科書 朝永振一郎“物理学読本”(みすず書房)。

ミクロとマクロの世界

The Microscopic and Macroscopic Worlds

(後期 火・3 全文・H(人)・M(看)) 2単位

特任 牲川 章

●科目の主題

自然界の理解に向けたあくなき挑戦を通じて、一方でミクロ世界、他方でマクロ世界の理解が進んできた。ミクロ世界に分け入っていくと以下のような階層構造が見えてくる: 物質→分子→原子→原子核+電子、原子核→陽子+中性子→クォーク。現在までにクォークは6種類確認されている。電子は、仲間と共にレプトンと呼ばれるグループを構成しているが、このグループも6種類の粒子から成っている。ここまでが、現在到達しているミクロ世界の最前線である。他方、恒星や宇宙などのマクロ世界に関する関心は太古の昔から存在した。現在では、星の構造やその進化、並びに宇宙そのものの進化に関する理解が深まり、これらは上述のミクロ世界の物理学と密接に関係していることが判明している。

本科目では、ミクロ世界からマクロ世界に亘る物理学を、その有機的つながりを軸にできるだけ数式を用いずに平易に解説する。

●授業内容・授業計画

以下の順序で進める。

1. 物性物理学

物質は分子、原子から出来ているシステムであるという視点から解説する。磁石、超低温での超伝導現象などをとりあげる。

2. 素粒子物理学

上述のミクロ世界の物理学を採りあげる。2008年度ノーベル物理学賞の受賞対象となった南部陽一郎(大阪市大名誉教授)、小林・益川の理論についても概説する。

3. 宇宙物理学

恒星の構造とその一生、137億年前のビッグバンに始まる宇宙の進化と現在の宇宙の構造などについて概説する。

●評価方法

理解度(毎回提出、出席票を兼ねる)、出席状況等による総合評価。

●受講生へのコメント

授業中の質問は歓迎する。又、理解度を計るために毎回配布する用紙に「質問」を書き加えることも歓迎する。

尚、上記の授業内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、プリントを毎回配布する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。

化学の世界

World of Modern Chemistry

(前期 月・3 全文・H(人)・M(看)) 2単位

理学研究科 小嵜 正敏 他

●科目の主題

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、自動車、医療機器などに使われている素材は高度な科学技術の上に成り立っている。無論、私たちの身体は化学物質からできており、生命体としての機能は物質の性質に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学に興味をもってもらえること、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活(QOL = Quality Of Life)を日常的に送るために大変役に立つことを念頭において、化学と私たちの関わりについて多彩な話題を提供する。

●授業の到達目標

日常的に接する身の回りの化学製品や、生物に由来する化学物質、歴史やニュースに登場する化学物質について表層的なとらえ方から一歩進んで、化学の原理・考え方に基いて理解する力を養う。

●授業内容・授業計画

3名の講師によるオムニバス形式で実施する。各チームでは以下のテーマについて解説する。

第1チーム 毒の化学

歴史や事件に登場する毒を、化学の観点から解説する。

第2チーム 身の回りの化学

化学の基礎をふまえて、身の回りの化学を考える。

第3チーム 香りの化学

香りを通して、化学物質と生物の関わりを解説する。

●評価方法

毎回の平常点に加えて、オムニバスの各チームで随時小テストを行い、総合的に成績を評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。

上記の講義内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、教材は担当者が提供する。

現代の分子科学

Modern Molecular Science

(後期 火・3 全)

2単位

特任 中島 信昭

●科目の主題

本科目では第一に物理、化学など、理科系の分野を専門としない学生にこれらの分野に興味をもってもらうことを念頭においている。どのような化合物が何のために、どのように使われているか、その根底にある化学の法則とはどのようなものかについて紹介する。私たちの身体はすべて化学物質からできており、生命体としての機能は物質の機能に支えられている。化学に関連した私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、高速光通信などに使われている素材は高度な化学技術の上に成り立っている。

第二に人類の危機にどう考え、対処するかを化学の観点から紹介する。我々は地球温暖化とエネルギー問題、原子力エネルギーの問題に直面している。実際、夏の暑さ、台風、節電、原子力の廃棄物処理など、日常的にこれらの問題を考えなくてはならない時代である。油断してそのままにしておくと人類は相当な困難に陥るである

う。温暖化とエネルギー問題を化学の面から理解を深める。それらの背後にある物理、化学について説明することで、現代の分子科学の果たしている役割を紹介する。

●授業の到達目標

空の色、食事、衣類、薬などに日常的に物理、化学に親しみ、関心が深まることを期待している。地球温暖化とエネルギー問題にどう対処していくか、について参考になるように講義する。たとえば、太陽電池パネル、省エネ、原発、火力発電所などのエネルギー対策をどう進めるか、進めてもらうか、を考える参考になれば幸いである。

●授業内容・授業計画

以下の課題を1-2週間で消化する。

- ① 生活と物理、化学(空の青、夕焼け、水の青)
- ② 我々は何(元素)からできているか?どこから来たか。
- ③ 人類の危機:地球温暖化とその影響 ほんとう?避けられる?

- ④ 未来のエネルギーは十分？太陽、風力、地熱エネルギーに水素エネルギー
- ⑤ トリウムって何？トリウム原子力は永遠のエネルギー源？レーザー核融合はいつ？
- ⑥ 人間100ベクレル、健康診断で0.6シーベルト、U-Pu型原子炉は止めてよいか？
- ⑦ 縄文時代は1万年前から？放射性炭素年代測定
- ⑧ 水はどこからきたか？食料不足？

- ⑨ コンピューター、ロボットの発展はどこまで？

●評価方法

レポートと平常点を含む総合評価（出席評価を含む）

●受講生へのコメント

化学、エネルギー問題、原子力、環境に関する疑問・質問に応えます。

●教材

教科書の指定はなし。教材は担当者が紹介、提供する。

新しい動物行動学

Behavioral Ecology and Cognitive Ethology

（前期 金・3 全文・H(人)・M(看)) 2単位

理学研究科 幸田 正典

●科目の主題

自然淘汰理論は、生命の誕生・進化・多様性など生物のさまざまな本質を説明する。より多く自分の子供（＝遺伝子）を残す個体の遺伝的性質が進化するとこの理論から、動物の諸形質、諸行動、社会性、さらには認知能力や知性の進化まで幅広く説明できる。自然淘汰理論に基づく行動生態学や新しい動物行動学について学ぶ。

●授業の到達目標

ヒトを含めた動物の行動習性をはじめ、社会性や知性、認知能力について、それらがいかに進化してきたのかを理解すること、これが本科目の目標である。進化の産物としての動物と動物行動についての最新の成果と合理的な考え方を修得する。

●授業内容・授業計画

主な講義内容とキーワード

- 第1-2回 動物行動の研究はどう進める？
（第3-9回の話題は自然淘汰で直接説明できる。10-13回の事例も進化の基本は自然淘汰に基づく）
- 第3-4回 自然淘汰とは？人為淘汰との対比。生命誕生と生物進化の必然と偶然。雄って何？雌って何？なぜ性がある？なぜ性比は1:1？その他多数の話題。
- 第5-8回 動物の子育てと多様な婚姻形態、性淘汰、利害の対立、動物の性転換と性決定様式、精子競争、動物の子殺し脊椎動物社会の進化。浮気、雌が雄を操る社会、利他行動
- 第9回 アリやハチの社会：真社会性、血縁淘汰
- 第10-11回 社会行動の進化、脊椎動物の社会認知能力とその進化。賢い魚、鏡像認知

第12-13回 動物の会話、交信。動物の様々な社会的知性。動物の嘘、意図的騙し、意識、

第14-15回 ヒトは何処から来たのか？ヒトの多様性。「人種」とは？

●評価方法

毎回の小テスト及び質問票（計30点）、参考図書の課題レポート（20点）、定期試験（50点）の100点満点で採点する。

●受講生へのコメント

高校で生物を勉強しなかった人にも理解できる、生物学をよく勉強していた人にとっても面白い内容、そんな講義をします。

動物やヒトの行動に興味のある人に受講を薦めます。「なるほど！」が多い授業をめざします。受講者の皆さんが、受講後世の中がこれまでと少し違って見えてくれれば講義は成功です。

●教材

印刷物の資料を配布する。教科書は使わない。

参考図書：進化とは何か？（長谷川真理子）岩波ジュニア新書
クジャクの雄はなぜ美しい？（長谷川真理子）紀伊国屋書店
乱交の生物学（バークヘッド）新思索社
政治をするサル（ドヴァール）平凡社
銃・病原菌・鉄（上下）（ダイヤモンド）草思社

（その他は講義中に紹介）

生物学への招待

Introduction to Biology

(前期 水・3 全文・H(人)・M(看)) 2単位

理学研究科 田中 俊雄 他

●科目の主題

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、生命の最も基本的な単位である細胞(遺伝子・タンパク質)について理解し、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物の多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、海洋大型動物を題材として形態や行動、繁殖システムなどマクロな視点から生物進化を解説する。さらに、生命の特徴の1つである環境に対する反応について、主に植物を例にとって概説する。

●授業の到達目標

[第1ターム] ヒトのゲノムが解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。多種多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義や役割について理解する。

[第2ターム] ウミガメやペンギン、アザラシ、イルカなどの大型海洋動物と陸上動物の対比を軸に、形態、生理、回遊、繁殖システムなどマクロな視点から、セキツイ動物の進化について学ぶ。あわせて、迫りくる温暖化とその影響についても理解する。

[第3ターム] 生物は、まわりの環境の情報を捉え、それに適切に反応することによって生命活動を営んでいる。まず、植物の生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について理解する、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて理解する。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か
2. 遺伝子、タンパク質とは何か
3. 微生物とは何か
4. 微生物の多様性
5. タームのまとめと小テスト

[第2ターム] 担当：松沢慶将

1. ハ虫類、鳥類、哺乳類の形態、生理、ならびに生息環境への適応
2. クジラやウミガメの回遊とその意義、および定位能力
3. ハ虫類における性決定の仕組みと意義
4. タームのまとめと小テスト

[第3ターム] 担当：保尊隆享

1. 環境要因の種類と反応の概要
2. 光に対する反応
3. 重力に対する反応
4. 水に対する反応
5. 温度に対する反応

[まとめ] 担当：1. 田中俊雄

●評価方法

タームごとに小テスト、あるいは出席点にもとづいて行い、総合的に判断する。3つのタームの1つにおいても評価点がゼロであった場合(例えば小テストを受けなかった場合)は不合格とする。

●受講生へのコメント

多様な生物界の構成要素について幅広く扱うが、それぞれに対して興味をもって受講してほしい。

●教材

プリント：適宜配布

参考書等：田中担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』(培風館)、保尊担当：テイツ・ザイガー『植物生理学』(培風館)

地球の科学

Review of Earth Science

(後期 火・1 全文・H(人)・M(看)) 2単位

理学研究科 益田 晴恵 他

●科目の主題

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、天然資源などを中心の話題としながら、地球の歴史や現在の姿、将来予測などを、地球に関係する科学史や最深の地球学の知識に基づいて概説する。

●授業の到達目標

21世紀は「環境の世紀」と言われる。日本列島は、元々

地球上の自然災害の多い場所に立地している。特に、近年は大規模な災害の発生が続き、自然と私たちのつきあい方に関心が持たれている。本講義は、私たちが暮らす自然の環境は、様々な自然現象の微妙なバランスの上に保たれていることを、地球全体の活動(すなわちエネルギー移動)の観点から理解し、自然環境問題を考えるきっかけとしたい。さらに、未来を見通した社会的選択につ

いて、自然環境を基盤として考える素養を育てたい。

●授業内容・授業計画

- 1 地球の活動と地質災害
 - (1) 地震と災害
 - (2) 津波と災害
 - (3) 都市地盤の特性と災害
 - (4) 火山と災害
 - (5) 地下の調査方法
 - (6) 地球の内部構造と年代測定
(以上、井上直人担当)
- 2 地球のエネルギー物質循環と環境
 - (8) 水循環と水資源、地球システムの概念
 - (9) 大気圏・水圏の構造とエネルギー循環
 - (10) 大気と海洋の相互作用 (ENSOイベント)
 - (11) 炭素循環と生物活動、地球温暖化
 - (12) プレートテクトニクスとプレートテクトニクス

- (地球内部のエネルギー循環)
- (13) 元素濃縮と地下資源
 - (14) ハビタブルゾーン (宇宙の中の地球)
 - (15) 講義全体のまとめ

(以上、益田晴恵)

●評価方法

出席点40点、レポート20点、期末試験40点。出席点には、講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題や自然災害に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現在の姿を知る」ことの大切さが分かる授業を行いたい。できるだけ欠席しないほしい。

●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

実験で知る自然の世界

Expedition to Science World

(後期 水・3～4 全文・H(人)・M(看)) 3単位

理学研究科 水野 寿朗 他

●科目の主題

自然科学は著しい発達をとげ、現代社会のあり方に巨大な影響を及ぼしているが、もとをたざせば私たちの身の回りにある自然への問いかけに端を発するものである。本科目は、文科系専攻 (H・人間福祉とM・看護学科を含む) の学生を対象に、身近なテーマの実験・実習を通して自然の世界に親しむ。

●授業の到達目標

実験・実習の体験をつうじて、自然科学の知識を幅広く身につけ、また自らこれを探求し読みとく能力を養う。

●授業内容・授業計画

第1週はガイダンスで、授業の概要説明、実験・実習にともなう注意、および消火訓練を行う。第2週からのテーマは以下の通り。()内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

1. 「植物の形態とフラクタル」(伊東 明、名波 哲)
構内に生育する植物の形態を観察し、さらに樹形形成過程のコンピュータシミュレーションを行って、植物の形の多様性と生態学的意義を理解する。
2. 「DNAとRNAの抽出」(若林和幸、曾我康一)
生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。
3. 「ニワトリの胚発生」(水野寿朗)
めん鳥は卵を産み、卵からはヒヨコが生まれてくる。あたためられた有精卵の中で何が起きているのか、慎重に殻をひらき、覗いてみよう。

4. 「地球の重力加速度」(石川修六)

ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求める。

5. 「楽器と声の音波」(山本和弘)

電子楽器や自分の声をマイクロホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。

- 6-7. 「日常生活と数学 (1)暗号理論、(2)幾何学の歴史」(秋吉宏尚)

私たちが何気なく過ごしている日常のそこかしこに数学がいかされている。ネットワーク社会に欠かせない暗号理論と、私たちの日常生活にとけ込んだ幾何学的概念の歴史に焦点を絞り、そこに現れる数学法則を、コンピューターによる数値実験を通じて、理解する。

8. 「空中写真から読み取る活断層」(根本達也)

地震をおこす可能性のある地下の活断層は、地表にも地形の違いとして明瞭に現れる。空中写真を用いて地形を立体的に観察し、活断層がどのような場所にあり、どのような変位が生じているのかを理解する。

9. 「偏光で見る自然」(篠田圭司)

身の回りには光があふれていますが、偏光板を通していろいろなものを見ると、日常見る光景と違った光景が見えます。青空や、液晶モニター、方解石を通して二重文字も偏光と関係しています。偏光板を用いて身の回りの光を観察し法則

を考えます。

10. 「医薬品の活性成分 - 解熱剤からアスピリンの単離」(館 祥光)
身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。
11. 「生物発光と化学発光」(品田哲郎)
生物発光および化学発光は熱を伴わない発光(冷光)である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。
12. 「平面を覆う正多角形のタイルの図形は3種類しかない」(村田恵三)
正多角形で平面を覆うには、許される多角形は、3、4、6角形しかなく、それ以外にはない。これを利用して水面を覆う多数の6角形で、自然に微結晶から、大きな結晶に成長することを体験する。結晶化とは自己組織化そのものである。これ

と、二酸化炭素排出削減の効果について学ぶ。

13. 「シャボン玉の科学」(田中礼二)
湿度を制御して美しい色と模様のシャボン玉を作り、シャボン膜表面に界面活性剤分子が吸着して、不安定な液体膜から安定なナノサイズ1次元コロイドの組織体(固体膜)に転移するまでの過程を観察する。

●評価方法

すべてのテーマの評価を総合する。

●受講生へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。

第1週目(ガイダンス)は基礎教育実験棟308室に集合のこと。

『実験で知る自然環境と人間』を修得したものは本科目を履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する。

地球学入門

Introduction to Geosciences

(後期 火・1 全文・H(人)) 2単位

理学研究科 前島 渉

●科目の主題

現在の地球の姿は46億年にわたる地球の生成流転のほんのつかの間の姿にすぎない。地球の創生以来、幾多のできごとがあり、地球は変貌をとげてきた。そして現在の豊かな地球がつくりあげられてきた。惑星としての地球から身近な地域まで、さまざまなスケールで、かけがえない地球を見つめなおす。

●授業の到達目標

人間社会と地球自然とのかかわりが問い直されているいま、地球についての理解をより深め、われわれ人間が今後地球に対してどうあるべきかを考える。

●授業内容・授業計画

まず現在の地球の構成と構造を概観する。とくに、人間の様々な活動の場である地球表層部の構成と運動について、自然災害との関連を含めて解説する。ついで、太陽系における地球の特異性を理解するために、地球環境の生い立ちと変遷を、他の惑星との比較を含めて解説する。また、地層に残された記録から過去の地球環境を探る方法とその具体例を紹介し、地球史規模での環境変動とその背景要因を考える

- 1) 地球の構成と構造:地球の内部を探る様々な方法、地震波の伝わり方と地球の内部構造。(2~3回)
- 2) 地球の表層部:地球表層部の物質と構造、大陸移動説、海洋底の拡大、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクス。(3~4回)
- 3) 日本列島周辺のプレート運動と地震活動:日本列

島周辺のプレート配置と運動、沈み込みプレート境界における巨大地震の発生機構、内陸部における活断層と直下型地震。(2回)

- 4) 地球の生成と進化:隕石が語る原始太陽系と地球の創成、地球の大気・水の起源とその変遷、地球になれなかった金星と火星。(2~3回)
- 5) 過去の地球環境を探る:地層に残された過去の地球環境変遷の記録、地層から読みとる地球の変動リズム、地層に記録された年・月・日・時。(2回)
- 6) 生物の大量絶滅とその背景:古生代/中生代境界における大量絶滅-プルームの冬-、中生代/新生代境界における大量絶滅-衝突の冬- (1回)。
- 7) 地球の年齢を測る:地球の年齢を知るさまざまな試みとその社会背景、放射性同位体による岩石の年代測定。(1~2回)

●評価方法

期末試験(50%)、レポート(30%)、出席(20%)を総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭において講義する。授業内容の講義項目は授業の進捗状況によって変わることがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

授業に必要な資料をプリントとして配付する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。

科学と社会

Science and Society

(前期 水・3 全)

2 単位

非常勤 木野 茂

●科目の主題

この授業では科学と社会のかかわりについて、環境問題をテーマに考える。

この授業は私（現在、立命館大学）が本学にいたときに始めた科目であるが、いつも授業を行う上で重視しているのは、①分かりやすく、②興味深く、③楽しく、④双方向型に（一方的な講義にならないように）、である。

●授業の到達目標

科学と社会の関わり方について講義を聞いて学ぶだけでなく、クラスメイトや教員とのコミュニケーションを通して自分の考えを持つ。

●授業内容・授業計画

1. 授業への誘い&福島原発事故から考える
2. 公害の原点：水俣病
3. 水俣病は終わっていない
(ディバートのチーム分け)
4. 授業前半：公害と労災職業病（住民と労働者）
授業後半：グループワーク（ディベート準備）
5. 授業前半：原発で働く労働者
授業後半：グループワーク（ディベート準備）
6. チーム・ディベート大会
(原発問題をテーマに全員参加型の授業)
7. 原子力の光と影（ディバートを振り返って）
8. エネルギーと人間（小出裕章氏のビデオ講義あり）
9. 水俣病と三池炭じん爆発（故原田正純氏のビデオ講義あり）
10. 環境問題と差別（途中、受講生による討論劇を予定）
11. 薬害を防いだ労働者（ゲスト：北野静雄氏・大鵬薬品労組）
12. 薬害エイズは今…（ゲスト：花井十伍氏・薬害HIV

被害者)

13. 環境問題と行政（ゲスト：二木洋子さん・高槻市会議員）
14. 環境問題と専門家の役割
15. 授業の振り返り

●評価方法

レポート評価5、平常評価3、授業への積極度2で総合評価する。レポートの課題は授業で扱った範囲内なら自由で、内容は自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講者へのコメント

この授業は、環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、一度ディバートをやってみたい人、風変わりな授業を経験してみたい人にお勧めである。

毎回の授業後、感想や意見をメールで出せば、翌週の授業プリントでコメントを付けて返すことにしている。

また環境問題では当事者の方々の話を聞くことが大事なので、ゲストを招いたり、ビデオで話を聞く機会も設ける。なお、ゲストの二木さんと北野さんは市大の卒業生である。授業の順番はゲストの都合で変更することもある。

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせはe-mailで：skino@fc.ritsumei.ac.jp

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』（東京教学社）。

教室では、毎回、授業用プリントを配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えてもらっているの、自由に利用してほしい。

現代科学と人間

Today's Natural Sciences and Human Beings

(前期 木・4 全)

2 単位

理学研究科 宮田 真人 他

●科目の主題

自然科学の最先端の知識を正確に理解した上で、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を理解する。

●授業の到達目標

主題を理解した上で、有意義な考察が行えること。

●授業内容・授業計画

1. パンデミック（感染症世界流行）への警鐘：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってす

べての感染症を制圧したかに見えたが、それは幻想にすぎなかった。今日、インフルエンザ、マイコプラズマ、AIDS、O157、プリオン、など、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は発達した医療技術を有している反面で、グローバル化、高齢化、テロリズムといった、アウトブレイクを誘発する要因も多い。既存の映画を例に用いて、現代社

会における感染症を考察する。(宮田 真人)

2. 人類の歴史は、「医(衣)・食・住」の歴史と言っても過言ではない。野草を起源とする「くすり」も、その構造の一部あるいは全てを合成によって得る時代となっている。個人の遺伝情報にもとづくオーダーメイド医療が叫ばれる一方で、遺伝子を「くすり」として使用する技術も開発されている。食糧の安定供給を目的として開発された「遺伝子組み換え植物」に由来する食品が日常生活の中に浸透しているし、その一方で「再生可能エネルギー」の一つとみなされる「バイオエタノール」がトウモロコシ澱粉を原料として生産されている。これらの話題をもとに現代科学の功罪について考える。(田中 俊雄)
3. 近代科学の研究手法：今日の物質文明の繁栄をもたらした近代科学、そこでは物理学における研究手法が原点となっている。自然現象の解明を目指す際の基本的アプローチは、実験・観測を詳細に行い、その結果を客観的に整理することにある。

特に、多くの物理現象では、法則性が数学的に記述されることが見いだされてきた。このような自然現象の法則性とその数学的な構造について議論する(小栗 章)

4. 化学と持続的未来：持続的未来の為には地球規模での環境に対する視点が必要である。この為には物質を取り扱う科学としてどのような視点を持つことが必要だろうか？歴史的な解決策に学び、現在の状況を解決し、新しい時代を切り開く。これを水、環境、エネルギーの観点から論じていく(木下 勇)

●評価方法

質問カード(毎時間提出)・レポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を希望する。

●教材

教科書は使わないので、参考図書を各時間に指示する。また、ビデオを用いる。

近代科学の成立

The Development of Modern Science

(後期① 木・4 全)	2 単位
(後期② 木・1 全)	2 単位
非常勤 大久保 稔	

●科目の主題

今日の科学の進歩は止まることを知らず、日進月歩の勢いで発展している。科学の本質は究理であるが、はじめ哲学主導型科学から出発して、のちに技術と結びつき、また理論的な追究ともあいまって、技術支援型&理論主導型科学としての性格をつよめてきている。しかし巨大な自然力を解放した結果、強力な生産力だけでなく反社会的な破壊力さえも生み出してしまった。本講では近代科学の成立にいたる歴史的経緯を明らかにすると共に、その影響について考察する。

●授業の到達目標

- 1 科学の性格、特徴を理解する
- 2 科学の歴史的発展を理解する
- 3 近代科学の現代への影響を理解する

●授業内容・授業計画

近代科学がどのような経過をたどり成立してきたか、を要点をまとめて時系列的に話をする。また、単なる歴史の後追いに終わらせず、未来展望ともからめて、今後の科学のあり方についても触れる。

講義の項目は以下のようにわかる。

- 1 科学とはなにか
労働の役割、科学の特徴、科学と技術
- 2 科学の歴史
 - 1) 科学のあけぼの期 疑似科学
 - 2) 古代ギリシアの自然哲学 論証の科学

- 3) 中世、科学の低迷 神学のしもべ
- 4) アラビアの錬金術 神秘的実験科学
- 5) 科学と宗教のたたかい 科学の受難
- 6) 近世、科学の復活 サロンの実験科学
- 7) フランスでの科学発展 哲学と科学の分離
- 8) イギリスでの産業革命 科学と技術の接近
- 9) 近代、科学の躍進 技術支援型&理論主導型科学

- 3 我が国科学の推移 和魂洋才から和魂和才へ
- 4 個別科学の例 化学 質の変化の科学
- 5 近代科学の影響

- 1) 現代の科学 科学と技術の相互高揚
- 2) 科学の功罪 苦情、公害、環境破壊

●評価方法

「試験に代わるレポート」の出題によって行う。出席率も考慮する。

●受講生へのコメント

- 1 事業開始5分前までに入室してほしい。
- 2 講義に先立ち約10分間、その時々話題について小話をする。
- 3 理系、文系を問わず、科学に強い関心を持ち、積極的に受講を希望する諸君を待つ。
- 4 参考書をざっと読んであらかじめ概要をつかんでおいてほしい。
参考書「例」
鈴木、馬場共著「科学・技術史概論」建帛社

藤村、他「科学—その歩み」東京教学社
平田 寛著「図説 科学・技術の歴史」（上・下）
朝倉書店

●教材

教科書は使わない。図、表で要点をまとめたプリントを配布する。

心と脳

Mind and Brain

(後期 月・2 全)

2単位

文学研究科 川辺 光一

●科目の主題

脳科学は今世紀における自然科学の最も重要な研究テーマの一つとされている。脳は、外界からの感覚情報を処理し、行動や運動の制御を行う生体の司令塔としての役割を果たしている器官であるといえるが、脳の構造はあまりに複雑であるため、その機能的役割については未だ不明な点が多い。しかしながら、生理学、解剖学、心理学、分子生物学、薬理学、医学、工学などさまざまな領域からアプローチが試みられ、数々の研究手法や方法論が開発された結果、20世紀後半に脳研究は飛躍的な発展を遂げた。現在でも数多くの精力的な研究がなされており、高次精神機能と脳の関係についても解明が進みつつある。

この講義では、いくつかの精神機能をトピックとしてとりあげ、それらと脳の関係についてこれまで得られている知見について概説する。

●授業の到達目標

脳や神経系に関する基本的知識を習得し、脳と精神機能・行動の関係についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で進められる。ただし、授業進度の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということを付記しておく。

- 1) 行動神経科学・生理心理学とは
- 2) 行動神経科学・生理心理学における研究手法
- 3) 脳の構造と機能
- 4) 神経系を構成する細胞とその機能
- 5) 神経系における情報伝達機構
- 6) 脳と睡眠・覚醒
- 7) 脳と生物時計

- 8) 脳と摂食
- 9) 脳と情動
- 10) 脳と学習・記憶
- 11) 脳と思考
- 12) 脳と精神疾患
- 13) 脳と薬物依存

●評価方法

期末試験の成績を基本とするが、平常点も考慮に入れる。試験は、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●受講生へのコメント

授業を通して、脳と精神、行動の関係についての正しい知識を得てもらいたい。

また、本講義で扱う内容は、「心」の問題を取り扱う「心理学」の領域に関わるものである。心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業時間内に行われる質問紙調査や、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

参考書：ブルーム, F.E. 他 (中村克樹・久保田競 監訳)

『新・脳の探検 (上・下)』講談社ブルーバックス

カールソン, N.R. (泰羅雅登・中村克樹 監訳) 『神経科学テキスト—脳と行動 (第4版)』丸善

ピネル, J.P.J. (佐藤敬他 訳) 『バイオサイコロジー：脳—心と行動の神経科学』西村書店

ベアー, M.F. 他 (加藤宏司他 監訳) 『神経科学—脳の探求—』西村書店

ドキュメンタリー・環境と生命

Documentary・Environment and Life

(後期 水・3 全)

2単位

非常勤 木野 茂

●科目の主題

この授業は環境と生命に関する現代的な課題にどう向き合うかを主題にして、考える力、調べる力、伝える力、ディスカッションする力を身に付けるための総合教育科

目である。

●授業の到達目標

授業の前半ではテレビ・ドキュメンタリーを教材にし、自分の考えをまとめる力と自分の意見を人に伝える力、

他の人の意見を理解する力をつけることを目指す。

後半では自分たちでテーマを設定してグループ研究を行い、その成果を教室で発表する。ここでは、調べるだけでなく考える力、プレゼンテーションする力、ディスカッションする力、そしてグループで協力する力をつける。

●授業内容・授業計画

9回目までの授業では最初に30～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、内容は環境と生命に関するもので、テーマは多岐に渡っている。

授業で取り上げる番組一覧は第1回目の授業で発表する。教室での鑑賞後は、自分の感想や考えを400字程度にまとめ、facebookでクラスメイトと交換する。

また、鑑賞と並行して、ドキュメンタリーのテーマごとにグループ研究を始める。グループは各自の関心を尊重しながら4～5人程度になるよう調整する。ドキュメンタリーの鑑賞後はグループごとに別れてグループワークを行う。

10回目からは、グループ研究の成果をグループ全員でプレゼンテーションし、クラスメイトとQ&Aを行う。このときの司会進行は受講生に行ってもらおう。

●評価方法

毎週のfacebookへの感想意見5、番組要約1、グループ研究2、レポート2の割合で総合評価する。

番組要約は各自1～2回担当する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●受講者へのコメント

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命の問題に関心を持つ人、聞くだけではなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにグループワークをやってみたい人にはお勧めである。

毎週のfacebookで最も良かったと思う意見を全員の投票で選び、1分間スピーチとちょっとしたプレゼントで表彰するアトラクションもある。

facebookの使い方および使用上の注意事項は最初の回で説明するが、この授業では必須である。

ともかくこの授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目：「科学と社会」

問い合わせはe-mailで：skino@fc.ritsume.ac.jp

●教 材

毎回、プリントを配布する。

森林環境と人間社会

Documentary・Environment and Life

(前期 火・3 全)

2単位

大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題

この授業では科学的な視点も含めた多角的視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

●授業の到達目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。

具体的には森林環境について

- ① 興味・関心が持てるようになること
- ② 多角的視点で観る態度を身につけること
- ③ 主体的に情報を得る態度を身につけること
- ④ 保全の意識を高めること
- ⑤ 保全につながる態度を身につけること

●授業内容・授業計画

- ① 森と林の違い(森林の基本概念)
- ② 身の回りの森林環境1(野外観察実習)
- ③ 身の回りの森林環境2(野外観察実習まとめ)
- ④ 森林の恩恵1

- ⑤ 森林の恩恵2(ディベート)
- ⑥ 森林の恩恵3(ディベートまとめ)
- ⑦ 森林の生い立ち1 植物分類の基礎(室内観察実習)
- ⑧ 森林の生い立ち2 植物の上陸と森林の出現
- ⑨ 日本の森林
- ⑩ 世界の森林
- ⑪ 人間社会と森林1 日本の森林問題①
- ⑫ 人間社会と森林2 日本の森林問題②
- ⑬ 人間社会と森林3 地球規模の森林問題(東南アジアの熱帯林)
- ⑭ 人間社会と森林4 地球規模の森林問題(アマゾンの熱帯林)
- ⑮ まとめ

●評価方法

1. 毎授業の課題：60点
 2. 中間・最終レポート：40点
- 1、2を総合的に評価(記述内容を重視)

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待しています(受身の授業を期待している人には不向き)。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれ関連しているので授

業目標を達成するために、全ての授業に参加することが理想です。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

21世紀の植物科学と食糧・環境問題

Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century

(後期 火・3 全)

2単位

理学研究科 飯野 盛利 他

●科目の主題

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題（食糧問題）であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題（環境問題）である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の視点から考える。

●授業の到達目標

植物の機能や生態系について理解し、食糧・環境問題の諸相を知り、これらの問題の解決策を探るために自分で考え、行動できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 食糧・環境問題の現状（担当：飯野盛利、1回）
2. 生態学から見た環境問題（担当：伊東 明、3回）
環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物（人間）にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、生物の活動が環境にどう影響するか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。そこで、(1)共有地の悲劇 (2)生物多様性 (3)森林破壊と地球温暖化、など、具体的なトピックスを紹介しながら、関連する生態学の基本概念について解説し、環境問題に関する情報や報道を理解する時の助けとしたい。
3. 絶滅危惧植物と食料・環境問題（担当：厚井 聡、1回）
現在、日本の野生植物の1/4が絶滅の危機に瀕しているとして「絶滅危惧植物」に指定されている。絶滅危惧植物の現状とその保全を紹介し、食料・環境問題との関係を考えてい。
4. 食糧・環境問題に対する植物遺伝学からのアプローチ（担当：植松千代美、2回）
不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科

学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその問題点について以下の点から解説する。

- (1)環境問題と食糧問題入門、(2)遺伝子組換え植物とその功罪。
5. 植物園から考える環境問題（担当：伊東・植松、4回）
植物園で実施されている環境問題研究プロジェクト「都市と森の共生をめざして」の成果をふまえて森の植物園の役割を考える。(1)なぜ今、都市と森の共生か(植松)、(2)森林の二酸化炭素固定(非常勤講師・小南裕志)、(3)森林に暮らす動物の多様性(非常勤講師・谷垣岳人)、(4)タンポポの多様性と保全(伊東)、について解説する。
6. 地球温暖化防止のために（担当：植松、3回）
(1)地球温暖化-国際会議の現場から- (非常勤講師・早川光俊)、(2)菜の花プロジェクト(非常勤講師・藤井絢子)、(3)バイオエタノールを中心とする自然エネルギー利用の可能性(植松)、などについて最新の状況を紹介する。
7. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題（担当：飯野、1回）
誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと期末に実施する試験、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

植物の機能と人間社会

Plant Function and Human Society

(後期 月・2 全)

2 単位

理学研究科 曾我 康一

●科目の主題

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣したりするためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているのかを具体例を示しながら解説する。

●授業の到達目標

植物は忘れられやすい存在である。しかしながら、人間をはじめとするほとんどの生物は植物に依存して生きている。この科目を通して植物に興味・関心が持てるようになることを目指す。また、人間の生存にとって植物がいかに重要であるかについて考えるきっかけを作ること目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 植物と動物
2. 植物の生殖
3. 環境シグナルに対する反応とシグナル伝達
4. 環境シグナルの受容
5. 植物ホルモン (オーキシン、ジベレリン)
6. 植物ホルモン (サイトカイニン、アブシシン酸、エチレン)

7. 組織培養技術とその利用
8. 遺伝子組換え技術
9. 遺伝子組換え植物の利用
10. 植物工場
11. 宇宙農業
12. 植物を利用した有用物質の生産
13. 植物による環境浄化
14. まとめ
15. まとめと試験

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校において生物を履修していないことを前提に授業をおこなう。また、授業毎に質問票を配布・回収し、次回以降の授業時に質問に答える。

●教材

プリントを適宜配布する。

参考書：神阪盛一郎、谷本英一共編「新しい植物科学—環境と食と農業の基礎」(培風館)

植物と人間 演習

Seminar : Plants and human life

(前期 集中 全)

2 単位

理学研究科 飯野 盛利 他

●科目の主題

植物は生態系における生産者として、私たち人間を含む、ほぼ全ての生物の生存に必要な有機物とエネルギーを作り出している。植物は、私たちの食料としてだけではなく、衣料や医薬品の原料として、あるいは鑑賞用としても利用されている。このように、私たちの生活は植物と切っても切れない関係にある。本講義は、理学部附属植物園で収集・保存されている植物を活用して、植物と人間の関係について学び、植物についての理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

植物園内に植栽されている植物の観察を通じて植物の多様性を体験的に学ぶ。また森林や植物進化の道筋、植物の遺伝資源としての重要性について学び、これらを知る技術を習得する。

●授業内容・授業計画

- ・植物の進化 (担当：大久保敦、大教センター)

植物と人間を理解する上で、植物の進化の過程を把握しておくことは重要です。かつて地球上の陸地には植物も動物も存在しない時代があった。植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿の森林に至ったのか、その歴史を植物園に植栽されている実際の植物を観察しながらたどる。

- ・遺伝資源と多様性 (担当：植松千代美)

植物園には様々なバラ科植物が植栽されているが、それらの中からナシ属野生種のコレクションを例に、観察や簡単な実験を通して遺伝的多様性、野生種から栽培種への進化、遺伝資源の重要性などを学ぶ。

- ・熱帯植物の利用 (担当：飯野盛利)

植物園で収集・保存されている熱帯植物には、鑑賞植物として親しまれているもの、食料、香辛料として、また工業用に利用されているものなどが含まれている。それらを観察、学習する。また、各自が興味をもった植物について、図書、インターネット、文献などで調べ、そ

れをポスターにまとめることを実習する

- ・樹木の利用（担当：厚井聡）

樹木は、建築や家具など様々に加工されて人間に利用されてきた。園内の樹木を実際に観察しながら、人間と樹木の関わりについて学習する。

●評価方法

各担当教員が提示した課題のレポートをそれぞれ100点満点で評価し、各課題の評点を平均して科目の評価とする。また、演習科目であることを考慮して、講義時間

中における発言などの積極的参加を評価し、加点する。

●受講生へのコメント

授業は夏季休暇中の研修期間に、大阪府交野市にある理学部附属植物園において、集中・オムニバス方式で行う。野外での実習が含まれるので、帽子など日除け対策を講じること。

●教 材

プリントを適宜配布する。

情報基礎

Introduction to Information Processing

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

□平成 17 年度以前の「情報処理 I」

□平成 17 年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

創造都市研究科

< 1 部 >

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	前・月・3-4	村上 晴美	全	前・金・1-2	(豊田 博俊)
全	前・火・1-2	安倍 広多	全	前・金・1-2	ベンカテッシュ・ラガワン
全	前・火・1-2	米澤 剛	全	前・月・3-4	(西村 雄一郎)
全	前・木・3-4	大西 克実	全	前・金・3-4	永田 好克
全	前・木・3-4	(豊田 博俊)			

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	後・金・1-2	村上 晴美	全	後・金・3-4	安倍 広多

< 2 部 >

クラス	期・曜・時	担当者
全	前・金・1-2	永田 好克

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータ・リテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可欠になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかわっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Webや電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピュータの基本的な仕組み、コンピュータがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

担当者：安倍、豊田、永田、村上

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Webブラウザ、ワードプロセッ

サなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Webページの作成手始め

簡単なWebページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTMLの基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2進数や16進数の表現、情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練されたWebページを目指して

Webページの視覚的構造をスタイルシートによって制御する方法を理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

- ⑭ 表計算、プレゼンテーションなど
表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

●**評価方法**

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●**教材**

講義メモやWebページなどを活用する。

参考書：情報処理学会編集IT Text 一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」
情報処理学会編集IT Text 一般教育シリーズ「情報と社会」

担当者：大西、西村、米澤、ラガワン

●**授業内容・授業計画**

- ① コンピュータとその操作の基礎
- ② 電子メールとコミュニケーション
電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。
- ③④ リテラシと情報セキュリティ
コンピュータリテラシ、ネットワークリテラシ、メディアリテラシやリテラシのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権/著作権などの考え方を知る。
- ⑤⑥ 情報発信-ホームページ作成

各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。

- ⑦⑧ 調べ方-情報検索
インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。
- ⑨⑩ 考え方-アルゴリズム
コンピュータで考え方を実現するのはプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。
- ⑪⑫ 空間情報の利用
地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取り扱い方法の理解を深める。
- ⑬⑭ 表計算、文書作成など
ここまでで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがあり、演習では各自の習熟度に応じての対応を行います。担当教員はそのクラスの採点責任者ですが、講義の内容に応じて教材作成担当者などがその時間の解説・質問などを受け持つ場合もあります。

●**評価方法**

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●**教材**

Webページを基本的に利用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期 月・3～4 全) 2単位
(後期 金・3～4 全) 2単位
創造都市研究科 石橋 勇人

●**科目の主題**

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●**授業の到達目標**

特定の言語(Python)を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●**授業内容・授業計画**

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要、プログラム作成から実行までの流れ、など)
- (2) 制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理
- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題

- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) 再帰呼び出し
- (9) GUIプログラミング(1)
- (10) GUIプログラミング(2)
- (11) 正規表現とWebアクセス
- (12) 最終課題(1)
- (13) 最終課題(2)
- (14) まとめ

※内容や順序は必要に応じて変更する場合がある。

●**評価方法**

各回の演習課題（中間課題、最終課題を含む）および試験によって評価する。

●**受講生へのコメント**

エディタ、Webブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●**教材**

Webページなどを使用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期 金・3～4 全) 2単位

(後期 月・3～4 全) 2単位

創造都市研究科 松浦 敏雄

●**科目の主題**

この講義では、プログラミングとは何かを体験し、それを通じて、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用擬似言語を用いて体験的に学ぶ。さらに、特定の言語（Javaを用いる予定）を通して、プログラミングを経験する。

●**授業の到達目標**

自らアルゴリズムを考案し、プログラムが書けるようになることを目指す。

●**授業内容・授業計画**

- (1) 変数、制御構造、順次処理
- (2) 条件分岐
- (3) 繰り返し
- (4) 図形描画
- (5) 中間試験
- (6) Javaによるプログラム開発方法

- (7) 基本データ構造
- (8) オブジェクト指向
- (9) mainの引数とFile I/O
- (10) クラス定義とクラス継承
- (11) GUI(1)
- (12) GUI(2)
- (13) GUI(3)
- (14) 最終課題

● **評価方法**

レポートおよび試験により総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

エディタ、Webブラウザなどが自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●**教材**

配布資料およびWebページなどを利用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(後期 木・3～4 全) 2単位

創造都市研究科(兼)学術情報総合センター 大西 克実

●**科目の主題**

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●**授業の到達目標**

どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語（Javaを用いる予定）を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●**授業内容・授業計画**

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・

コンパイル、コマンドプロンプト使用法

- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if, while)
- (4) 制御構造 (for, continue, break)・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム(2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラミング
- (7) データ構造・再帰呼出
- (8) 整列問題(1)
- (9) 整列問題(2)

- (10) ファイル入出力
 - (11) アプレットプログラミング(1) GUI部品
 - (12) アプレットプログラミング(2) イベント処理
 - (13) ネットワーキング
- (それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●**評価方法**

出席とレポート

●**受講生へのコメント**

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えること（「情報基礎」程度）を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●**教材**

Webページなどで提示する。

情報の探索と利用

Information retrieval and it's application

(前期 火・2 全) 2単位

(後期 水・1 全) 2単位

(後期 水・2 全) 2単位

創造都市研究科 吉田 大介

非常勤 米谷 優子

●**科目の主題**

大学では自主的に研究や学習を進め、考察を深めることが期待され、その成果として論文・レポートの作成が必須となっている。論文・レポート作成においては、テーマを絞り込み、そのテーマに即した情報をさまざまな情報源から収集し、読解し、整理し、論理的に思考を深め、新たな情報として発信する、情報活用能力が求められる。本講義では、上のような知的生産の基礎を身に付けられるよう、論文・レポート作成のプロセスを段階的に取り上げて、各ステップの要点を習得できるように、講義と演習によって実践的な力を育成する。

●**授業の到達目標**

論文・レポートの作成プロセスを理解し、大学の各専門分野での研究生活を円滑に、より効果的に進めるための、知的生産に関する基礎力を育成する。

●**授業内容・授業計画**

- 1 授業の概要・計画（概説）
- 2 論文・レポートの要件と作成のステップ・論文・レポートの意義と要件・論文・レポート作成のステップ
- 3 テーマの絞り込み・発想法
- 4-9 情報の収集・学術情報総合センターの使い方

OPAC、閲覧・貸出、外部データベース、ILL、レファレンスサービス・文献情報の探索と文献の入手図書、雑誌記事、新聞記事・検索エンジン・各種データベース

10-11 情報の読解

12-13 論文・レポートの執筆・読んでもらえるレポート・論文・表・グラフの挿入・著作権への配慮・引用のルール

14-15 発表・口頭発表・プレゼンテーションソフトによる発表の方法と要点

※理解度その他によって、授業計画は変更することがある。

●**評価方法**

演習課題の提出レポートを対象に評価する（定期試験は実施しない）

●**受講生へのコメント**

授業は、講義と実際の演習を組み合わせる。演習課題の提出が必須となるので、期日を守って提出すること。電子提出の場合は提出の際のマナー等にも気をつけること。

●**教材**

適宜プリントを配布する。

地図と地理情報

Maps and Geographic Information

(後期 火・2 全)

2単位

文学研究科 木村 義成

●**科目の主題**

地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google MapやYahoo Mapに代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年のIT技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の

位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。

本講義では、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介することで、日々の生活の中で、地理情報がどのように役立つかを理解してもらう。

●授業の到達目標

本講義を受講することにより、地理情報がどのような目的でどのように取得され、どのように活用されているかを自身で考えられるようになることが到達目標である。

●授業内容・授業計画

第1～5回

- ・イントロダクション
- ・GIS (Geographic Information System) とは?
- ・GPS (Global Positioning System) とは?
- ・地理情報の取得方法
- ・地理情報の管理方法
- ・地理情報の表現方法

第6～8回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第9～11回

- ・危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療）における地理情報の利用

第12回

- ・環境分野における地理情報の利用

第13回

- ・マーケティング分野における地理情報の利用

第14回

- ・総括、および全体質疑応答

●評価方法

講義中の課題やレポート等から総合的に評価する。概ね小課題が30%、レポートが70%の配点を予定している。

●受講生へのコメント

日常生活で利用されている地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので、受講されたい。皆さんの従来の地理という教科に対する考え方が変わると確信している。

●教材

講義の中で、定義参考文献を紹介する。なお、自習書としては以下の文献を推薦する。

岡部篤行著『空間情報科学の挑戦』岩波書店、

マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社、

Paul A. Longley, et al.『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

情報化の光と影

Information Age: Its Bright and Dark Sides

(後期 木・2 全)

2単位

医学研究科 中村 肇 他

●科目の主題

今日、インターネットを介してウェブやメールで情報をやり取りすることは、生活に不可欠の行為となっている。しかし私たちはその背後に存在するさまざまな問題について自覚する事が必要である。本科目では、現代社会の情報化に関連した問題について、経営学、経済学、法学、文学、医学という多視点から眺め、その功罪についてともに考えてみたい。

●授業の到達目標

情報化の功罪について多くの分野にわたって見聞を広め、自分の考えを表現できるようにする。

●授業内容・授業計画

全体ガイダンス (1)

各担当教員により授業のガイダンスを行う。

経営学研究科・太田雅晴、テキ林瑜、高田輝子 (2、3、4)

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの関係論を論じる。

- (1) 情報化と企業戦略、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、テキ林瑜
- (3) 情報大規模化の光と影、高田輝子

経済学研究科・中島義裕 (5、6、7)

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。この講義では、最初に経済学の基礎を実験経済学の手法を利用して説明する。需要曲線と供給曲線によって価格が決定されること、このグラフを利用して税金や独占、生産調整など身近なニュースの背景が理解できることを示す。その上で、情報の非対称性が価格形成にもたらす影響と、その解決策について説明する。

法学研究科・国友明彦 (8、9)

情報を不当な模倣から守る法が知的財産法であるが、ここではそのうち最も身近と思われる著作権法を取り上げる。

- 一 知的財産とは何か
- 二 著作権法入門：著作権を保護する理由、何が著作物か、著作権の成立、著作権（財産権）と著作者人格権の違い、著作権の効力、著作隣接権、著作物の自由利用（私的利用のための複製など）
- 三 TPP交渉における著作権関係の問題(今後の交渉の推移により変更する可能性がある)

文学研究科・平田茂樹 (10、11、12)

印刷術の発明、新聞・ラジオ・テレビなどのメディアの発達、そしてインターネットの登場と歴史の中で情報伝達は凄まじい速度で変化している。歴史学の観点から情報伝達の発達と、その背後で展開した管理・支配の問題について取り上げるとともに、現代の情報統

制社会についてあわせて考える予定である。

医学研究科・中村 肇 (13、14)

人は外界の状況を5感でキャッチし、その情報をうまく処理しながら生きている。情報化は単にPCを使いこなすことだけではない。医療は個人の情報を扱うサービス業であるが、医師と患者の間には、医師が圧倒的に情報を多く持つという「情報の非対称性」が存在している。情報時代の現在、患者も簡単に専門情報にアクセスできるようになり、医学知識の情報格差は減少しているが、多くの問題点も存在する。このような医学医療面の情報化について一緒に考えてみたい。評価は、レポートで行う。

レポート作成 (15)

●評価方法

レポート、出席、小テストなど(各講義担当者による)。各担当者が担当1回当たり7.7点で評価したものを合計する。

レポートを提出しなかったり小テストを受けないと、その部分は0点となる。

●受講生へのコメント

出席は必須である。

●教材

必要に応じて掲示、または講義中に配布する。

初年次セミナー

First year Seminar

(前期 1回生のみ)

2単位

大学1回生となった諸君一、諸君は、これから始まろうとする大学生活というものに、きっと、胸をときめかせ、夢をふくらませておられることだろう。大学生活をどのようなものとして実現してゆくか一、それは、諸君の思索と感性とによって、自由にデザインし、細心に・大胆に造型してゆけば、よい。型にはめられた無難より、新しい時代を拓こうとする混沌こそ、若い諸君には、ふさわしい。

しかし、それは、我流を通すということでは、必ずしも、ない。我流を通すことで新しい時代を拓いた、いわゆる天才と称される人々がいたことは、たぶん、確かである。しかし、天才は、大学で学んでなれるものではなく、大学もまた、天才を輩出することを任務とは考えていない。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、諸君の中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をとともにさぐるところである。大学に入られた諸君の前に、共通教育科目・専門教育科目、さらに大学院前期博士課程・後期博士課程が用意されているのは、その目的の実現のためにほかならない。

共通教育では、幅広い教養を身につけることにより、多様な分野と関わりを持つことができる間口の広さを一、専門教育では、選び取った専門分野に関する深い理解を一、大学院においては、当該の専門分野の研究者・専門家の養成を一、それぞれの目的としている。その、まさしく入り口に、諸君は、いま立っているわけである。

果敢に・柔軟に、諸君がそれぞれの道を進んで行くならば、必ずや、諸君は、みずから望む以上の可能性を諸君の中に見出されることであろう。だが、同時に、自分の立っている位置や向かうべき方向がわからず、文字どおり途方に暮れることがあるだろうことも予想される。その状況における真摯な模索こそが、諸君が、これまで形成してきた自分というものの殻から脱皮して、もうひとりで大きく成長するための、言わば生みの苦しみというものであって、諸君の可能性を本物にするための、だれもが経験する試練なのだ。

存分に苦しみなさい。その試練に耐え抜こうとする意志があれば、道は開けるだろう。と同時に、学びの道における少しばかりの先達として、この大学では「初年次セミナー」と名づけられた、これから大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、言わば学び・考えるためのマナーについて、諸君とともに思索する時間を、以下のように用意している。もちろん、こういう趣旨だから、講義を聴くだけというのではなく、少人数のクラ

ス編成でactive learningをめざす時間であり、諸君がそれぞれの道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願をかたちにしたものである。

これら「初年次セミナー」では、通常の授業では必ずしもあらわではない、大学教員の、諸君と同様に迷い・苦しみ、それを克服しようとする姿にふれることもあるだろうし、同輩の人々の、同じ弱さや卓抜する力量に安堵したり発憤させられたりすることもあるだろう。その経験は、諸君がこれから大学生活を豊かなものとして実現してゆかれる際の、よき手引きとなるものであることを願って、今年度は、5名の教員による、5コマの「初年次セミナー」をもって、諸君との道交（感応道交、心ばかりか魂まで結ばれること）をはかろうと目論んでいる。

◎「初年次セミナー」

(前期 火・4)

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題

本授業では、「大学生としての基本的な学びの姿勢」を身につけることを目指している。レポート作成の一連の流れやプロセスに沿って、高校までの学びのあり方とは異なる「大学での学び方」の基本を理解し身につけることを目指す。すなわちレポート作成のプロセスの中で、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝わるように表現することを経験する中で、とくに「自分で考える」ことの重要性に気付いてもらいたいと考えている。また、「自分とは異なる考えを持つ他者とそれらを共有する経験」も重視して授業を進める。

●科目の到達目標

この授業の最終的な目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」である。

「大学生として自ら学び考えること」を学んでほしい!

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

1～2回：ガイダンスとテーマ選定

3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定

6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次提出

9～12回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次提出・発表準備

13～15回：発表と相互評価、最終レポート提出
 毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化・意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センターの活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

●評価方法

授業活動への参加度合、プロセスへの真剣な取り組み、レポート・発表等を総合評価する。最終レポートや発表の評価はもとより、作業プロセスの記録・授業内提出物や資料、レポート作成の途中成果物（第1次草稿・第2次草稿ほか）等を全てファイリング保存して、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業活動への参加度合20%、提出課題20%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%とする。

●受講者へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は15名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んで楽しさを実感してほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方やアプローチがあることを実感してほしい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

◎初年次セミナー

（前期 火・4 1回生のみ） 2単位
 大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題

自らの興味関心を、関連する本を読んだり活動に参加したりすることを通じて問題意識へと練り上げた上で、レポートを作成します。この一連の過程を通じて、大学での学びを拡充させるための基本的な認識とスキルを身につけることを目指します。

●授業の到達目標

- ① 自らの興味関心を、学問的に探究しうる「問い」に変換し、資料を収集分析、批判的に検討するなどして、その問いへの自分なりの答えを探究できること
- ② 自ら立てた問いの意義と回答について、他の受講生と共有し、議論ができること

- ③ 他の受講生の立てた問いを共有し、議論に建設的に参加できること

●授業内容・授業計画

この授業では、上述の目標のために、頭と心と体を総動員して学習する経験を積んでもらいます。そのために、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックの日常プログラム（大阪工業大学で日曜日に開催）に3回以上参加し、1冊以上の文献資料を読んでレポートを作成する「活動参加組」と、活動には参加せずに、3冊以上の文献資料を読み込んでレポートを作成する「学習重点組」に受講生をわけます。どちらの組を選んでもらっても結構です。

- 第1週 ガイダンス
 第2-4週 主に「大学の役割」に関する検討会
 第5-6週 問題設定の絞り込み
 第7-8週 レポートの書き方
 第9-10週 プレゼンテーションの方法
 第11-15週 発表会と相互評価
 第15週 総合的討論

●評価方法

レポート課題、プレゼンテーション、授業での発言状況をもとに評価します。比率は3：3：4です。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。

教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。それがなければ授業が成り立ちませんので、積極的に参加してください。なお、問いを設定する際には「何か面白そう」というだけではなく、「自分にとって大事な問い」を探すようにしてください。

次の2つは、単位認定に値するレポートを作るための現実的な必要条件になりますので、そのつもりで履修登録をしてください。

- ① 遅刻や欠席をせずに授業に参加すること
- ② 自習時間を授業に出席する時間（1週間あたり90分）より多く確保する。

●教材

授業中に、適宜参考資料を配布する。

◎初年次セミナー

（前期 火・5 1回生のみ） 2単位
 理学研究科 高橋 太

●科目の主題

『学び』のためのインターネット

大学での『学び』を効率的に行っていくためには、旧来の書籍・論文等の紙ベース資料のほかに、インターネットを用いた資料検索・収集・利用技術が必要不可欠である。レポートや論文作成・研究情報の収集といった場面でもインターネットがもたらす膨大な情報は大いに参考になるであろう。しかし、最新の検索技術を有する検索

エンジンによる資料収集は、ともすれば学習者を情報の海の中に投げ込み、コピーペーストで見栄えの良いレポートを作成することで満足させてしまいがちである。現代は、個々の学習者が、より注意深く情報の真偽を確かめ、主体的に情報を取捨選択していく必要に迫られている時代だといえる。

このセミナーでは、実際にインターネットを利用して情報検索・収集を行い、「インターネットで学ぶ」技術を学習するとともに、インターネットによる『学び』の様々な問題点を参加する諸君とともに議論し、「どのようにインターネットを創造的な『学び』に活用できるか」を考えていきたい。

●授業の到達目標

インターネットの世界にある種々の情報を検索・入手するだけでなく、「学び」の目標に合わせてより的確な情報源を取捨選択できるようになることがこの授業の最大の到達目標である。また、得られた情報に対して自分の意見や見解を付け加えて、批判的な取り扱いができるようになることも目標の一つである。

●授業内容・授業計画

次の諸点を授業内容とする。各課題において具体的な内容を選定する際には、受講生自らが各自の興味に従って決定する。各課題のあとには全員がすべての参加者の前でプレゼンテーションを行い、発表内容について討論を行う。

- 1) 大学・研究機関・企業等のホームページを訪問し、どのような内容の情報発信がなされているかを調べる。
- 2) 様々な情報検索エンジンを実際に使ってみて、その利点・問題点をまとめる。
- 3) 電子図書館など、インターネット上にある様々な学習・研究資源を調べ、実際に使用してみる。
- 4) インターネット上の百科事典であるWikipediaの未編集項目の一つを選び、文献調査・編集作業を行い、新たな項目としてインターネット上に公開する。

セミナーでは、実際にインターネットに接続した環境でディスカッションやプレゼンテーションを行うので、学術情報センター9階「情報処理演習室」を使用する。

●評価方法

平常点（課題への取り組み・授業参加度）（20%）、発表・討論への参加度（50%）、課題レポート（30%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講生は12名程度とする。インターネットの先は、もちろん【外】の世界なので、学生らしい節度ある行動がとれる人だけが受講して欲しい。担当者自身、コンピュータには全く詳しくなく、受講生諸君と共に学んでいけることを楽しみにしている。

●教材

教科書は使用しない。参考文献などは、授業中に適宜挙げる。

◎初年次セミナー

（前期 木・2 全） 2単位
大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題

身近な自然(キャンパス内の植物)を対象としたフィールドワークを通して、大学での学び方を学びます。

●授業の到達目標

- ① 大学で学ぶための基本的な方法を身につけること
- ② 映像と音声を用いて効果的に自分の考えを第三者に伝える方法(ビデオ番組作成)の基礎を身につけること
- ③ グループでの作業を通して仲間と協力して円滑にチームワークを行えるようになること

●授業内容・授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 身近(キャンパス近辺)な自然に親しむ
- ③ 調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④ プレ・プレゼンテーション
- ⑤ プレ・プレゼンテーション
- ⑥ 効果的なプレゼンテーションの方法1
(④、⑤のプレ・プレゼンテーションをもとに)
- ⑦ 効果的なプレゼンテーションの方法2
- ⑧ 調査
- ⑨ 調査
- ⑩ 調査
- ⑪ 調査
- ⑫ プレゼンテーション準備
- ⑬ リハーサル
- ⑭ 最終プレゼンテーション
- ⑮ まとめ(最終レポート作成)

●評価方法

平常点(授業参加度(20%)、小レポート・中間発表(30%)及び最終レポート・発表(50%))を総合的に評価します。()の数字はおおよその評価の割合を示します。

●受講生へのコメント

受講生は15名までとします。フィールドワークや植物、また映像や音声などのマルチメディアでのプレゼンテーションに興味があり、積極的に授業に参加しようとする人を期待しています(受身の授業を期待している人には不向きです)。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

◎初年次セミナー

(前期 木・3 1回生のみ) 2単位
大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題

本セミナーは、高校性から大学生へ、やがては社会人になるために必要な基礎力を、それぞれの受講生が自分に合った形で学びとることを目指す1回生向けの少人数演習科目である。

なお、本セミナーはactive learning形式(学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式)を採用している。受講生には、積極的にセミナーに参画することを通じて、大人の知的思考方法・知的表現方法・礼節ある討論への参画姿勢を自ら学びとっていただきたい。

●授業の到達目標

本セミナーの到達目標は、「誰かに答えを教えてもらうのではなく、大学および社会で自ら学び行動するために必要な思考力の基礎を確立できること」である。

●授業内容・授業計画

本セミナーでは、個人またはグループで各種active learning課題に取り組む。課題への取組みを通じて、何が問題の本質であるのかを見極めながら(調べる、思考する)、受講生同士で創造的な討論を行い(聴く・話す)、800~2000字程度のレポートをまとめ(書く)、書いたものを相互評価・自己評価し(読む)、自分の知的スキルの強みを把握し、弱みのカバーを目指す。

第1回: ガイダンス+導入課題

第2~3回: 基礎演習1 (ショートプレゼンテーションデザインと実践を通じて、今の自分にできることを知り、もっと伸ばしたいことを把握、整理する)

第4~9回: 基礎演習2 (ミニレポート作成を通じて、テーマに関してつき詰めて考え、調べ、思い込みの域を脱し、根拠を示して表すための基礎を学ぶ)

第10~14回: 基礎演習3 (学生向け企画立案を通じて、解くべき課題を発見し、解決し、成果に結びつけるための現実的具体策を提案する)

第15回: まとめと総合自己評価

なお、本セミナーは、単なるレポートの書き方講座や、発表・討論スキルアップ講座ではない。なぜレポートを書いて表すのか、なぜ発表や討論を行うのか、そもそもなぜものを考えるのかを含め、これから社会に出て行く大人として必要な力とは何かを、さまざまなバックグラウンドをもつ他受講生とともに、各受講生「自らが」「自分なりに」発見するための科目である。

●評価方法

- (1) 平常点(参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等): 80点満点
- (2) 各種課題に関する学生同士の相互評価: 20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講希望者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上のセミナーへの誠実な参画、②節目ごとに行う個人目標とその達成度評価の提出、③ミニレポート(完成版)の提出、の3点が単位認定の最低ラインである。
- ・セミナーの進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提に毎回のセミナーを進行する。
- ・本セミナーは3つのユニットから成っている。授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばしたい/積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。

●教材

- ・教材はセミナー中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講生自身が調査の上、集めて持ち寄る場合もある。

地域実践演習（GATSUN）

Active Learning on local community

（前期・後期 1回生のみ）

2単位

大阪市立大学が文科省の「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたのに伴い、地域が抱える課題を発見し、解決できる人材育成を目標として新設されたのが、「地域実践演習（GATSUN）」である。大阪はさまざまな地域課題を抱えており、それらの課題は相互に関連し、複合化しているため、ひとつの学問分野だけで解決できるものではない。そこで、特定の学問分野を超えて、総合的にアプローチすることが求められる。

学生は専門分野を決めて入学してくるが、本来総合的にアプローチする重要性も認識したうえで、専門分野を学ぶべきであろう。と同時に、「鉄は熱いうちに打て」という諺が示唆するように、入学後できるだけ早い段階において地域で起きているさまざまな問題を自分の問題として認識し、大学生として学ぶ意義、社会貢献を通じて社会とつながっている自分を確認する機会が重要になる。そうした期待を込めて、一回生を対象としてできるだけ多くの学生に地域志向科目の開講と少人数の演習科目である「地域実践演習（GATSUN）」の新設が行われることになった。

ここに示すのは、後者の「地域実践演習（GATSUN）」であり、学習形式として学生が主体的に課題に取り組むアクティブ・ラーニングという考え方を導入し、論理的に考えるスキル、自分の思いを他者に伝えるスキル、他人と協力しながら目的を実現するスキルなどの修得もめざしている。平成26年度は三つ開講される。

集中講義形式、土日現地に出向く開講など、通常授業科目とは少々異なるスケジュールとなるので、各演習のシラバスをよく確認して、演習を真剣に取り組むことと気構えを求める。

◎地域実践演習「GATSUN」Ⅰ

—我孫子町商店会の活性化を通じたまちづくり—

（後期 月・5 1回生のみ） 2単位
経営学研究科 加藤 司 他

●科目の主題

「都市＝地域を背景とした学問創造」をスローガンに掲げてきた本学に入学した学生諸君には、できるだけ早い時期に地域に出かけて欲しい。山積する課題に分け入り、そのうちの一つでも解決することに挑戦して欲しい。大学受験の勉強は、自分のための勉強であり、しかも正解はひとつである。しかし、現実の課題を解決する方法は決してひとつではなく、様々な条件を加味しながら、ベターな解決策が選択されるに過ぎない。もやもやとし

た現実の中から、自ら課題や問題を発見し、それを解決する「楽しさ」を知って欲しい。そして、何よりも自分が社会とつながっていること、自分の学びが社会に役立つこと体得して欲しい。これまで体験したことのない「学問創造」の場が、実践演習「GATSUN」である。

●授業の目標

本講義では、学問創造の「場」をJR我孫子町商店会に設定し、活性化のための課題や解決策を考えてもらう。なお、この講義は、基本的にグループ学習であり、教員と学生、現場の方々との交流を通じて、論理的に考えるスキル、自分の思いを他者に伝えるスキル、他人と協力しながら目的を達成するスキルという、基礎的な学力の修得をめざす。

●授業内容・授業計画

- | | |
|---------|---|
| 1回目 | 講義の概要についての説明(加藤と商店会の代表者)とグループ分け。 |
| 2～4回目 | 商店街の視察、商業者、消費者など地域住民に対するヒアリングの実施。 |
| 5～6回目 | グループごとに、活性化のための課題をどのように設定するかについて、議論。 |
| 7回目 | 中間報告、質疑応答を受ける。初回のプレゼン |
| 8～10回目 | 前回のプレゼンに対する意見を受け、再度提案を練り直す。必要に応じて、ヒアリング、アンケート調査などを実施する。 |
| 11回目 | 中間報告（二回目） |
| 12～14回目 | 中間報告についての意見などを受けて、再度提案の練り直し。 |
| 15回目 | 最終報告会 プレゼンと最優秀提案の決定 |

●評価方法

授業での貢献度（出席、議論、プレゼン）

●受講生へのコメント

- ・受講生は20名とする。
- ・応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。
- ・またグループでの議論、提案を中心とした授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められる。覚悟して、受講すること。
- ・学生の都合を調整しながら、時間外にも調査などを行うことがあるので、参加すること。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

◎地域実践演習「GATSUN」Ⅱ

一住之江・住吉・西成におけるいのちを守る都市づくり実践一

(前期 集中 1回生のみ) 2単位
生活科学研究科 生田 英輔 他

●科目の主題

頻発する自然災害に対して、レジリエント（強靱）な地域づくりがわが国の課題となっている。今後懸念される巨大複合災害には従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの力を生かした地域防災が重視されており、本講座では大阪市立大学周辺の3区において、地域の災害脆弱性および防災上の課題を把握し、地域コミュニティでの防災対策の基礎を実践を通じて学ぶ。

●科目の到達目標

本演習においては、災害事象のメカニズム、地域コミュニティ、公助・共助・自助の仕組みを理解し、課題把握、分析、対策立案能力および平常時・災害時に地域の防災リーダーとして活躍できる能力の取得を目指す。コミュニティ防災には、知識偏重の人材ではなく、コミュニケーション能力に長けた人材が必要であり、学生同士、地域住民、専門職と積極的にコミュニケーションを図ってほしい。加えて、演習の一環として地域の子どもや住民に対して受講生が防災に関する講義を行う。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義する。

- 第1回 ガイダンス コミュニティ防災とは（生田英輔）
- 第2～4回 防災教育拠点「いのちラボ」の制作（森一彦他）
- 第5～7回 地域のリスクを分析する（三田村宗樹・重松孝昌他）
- 第8～10回 災害対応力を養う（渡辺一志他）
- 第11～13回 地域・住宅・避難所の環境を改善する（生田英輔他）
- 第14～15回 成果発表（全教員）

●評価方法

成果発表を原則とするが、講義内容によってレポートを課す場合がある。最高点を100点として、60点以上を合格とする。追試等は原則として行わない。

●受講生へのコメント

応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマでレポートを課す。応募人数が多い時は、レポートにより選抜し、受講生は最大20名とする。

講義は担当教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の演習出席が前提であり、出され

た課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、防災を学ぶ上で自分の災害対応力を知ることが前提であり、災害に関する知識だけでなく、身体能力も含めて現状を把握し、レジリエントな人材に育って欲しい。

●教材

演習では、レジュメ・資料の配布およびスライド、ビデオ等を用いる。また、大阪市立都市防災研究グループ編「いのちを守る都市づくり〔課題編〕および〔アクション編〕」（大阪公立大学共同出版会発行）を教科書等として用いる。

◎地域実践演習「GATSUN」Ⅲ

一紀伊半島新宮市における地域再興、ニューツーリズムの学修一

(前期 月・5 1回生のみ *集中あり) 2単位
都市研究プラザ 水内 俊雄 他

●科目の主題

紀伊半島は大阪の南に大きく広がる世界遺産の宝庫である。隣県の和歌山にありながら、本演習が対象とする新宮市は、東京より、鹿児島より遠い時間距離に位置している。陸路では遠くて不便な遠隔地であるが、太平洋を介して、全国、海外に羽ばたく進取の地でもあった。

「都市＝地域を背景とした学問創造」をスローガンに掲げてきた本学に入学した学生諸君には、都市を考えることは同時に地方のことも考えてもらいたい。そのためには自分の足で、自分の眼で、山積する課題や新鮮な発見を共有しようではないか。合宿型の演習を導入し、できるだけ早い時期に地域に出かけ、人に出会い、日本の地方が抱える問題に分け入り、もやもやとした現実の中から、自ら課題や問題を発見し、それを解決する「楽しさ」を知って欲しい。そして、何よりも自分が社会とつながっていること、自分の学びが社会に役立つこと体得して欲しい。これまで体験したことのない「学問創造」の場が、実践演習「GATSUN」である。

●科目の到達目標

本演習は、地域にはいって体験することから始まる。3度の合宿とそのレポート作成をゴールとして、その合宿に向けたチーム学習と、合宿での集中的な地域との交流が組み込まれている。地域にどこかで刺激を与え、持続可能なビジネスを生み出し、セーフティネットを再編するような仕掛けを継続的に埋め込む実践的な演習であることも目標としている。

●授業内容・授業計画

学習テーマは、和歌山県新宮市を対象にして、①高齢化が著しい中山間地域における農耕による地域再興の学修、②地域経済の衰退の著しい新宮市におけるニューツーリズム（観光）による地域のエンパワーメントの共有という大きく二つから構成される。また宿泊に利用す

初年次教育

る古民家や児童館を取り巻く地域のいくつかの取り組みについても、地域力のエンパワーという観点から学び、ボランティアで実践することを目標としている。

- 1回目 演習の概要についての説明
- 2～3回目 地域に関する情報収集、テーマと関心
- 4～5回目 (5月) 1泊2日の第1回合宿
テーマ①についての合宿
- 6～7回目 第1回の合宿の体験に対する学びと、課題発見に関するブレインストーミング。
自らの課題の発見へ
- 8～9回目 1泊2日の第2回合宿(6月)
テーマ②についての合宿
- 10～11回目 第2回の合宿の体験に対する学びと、課題発見に関するブレインストーミング。
自らの課題発見へ
- 12～14回目 2泊3日～3泊4日の第3回合宿(夏休み実施)
テーマ①、テーマ②、加えて新たに発見・設定したテーマで、個人調査、あるいは

グループ調査

- 15回目 各々の体験、実践のまとめ、プレゼンを通じての設定課題に対する回答を発表(夏休み実施)

●評価方法

授業での貢献度(出席、議論、プレゼン)で評価する。

●受講生へのコメント

- ・応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。最大受講可能数を15名までとする。
- ・またチームプレイを原則にした、遠隔地での調査合宿を含む授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められ、合宿への参加は必須である。
- ・学生の都合を調整しながら、臨機応変な授業実施体制を取ることで、緊密な連絡体制のもとに授業に参加していただくことになる。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

3. 基礎教育科目

線形代数 I

2 単位

Linear Algebra I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 数	前・木・1	河田 成人 (理)	T I 電・建 1～22	前・木・1	河内 明夫 (特任)
S I 物 T I 情 1～32	前・木・1	谷崎 俊之 (理)	T I 建 23～・(都)	前・木・1	加藤 宏尚 (非常勤)
S I (化・生) H I (環)	前・木・1	古澤 昌秋 (理)	T I 機・情 33～	前・木・1	宮地 兵衛 (理)
S I (地) T I (化)	前・木・1	橋本 要 (非常勤)			

科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除去の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。
7. ベクトルの幾何学……空間のベクトルに関する基本事項、空間内の直線、あるいは平面のベクトル表示も解説。
8. ベクトル積……ベクトル解析の基礎として、ベクトル

ル積の定義とその特徴付けを解説する。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、IIとの接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

教科書等

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

三宅敏恒『線形代数学-初歩からジョルダン標準形へ』(培風館)

ハワード・アントン『アントンのやさしい線型代数』(訳: 山下純一、現代数学社)

山形邦夫/和田俱幸『線形代数学入門』(培風館)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

線形代数 II

2 単位

Linear Algebra II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 数	後・木・1	古澤 昌秋 (理)	T I 電・建 1～22	後・木・1	藤井 準二 (理)
S I 物 T I 情 1～32	後・木・1	尾角 正人 (理)	T I 建 23～・(都)	後・木・1	加藤 信 (理)
S I (化地) T I (化) H I (環)	後・木・1	梅本悠莉子 (非常勤)	T I 機・情 33～	後・木・1	秋吉 宏尚 (理)

科目の目標

数ベクトル空間を基盤にして、線形代数の基本的手法を解説する。

授業内容

1. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立およびそれらの判定条件に関する解説。
2. 数ベクトル空間の基底……次元に関する基本事項の解説。
3. 行列の階数……基本変形による階数の計算と関連事項の解説。
4. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式

の解法、特に、同次連立方程式の基本解の理論の解説。

5. 基底変換とその行列……基底変換の一般論、及び空間における直交座標系の取り替えに関する具体例の計算。

6. 線形写像……線形写像の基礎概念と直交変換を素材にした、その図形面での応用。

7. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項、その応用としての行列の対角化 (特に対称行列の場合)、線形差分方程式の解法。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容の重点の置き方が多少変わることがある。

線形代数 I の知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 II の授業を必ず受講すること。

教科書等

線形代数 I と同じものを使う。

解析 I

2 単位

Analysis I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 数	前・火・2	尾角 正人 (理)	T I 電 (建 1 ~ 22)	前・火・2	小松 孝 (特任)
S I 物 T I 情 1 ~ 32	前・火・2	竹内 敦司 (理)	T I (建 23 ~ ・都)	前・火・2	釜江 哲朗 (特任)
S I (化・生) H I (環)	前・火・2	高木 聡 (非常勤)	T I 機・情 33 ~	前・火・2	大仁田 義裕 (理)
S I (地) T I (化)	前・火・2	河内 明夫 (特任)			

科目の目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいべき極限概念や 1 変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分であるから、その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

授業内容

関数や写像の概念から始まり、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限值計算、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、面積や曲線の長さの計算への応用の項目について解説し演習も行う。

そして最後に、これらの極限計算や微積分法の基礎である、実数の完備性や連続関数の諸性質について解説し、解析 II への準備を整える。

評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数などを評価の参考に加えることもある。

コメント

高等学校の数学 III、数学 C の知識を前提とする。解析 I と解析 II の内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析 III、IV の前提にもなっているため、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの解析 I の授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗 / 小松孝共著『解析学 (上)』(学術図書)

三宅敏恒『入門微分積分』(培風館)

ラング『解析入門』(岩波)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 II

2 単位

Analysis II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 数	後・火・2	秋吉 宏尚 (理)	T I 電 (建 1 ~ 22)	後・火・2	大仁田 義裕 (理)
S I 物 T I 情 1 ~ 32	後・火・2	小松 孝 (特任)	T I (建 23 ~ ・都)	後・火・2	藤井 準二 (理)
S I (化・生) H I (環)	後・火・2	山中 仁 (特任)	T I 機・情 33 ~	後・火・2	釜江 哲朗 (特任)
S I (地) T I (化)	後・火・2	兼田 正治 (理)			

科目の目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置に

よって変化するベクトルで表される。

物理現象を記述する言葉として誕生した微分積分学は、

もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。

微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。本科目では、線形代数学との対応に注意しながら、多変数関数の微積分やベクトル解析の中の積分定理について解説を行う。

理工系の学生は、本科目の中で、大学における解析学独特の内容に接することになる。

授業内容

多変数の連続写像、多変数関数の微分、合成関数の微分に関する連鎖律、ヤコビ行列、微分演算子とラプラスアン、テイラーの定理と極値問題、陰関数・逆関数定理、ラグランジュ乗数法、可測性と可積分性、累次積分、多重積分の変数変換公式、広義積分とガンマ関数、線積分と面積分、ガウス・グリーン・ストークスの定理、ポテンシャルと微分形式が授業予定の項目である。ただし、

授業の効率の点から、いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に委ねることもある。

評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、小テストを実施したり、レポート提出を課したり、授業出席回数を記録したりして評価の参考にすることもある。

コメント

予備知識としては解析Ⅰや線形代数学の基本的内容を想定している。

数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ級のクラスの解析Ⅱの授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗／小松 孝共著『解析学（上）』（学術図書）

三宅敏恒『入門微積分』（培風館）

ラング『続 解析入門』（岩波）

担当者によって使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解 析 Ⅲ

2 単位

Analysis III

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SⅡ物・(化・生・地) TⅡ(都)	前・火・1	西尾 昌治(理)	TⅡ機・(化)	前・火・1	藤井 準二(理)
TⅡ(電・情・建) HⅡ(環)	前・火・1	佐官 謙一(理)			

科目の目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

授業内容

2階斉次線形微分方程式、基本解と定数変化法、定数係数線形微分方程式と演算子、行列の指数関数、Laplace

変換による解法、常微分方程式の基本定理、Hamilton系と勾配系、不動点の安定性、解の極限軌道—以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

評価方法

学期末試験の成績によるが、1回の試験での評価の不安定さを軽減するため、授業担当者によっては、小テストを行ったり、演習問題のレポート提出を求めたり、授業出席回数を記録したりすることもある。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）及び線形代数学の基本的内容を想定している。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 IV

2 単位

Analysis IV

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II 物・(化・地) T II (機)	後・火・1	吉田 雅通 (理)	T II (電・情・化・ 建・都) H II (環)	後・火・1	佐官 謙一 (理)

科目の目標

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。

変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的發展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。

複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。

それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。

線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった

複素関数論の理論的美しさを理解することを目標とする。

授業内容

複素平面と複素数の指数関数、正則関数、等角性と1次関数、整級数、Cauchyの積分定理、留数の定積分計算、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理、Laurent展開一が予定の授業項目である。Riemann面、解析接続、調和関数、等は複素関数論の重要項目であるが、授業時間数の制約のため割愛する。

評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが、授業担当者によっては、先行試験、レポート、授業出席回数、等を加えて総合的に評価することもある。

コメント

予備知識としては、微積分学(解析I、II)の基本的内容を想定している。

教科書等

今吉洋一『複素関数概説』(サイエンス社)
釜江哲朗/小松孝共著『解析学(下)』(学術図書)
担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

応用数学 A

2 単位

Applied Mathematics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (物・化) T II 機	前・月・1	小松 孝 (特任)	S II (生・地) T II (化・建・都)	前・月・1	竹内 敦司 (理)
T II (電・情) H II (環)	前・月・1	釜江 哲朗 (特任)			

科目の目標

本科目のテーマは確率・統計である。

統計学の目的は、我々はその性質を知りたいもの集まりがあるが、その全てのものを調べるのが不可能なとき、その集まりから一部を標本として取り出し、この標本から全体の性質を推測する方法を考えることである。一部のものから全体について客観的な判断をするために、統計学が用いられる。理工系の学生にとって、基本的な統計学の応用能力を持つことは必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので、確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。無限の事象があるとき、それらの事象の確率は測度という概念を用いて定義される。

標本は確率測度の定義された空間上の関数として捉えられる。このような数学的定式化は、標本平均や標本分散等の、色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

本科目では、確率論の基礎と統計学の基本的内容を解説し、理工系学生が、有効な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

授業内容

確率の定義、確率変数と期待値、典型的な確率分布、独立確率変数、大数の法則と中心極限定理、正規母集団と統計量、推定、仮説検定(適合度、独立性、分散分析)、回帰分析一以上が授業予定の項目である。

理論的内容についての解説は、統計学の応用に最低限

必要な程度に留める。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）および線形代数学の基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容に近い形式でまとめられている本を、各授業担当者が選んで使用する。

応用数学B

2単位

Applied Mathematics B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ (物) TⅡ (機・電)	後・月・1	小松 孝 (特任)	SⅡ (化・生・地) TⅡ (情・化・建・都) HⅡ (環)	後・月・1	西尾 昌治 (理)

科目の目標

本科目のテーマはFourier解析と偏微分方程式である。

関数をFourier級数やFourier積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するのに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解はFourier変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier級数や特殊関数による展開が用いられる。

授業内容

複素形式の、Fourier級数、Fourier正弦、余弦展開、Fourier変換、Delta関数、物理学における基礎方程式、矩形領域での初期値・境界値問題、Helmholtz方程式とBessel関数・Legendre関数、円筒領域での初期値・境界値問題、Greenの積分公式とLaplace方程式—以上が授業予定の項目である。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、解析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び線形代数学の基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

応用数学C

2単位

Applied Mathematics C

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ (物・化・生・地) TⅡ (機・電・情・化・建) TⅢ (都) HⅡ (環)	後・金・4	藤井 準二 (理)

科目の目標

コンピュータの、個人レベルでの利用が容易になり、実験系・理論系を問わず理科学全般に、さらに幅広い分野で、利用されるようになってきた。また、各方面で利用できるソフトウェアの充実によって、プログラムを自分で組むことなしに、それまで困難だった多くの計算を要する思考実験や、データの統計的な取り扱いも可能になってきた。

しかし、一方踏み込んだ使用を考えるとときには、用意された機能だけでは、役に立たなくなってくる。誤差の累積などにより、計算結果に疑問が生じたとき、あるいは誤差の範囲を厳密に知る必要があるとき、また計算にあまりに多くの時間を要すると思われるときには、その

計算がどのような計算手順（アルゴリズム）でなされているかを知る必要がでてくる。そして、必要によっては、自分でプログラムを組まなければならない。その際に、問題解決のためのアルゴリズムの基本的な知識は不可欠である。

この授業では、問題解決のための基本的なアルゴリズムを学ぶ。そのことによって、使用するプログラム言語によらずに存在する不動小数点演算の誤差の問題、問題解決のための計算量の問題等、アルゴリズム固有のことながら正確に認識できる知識と判断力を養うことが、本講の目的である。

授業内容

コンピュータ関連の入門コースの多くは、プログラム

言語の修得と簡単なプログラミングとなっている。本講義では、応用数学A（確率・統計）、応用数学B（偏微分方程式）に現われる数学的事実からトピックスを選び、コンピュータでの数値計算の数学的側面を講義する。したがって、上記2つの講義単位取得者が望ましく、あくまで数学である事に留意されたい。

もちろん、線形代数、微積分学の知識は前提とされて

いる。

トピックスは正規方程式、モンテカルロ法、偏微分方程式の差分近似法などである。

評価方法

定期試験の成績で決定する。

教科書等

特に指定しない。

基礎数学A

2単位

Basic Mathematics A

〈第1部〉

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
CEIa (CI 001~060) (EI 001~060)	前・月・4	伊達山 正人 (理)	H I (全)	前・火・4	河内 明夫 (特任)
CEIb (CI 061~120) (EI 061~120)	前・月・4	小松 孝 (特任)			
CEIc (CI 121~180) (EI 121~180)	前・月・4	木村 嘉之 (非常勤)			
CEId (CI 181~終) (EI 181~終)	前・月・4	吉脇 理雄 (特任)			

〈第2部〉

クラス	期・曜・時	担当者
CE	前・金・1	兼田 正治 (理)

科目の目標

関数の微分法を中心にして、数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 初等関数の定義とその性質……三角関数、指数関数、対数関数などの代表的な初等関数の定義とその性質を解説。
2. 極限の概念と微分の基礎理論……積の微分、合成関数の微分公式。
3. 初等関数の微分……有理関数、三角関数、指数関数、対数関数などの微分法。
4. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
5. 2変数関数に関する基礎概念……2変数関数の極限と連続性の解説。
6. 偏導関数……2変数関数における偏微分の定義と関連事項の解説。

7. 全微分……2変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの解説。

8. 極値問題（条件付き極値問題、ラグランジュの未定係数法）

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。特に第2部では、受講生数が僅少な場合には、演習を主体としその成績によることもある。

教科書等

田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』（裳華房）

桑村雅隆『微分積分入門』（裳華房）

Pemberton/Rau "Mathematics for Economists" (University of Toronto Press)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

基礎数学B

2 単位

Basic Mathematics B

〈第 1 部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CEIa (CI 001~060) (EI 001~060)	後・月・4	鎌田 聖一 (理)	H I (全)	後・火・4	田中 清喜 (非常勤)
CEIb (CI 061~120) (EI 061~120)	後・月・4	古澤 昌秋 (理)			
CEIc (CI 121~180) (EI 121~180)	後・月・4	河内 明夫 (特任)			
CEId (CI 181~終) (EI 181~終)	後・月・4	釜江 哲朗 (特任)			

〈第 2 部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CE	後・金・1	伊達山 正人 (理)

科目の目標

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質。
3. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性についての解説。
4. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式)
5. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。
6. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項

の解説。

7. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
8. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法。

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

教科書等

- 田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』(裳華房)
 三宅敏恒『線形代数-例とポイント』(培風館)
 Pemberton/Rau "Mathematics for Economists" (University of Toronto Press)
 担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

統計学A

2 単位

Statistics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	前・木・3	福井 充 (医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。

授業内容

統計学の基礎として記述統計、確率分布、検定・推定の考え方についての講義を行う。具体的には

1. 記述統計 (5回) : 度数分布表・ヒストグラム・散布図、平均・分散・標準偏差・相関係数・回帰直線
2. 確率分布 (4回) : 確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布 (正規分布・二項分布・ポアソン分布)

3. 検定・推定の考え方 (6回) : (1母集団の母比率の検定・推定を例に) 有意水準と検出力、片側検定と両側検定、棄却域、P値、点推定、区間推定
演習は講義時間内に適時行う。

評価方法

定期試験 (80%程度) とレポート (20%程度) で評価する。

コメント

解析学 (微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること (詳細は授業時に指示)

教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学B、3・4回生での医学統計学でも使用する。

統計学B

2単位

Statistics B

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・木・3	福井 充(医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

授業内容

各種統計的手法の適用についての講義を行う。具体的には

1. 1つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定(2回)
2. 2つの正規母集団の母平均・母分散の比較(3回)
3. 2つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定(3回)
4. 2つの母集団の母比率の比較(4回)
5. 独立性の検定(1回)

6. 適合度検定(2回)

演習は講義時間内に適時行う。

評価方法

定期試験で評価する。

コメント

解析学(微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。また、統計学Aでの講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること

教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学A、3・4回生での医学統計学でも使用する。

基礎物理学 I

4単位

Basic Physics I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SI物(数地)	前・月1・金4	西川 裕規(理)	TI機	前・月1・金4	牲川 章(特任)
SI(化生)TI電	前・月1・金4	中川 道夫(非常勤)	TI建(情)	前・月1・金4	河合 俊治(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象として、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、演習により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン力による散乱
5. 角運動量：角運動量と力のモーメント

6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量

7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント

8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

上記の内容等は、受講者諸氏の理解度等に応じて変更する場合もある。

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

教科書等

戸田盛和著『力学』(岩波書店)を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

基礎物理学 II

4 単位

Basic Physics II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 物(数化生地)	後・月 1・金 4	中尾 憲一 (理)	T I 電(情)	後・月 1・金 4	飯田 武 (非常勤)
T I (機)	後・月 1・金 4	河合 俊治 (非常勤)			

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

授業内容

1. 静電場

- ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
- ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
- ・コンデンサー、・誘電率

2. 定常電流

- ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則

3. 電流と磁場

- ・磁場、・磁場に関するガウスの法則、
- ・アンペールの法則、・ビオ・サバールの法則、

- ・ローレンツ力、・磁気双極子、・透磁率、
- ・変位電流

4. 電磁誘導と準定常電流

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、
- ・過渡現象

5. 電磁気学の基本法則

- ・マクスウェルの方程式、・電磁波

評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

教科書等

教科書として「砂川重信著『電磁気学 [改訂版] 初めて学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

基礎物理学 I - A

2 単位

Basic Physics I - A

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物 T I 電	後・水・1	糸山 浩 (理)

科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は振動及び波動の講義である。基礎物理学 I の発展と位置付けられると同時に、「場」という概念の導入にもなっている。マクロな古典的現象を対象にし、波動に関しては初歩から始め、多くの例を取り扱う。

授業内容

1. 力学と振動：単振動と減衰振動、強制振動と減衰項付きの強制振動、仕事率、パラメータ励振、固有値問題としての連成振動、連成振動の一般論、連続極限

2. 波動 (1 次元)：弦の微小振動と一般解、初期値問題、境界条件、流体中の音波、定常波と変数分離、フーリエ展開、分散と群速度、波のエネルギーと運動量

3. 多成分・空間 2, 3 次元への拡張：粒子と場、ベクトルとテンソル、弾性体と流体、物体の変形と歪テンソル、応力テンソル、フック則、等方媒質中の弾性波

4. 横波ベクトルとしての電磁波

5. 幾何光学極限と回折・干渉

評価方法

試験及び宿題による。

コメント

基礎物理学 I の履修を前提とする。

参考書

「親切的な物理 (下) 渡辺久夫著」。高校の物理からの橋渡しとして；「振動と波動」(岩波書店) 寺沢徳雄、中級標準的な振動・波動の教科書；「波動」(東大出版会) 岩本文明、上記書よりやや進んだ数学的記述を含む。どちらも 2, 3 年次に進んでも有用な本。

基礎物理学Ⅱ-A

2単位

Basic Physics II-A

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ物 TⅡ(電)	前・水・3	西川 裕規(理)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅡのAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義で、Maxwell方程式の微分形を使いこなせるようになることを目標とする。そのために必要なベクトル解析をも学習する。また、理解を深めると共に応用力をつけるために演習を行う。なお下記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

授業内容

- ベクトル解析の基礎
 - 場と線積分、面積分、体積積分、Gauss、Stokesの定理とMaxwell方程式、電荷保存則の微分形、
 - ベクトル解析の計算、スカラーポテンシャルとベクトルポテンシャル
- 電磁場の波数・周波数分解
 - Fourier解析入門、微分形Maxwell方程式のFourier表示、源なしの電磁場(電磁波)、源を既知とした時の電磁場(Laplacian, d'AlembertianのGreen関数)

3. 電磁場と荷電粒子系

- 電磁ポテンシャル、場の解析力学、場の保存量(電磁エネルギー、電磁運動量等)

4. 電磁気学と特殊相対性理論

- Einsteinの相対性原理とLorentz変換、Maxwell方程式、電荷保存則の書換え、物理法則の共変性、場の変換、テンソル解析入門

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。

教科書等

教科書、参考書等として、砂川重信著『理論電磁気学』(紀伊国屋書店)、太田浩一著『電磁気学の基礎Ⅰ、Ⅱ』(東京大学出版会)、高橋康著『電磁気学再入門』(講談社サイエンティフィク)、戸田盛和著『理工系の数学入門コース3 ベクトル解析』(岩波書店)、井田大輔著『ベクトル解析と微分形式』(東洋書店)、深谷賢治著『電磁場とベクトル解析』(岩波書店)等を挙げる。

基礎物理学Ⅰ-E

2単位

Basic Physics I-E

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SⅠ(数化生) S低(地) H低(食環)	前・月・1	櫻木 弘之(理)	TⅠ(都)	前・月・1	大橋 圭介(特任)
TⅠ(化)	前・月・1	竹内 宏光(理)			

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

- 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
- 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
- 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
- いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動

5. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存

6. 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量

7. 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動

8. 剛体のつりあいと回転

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

教科書等

長岡洋介著『物理の基礎』(東京教学社)を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅱ-E

2単位

Basic Physics II-E

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生選) S低(地) H低(食環)	後・月・1	丸 信人(理)	T I (化建)	後・月・1	牲川 章(特任)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。

授業内容

1. 電荷と静電場

- ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
- ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
- ・コンデンサー

2. 定常電流と静磁場

- ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則、
- ・磁場、・ローレンツ力、・ビオ・サバルの法則、

- ・磁気双極子、・アンペールの法則

3. 電磁誘導

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導

4. 電磁気学の基本法則

- ・変位電流、・マクスウェルの方程式、・電磁波

評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

教科書等

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』(東京教学社)」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅲ

2単位

Basic Physics III

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 物 (数化生地)	前・水・1	矢野 英雄(理)	T II (機情)	前・水・1	畑 徹(理)
T II 電	前・水・1	中川 道夫(非常勤)	T II (化建都)	前・水・1	飯田 武(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた現象論としての熱力学を学習する。熱力学の基本法則である第1、第2、第3法則、熱力学諸関数、物質中の電子運動にも適用できる気体分子運動論が理解できる。

授業内容

第1週～第2週 (熱現象と熱力学)

- ・熱平衡と温度、・状態量、・理想気体の状態方程式
- ・ファンデルワールの状態方程式

第3週～第5週 (熱力学第1法則)

- ・準静的過程、・熱力学第1法則、・内部エネルギー、
- ・熱容量と比熱、・等温過程、・断熱過程、・カルノーサイクル

第6週～第7週 (熱力学の第2法則)

- ・可逆と不可逆過程、・熱力学の第2法則、・熱機関の

- 効率、・熱力学温度、・クラジウスの不等式

第8週～第10週 (エントロピー)

- ・エントロピー、・エントロピー増大の法則、不可逆性と確率論的意味、・微視的状态

第11週～第12週 (熱力学関数)

- ・エンタルピー、・自由エネルギー、・熱平衡

第13週～第15週 (気体分子運動論)

- ・エネルギー等分配の法則、・速度の分布則

評価方法

主として期末試験により評価する。

教科書等

教科書として「國友正和著、基礎熱力学 (共立出版)」を使用する。また、副読本として「R. A. Serway著、松村訳『科学者と技術者のための物理学Ⅱ熱力学』(学術図書出版社)」を使用する。演習書を指定する場合がある。また、参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ

2単位

Basic Physics IV

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ物(数化生地) TⅡ(機) TⅣ(建)	後・水・1	牲川 章(特任)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。特に、量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

授業内容

1. 古典物理学の限界：光の粒子性、電子の波動性、粒子性と波動性の二重性、ド・ブロイの関係式
2. シュレディンガー方程式：古典的波動方程式、自由粒子のシュレディンガー方程式と平面波、物理量と演算子、時間に依存するシュレディンガー方程式、波動関数と確率解釈、確率の保存則、波束とフーリエ変換、ディラックのデルタ関数
3. 定常状態のシュレディンガー方程式：演算子の固有

値と固有関数、時間に依存しないシュレディンガー方程式、束縛状態と非束縛状態

4. 1次元問題1(束縛状態)：変数分離と1次元のシュレディンガー方程式、井戸型ポテンシャル、調和振動子ポテンシャル
5. 1次元問題2(反射と透過)：1次元の自由運動、階段型ポテンシャルによる反射と透過、ポテンシャル障壁の透過(トンネル効果)
6. 3次元問題：球対称ポテンシャル中の粒子運動、球座標によるシュレディンガー方程式、球面調和関数と軌道角運動量、動径方向のシュレディンガー方程式

評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

コメント

基礎物理学Ⅰと解析学の基礎が理解されていることを前提に講義を行う。特に振動・波動の学習を推奨する。

教科書等

原康夫著『量子力学』(岩波基礎物理学シリーズ⑤、岩波書店)。また参考図書・演習書等を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ-E

2単位

Basic Physics IV-E

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ(数化生地) TⅡ(機化情) TⅣ(建)	後・水・1	飯田 武(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、特に現代物理学が解明したミクロの世界における重要な物理現象や、そこから基礎法則を導出した量子論の概略と、その物質系への応用例を概説する。さらに研究の最前線のトピックスを紹介する。授業は下記の項目の中から適宜選択しておこなう。

授業内容

1. 光の粒子性：熱放射とエネルギー量子、光電効果、コンプトン効果
2. 電子の波動性：ド・ブロイ波、アインシュタイン-ド・ブロイの関係式
3. 粒子性と波動性の二重性
4. 量子力学入門：シュレディンガー方程式、波動関数の解釈、エネルギー固有状態、多粒子系(フェルミ

統計とボーズ統計)

5. 物質の構造：原子、分子、固体の成り立ちと電子状態
6. 物理学最前線：量子現象のトピックス(超流動、超伝導、レーザーなどの中から進度に応じて選択)

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学ⅠおよびⅡが履修されていることを前提に講義を進める。高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅰ、Ⅱの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

講義は基本的にはプリントに沿って行う。

教科書等

参考書：長岡洋介著『基礎物理学シリーズ 現代物理学』(東京数学社)

物理学 I

2 単位

Introduction to Physics I

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	前・木・1	牲川 章 (特任)

科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学 I では、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

授業内容

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方、・物理量の表し方
2. 運動の記述
 - ・速度、・加速度、・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第 1, 2, 3 法則

4. 力と運動

- ・運動方程式とその解

5. 振動

- ・単振動、・減衰振動、・強制振動

6. 仕事とエネルギー

- ・仕事、・エネルギー、・保存力、・エネルギー保存則

7. 回転運動

- ・角運動量、・回転運動の法則

8. 剛体の力学

- ・剛体の運動方程式、慣性モーメント

9. 見かけの力

- ・加速度系からみた運動

10. 波動と光

評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

教科書等

教科書として、原 康夫著『(第 4 版) 物理学基礎』(学術図書出版社) を用いる。

物理学 II

2 単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・木・1	高橋 保 (非常勤)

科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学 II では、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

授業内容

1. 真空中の静電場
 - ・電荷、・クーロンの法則、・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
 - ・導体、・誘電体、・キャパシター
3. 電流と回路

- ・オームの法則、・キルヒホッフの法則、・CR回路

4. 電流と磁場

- ・電流のつくる磁場、・ローレンツ力、
- ・ビオーサバールの法則、・磁場のガウスの法則
- ・アンペールの法則

5. 電磁誘導

- ・電磁誘導の法則、・自己誘導、・相互誘導

6. マクスウェル方程式と電磁波

7. 現代物理学の概要

- ・相対性理論、・ミクロの世界と量子論、
- ・原子核と素粒子

評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

教科書等

教科書として、原 康夫著『(第 4 版) 物理学基礎』(学術図書出版社) を用いる。

物理学A

2単位

Physics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・火・3	木村 政継 (医)

科目の目標

物理学的な「自然観」或いは「世界観」は自然科学の分野だけでなく、広い領域に採り入れられているが、医学部においては総合化の視点に立ってとらえなければならない。物理学I（理学部担当）において力学の基礎を学び、それと並列に行う物理学Aでは熱力学を中心に学ぶことになる。熱力学は、直感的概念からスタートしながら量子力学によって初めて理解される内容まで含んでおり、一般に分かりにくいとされているが、生化学反応や種々の物理現象の理解の基礎となる分野であることに留意しつつ、分かりやすい講義を心がける。

授業内容

1. 数学的補足：微分方程式に慣れる
2. ファンデルワールスの状態方程式
3. 熱学
4. 熱力学第一法則
5. 熱機関の効率
6. エントロピー
7. 熱力学第二法則

8. 分子運動論
9. 等重率の原理とカノニカル分布
10. エンタルピーと反応熱
11. 自由エネルギー
12. 相平衡
13. 化学平衡
14. 質量作用の法則と生化学反応
15. 電気化学的応用

評価方法

試験の成績に、平常の演習及び出席点を加味して評価する。

コメント

高等学校で微・積分学をある程度学んでいることを前提とするが、熱力学を学ぶうえで十分とは言えないので、補足する。

教科書等

教科書として、医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用し、適宜、プリント教材で補う。

物理学B

2単位

Physics B

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・火・4	木村 政継 (医)

科目の目標

原子と原子核の物理は、医学的診断や癌治療に広く利用されている放射線をはじめとして、医学的重要性が高い。医学系物理の締めくくりとして、近代物理学的な視点から医学的応用も含めて幅広く解説する。

授業内容

1. 特殊相対性理論(1)
2. 特殊相対性理論(2)
3. 熱放射と光子
4. 原子の構造
5. 量子力学の成立
6. 磁場の中の電子
7. ESRとNMR
8. 磁気共鳴イメージング
9. 原子核と加速器

10. X線の発生
11. X線の物理
12. 放射線の物理
13. 放射線の管理(1)
14. 放射線の管理(2)

評価方法

試験の成績に、演習と出席状況を多少加味して評価する。

コメント

この分野は医療や医学的研究の基礎としてきわめて重要である。

教科書等

プリント教材をメインとしつつ、教科書として医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用する。
参考書：アイソトープ手帳（日本アイソトープ協会編、丸善）。

入門物理学Ⅰ

2単位

Introduction to Physics I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低 (地) T I (化)	前・月・1	浜端 広充 (理)	H低 (食環) M I 看	前・月・1	清矢 良浩 (理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方を述べ、項目として、

- 1) 速度と加速度
速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動
- 2) 運動の法則 (ニュートンの運動の法則)
座標系、ベクトル、運動の法則、力、放物運動
- 3) 周期運動
周期運動、単振動、単振り子、等速円運動
- 4) 力と運動、エネルギー

力と仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則

- 5) 剛体の運動
剛体、慣性モーメント、重心の運動、回転運動
- 6) 熱と温度
熱、温度、状態方程式、プランクの法則、熱力学の法則

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、本科目が必修あるいは選択必修に指定されていない場合、基礎物理学Ⅰ-Eを履修すること。

教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

入門物理学Ⅱ

2単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低 (地) T I (化)	後・月・1	大橋 圭介 (特任)	H低 (食環)	後・月・1	櫻木 弘之 (理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、

相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
電荷と電気力、電荷の保存則、静電誘導、クーロンの法則
- 2) 電場
電場、ガウスの法則
- 3) 電位
位置エネルギー、電位と電位差
- 4) 誘電体とキャパシタ
キャパシタ、電気容量、電場のエネルギー、誘電体と電場
- 5) 電流とオームの法則
電流、起電力、オームの法則

- 6) 電流と磁場
磁場、アンペールの法則、磁気力
- 7) 電磁誘導
電磁誘導、誘導起電力、磁場のエネルギー
- 8) 新しい物理学の展開
光・電子の二重性、不確定原理、相対性理論、原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

入門物理学実験

2単位

Introductory Physics Experiments

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S低 (数化生地) H I食 (環)	後・金・3～4	杉崎 満 (理) 山本 和弘 (理) 唐沢 力 (特任)

科目の目標

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」: ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」: 電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。

「ニュートンリング」: ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」: スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」: ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学II-Eを履修すること。

教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

観測する。「電気素量」: 電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」: GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した、必修以外の学生は、基礎物理学実験Iを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験IIおよび物理学実験SBを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Iおよび物理学実験SAを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験IIもしくは物理学実験SBを履修すること。

教科書等

本学理学部物理学科実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

基礎物理学実験 I

3 単位

Basic Physics Experiments I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 物 T I (機 ^① 都)	前・火・3～5	小原 颯 (理) 中野 英一 (理) 川上 三郎 (特任)	S 低 (数化生地) T I 電 (建化) H I (環)	後・火・3～5	小原 颯 (理) 川上 三郎 (特任)
T I 情 (機 ^②)	前・木・3～5	丸 信人 (理) 山本 和弘 (理) 川上 三郎 (特任)			

①学籍番号奇数の学生、②学籍番号偶数の学生

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験 I は高校で物理学を履修した学生を対象とする。1 回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2 回目以降は、前半・後半各 6 テーマとして、1 回 1 テーマ、原則として 2 名 1 組で実験を行い、レポートを作成する。

前半テーマ

「剛体の等加速度運動」: 斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」: ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」: スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。

「熱の仕事当量」: 電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」: ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」: ダイオードの電圧 - 電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

後半テーマ

「ヤング率・剛性率」: 力による金属の伸びや曲がりからヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」: 電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、

および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」: 金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスタの特性」: トランジスタの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」: 電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」: GM 計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは 1 週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

機械工学科の学生は火曜クラスと木曜クラスに分かれる。学籍番号奇数の人は火曜クラスを、偶数の人は木曜クラスを受講すること。

本科目を修得したものは基礎物理学実験 II あるいは物理学実験 S B を受講することができる。また、本科目を履修した者は、物理学実験 S A を履修することはできない。必要な場合は物理学実験 S B を履修すること。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I、II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第 3 版』(東京教学社)

基礎物理学実験Ⅱ

3 単位

Basic Physics Experiments II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
TⅡ電(情) SⅡ(化)	前・月・3～5	萩尾 彰一(理) 唐沢 力(特任)
SⅡ物(数生地) TⅡ(機)	後・月・3～5	杉崎 満(理) 川上 三郎(特任)

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」: 大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」: パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速を直接測定する。「光の回折」: レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。

「過渡現象と交流回路」: 抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象の時定数の測定、位相差の測定、インダクタンスの測定から交流についての理解を深める。「差動増幅器」: OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」: 波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」: 強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」: 電磁場中での荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。

「レーザー」: 固体レーザーの発振の様子や第二高調波発生を観測を通して、非線形光学の基礎を学ぶ。「真空」: 低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」: 黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」: 水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」: シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰ(それに相当したもの)を修得していなければならない。また、本科目を履修した者は、原則として、物理学実験S Bの履修を認めない。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅰ、Ⅱの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

基礎物理化学A

2 単位

Basic Physical Chemistry A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SⅠ化	前・水・1	宮原 郁子(理)、 塩見 大輔(理)	MⅠ医	前・水・1	神谷 信夫(理)
TⅠ(機電)	前・水・1	佐藤 和信(理)	HⅠ(食環)TⅡ(都)	前・水・1	麻田 俊雄(非常勤)
SⅠ(数物生地) TⅠ(情建)	後・木・3	麻田 俊雄(非常勤)			

科目の目標

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解することを目標として、ミクロな視点から物質を理解する

ために必要な化学の基本概念を学ぶ。

授業内容

- 第1～4回 原子の構造と量子論の基礎
- 第5～7回 二原子分子の化学結合—共有結合とイオン結合
- 第8、9回 三原子分子と結合角—分子を曲げる力の謎

第10～12回 分子軌道法と混成—多原子分子の構造

第13～14回 分子間に働く力

評価方法

試験の成績に出席状況を加味して評価する。

教科書等

適宜、資料プリントを配布する。

参考書：P. W. アトキンス著「物理化学（上）」（東京化学同人）（S I化）

基礎物理化学B

2単位

Basic Physical Chemistry B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I化（教物生地）	後・水・2	豊田 和男（理）	T I（建都電） H I（食環）	後・水・2	宮崎 裕司（非常勤）

科目の目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解して、循環過程が成立する条件を学ぶ。また、自由エネルギー概念を導入して、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

授業内容

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力

を養う。

1. 系と環境 2. 熱力学第1法則（内部エネルギー、熱、仕事） 3. 熱平衡と温度 4. 状態の記述（熱力学的平衡、状態量、可逆過程と不可逆過程） 5. 蒸気機関の改良とカルノー・サイクル 6. 熱力学第2法則 7. エントロピー概念と熱力学温度の確立 8. 不可逆過程とエントロピー 9. 循環過程の成立条件 10. 閉じた系の熱力学（エンタルピー、熱容量、自由エネルギー）

評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

教科書等

初回の講義で指示する。

基礎有機化学

2単位

Fundamental Organic Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
T I（機・建・電・都）	前・水・2	古市 公彬（非常勤）

科目の目標

我々の身の回りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。近年、これらの化合物について基本的性質を知りその働きを理解することは、化学を専門としない理系の学生にとっても必要となってきている。ここでは化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化学の基本概念の習得を目標として有機化合物における官能基とその性質・反応性について系統的に解説を行い、有機化合物についての理解を深める。

授業内容

1. 結合と構造異性、2. アルカンとシクロアルカン、アルカンとアルキン、3. 芳香族化合物、4. 立体異性、5. 有機ハロゲン化合物、6. アルコール、フェノール、とチオール、7. エーテルとエポキド、8. アルデヒドとケトン、9. カルボン酸とその誘導体、10. アミンとそれに関連した窒素化合物などの各論を系統的に講義す

る。

評価方法

試験の成績、授業中のテストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

コメント

有機化学の最初の時間で学ぶ 1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また参考書の演習問題を解くことによって知識を自分のものとするができる。

教科書等

参考書としてH.ハート/D.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣也/奥 彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎有機化学Ⅰ

2単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 化 (数物生地)	前・月・2	坂口 和彦 (理)

科目の目標

有機化合物は自然界に広く存在し、我々の生活に深く関わっている。有機化学は、この有機化合物を理解し扱う学問分野である。本講義では、有機化学の基礎を体系的に学習する中で、特に有機化合物の「かたち」と「性質」を理解することを目指す。専門科目としての有機化学への入門としても位置づけられる科目である。

授業内容

1. 結合と構造異性
2. アルカンとシクロアルカン
3. アルケンとアルキン
4. 芳香族化合物
5. 立体異性
6. 有機ハロゲン化合物
7. アルコールとフェ

ノール

評価方法

試験の成績、出席点、授業中の小テストなどを総合的に評価する。

コメント

学習内容を理解し身につけるには、演習問題を解くことが重要である。

教科書等

H. ハート/L.E. クレーン/D.J. ハート著・秋葉欣哉/奥彬 共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎有機化学Ⅱ

2単位

Basic Organic Chemistry II

クラス	期・曜・時	担当者
S I 化 (数物生地)	後・月・2	小寄 正敏 (理) 飯尾 英夫 (理)

科目の目標

基礎有機化学Ⅰに継続する科目であり、Ⅰ、Ⅱを連続して受講することにより、有機化学全体の基礎概念を修得出来る。種々の官能基を持つ化合物の構造、性質、反応について系統的に学び、有機化学の理解を深める。

授業内容

1. エーテルとエポキシド
2. アルデヒドとケトン
3. カルボン酸とその誘導体
4. アミン
5. 複素環化合物
6. 脂質
7. 炭水化物
8. アミノ酸、ペプチド、

タンパク質 9. ヌクレオチドと核酸

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習

コメント

基礎有機化学Ⅰを受講しておくこと。授業終了後演習問題を解いて、よく復習すること。

教科書等

H. ハート著・秋葉欣也・奥彬共訳 [ハート基礎有機化学] (培風館)

基礎無機化学

2単位

Basic Inorganic Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 化	前・水・2	鎌田 幸司 (特任)	M I 医	後・水・1	市村 彰男 (非常勤)
S II (数物生地) T II (機電建都情)	前・火・4	磯邊 清 (非常勤)			

科目の目標

無機化学は、無機化合物の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。近年では、生命科学や最先端の科学技術においてもその重要性が認識されつつある。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的

な考え方を習得する。

授業内容

S II 化クラス：

無機化学の基礎を理解するため、原子構造と分子構造、分子の形と対称性、固体の構造、配位化合物 (金属錯体) などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾

何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物、錯体の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

MI 医クラス：

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

コメント：適宜中間テストを行い、理解度をチェックしながら進める。

S II (数物生地) T II (機電建都情) クラス：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素（非金属

元素）や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や固体無機物質、金属酵素などに焦点をあて、無機化学的観点から生命科学や最先端の科学技術の理解に役立つ授業内容とする。

評価方法

出席状況、レポート、試験などの成績を総合的に評価する。

教科書

(S II 化)

シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

(S II (数物生地))、(T II (機電建都情))

三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

参考書

(S II 化)、(MI 医)

三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(S II (数物生地))、(T II (機電建都情))

シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

基礎分析化学

2 単位

Basic Analytical Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 化	前・金・3	坪井 泰之 (理)	T II (都) H II (食環)	前・金・3	市村 彰男 (非常勤)

科目の目標

分析化学は、物質の分離、キャラクタリゼーション、定量分析などの方法論を研究開発する学問分野である。分析化学では水溶液中の化学反応を利用することが多いので、溶液内イオン平衡をすることが基本となる。

授業内容

溶液内反応に基づく分析法の基礎理論と平衡計算：酸・塩基平衡、錯形成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡を含む、溶液内平衡を理解する。そしてこれら平衡の問題を解くために厳密な取り扱いを習得した後、近似法、図的法、数値法、コンピュータ法などの各種の解法を学ぶ。また、それぞれの平衡反応を用いる滴定（中和滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定）を定量的に取り

扱う。

評価方法

定期試験、中間試験、レポートなど

コメント

指数、対数、平方根等が計算可能な関数電卓を使用できることが望ましい。

教科書等

教科書：姫野貞之、市村彰男著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』第2版（化学同人）

参考書：土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学 I 基礎』(丸善)、H. Freiser, “Concepts and Calculation in Analytical Chemistry” (CRC)

基礎有機化学M

2 単位

Fundamental Organic Chemistry M

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・火・3	大船 泰史 (非常勤)

科目の目標

生体においては、さまざまな有機化学反応が細胞という名のフラスコのなかで起こっている。これらの反応は有機化学の原理にしたがう。

本講義では、有機化合物の構造と性質、反応、合成の理解を基礎として、生命科学に不可欠な生体を構成する化合物（炭水化物、タンパク質・酵素、核酸などの高分子化合物）や分子集合体(膜)および医薬品の有機化学に

ついて学習する。

授業内容

1. 有機化学の基本概念：電子構造と共有結合、酸と塩基 2. アルカン、アルケン、アルキンの構造と反応 3. 異性体と立体化学、共鳴理論と芳香性 4. 各種官能基の性質と置換反応および脱離反応 5. カルボニル化合物の反応と合成 6. 炭水化物、アミノ酸・ペプチド・

タンパク質、脂質の有機化学 7. 酵素・補酵素と代謝の有機化学 8. 核酸の化学 9. 医薬品の有機化学

評価方法

試験、演習、出席状況などを総合的に評価する。

教科書等

教科書：Paula Y. Bruice著「ブルース有機化学概説第2版」（化学同人）

入門化学

2単位

Introduction to Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
MI看 SI (数物生地)	前・月・2	中澤 重顕 (特任)

科目の目標

化学を専門としない理系学生を対象とした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生が高校レベルの化学の知識を越え、かつ現代化学が理解できるように講義する。高校程度の基礎からはじめ、元素の周期表なども短期間で記憶し同時に、現代化学の体系の基礎を習得することを目指す。医薬品、化粧品、化学添加物をはじめ、日常に溢れる化学物質を理解できるように化学・分子の世界を概観し分子の世界の法則を大まかに理解できるようになるとともに、最先端の化学研究の一端に触れることにより、最終的には自ら化学について思考できるように化学の基礎的概念のイメージを習得する。

物質社会の根底にある化学・分子の法則とはどのようなものか、分子の形がどのようにして機能と結びついているか、化学が日常生活で果している役割などを学ぶことを通じて、化学の面白さ・学問的な深さを知り、化学を身近で親しみのある科目にする。

授業内容

1. 原子・分子・微視的粒子の世界の法則

2. 化学に強くなる「化学の基礎」
 3. 元素の周期表を全部丸ごと憶える
 4. 化学結合と分子を理解のための初歩的量子化学
 5. 金属イオンを含む化合物・配位化合物の化学
 6. 現代の有機化学の基礎と日常生活
 7. 光学異性体の不思議と化学
 8. タンパク質とDNAの分子科学・分子進化
 9. 化学反応とエネルギー・熱・温度・光
 10. 化学のために初歩的熱力学
 11. 料理の化学
 12. 化粧品の化学
 13. 元素戦略
- 各項目を1、2週で行う。

評価方法

小テストと定期試験。

成績は主に定期試験で評価する。

教材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

基礎化学実験 I

3単位

Basic Chemistry Experiments I

クラス	期・曜・時	担当者
T I 化 (建)	前・火・3～5	宮原 郁子 (理)・坂口 和彦 (理)・廣津 昌和 (理)・坪井 泰之 (理) 他
S 低 (数物生地) T I (都)	後・火・3～5	宮原 郁子 (理)・坂口 和彦 (理)・廣津 昌和 (理)・坪井 泰之 (理) 他
T II (情) H I 食 (環)	前・木・3～5	宮原 郁子 (理)・坂口 和彦 (理)・廣津 昌和 (理)・坪井 泰之 (理) 他
S I 化 T II (機) S I (選) T I (電)	後・木・3～5	宮原 郁子 (理)・坂口 和彦 (理)・廣津 昌和 (理)・坪井 泰之 (理) 他

科目の目標

身近の物質変化を基にした基礎的実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。

実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

授業内容

1. 「ガイドンス」: 実験内容の説明と安全指導
- 2～6. 陽イオンの定性分析実験: (1) 銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析と各イオンの確認 (2) 沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等
7. 原子スペクトル分析実験: 原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析
- 8～11. 有機化合物の合成実験: (1) 有機実験基本操作法 (2) 純物質の単離・精製実験 “アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出” (3) 機能性物質の合成実験 “メチルオレンジの合成” (4) 酢酸イソアミルの合成
- 12～14. 物理化学実験: (1) 「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる (2) 酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する (3) 実験結果のまとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

評価方法

毎回出欠の確認をとり、実験後は口頭試問やレポートの提出を義務づけている。

コメント

高校化学1レベルの知識を必要とする。受講希望者が化学実験室の定員を越える場合は、選択科目として受講する者について抽選を行い、受講人数を制限する。各実験のはじめに指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験ののぞむべきである。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。補講に相当する追加実験は提供しない。履修希望者は必ず初回のガイドンスに参加し、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険および付帯賠償責任保険に必ず加入していること。

教科書等

『改訂二版 基礎化学実験』(大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編、2014、ふくろう出版)

基礎化学実験Ⅱ

3単位

Basic Chemistry Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(化)	前・月・3～5	篠田 哲史(理)・塩見 大輔(理)・館 祥光(理)他
SⅡ化	後・月・3～5	篠田 哲史(理)・松下 叔夫(理)・館 祥光(理)他

科目の目標

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ねて組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいことも、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

授業内容

TⅡ(化)クラス

- 第1週 「ガイドンス」: 実験内容の説明と安全指導。
- 第2～4週: 遷移金属錯体の合成とその性質・機器を用いた陰イオンの分離や定性分析。
- 第5～9週: 芳香族化合物の合成とスペクトル解析・量子化学計算。
- 第10～11週: 微粒子のブラウン運動の観察・拡散定数およびアボガドロ定数の決定。
- 第12～14週: DNA融解温度の測定と電気泳動・高速液体クロマトグラフィー等によるDNAの機器分析。

SⅡ化クラス

- 第1週 「ガイドンス」: 実験内容の説明と安全指導。
- 第2～6週 「有機化学」: 次の課題を実施する。1. 有機化学実験法 2. p-ニトロアニリンの合成と得られた化合物のスペクトル測定。
- 第7～8週 「無機化学」: 1. 赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2. 遷移金属錯体の合成と配位子置換反応
- 第9～14週 「物理化学」: 以下のテーマの実験を実施する。初回に、レポートの作成、国際単位系、測定誤差と有効数字等に関して解説する。
1. 分子の振動回転 2. 分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 3. 窒素レーザーによる発光寿命の測定 4. 吸着平衡 5. 核磁気共鳴 6. 吸収スペクトル

評価方法

レポート、口頭試問および実験に対する姿勢等を総合的に評価する。

コメント

基礎化学実験Iを履修した学生に対して提供される基

礎科目である。また、基礎教育科目の「基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ」、「基礎無機化学」、「基礎物理化学A、B」を履修していることが望ましい。受講人数を制限することがある（必修を除く）。補講に相当する追加実験は提供しない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに参加すること。毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出して頂きます。学生教育研究災害障害保険および付帯賠償責任保

険に必ず加入していること。実験を一部変更する場合があります。

教科書等

『改訂二版 基礎化学実験』(大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編、2014、ふくろう出版)

化学実験

2単位

Exercise in Analytical Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
HⅡ食	後・木・3～4	古澤 直人(生)・市川 直樹(生)・金 東浩(生)・福村 智恵(生)

科目の目標

基礎化学実験Ⅰを履修した食品栄養科学科2年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深めるとともに、3年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

授業内容

- 1) 精密機器—HPLCの実際 3週 分析化学分野で汎用されているHPLCの原理とその有用性を知ることがを目的に、HPLCを用いて食品中に残留する数種抗菌性物質の定量を行う。分析対象はsulfamonomethoxineおよびsulfadimethoxineとし、試料の前処理は固相抽出(SPE)法により行う。
- 2) 分光光度計によるブロムフェノールブルーのpKa決定 4週 ブロムフェノールブルー(BPB)は水素イオン濃度(pH)の変化に伴い、変色する酸塩基指示薬である。本実験では、種々なpHのBPB溶液の吸光度を測定し、BPBの解離平衡方程式を用いてBPBの酸解離定数(pKa)を求めることにより、pH滴定

法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

- 3) 生化学 4週 タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGEによるタンパク質の分離、コウシ胸腺からのDNAの抽出、DNAとタンパク質の紫外外部吸収曲線の比較などを行う。
- 4) 食品の分析 3週 食品に含まれる色素成分の化学的性質について実験する。また、モール法による食品中の食塩含量の定量を行う。
- 5) まとめ 1週 考察ならびにレポートの解説・指導を行う。

評価方法

レポート

コメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

教科書等

実験指導書を配布する。

生物学概論 A

2 単位

General Biology A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) T I (建電) T II (機) T III (都)	前・水・1	幸田 正典 (理) 名波 哲 (理)	T I (化) H I (食環)	後・金・2	伊東 明 (理) 高木 昌興 (理)

科目の目標

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層（レベル）を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかを学ぶ。

授業内容

授業の前半（名波・伊東）では、『生態系』のしくみ（構造）と働き（機能）を理解するために必要となる、生態学の基本概念を学習する。生態学の概要を説明した後、生態系の構成要素である、個体、個体群、群集の構造と機能について具体例を紹介しながら解説する。また、生態系における物質の循環とエネルギーの流れについても学ぶ。さらに、生物多様性がどのように創造され、どう維持されているかについて、進化的な見方にも触れながら解説する。

授業の後半（幸田・高木）では、行動生態学の視点から、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学び、生物進化と関連づけながら保全生態学の基礎的考え方についても伝える。

評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

コメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

教科書等

参考書（前半）：日本生態学会編『森林生態学』（共立出版）、その他、講義時に各項目ごとに参考書を紹介する。
（後半）：クレブス・デービス著『行動生態学』（蒼樹書房）、ドーキンス著『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）

生物学概論 B

2 単位

General Biology B

クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) T I (電建) H I (食環) T III (都)	後・水・2	藤田 憲一 (理) 水野 寿朗 (理)

科目の目標

生物は、外部環境から隔てられた体内で、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また生物は、単細胞から多細胞まで多彩な形態的構造を持つ存在である。これらの生物学的な特徴について論じる。

授業内容

前半（藤田）

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで、生体内で活躍する基本的な低分子、炭水化物や脂質、アミノ酸などの生体分子の構造とその生体内における役割について紹介し、それら分子が相互変換する代謝とその調節について触れる。さらに生体膜を挟んだ生体分子の輸送や環境シグナルの受容についても話題を提供する。最後に生体内においてごく微量で特徴のある生理作用を示す生理活性物質についても学習する。

1. 生体膜の役割
2. 生体分子の概説
3. エネルギー獲得系の代謝
4. 生体膜の内外での物質輸送

5. 膜蛋白質の構造と機能
6. 環境シグナルの受容体
7. 生理活性物質

後半（水野）

多細胞生物の体のなりたちと形づくりについて議論する。主に動物を対象とし、その形態学的特徴を細胞、組織、器官、解剖学的構造のスケールに整理する。またこれらの構造が作り上げられる過程も概観する。

1. 動物形態学の歴史
2. 動物の組織系
3. 動物の諸器官
4. 動物の胚発生
5. 動物の形態と系統

評価方法

定期試験を中心として、レポートを加味する。

コメント

高校生物・高校化学の基礎知識の習得が望ましい。

教科書等

参考書：生化学および動物学の入門書。

生物学概論C

2単位

General Biology C

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全) T II (建電)	後・水・2	寺北 明久 (理) 後藤 慎介 (理)

科目の目標

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

授業内容

生体構成上の高分子物質(生体高分子)、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する(寺北担当)。続いて、さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える(後藤担当)。

- 1) DNAの生合成
- 2) RNAの生合成 1
- 3) RNAの生合成 2
- 4) タンパク質の生合成 1
- 5) タンパク質の生合成 2
- 6) タンパク質の品質管理
- 7) 遺伝子発現の調整

- 8) 摂食と消化
- 9) 栄養
- 10) 栄養要求と化学防衛
- 11) 代謝速度とエネルギー
- 12) 潜水に関する問題
- 13) 代謝速度と体サイズ
- 14) 移動のエネルギーと生理学的な時間
- 15) 期末試験と解説

評価方法

レポート・試験

コメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

寺北担当分：ブルース・アルバーツ他著 Essential細胞生物学 原書第3版(南江堂)

後藤担当分：クヌート・シュミット=ニールセン著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』(東京大学出版会)

生物学概論D

2単位

General Biology D

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全) T II (機電) T III (都) T IV (建都) H II (食)	前・水・2	中村 太郎 (理)

科目の目標

DNAを扱う研究の飛躍的な進展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子の研究を元にした技術は、私たちの生活に欠かせないものとなっている。本講義では、まず、遺伝子の構造と機能をやさしく解説した後、その応用例や最先端の研究を紹介する。分子生物学の基礎を理解し、さらに、統一的な生命感の確立を目指す。

授業内容

1. 遺伝子とは何か(I)：研究の歴史
2. 遺伝子とは何か(II)：DNAの構造
3. 遺伝子とは何か(III)：RNAの構造
4. 遺伝子とは何か(IV)：転写
5. 遺伝子とは何か(V)：RNAの加工
6. 遺伝子とは何か(VI)：翻訳
7. 遺伝子とは何か(VII)：タンパク質をいづれくらい

作るかを定めるメカニズム(原核生物)

8. 遺伝子とは何か(VIII)：タンパク質をいづれくらい作るかを定めるメカニズム(真核生物)
9. 遺伝子とは何か(IX)：DNA複製
10. ウイルス
11. 遺伝子工学入門
12. 遺伝子解析の手法(I)：PCR
13. 遺伝子解析の手法(II)：塩基配列決定法
14. 遺伝子組換え食品
15. 期末試験と解説

評価方法

授業ごとに行うミニテストと期末試験の合計点

参考書

(教科書は用いない。)

参考書としてブルース・アルバーツ他著「Essential細胞生物学」第3版(南江堂)を薦める。

生物学概論 I

2単位

An Introduction to Biology I

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・水・2	志賀 向子 (理) 幸田 正典 (理)

科目の目標

ヒトを含め動物たちは、地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、動物の生理的調節機構および特にヒトの生理、形態、行動の基本について学習する。

授業内容

- 1) 動物の生理的調節機構において、主要な役割を果たしている神経系と内分泌系について概説する。
 - 1 制御と統合、2 ホルモン制御、3 情報と感覚(講義回数7回)
- 2) 進化生物学、進化心理学や行動生理学的視点からヒトを含めた動物の行動を概説する。
 - 4 動物行動の研究方法、5 自然淘汰による生物進化、6 動物の雄と雌、動物の認知行動、ヒトの進化(講義回数7

回)

動物の生活の多様性に配慮し、ヒトをはじめとする脊椎動物はもとより、無脊椎動物も含むさまざまな実例を提示する。

評価方法

中間試験および定期試験で評価する。

コメント

授業内容2)では印刷物を資料として配布します。必要に応じてスライド、ビデオを見せます。

教科書等

授業内容1)教科書:クヌート・シュミット=ニールセン「動物生理学—環境への適応」(東京大学出版会)11~13章

生物学概論 II

2単位

An Introduction to Biology II

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・水・2	宮田 真人 (理) 小宮 透 (理)

科目の目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報がどのように発現するかを理解するためには、分子から個体にいたる多様な生命現象を理解する素養が求められる。本講義では、(I) 遺伝子がどのように維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(II) 多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組みを筋組織の形成を例に分子レベルで説明する。以上を通じ、ヒトのからだに様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

授業内容

- (I) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製

- (II) 1. 細胞分化と遺伝子発現、2. 筋肉の分化と転写制御、3. 誘導と筋肉の分化、4. 組織における幹細胞について、4. 再生医学序論

評価方法

講義中の小テストおよび定期試験の総合点により評価する。

コメント

積極的な受講姿勢を期待する。

教科書等

参考書: アルバート他「細胞の分子生物学」第五版、(ニュートンプレス)、ストライヤー「生化学」(東京化学同人)

生物学概論Ⅲ

2単位

An Introduction to Biology III

クラス	期・曜・時	担当者
MI看	前・火・4	福永 昭廣 (医)

科目の目標

近年の生物科学研究の発展はめざましく、その研究成果をもとに医療分野や農業分野における遺伝子治療・クローン動物・ES細胞などの新しい技術の開発が行われており、看護・医療に携わる者にも、生命現象に関する幅広い知識が求められるようになってきた。本講義では、生物の基本単位である細胞の構造と機能について解説し、生命現象に関する理解を深める。

授業内容

1. 生体を構成する物質 (3回)
2. 原核細胞と真核細胞 (1回)
3. 真核細胞の構造 (2回)
4. 生体膜と物質の出入り (1回)
5. 細胞内輸送と細胞内消化 (2回)
6. 細胞骨格 (1回)
7. 細胞接着 (1回)
8. 体細胞分裂 (1回)
9. 減数分裂と配偶子形成 (2回)

評価方法

試験により評価する。

教科書等

教科書として和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」(羊土社)を使用し、適宜、プリント教材で補う。参考書：室伏きみ子、小林哲幸共著「やさしい細胞の科学」(オーム社)、佐々木史江他著「人の生命科学」(医歯薬出版)、アルバート他「細胞の分子生物学」(Newton Press)

生物学A

2単位

Biology A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・木・4	原田 正史 (医)

科目の目標

ヒトは生物の一員であり、医学はヒトの生物学を基礎とする。近年の生物学の発展はめざましく、細胞の構造やその機能はいうにおよばず、遺伝情報の伝達機構についても分子レベルで理解できるようになってきた。生物学Aでは、生命の基本単位である細胞を中心に、生物学の基礎を学ぶ。

授業内容

1. 細胞の概念
2. 遺伝子の構造
3. 細胞膜の構造と機能
4. リボソームの構造と機能
5. 小胞体・ゴルジ体の構造と機能
6. 細胞骨格の構造と機能
7. ミトコンドリアの構造と機能
8. リソソームの機能
9. 体細胞分裂の過程
10. 減数分裂の過程と多様性
11. 細胞周期
12. 染色体の概説と分裂時の挙動
13. 性の決定と伴性遺伝
14. 染色体異常
15. 染色体と生物の多様性

評価方法

試験の成績で評価する。

教科書等

講義に必要な教材は配布する。

参考書：アルバート他『細胞の分子生物学』(Newton Press)、Campbell他『Biology; Concepts & Connections』(Pearson Education)、和田勝著『生物学・細胞生物学』(羊土社)、田村・山本著『分子生物学イラストレイティド』(羊土社)、井出著『分子生物学 講義中継』(羊土社)、東大生命科学教科書編集委員会『理系総合のための生命科学』(羊土社)、竹島編『医歯薬系学生のための基礎生命科学』(廣川書店)、谷口・米田『医学を学ぶための生物学』(南江堂)

生物学B

2単位

Biology B

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・木・4	福永 昭廣 (医)

科目の目標

脊椎動物における諸器官の構造と機能の変化を系統的に学び、ヒトとヒト以外の脊椎動物との類似性について考え、医学を志す学生が今後集中的に学ぶことになるヒトについての理解を深めることを目的とする。

授業内容

1. 脊椎動物の系譜 (2回)
2. 脊索動物の特徴 (3回)
3. 脊椎動物の特徴 (1回)
4. 脊椎動物の構造と機能 (8回)

1と2では、脊椎動物に最も近いと考えられている動物群(尾索類と頭索類)について学び、脊椎動物との類似性を考える。3では脊椎動物の特徴について他の動物群の構造と比較しながら学ぶ。授業の中心は4脊椎動物の構造と機能であり、循環器系(2回)、泌尿生殖器系(2回)、消化器系(2回)、脳神経系(2回)について、脊

椎動物各綱の構造と機能の変化を学び、人体の構造と機能との関連について考察する。

評価方法

試験の成績により評価する。

コメント

本講義と生物学実験Mで行う脊椎動物の解剖実習により、脊椎動物諸器官の構造変化を系統的に理解してほしい。

教科書等

講義に必要な教材資料は配布する。

参考書：A. S. Romer and T. S. Parson著 平光訳「脊椎動物のからだ」(法政大学出版局)、M. Fingerman著 青戸訳「比較動物学」(培風館)、B. M. Carlson著 白井敏夫監訳「パッテン発生学」(西村書店)

生物学実験A

2単位

Biological Laboratory A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S低(化) TII(機化建都)	前・木・3~4	水野 寿朗(理)他	S I生(地) S低(数物)	前・金・3~4	水野 寿朗(理)他

科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、形態学、生化学、細胞学、分子生物学、生理学、発生学、生態学までの広範な分野の実習を行う。

授業内容

1. ガイダンス。2. 植物の成長過程での細胞伸長の観察と浸透圧の測定。3. 植物からの核酸(DNA・RNA)の抽出と同定。4. 細胞分裂と染色体の観察。5. 動物の胚発生の観察(2回)。6. 植物の分枝パターンと葉群配置の観察(2回)。7. 植物に由来する色素の分析。8. 植物園で学ぶ樹木の多様性。9. 酵素活性の測定(他物

質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用)、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など(2回)。10. 花粉の形態と花粉管発芽の観察。11. 実習器具のメンテナンス。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する(必修を除く)。また、修正登録で履修を希望する者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

教科書等

教科書『大阪市立大学 生物学実験A(仮題)』(大阪公立大学共同出版会)。実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある。

生物学実験B

2単位

Biological Laboratory B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
TI化* HI食	後・木・3～4	水野 寿朗(理) 他	TI化* SI生(地) S低(数物化)	後・金・3～4	水野 寿朗(理) 他

科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、形態学、分類学、細胞学、生化学、分子生物学、生理学、生態学までの広範な分野の実習を行う。

授業内容

1. ガイダンス。2. 昆虫の形態観察と同定、標本作製。3. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画など(2回)。4. PCR(遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作(3回)。5. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、および酵母のアルコール発酵能の測定(2回)。6. ゾウリムシを用いた細胞小器官の形態観察とその機能の解析。7. コオロギの闘争行動の観察。8. 生体高分子のin vitro, in silico検出(3回)。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する(必修を除く)。また、修正登録で履修を希望する者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

教科書等

教科書『大阪市立大学生物学実験B(仮題)』(大阪公立大学共同出版会)。実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある。

注:

* 工学部化学バイオ工学科の人数配分は掲示もしくは工学部のガイダンスで案内する予定。

生物学実験M

1単位

Biological Laboratory M

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・金・3～5	原田 正史(医) 福永 昭廣(医)

科目の目標

医学を志す学生にとって、動物の基本構造についての知識は、将来、人体の構造と機能を学ぶために必要なものである。ここでは、下等脊椎動物である軟骨魚類、高等脊椎動物である哺乳類、その間に位置する両生類の解剖を行い、脊椎動物の諸器官の構造変化を系統的に理解することを目的とする。

授業内容

第1週: ウニの発生観察
第2週: サメの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察)
第3週: カエルの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察)
第4週: ラットの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察)
第5週: サメの脳解剖
第6週: カエルの脳解剖
第7週: ラットの脳解剖、試験

第1週はウニの受精卵からブルテウス期までの顕微鏡観察を行い、動物の初期発生を学ぶと共に、顕微鏡の使用方法についても習熟する。第2週から7週では脊椎動物の構造を系統的に理解するため、軟骨魚類・両生類・哺乳類の解剖実習を行い、消化器系・泌尿器系・循環器系、脳神経系などの諸器官の構造を観察する。また、解剖用メス、ハサミなどの使用方法についても習熟する。

評価方法

出席率とレポートの内容により評価する。

コメント

先に講義を行い、引き続き実習に移るので、1時半までに講義室に集合のこと。

教科書等

実験書は配布する。

一般地球学 A-I

2 単位

General Geosciences A-I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S 低 (数物化生) H 低 (環)	前・水・2	升本 眞二 (理) 江崎 洋一 (理)

科目の目標

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったかの理解を目標とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上でおこる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

授業内容

1. 地球を解明するための視点 (時間と空間のスケール)
2. 地球の形と地図 (2 回)
3. 地球表層部の形態 (陸地と海洋の形)
4. 地球の物理学的特性 (重力・磁力・熱)
5. 岩石の年代 (放射年代; 2 回)
6. 地層の年代 (化石; 2 回)
7. 地球・生物の歴史と環境変遷 (2 回)
8. プレートテクトニクス (生成から消滅, 運動学; 3 回)

一般地球学 A-II

2 単位

General Geosciences A-II

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S 低 (数物化生) H 低 (環)	後・水・2	篠田 圭司 (理)

科目の目標

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にともない状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球の内部構造、地球物質の多様性、時間的経過の観点から地球を理解するために、地球を構成する物質の特徴と地球科学的意味、年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

授業内容

1. 地球の重力と運動、固体地球の構造 (3 回): 万有引力と地球の運動。地震波による地球内部構造の推定法。地球内部構成物質の特徴と推定法。
2. 岩石と鉱物 (1 回): 化学組成による岩石・鉱物の分類、鉱物の同定法など。
3. 地球の歴史 (3 回): 放射性同位体を用いた絶対年代決定法。安定同位体と環境の推定。
4. 水惑星としての地球 (4 回): 水の化学的特徴と環境

9. 地震と活断層

(教材料に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。)

評価方法

地球の形や地球の過去の歴史とそれらを解明するための手法、プレートテクトニクスの考え方などの理解度を演習・小テスト・レポートによる平常点 (40%) と期末試験の成績 (60%) で評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。なお、理学部地球学科の必修科目である。

教科書等

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。

参考書: A. ホームズ著『一般地質学 I・II・III』(東京大学出版会)。上田誠也著『新しい地球観』(岩波新書) など。

に及ぼす影響。海洋と大気の形成、地球の平均気温と温室効果。大気と海洋の運動。

5. 地球の活動 (3 回): 火成作用、変成作用など、地殻における物質の変遷。地球物質の温度圧力による状態変化の基本的な考え方。

評価方法

主として期末試験により評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の理科の基礎的な知識を前提とする。毎回授業内容に関して理解を深めるために、基本的な計算問題を課すので、計算機を持参すること。

地球学科の必修科目である。

参考書、等

図説地球科学 (岩波書店)

基礎地球科学 (西村祐二郎他、朝倉書店)

地球学入門（酒井治孝、東海大学出版）
他の参考書等は授業中に適宜指示する。

授業内容に関連した印刷物を配布する。

一般地球学B-I

2単位

General Geosciences B-I

クラス	期・曜・時	担当者
S低（数物） T I（機建電） T II（都） H低（環）	前・水・2	井上 淳（理）

科目の目標

地球システムと地球の歴史、地球科学の発展過程を学習した上で、地球システムが私たちの生活や環境にどのように影響しているかを理解する。前半では地球の地圏と気圏について、後半では地球の歴史特に人類の時代である第四紀に焦点をあて講義を行う。

授業内容

1. 自然科学と地球科学：自然科学の考え方と地球科学
2. 地球について（2回）：地球の形・大きさ・質量・密度
3. 大気と気候（2回）：大気循環・気候分布について
4. 岩石の種類と成因：火成岩・堆積岩・変成岩
5. 大陸移動説とプレートテクトニクス（2回）：ヴェーグナーの着想とプレートテクトニクスへの発展

6. 地球の歴史と地質年代（2回）：地球環境の変遷と生物進化
7. 第四紀の自然環境史（3回）：氷期と間氷期、気候変動に伴う自然環境変遷
8. 人類の進化（2回）：人類の発生と進化、日本列島の人類史
9. まとめ

評価方法

主に試験成績で評価するが、授業内でのレポート・小テストの提出率・内容も加味する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わない。

教科書等

指定しない。

一般地球学B-II

2単位

General Geosciences B-II

クラス	期・曜・時	担当者
S低（数物） T I（機建電都） H低（環）	後・水・2	三島 稔明（理） 他

科目の目標

地球の誕生・進化プロセスや、地球のダイナミクスに関する基本的なトピックを学ぶことによって、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象を理解することを目標とする。

授業内容

1. 宇宙の構造と銀河系。
2. 太陽系を構成する天体。
3. 地球を構成するサブシステム。
4. 固体地球を構成する鉱物と岩石。
5. 固体地球の物理的性質。
6. 地球の内部構造。
7. 地磁気と岩石の磁氣的性質。
8. 地震と断層。
9. マグマの生成と多様化プロセス、地球内部の物質循環。

10. 火山の噴火、火山災害、超巨大噴火。
11. 日本列島の地質と形成プロセス、変成作用。
12. 元素の濃集プロセス、鉱物資源。
13. 月・惑星探査（火星・イトカワなど）とその科学。
14. 地球学の最近の話題。
15. まとめ

評価方法

主に期末試験・レポートで評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の物理、化学、数学の基礎を理解しておくこと。

教科書等

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

建設地学

2 単位

Geology for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
T II (建・都) H II (環)	後・月・3	根本 達也 (理) 他

科目の目標

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

授業内容

- 脆弱な日本の国土と災害：災害列島日本の特徴とヒューマンインパクト
- 代表的な造岩鉱物の紹介と観察
- 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
- 日本列島の下の地殻構造解析
- 地層を読む：地層に記録された過去の地球環境、環境変遷、環境変動リズム
- 地球の歴史：地球の成り立ちと生い立ち、地球史の研究手法
- 日本列島の地史：付加体の形成過程、日本列島の誕生
- 第四紀堆積盆地の成り立ち
- GISの基礎：GISの基礎概念、GISによる地球情報の処理
- 火山：噴火のメカニズムと様式、火山地形・火山性

堆積物の特徴

- リモートセンシングの基礎と応用
- 都市の地盤構造と地盤災害：地盤沈下・地震時の地盤挙動、平野の地層構成との関係
- 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、水質獲得、水資源問題
- 地表環境における流体-堆積物系応答のとらえ方：波浪や潮汐の作用を考える
- 総合討論

評価方法

地球に関する基礎概念（地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止）に対する理解の程度を定期試験の成績（50%）と小テスト・レポートの成績（50%）で評価する。

コメント

「建設地学実習」と連動した講義を行うので、同時に受講すること。

教科書等

授業で用いる参考図表は、その都度配布する。
参考書：藤田和夫他著『改稿 新地学』（学術図書出版）、
アーサー・ホームズ著上田誠也他訳『一般地質学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（東京大学出版）、Skinner and Porter "The Dynamic Earth"(Wiley)

建設地学実習

1 単位

Geology, Laboratory Exercises for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
T II (建・都) H II (環)	後・月・4	根本 達也 (理) 他

科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

- 地形変化と災害：地形図による都市の災害地形判読
- 粉末X線回折法による鉱物同定
- 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法
- 地震波データの特徴の読み取り、および地殻厚さの

推定

- 礫の形状：河床礫と海浜礫の形の比較、礫の摩滅の受け方の違い
- 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷
- 化石の摘出・観察・解析
- 地質図の書き方と読み方：地層の走向傾斜の測り方、地質図の作図法の基礎
- GISによる地球情報の処理と可視化
- 火山地質図の読み方・火山噴出物の観察
- リモートセンシングによる環境指標の抽出
- 都市の地盤特性と地震動被害：データベースで見る

大阪の地盤特性

- 13. 都市の水環境：大和川の水質汚染
- 14. 粒状土層のボーリング、流動化実験と帯水層における変動水圧伝播のデータ解析
- 15. 総合討論

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポート

で評価する。

コメント

「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、同時に受講すること。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験A

2単位

Geosciences, Laboratory Exercise A

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S 低 (数物化生) T II (機)	前・木・3~4	井上 淳 (理) 他

科目の目標

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実習では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

授業内容

- 第1・2回 地質図の描き方と読み方
- 第3・4回 岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法
- 第5・6回 化石の摘出の仕方、観察の方法、形態の比較と解析
- 第7・8回 堆積岩の構成と分類：礫の形状・水流による砂床形
- 第9・10回 地形の解析と可視化：空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現

第11・12回 緯度・経度、地球の大きさおよび地球の磁場

第13・14回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理

第15回 レポート

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学A-I・II」もしくは「一般地球学B-I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験B

2単位

Geosciences, Laboratory Exercise B

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S 低 (数物化生) T II (建都)	後・木・3~4	篠田 圭司 (理) 他

科目の目標

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実習では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

授業内容

- 1 パソコンによるデジタル地形図の作成と3次元可視化
- 2 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真による地形判読と災害

- 3 地層形成と平野地盤の特性：平野地盤の物理的特性・平野地盤情報のコンピュータによるデータ処理
- 4 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物同定
- 5 地球史における生物変遷と化石記録
- 6 化石の摘出・観察・解析
- 7 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応
- 8 まとめ

以上の実験テーマを15回に割り振って実施する。

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学A-I・II」もしくは「一般地

球学B-I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。

教科書等

テキストを配布する。

図形科学 I

2単位

Graphic Science I

クラス	期・曜・時	担当者
T II (情) HI環	前・月・2	瀧澤 重志 (工)
T I 建 (電)	前・金・3	瀧澤 重志 (工)
T I (都)	前・金・4	瀧澤 重志 (工)

全学基礎教育課目図形科学I・IIは、設計製図の基礎としてだけではなく、図を介してコミュニケーションを円滑に行う能力を養成するデザイン言語教育として開講されている。

科目の目標

図形科学Iでは、デザイン言語教育の一環として、図法幾何学における投影法・切断法等の作図技法、及び図形の種類について学ぶ。作図技法では、3次元の図形・空間情報を2次元に変換する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形の種類では、現代的な幾何学の成果を踏まえ、様々な図形の存在やそれらの特徴を学ぶことを目的としている。

授業内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 正投影
- 第3週 軸測投影
- 第4週 透視投影：1焦点（直接法）
- 第5週 透視投影：1焦点（消点法）
- 第6週 透視投影：2焦点（直接法）
- 第7週 透視投影：2焦点（消点法）

- 第8週 透視投影：距離点法
- 第9週 中間試験
- 第10週 簡易焦点法
- 第11週 さまざまな形：平面図形
- 第12週 さまざまな形：立体図形
- 第13週 切断、展開
- 第14週 相関、陰影
- 第15週 学期末試験

評価方法

提出課題（36%）、中間試験（22%）、及び学期末試験の結果（42%）により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

コメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規（透明30cm程度）、三角定規（24cm程度）、製図用コンパスなどの作図用具が必要となる。詳細は初回の授業のガイダンスの際に説明する。

教科書等

「図形科学I」（大阪市立大学生協で販売）を使用予定。演習課題は授業の都度配布する。

図形科学 II

2単位

Graphic Science II

クラス	期・曜・時	担当者
T II (情) HI環	後・月・2	瀧澤 重志 (工)
T I 建 (電)	後・金・3	瀧澤 重志 (工)
T I (都)	後・金・5	瀧澤 重志 (工)

科目の目標

図形科学IIでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス（CG, Blender）の講義・演習を行う。図形科学Iでの作図は線画によるものが中心であったが、図形科学IIでは、モデリング、マテリアル、レンダリング、アニメーションなどのCGの基礎を学ぶと

ともに、プログラミングにより、手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている。

授業内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Blenderの基礎
- 第3週 モデリング1

- 第4週 モデリング2
- 第5週 マテリアル
- 第6週 ライティング, カメラワーク
- 第7週 レンダリング, ノード設定
- 第8週 アニメーション
- 第9週 シミュレーション
- 第10週 BlenderのためのPython入門
- 第11週 Blender+ Python 1
- 第12週 Blender+ Python 2
- 第13週 Blender+ Python 3
- 第14週 実技試験
- 第15週 最終課題の提出・講評

評価方法

各回の提出課題 (36%)、実技試験の結果 (32%)、及び最終課題の提出作品 (32%) により評価を行う。なお、

出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

コメント

手書きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学 I を事前に履修しておくことが望ましいが、必須条件ではない。

授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となることが多い。このため、履修学生自身が所有するコンピューターや学術情報センターの端末を利用する必要がある。また、インターネットメールやUSBメモリなども必要になる。

教科書等

教科書や参考書はガイダンス時に指示する。なお、Pov-Rayを用いた過去の授業の提出作品は、次のURLのホームページに掲載されている。

<http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/zukeikagaku/>

4. 外国語科目

(1) 第 1 部

- 外国語科目のクラス分け
- 外国語科目の履修について
- シラバス

英 語
ドイツ語
フランス語
中国語
ロシア語
朝鮮語
日本語

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表

*別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表

*クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下3桁を表す。

学部	科目 クラス	ド イ ツ 語				フ ラ ン ス 語					
		基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (12科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (10科目)		
商学部		1クラス		1クラス		1クラス		1クラス			
経済学部	a	001～110			1クラス	1クラス			1クラス		
	b	111～終									
法学部	a	001～095	001～095			1クラス	1クラス				
	b	096～終	096～終								
文学部	a	001～080	001～080			1クラス	1クラス				
	b	081～終	081～終								
理学部	a	数学、生物	※注1参照			1クラス	1クラス	※注1参照		1クラス	
	b	物理、地球									
	c	化学、理科選択									
工学部	a	機械				1クラス	1クラス				1クラス
	b	電子・物理 建築 (001～017)									
	c	電気情報 建築 (018～終)									
	d	化学バイオ									
	e	都市									
医学部	a	001～040			1クラス						
	b	041～終									
生活科学部		1クラス		1クラス		1クラス		1クラス			

※注1 このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下3桁を表す。

学部	科目 クラス	中国語				ロシア語			朝鮮語			
		基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)	
商学部	a	001~055	/	001~055	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	3クラス	1クラス	1クラス
	b	056~110		056~110								
	c	111~165		111~165								
	d	166~終		166~終								
経済学部	a	001~055	/	/	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{商学部C、 工学部T (C、T) クラス}	1クラス	1クラス
	b	056~110										
	c	111~165										
	d	166~終										
法学部	a	001~095	001~095	/	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{法学部J、 文学部L (J、L) クラス}	1クラス	1クラス
	b	096~終	096~終									
文学部	a	001~085	001~085	/	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{法学部J、 文学部L (J、L) クラス}	1クラス	1クラス
	b	086~終	086~終									
理学部		※注1参照				1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	※注1参照	1クラス	1クラス
工学部	a	機械	/	/	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{経済学部E、 医学部M、 生活科学部H (E、M、H) クラス}	1クラス	1クラス
	b	電子・物理 情報										
	c	化学バイオ 建築										
	d	都市										
医学部	a	医学部居 住環境	/	/	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{経済学部E、 医学部M、 生活科学部H (E、M、H) クラス}	1クラス	1クラス
生活科学部	b	食品栄養 人間福祉										

※注1 このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

○ 外国語科目の履修について

(1) 提供科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語の6か国語を提供している。なお、外国人留学生を対象に日本語も提供している。

(2) 科目の構成及び履修方法

ア. 英語

① [平成19年度以降入学学生の場合]

学部別提供英語として、1年次は「College English (CE) I・II・III・IV」が、2年次には「College English (CE) V・VI」が提供されている。クラス指定制とする。

[平成18年度入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「上級英語A・B」用に読み替えの再履修科目(CE)が提供されている。

[平成17年度以前入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「英語3A・3B」「英語4A・4B」用に読み替えの再履修科目(CE)が提供されている。

② 全学向け提供の科目

Advanced College English (ACE)

受講希望者は「ACEの履修について」(P. ~P.)を参照すること。

イ. 新修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

[平成18年度以降入学学生の場合]

新修外国語では、コア科目である「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」の他に、Aパターンの学部向けに「応用1A」「応用2A」が、Bパターンの学部向けに「応用1B」「応用2B」が提供されている。また、全学向けに「特修」が提供されている。

前期に「基礎1・2」「応用1A」および「応用1B」が、後期に「基礎3」「基礎4」「応用2A」および「応用2B」が提供される。「特修」は、前期ならびに後期に提供される。

なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.)を参照すること。

[平成17年度以前入学学生の場合]

平成18年度以降入学学生向けの科目をもって読み替える。詳しくは、学生サポートセンター各学部教務担当に問い合わせること。

ウ. 日本語(外国人留学生向け)

日本語は「1A、1B」「2A、2B」「3A、3B」「4A、4B」「5A、5B」(Aは前期、Bは後期)が提供されている。なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.)を参照すること。

(3) 単 位

新修外国語の「特修」および、ペア科目の「基礎1・2」は各セメスターで2単位である。他は、各セメスターで1単位である。

★ 出席日数が実授業日数の3/4に満たない場合は、単位を与えないことがある。

○ シラバス

英語 English

(平成19年度以降入学者用)

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに25名程の少人数・習熟度別クラス編成で、必修科目のCollege English(CE)が、1年生で4時間、2年生で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ1時間ずつ、合計週2時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して1.5倍に増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目のAdvanced College English(ACE)を開講する。

英語カリキュラム編成表

必修科目				選択科目	
		月曜	水曜		
1年	前期	CE I	CE II	ACE	
	後期	CE III	CE IV		
2年	前期	CE V			
	後期	CE VI			

履修科目内容

< 1 年 >

(1) College English I (C E I)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現しようとする力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C L I a	月・1	Richards	T N I a	月・3	(Chen)
C L I b	月・1	(Sievert)	T N I b	月・3	(Jacobs)
C L I c	月・1	(Quinn)	T N I c	月・3	(Campbell)
C L I d	月・1	(Thorson)	T N I d	月・3	(Stepanczuk)
C L I e	月・1	[Leigh]	T N I e	月・3	(Vaughan)
C L I f	月・1	(Fenstermaker)	T N I f	月・3	[Mansfield]
C L I g	月・1	(McAvoy)	T N I g	月・3	(Sievert)
C L I h	月・1	[野田]	T N I h	月・3	(Feldman)
C L I i	月・1	(Campbell)	T N I i	月・3	(Jones)
C L I j	月・1	(Stepanczuk)	T N I j	月・3	(Thorson)
C L I k	月・1	(Feldman)	T N I k	月・3	(Quinn)
C L I l	月・1	(Vaughan)	T N I l	月・3	(McAvoy)
C L I m	月・1	[若狭]	T N I m	月・3	(Fenstermaker)
C L I n	月・1	野末	S M H I a	月・4	(McAvoy)
C L I o	月・1	(Chen)	S M H I b	月・4	[Leigh]
E J I a	月・2	(Stepanczuk)	S M H I c	月・4	(Fenstermaker)
E J I b	月・2	Richards	S M H I d	月・4	(Chen)
E J I c	月・2	(Feldman)	S M H I e	月・4	(Jacobs)
E J I d	月・2	(Sievert)	S M H I f	月・4	(Jones)
E J I e	月・2	(Jones)	S M H I g	月・4	(Campbell)
E J I f	月・2	(Quinn)	S M H I h	月・4	(Stepanczuk)
E J I g	月・2	(Thorson)	S M H I i	月・4	[Mansfield]
E J I h	月・2	[Leigh]	S M H I j	月・4	(Sievert)
E J I i	月・2	(McAvoy)	S M H I k	月・4	(Feldman)
E J I j	月・2	(Fenstermaker)	S M H I l	月・4	(Vaughan)

E J I k	月・2	(Chen)	SMH I m	月・4	(Quinn)
E J I l	月・2	(Jacobs)	SMH I n	月・4	(Thorson)
E J I m	月・2	(Campbell)	SMH I o	月・4	[若狭]
E J I n	月・2	[Mansfield]			
E J I o	月・2	(Vaughan)			

(2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
E J I a	水・1	(多賀)	SMH I a	水・3	(Feldman)
E J I b	水・1	(Selzer)	SMH I b	水・3	(Thorson)
E J I c	水・1	[Leigh]	SMH I c	水・3	(Silva)
E J I d	水・1	Richards	SMH I d	水・3	(多賀)
E J I e	水・1	(Sievert)	SMH I e	水・3	(Campbell)
E J I f	水・1	(Micklas)	SMH I f	水・3	(Lau)
E J I g	水・1	(Fenstermaker)	SMH I g	水・3	(Hudgens)
E J I h	水・1	(Feldman)	SMH I h	水・3	(Jacobs)
E J I i	水・1	(Thorson)	SMH I i	水・3	(Vaughan)
E J I j	水・1	(Lau)	SMH I j	水・3	(Sievert)
E J I k	水・1	(Campbell)	SMH I k	水・3	山本
E J I l	水・1	(McWhinney)	SMH I l	水・3	(Micklas)
E J I m	水・1	(Vaughan)	SMH I m	水・3	(Fenstermaker)
E J I n	水・1	田中一	SMH I n	水・3	(McWhinney)
E J I o	水・1	(Hudgens)	SMH I o	水・3	古賀
CL I a	水・2	(Thorson)	TN I a	水・4	(Vaughan)
CL I b	水・2	(Lau)	TN I b	水・4	(Sievert)
CL I c	水・2	(Silva)	TN I c	水・4	(Micklas)
CL I d	水・2	(McWhinney)	TN I d	水・4	(Silva)
CL I e	水・2	(Campbell)	TN I e	水・4	(Fenstermaker)
CL I f	水・2	(多賀)	TN I f	水・4	(Feldman)

C L I g	水・2	(Hudgens)	T N I g	水・4	(Thorson)
C L I h	水・2	(Vaughan)	T N I h	水・4	(Campbell)
C L I i	水・2	山本	T N I i	水・4	(Lau)
C L I j	水・2	(Selzer)	T N I j	水・4	(McWhinney)
C L I k	水・2	(Micklas)	T N I k	水・4	山本
C L I l	水・2	(Fenstermaker)	T N I l	水・4	(Jacobs)
C L I m	水・2	(Feldman)	T N I m	水・4	(Selzer)
C L I n	水・2	田中一			
C L I o	水・2	(Jacobs)			

(3) College English III (C E III)

目標：前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを英語で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C L I a	月・1	(Sievert)	T N I a	月・3	(Fenstermaker)
C L I b	月・1	(Quinn)	T N I b	月・3	(Campbell)
C L I c	月・1	(Thorson)	T N I c	月・3	(Chen)
C L I d	月・1	[Leigh]	T N I d	月・3	(Jacobs)
C L I e	月・1	(McAvoy)	T N I e	月・3	[Mansfield]
C L I f	月・1	(Fenstermaker)	T N I f	月・3	(Stepanczuk)
C L I g	月・1	(Chen)	T N I g	月・3	(Vaughan)
C L I h	月・1	(Campbell)	T N I h	月・3	(Feldman)
C L I i	月・1	(Stepanczuk)	T N I i	月・3	(Sievert)
C L I j	月・1	(Vaughan)	T N I j	月・3	(Quinn)
C L I k	月・1	[若狭]	T N I k	月・3	(Jones)
C L I l	月・1	野末	T N I l	月・3	(Thorson)
C L I m	月・1	[野田]	T N I m	月・3	(McAvoy)
C L I n	月・1	(Feldman)	S M H I a	月・4	(Thorson)
C L I o	月・1	Richards	S M H I b	月・4	[Leigh]
E J I a	月・2	(Feldman)	S M H I c	月・4	(McAvoy)
E J I b	月・2	[野田]	S M H I d	月・4	(Fenstermaker)

E J I c	月・2	(Sievert)	SMH I e	月・4	(Campbell)
E J I d	月・2	[Mansfield]	SMH I f	月・4	(Chen)
E J I e	月・2	(Quinn)	SMH I g	月・4	(Jacobs)
E J I f	月・2	(Thorson)	SMH I h	月・4	(Jones)
E J I g	月・2	[Leigh]	SMH I i	月・4	[Mansfield]
E J I h	月・2	(McAvoy)	SMH I j	月・4	(Stepanczuk)
E J I i	月・2	(Fenstermaker)	SMH I k	月・4	(Feldman)
E J I j	月・2	(Chen)	SMH I l	月・4	[若狭]
E J I k	月・2	(Jones)	SMH I m	月・4	(Vaughan)
E J I l	月・2	(Jacobs)	SMH I n	月・4	(Sievert)
E J I m	月・2	(Campbell)	SMH I o	月・4	(Quinn)
E J I n	月・2	(Stepanczuk)			
E J I o	月・2	(Vaughan)			

(4) College English IV (C E IV)

目標：前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30とする。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量(文字)を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
E J I a	水・1	(McWhinney)	SMH I a	水・3	(Hudgens)
E J I b	水・1	(Hudgens)	SMH I b	水・3	(Feldman)
E J I c	水・1	(Vaughan)	SMH I c	水・3	(Campbell)
E J I d	水・1	(多賀)	SMH I d	水・3	(Silva)
E J I e	水・1	古賀	SMH I e	水・3	(Thorson)
E J I f	水・1	[Leigh]	SMH I f	水・3	Richards
E J I g	水・1	(Sievert)	SMH I g	水・3	古賀
E J I h	水・1	(Micklas)	SMH I h	水・3	(Lau)
E J I i	水・1	(Fenstermaker)	SMH I i	水・3	(Jacobs)
E J I j	水・1	(Feldman)	SMH I j	水・3	(McWhinney)
E J I k	水・1	(Thorson)	SMH I k	水・3	(Vaughan)
E J I l	水・1	(Campbell)	SMH I l	水・3	(Sievert)
E J I m	水・1	(Selzer)	SMH I m	水・3	(Micklas)

E J I n	水・1	(Lau)	S M H I n	水・3	(Fenstermaker)
E J I o	水・1	田中一	S M H I o	水・3	山本
C L I a	水・2	(Thorson)	T N I a	水・4	(Fenstermaker)
C L I b	水・2	(Campbell)	T N I b	水・4	(Lau)
C L I c	水・2	(Selzer)	T N I c	水・4	Richards
C L I d	水・2	(Silva)	T N I d	水・4	(Feldman)
C L I e	水・2	(多賀)	T N I e	水・4	(Vaughan)
C L I f	水・2	(Lau)	T N I f	水・4	(Micklas)
C L I g	水・2	(McWhinney)	T N I g	水・4	(Silva)
C L I h	水・2	山本	T N I h	水・4	(Thorson)
C L I i	水・2	Richards	T N I i	水・4	(Sievert)
C L I j	水・2	(Jacobs)	T N I j	水・4	(Selzer)
C L I k	水・2	(Vaughan)	T N I k	水・4	(McWhinney)
C L I l	水・2	(Micklas)	T N I l	水・4	(Jacobs)
C L I m	水・2	(Fenstermaker)	T N I m	水・4	(Campbell)
C L I n	水・2	(Feldman)			
C L I o	水・2	(Hudgens)			

再履修クラス (C E I ・ II ・ III ・ IV)

目標：再度履修者を対象とし、C E I ・ II ・ III ・ IVの再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。

C E III ・ IV (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	[野田]	全「再」	水・5	古賀
全「再」	月・5	[若狭]	全「再」	水・5	野末

C E I ・ II (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	[野田]	全「再」	水・5	野末
全「再」	月・5	[若狭]	全「再」	水・5	山本

< 2年 >

(5) College English V (C E V)

目標：1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。C E I ~ IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。

段階別到達度：4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
C II a	火・1	(倉恒)	H II c	木・1	(山口)
C II b	火・1	(高)	H II d	木・1	(藤井)
C II c	火・1	(山澤)	H II e	木・1	(津田)
C II d	火・1	(熊懷)	S II a	木・2	高島
C II e	火・1	[野田]	S II b	木・2	(山口)
C II f	火・1	山本	S II c	木・2	(高橋)
C II g	火・1	(笹倉)	S II d	木・2	(藤井)
C II h	火・1	(清川)	S II e	木・2	(津田)
J II a	火・2	(笹倉)	S II f	木・2	(北岡)
J II b	火・2	(倉恒)	S II g	木・2	[若狭]
J II c	火・2	(高)	E II a	木・3	杉井
J II d	火・2	(伊原)	E II b	木・3	(荒木)
J II e	火・2	(山澤)	E II c	木・3	(長嶺)
J II f	火・2	(熊懷)	E II d	木・3	高島
J II g	火・2	(筒井)	E II e	木・3	(藤井)
T II a	火・3	(名和)	E II f	木・3	(フィゴーニ)
T II b	火・3	山崎	E II g	木・3	井狩
T II c	火・3	山本	E II h	木・3	山崎
T II d	火・3	(平出)	M II a	木・3	廣田
T II e	火・3	(笹倉)	M II b	木・3	(中村)
T II f	火・3	(伊原)	M II c	木・3	(大久保)
T II g	火・3	(筒井)	L II a	木・4	田中孝
T II h	火・3	杉井	L II b	木・4	関
T II i	火・3	(清川)	L II c	木・4	杉井
T II j	火・3	田中孝	L II d	木・4	(高橋)
T II k	火・3	関	L II e	木・4	(荒木)
H II a	木・1	(北岡)	L II f	木・4	(長嶺)
H II b	木・1	(高橋)	L II g	木・4	(フィゴーニ)

(6) College English VI (CEVI)

目標：1年生の時に学んだCEI～IV、及び、CEVで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部の特長性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
C II a	火・1	山本	H II b	木・1	(藤井)
C II b	火・1	(山澤)	H II c	木・1	(高橋)
C II c	火・1	(倉恒)	H II d	木・1	(津田)
C II d	火・1	(高)	H II e	木・1	(北岡)
C II e	火・1	(熊懐)	S II a	木・2	[若狭]
C II f	火・1	[野田]	S II b	木・2	(北岡)
C II g	火・1	(清川)	S II c	木・2	(津田)
C II h	火・1	未定	S II d	木・2	廣田
J II a	火・2	(伊原)	S II e	木・2	(藤井)
J II b	火・2	(筒井)	S II f	木・2	(高橋)
J II c	火・2	(山澤)	S II g	木・2	(山口)
J II d	火・2	(熊懐)	E II a	木・3	田中孝
J II e	火・2	(高)	E II b	木・3	高島
J II f	火・2	(倉恒)	E II c	木・3	廣田
J II g	火・2	(笹倉)	E II d	木・3	(フィゴーニ)
T II a	火・3	杉井	E II e	木・3	(中村)
T II b	火・3	関	E II f	木・3	未定
T II c	火・3	井狩	E II g	木・3	(荒木)
T II d	火・3	(伊原)	E II h	木・3	(大久保)
T II e	火・3	(筒井)	L II a	木・4	未定
T II f	火・3	(平出)	L II b	木・4	(大久保)
T II g	火・3	(笹倉)	L II c	木・4	(高橋)
T II h	火・3	(名和)	L II d	木・4	(中村)
T II i	火・3	[野田]	L II e	木・4	(長嶺)
T II j	火・3	(清川)	L II f	木・4	(フィゴーニ)
T II k	火・3	山本	L II g	木・4	(荒木)
H II a	木・1	(山口)			

CEVI (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
M II a	木・4	(大久保)	M II c	木・4	(中村)
M II b	木・4	廣田			

Advanced College English (ACE)

Advanced College Englishは高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACE科目の受講を希望する者は、履修登録期間中にWebシステムにて登録をすること。

・各科目とも25名程度を上限とする。定員を上回った場合は抽選とし、抽選後の取り消しは一切認めない。

「ACE : TOEFL 80」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準である80点(従来のCBTの213点に相当)を取得することを目標とした訓練を行う。ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : TOEFL 80+」(後期)(全学提供 1単位)

目標：グローバル・コミュニケーションコースの一環として、国際的に活躍するための英語運用能力を備えた人材を養成することを目指す。米国・カナダ・オーストラリアの主要大学の入学基準である TOEFL 80(TOEFL ITP 550, Versant 48)以上の英語力を有する学生を対象に、ドリル等の演習形式の授業を行い、4技能(reading, writing, listening, speaking)を鍛える。本科目は、グローバル・コミュニケーションコースに登録していなくて、さらに上のレベルの英語力を目指す学生も受講できる。

評価方法：小テスト、課題、平常点を総合的に評価

「ACE : TOEIC 650」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Comparative Culture」(前期)(全学提供 1単位)

目標：英語を通して、日本を新たな視点から知りたい人が対象である。評判の記事を題材にして、日本について学術的な議論をする技能を身につける。エクソサイズを通じて、日本のどこが面白く驚くべきことかに気付いてもらいたい。授業中は英語のみを使用する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Critical Writing」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合し、最終的に、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Media English」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Literature」(前期)(全学提供 1単位)

目標：英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因(時代背景、作家自身のこと)を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Presentation」(後期)(全学提供 1単位)

目標：様々な専門分野に必要な、英語による口頭発表能力の向上を図るため、色々な題材を用いてプレゼンテーションの訓練を行う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Discussion」(前期)(全学提供 1単位)

目標：筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Intensive Reading」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、英文を正確綿密に、かつ批判的に読む力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Films」(後期)(全学提供 1単位)

目標：必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEIC 650	全	木・1	[若狭]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	月・3	[野田]
Comparative Culture	全	火・4	[Mansfield]
Discussion	全	木・4	(Chen)
Intensive Reading	全	木・3	関
Media English	全	火・2	山本
Literature	全	水・4	古賀

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEFL 80+	全	木・3	(川端)
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
TOEIC 650	全	木・1	[若狭]
Critical Writing	全	火・4	井狩
Critical Writing	全	木・4	(Chen)
Presentation	全	水・2	[Leigh]
Intensive Reading	全	火・2	山本
Films	全	水・3	(多賀)
Media English	全	木・3	(長嶺)

再度履修者向けクラス（CEV、CEVI）

目標：再度履修者を対象とし、CEV、CEVIの再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。ただし、1クラスの受講者の上限を40名、それを越えた場合は抽選とする。各クラスとも複数の時間帯で提供されているので、空きがある方のクラスにまわること。それでも選にもれて、やむを得ない場合には、同一学部・学年の同一クラスへ出向き、担当者の許可を得ること。

評価方法：出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価

[今年度開講科目]

CEV（前期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	山崎

CEVI（前期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(平出)	全「再」	水・5	井狩
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	田中孝

CEV（後期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(平出)	全「再」	水・5	高島
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	古賀

CEVI（後期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	山崎

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることが諸君に期待する。

第 1 部

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		応用 1 A Applied 1 A
1年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	応用 2 A Applied 2 A
2年次以降	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・		

B.

1年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		2年次以降
1年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	
2年次前期	応用 1 B Applied 1 B	特修 1 Specialized 1	
2年次後期	応用 2 B Applied 2 B	特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・	

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

日本語教育編成表（留学生対象）

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1・2」（2単位）および「応用1A」（1単位）を、Bパターン
の学部の学生は「基礎1・2」を履修すること。なお、「基礎1・2」はペア科目になっているので、月曜日と
水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがっ
て、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターン
の学部の学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」（各1単位）を、Bパターン
の学部の学生は「基礎3」「基礎4」を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1・2」の単位を修得していないと、Aパターン
の場合は「基礎3」「基礎4」ならびに「応用2A」を、Bパターン
の場合は「基礎3」「基礎4」を履修することが
できないので、十分注意すること。
3. Bパターン
の学部の学生は、2年次前期で「応用1B」（1単位）を、2年次後期で「応用2B」（1単位）を履
修すること。
なお、「基礎3」「基礎4」の受講後でなければ「応用1B」「応用2B」を履修することができないので、十分
注意すること。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」（2単位）が提供されている。各学生は、
複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」、「基礎4」のいずれかの単位を修得していないと「特修」を履修することができないので、注
意すること。

備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部担当に願い出、当該外国語カリキュラム担当者に
相談すること。

II. 日 本 語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A: 新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが
望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B: 「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1・2」、「基礎3」、「基礎4」、「応用1A」、「応用2A」の不合格者は、2年次で、不
合格であった科目を再度履修すること。2年次提供の「応用1B」、「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格で
あった科目を再度履修すること。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読み近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を築いてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の実相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語基礎 1・2」(前期) (学部別提供 クラス指定 2単位)

目標: 連続した、もしくは密接に連携した週2回の授業を行う。ドイツ語のアルファベットと発音の基礎から始めて、単一文、単純時称などの基本的なしくみを把握する。AV機器なども用いて、ドイツ語を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」ためのバランスの取れた基礎能力を身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週: イントロダクション (ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週~第3週: ドイツ語の文字と発音

第4週~第8週: ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週~第14週: ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎 3」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 「基礎1・2」での学習をふまえて、複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の構文を学習し、ドイツ語の基礎的な知識をひとつとおりに身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週: <基礎1・2>の既習事項の確認

第2週~第5週: ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週~第10週: ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週~第14週: ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「基礎3」での学習と並行して、比較的複雑なドイツ語文を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」練習を行い、基礎的なドイツ語能力の定着をはかる。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1A」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（ドイツ語・ドイツ語文化への導入）
- 第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音—補強
- 第4週～第9週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用2A」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成する。多様なシチュエーションに対応できるドイツ語の理解能力と表現能力の習得をめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1B」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：1年次で習得した基礎に立って、テキスト精読や実践的練習を通してドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：ドイツ語の応用能力への導入
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用2B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: テキスト精読や実践的練習を通して、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週: <応用1B>の既習事項の確認

第2週~第5週: ドイツ語の応用能力の拡充

第6週~第10週: ドイツ語の応用能力の強化

第11週~第14週: ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修」(前・後期)(全学提供 各2単位)

目標: 「ドイツ語基礎3」「ドイツ語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生で、さらにドイツ語を学ぶ意欲のある者を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、適切なクラス規模での授業によって、より高度なドイツ語能力の習得をめざす。

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

各クラスの授業内容は以下のとおり。

「ドイツ語特修1a/1b」(前期)「ドイツ語特修2」(後期)(ドイツ語会話)

ネイティブ教員の担当により、ドイツ語のヒアリングおよび会話能力の養成を目的とする。ドイツ語の日常的な会話表現を実践的な練習により習得する。

「ドイツ語特修3a/3b」(前期)「ドイツ語特修4」(後期)(映像で学ぶドイツ語)

ドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

「ドイツ語特修5」(前期)「ドイツ語特修6」(後期)(独検対策)

ドイツ語技能検定(独検)受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

「ドイツ語特修7」(前期)「ドイツ語特修8」(後期)(ドイツ語を読むI)

新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

「ドイツ語特修9」(前期)「ドイツ語特修10」(後期)(ドイツ語を読むII)

ドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

基礎 1・2 第1部 (前期)

C I (月・2) 木戸 紗織 (非常勤)

・テキスト: 新田春夫、福岡具子、M.フェルト『エレメンテードイツ語の文法と表現』郁文堂

E I a (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト: 成田節『練習で覚えるドイツ語改訂版』郁文堂

E I b (月・1) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト: Neuner, Gerhard:deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag 2008)

J I a (月・1) 長谷川 健一 (文学部教員)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

J I b (月・1) 木戸 紗織 (非常勤)

・テキスト: 新田春夫、福岡具子、M.フェルト『エレメンテードイツ語の文法と表現』郁文堂

L I a (月・2) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

L I b (月・2) 長谷川 健一 (文学部教員)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

S I a (月・3) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

S I b (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト: 大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』朝日出版社

S I c (月・3) 土谷 真理子 (非常勤)

・テキスト: 新倉真矢子『ゲナウ! コミュニケーションのドイツ語』第三書房

T I a (月・4) 高井 絹子 (文学部教員)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

T I b (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト: 春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』朝日出版社

T I c (月・4) 土谷 真理子 (非常勤)

・テキスト: 新倉真矢子『ゲナウ! コミュニケーションのドイツ語』第三書房

T I d (月・4) 三上 雅子 (文学部教員)

・テキスト: 佐藤和弘、Heike Pinnau、中村俊子 (雅美)『ドイツに行ってみませんか (Ver. 3)』郁文堂

T I e (月・4) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト: Neuner, Gerhard:deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag 2008)

M I a (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト: Neuner, Gerhard:deutsch.com 1 Kursbuch (Hueber Verlag 2008)

M I b (月・3) 三上 雅子 (文学部教員)

・テキスト: 清野智昭、須藤温子、曾田素子『ドイツ語の時間—読解編— (読めると楽しい!)』朝日出版社

H I (月・3) 長谷川 健一 (文学部教員)

・テキスト: 神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

C I クラス (水・1) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト: 小塩節『ドイツ こころの旅』朝日出版社

J I a (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：矢羽々崇『ケイコのミュンヘン 聞いて話してドイツ語』朝日出版社

J I bクラス (水・2) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：大久保進、ガビ・グレーベ『ポータルサイト：ドイツ語』朝日出版社

E I a (水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

E I b (水・2) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！グラマティック』第三書房

L I a (水・1) 神竹 道士 (文学部教員)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

L I b (水・1) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

S I a (水・4) 神竹 道士 (文学部教員)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

S I b (水・4) 林田 陽子 (非常勤)

・テキスト：池田信雄、イゾルデ・キーフアー・イケダ『ドイツの人と暮らし』朝日出版社

S I c (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：前田良三、高木葉子『身につくドイツ文法〈Leicht〉』郁文堂

T I a (水・3) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

T I b (水・3) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：清野智明『ドイツ語の時間〈話すための文法〉改訂版』朝日出版社

T I c (水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

T I d (水・3) 海老根 剛 (文学部教員)

・テキスト：三室次雄『ドイッチュ・プラクティッシュ〈グリーン〉』三修社

T I e (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：春日正男、松澤淳『DVD わかるぞドイツ語！みえるぞドイツ！』朝日出版社

M I a (水・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

M I b (水・4) 海老根 剛 (文学部教員)

・テキスト：三室次雄『ドイッチュ・プラクティッシュ〈グリーン〉』三修社

H I (水・4) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：近藤弘、小林 Gerlinde、新倉真矢子、松尾博史『Dialog—ドイツ語へのキックオフ Ver.5』郁文堂

応用 1 A 第1部 (前期)

J I aクラス (金・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：牧野アンゲリカ、荒川宗晴『ニーベルンゲンの指輪』第三書房

J I bクラス (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文[改訂新正書法版]』朝日出版社

L I a クラス (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

L I b クラス (金・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：佐藤修子、下田恭子、Heike Papenthin、Gesa Oldehaver『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

応用 1 B 第1部 (前期)

C II (火・2) 高井 絹子 (文学部教員)

・テキスト：立川希代子『初級総仕上げ 2度目のドイツ語』白水社

特修 1 a 第1部 (前期)

全II～IV (木・2) ジモン エルトレ (特任教員)

授業内容：授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリントを使用する。

特修 1 b 第1部 (前期)

全II～IV (木・3) ジモン エルトレ (特任教員)

授業内容：授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリントを使用する。

特修 3 a 第1部 (前期)

全II～IV (火・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

授業内容：ドイツ語の映像を見て、その中で使われている表現を文字で確認し、再度映像で確認し、重要な表現などを覚えます。

・テキスト：プリントを配布します。

特修 3 b 第1部 (前期)

全II～IV (金・3) 田島 昭洋 (非常勤)

授業内容：モーツァルトの歌劇『魔笛』の台本を読み、映像を見る。庶民性と芸術性が最高度に融合した親しみやすく奥深い本作品をとoshi、ドイツ語オペラの基本を学ぶ。合わせて関連映像や担当者の歌唱実演によって理解を深める。

・テキスト：使用しない。資料は毎回コピーして配布する。

特修 5 第1部 (前期)

全II～IV (火・2) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

授業内容：文法の復習、練習問題の解答等を通して、独検4級[基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる]合格を目指す。他級の受験希望者にも柔軟に対応していきたい。

・テキスト：プリントをこちらで用意します。

特修 7 第1部 (前期)

全II～IV (火・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

授業内容：ドイツ語の新聞や雑誌の記事から読みやすいものを選び、読んでいきます。テーマは政治、経済、文化、娯

- 楽しませます。日常のドイツ語とドイツに触れましょう。
・テキスト：プリントを配布します。

特修 9 第1部（前期）

全Ⅱ～Ⅳ（金・4）江川 英明（非常勤）

- 授業内容：ミヒャエル・エンデのエッセイを精読する。文章を文法的に正確に読み取るとはもちろん、彼の現代に対する批判的な思想を理解し、それを真つ当な日本語に訳すことが必要とされる。
・テキスト：ミヒャエル・エンデ『エンデのメモ箱』朝日出版社

基礎 3 第1部（後期）

C I（月・2）木戸 紗織（非常勤）

- ・テキスト：新田春夫、福間具子、M.フェルト『エレメンテードイツ語の文法と表現』郁文堂

E I a（月・1）神野 ゆみこ（非常勤）

- ・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語 改訂版』郁文堂

E I b（月・1）竹内 一高（非常勤）

- ・テキスト：必要に応じて自作教材を配布する。水曜のペア担当者指定の文法テキストも適宜参照する。

J I a（月・1）長谷川 健一（文学部教員）

- ・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

J I b（月・1）木戸 紗織（非常勤）

- ・テキスト：新田春夫、福間具子、M.フェルト『エレメンテードイツ語の文法と表現』郁文堂

L I a（月・2）國光 圭子（非常勤）

- ・テキスト：前田良三、高木葉子『ドイツ語ナビゲーション』朝日出版社

L I b（月・2）長谷川 健一（文学部教員）

- ・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

S I a（月・3）國光 圭子（非常勤）

- ・テキスト：神竹道士、田島昭洋、國光圭子『やってみよう！ドイツ語』白水社

S I b（月・3）神野 ゆみこ（非常勤）

- ・テキスト：大岩信太郎『新正書法による快速ドイツ文法（14課）』朝日出版社

S I c（月・3）土谷 真理子（非常勤）

- ・テキスト：新倉真矢子『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語』第三書房

T I a（月・4）高井 絹子（文学部教員）

- ・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック 3』朝日出版社

T I b（月・4）神野 ゆみこ（非常勤）

- ・テキスト：春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』朝日出版社

T I c（月・4）土谷 真理子（非常勤）

- ・テキスト：新倉真矢子『ゲナウ！コミュニケーションのドイツ語』第三書房

T I d（月・4）三上 雅子（文学部教員）

- ・テキスト：佐藤和弘、Heike Pinnau、中村俊子（雅美）『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 3〉』郁文堂

T I e（月・4）竹内 一高（非常勤）

- ・テキスト：必要に応じて自作教材を配布する。水曜のペア担当者指定の文法テキストも適宜参照する。

MI a (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト：必要に応じて自作教材を配布する。水曜のペア担当者指定の文法テキストも適宜参照する。

MI b (月・3) 三上 雅子 (文学部教員)

・テキスト：清野智昭、須藤温子、曾田素子『ドイツ語の時間—読解編—〈読めると楽しい!〉』朝日出版社

HI (月・3) 長谷川 健一 (文学部教員)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

基礎4 第1部 (後期)

CI (水・1) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：小塩節『ドイツこころの旅』朝日出版社

EI a (水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』白水社

EI b (水・2) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ! グラマティック』第三書房

JI a (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：矢羽々崇『ケイコのミュンヘン 聞いて話してドイツ語』朝日出版社

JI b (水・2) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：大久保進、ガビ・グレーベ『ポータルサイト：ドイツ語』朝日出版社

LI a (水・1) 神竹 道士 (文学部教員)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

LI b (水・1) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』白水社

TI a (水・3) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』白水社

TI b (水・3) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：清野智明『ドイツ語の時間』〈話すための文法〉改訂版』朝日出版社

TI c (水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

TI d (水・3) 海老根 剛 (文学部教員)

・テキスト：三室次雄『ドイッチュ・プラクティッシュ〈グリーン〉』三修社

TI e (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：春日正男、松澤淳『DVD わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ!』朝日出版社

SI a (水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

SI b (水・4) 林田 陽子 (非常勤)

・テキスト：池田信雄、イゾルデ・キーファー・イケダ『ドイツの人と暮らし』朝日出版社

SI c (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：前田良三、高木葉子『身につくドイツ文法〈Leicht〉』郁文堂

MI a (水・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう! ドイツ語』白水社

MI b (水・4) 海老根 剛 (文学部教員)

・テキスト：三室次雄『ドイッチュ・プラクティッシュ〈グリーン〉』三修社

HI (水・4) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

・テキスト：近藤弘、小林Gerlinde、新倉真矢子、松尾博史『Dialogードイツ語へのキックオフVer. 5』郁文堂

応用2 A 第1部 (後期)

JI aクラス (金・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：牧野アンゲリカ、荒川宗晴『ニーベルンゲンの指輪』第三書房

JI bクラス (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文[改訂新正書法版]』朝日出版社

LI aクラス (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

LI bクラス (金・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：佐藤修子、下田恭子、Heike Papenthin、Gesa Oldehaver『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

応用2 B 第1部 (後期)

CII (火・2) 高井 絹子 (文学部教員)

・テキスト：立川希代子『初級総仕上げ 2度目のドイツ語』白水社

特修2 第1部 (後期)

全II～IV (木・2) ジモン エルトレ (特任教員)

授業内容：授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリントを使用する。

特修4 第1部 (後期)

全II～IV (金・3) 田島 昭洋 (非常勤)

授業内容：ウェーバーの歌劇『魔弾の射手』の台本を読み、映像を見る。本作はドイツ語圏(森)を舞台にした初のドイツ語による「ドイツ国民オペラ」として名高い。合わせて関連映像や担当者の歌唱実演によって理解を深める。

・テキスト：使用しない。資料は毎回コピーして配布する。

特修6 第1部 (後期)

全II～IV (火・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

授業内容：過去問題や問題集を用いて、文法、語彙の復習を中心に筆記試験対策をします。また口頭表現、聞き取りも練習します。

・テキスト：プリントを配布します。

特修8 第1部 (後期)

全II～IV (火・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

授業内容：ドイツ語の新聞や雑誌の記事から読みやすいものを選び、読んでいきます。テーマは政治、経済、文化、娯楽など、硬軟取り混ぜて選びます。日常のドイツ語とドイツに触れましょう。

・テキスト：プリントを配布します。

特修10 第1部（後期）

全Ⅱ～Ⅳ（金・4）江川 英明（非常勤）

授業内容：ミヒャエル・エンデのエッセイを精読する。文章を文法的に正確に読み取るとはもちろん、彼の現代に対する批判的な思想を理解し、それを真つ当な日本語に訳すことが必要とされる。

・テキスト：ミヒャエル・エンデ『エンデのメモ箱』朝日出版社

特修1 第2部

全Ⅱ～Ⅳ（木・2）神竹 道士（文学部教員）

授業内容：初学者向けの初級ドイツ語文法を学習します。分かりやすい説明と簡単な練習問題を通して、基礎的な文法事項が過度な負担なく楽しく習得できると思います。発音指導には特に時間をかけますので、積極的な授業参加が望まれます。

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

「フランス語基礎1・2」（前期）（学部別提供 クラス指定 2単位）

目標：「基礎1・2」では、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業では

CDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用1A」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」履修中の者を対象として、「基礎1・2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音一補強

第4週～第9週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用2A」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語応用1A」履修者を対象として、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化

第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用1B」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音の仕組み、文の構造を学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の応用能力への導入
- 第6週～第10週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用2B」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1B〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1～10」(前期・後期) (全学提供 2単位)

目標：「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、映画、観光、インターネット、新聞、雑誌、マンガ、仏検準備などを通じて、フランス語の会話力、読解力を発展させることを目的とする。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

基礎1・2 (前期)

C I (月・2) 津川 廣行 (文)、(水・1) 小田中 章浩 (文)
・テキスト：小笠原洋子『《新版》ピエールとユゴー』(白水社)

E I (月・1) 久後 貴行 (非常勤)、(水・2) 秋吉 孝浩 (非常勤)
・テキスト：粕谷祐己『国際的にはたらこう』(白水社)

J I (月・1) 藤本 智成 (非常勤)、(水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)
・テキスト：大津俊克ほか『はじめてのパリー新・改訂版一』(朝日出版社)

L I (月・2) 白田 由樹 (文)、(水・1) 福島 祥行 (文)
・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

S I (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)、(水・4) 小林 裕史 (非常勤)
・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

M I (月・3) 中條 健志 (非常勤)、(水・4) 大窪 優子 (非常勤)
・テキスト：中川努、中井珠子『フランス語2020』(白水社)

H I (月・3) 辻 昌子 (非常勤)、(水・4) 白田 由樹 (文)
・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

T I (月・4) 中條 健志 (非常勤)、(水・3) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二、藤田知子、鈴木シルヴィ 『新装改訂版 新・東京-パリ 初飛行』 (駿河台出版社)

応用 1 A (前期)

J I (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：適宜プリントを配布

L I (金・4) ローラン・バレイユ (特任)

・テキスト：Bruno VANNIEU 『Moi je... コミュニケーション』 (Alma)

応用 1 B (前期)

C II (火・2) 藤田 あゆみ (非常勤)

・テキスト：加藤晴久、ミシェル・サガズ 『時事フランス語2014年度版』 (朝日出版)、および適宜プリント配布

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 岩本 篤子 (非常勤)

授業内容：【フランス語童謡の世界】フランスの童謡について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

・テキスト：プリント使用

特修 3 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・4) 福島 祥行 (文)

授業内容：【フランス語若者文化の世界】いまや世界語となった otaku と kawaii。このキーワードをあらわすフランスの姿として、若者雑誌や日本漫画の仏訳、web情報から発話・読解の勉強をおこなう。なお、すべてはグループワークでおこなわれる。

・テキスト：プリント配布

特修 5 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (木・3) 白田 由樹 (文)

授業内容：【フランス語旅の世界】初めてフランス語圏を旅行する場面を想定した会話の訓練とともに、初級文法や基本的な語彙、発音を復習しながら身につける。また受講者の関心に応じ、観光地や文化遺産等について学んでいく。

・テキスト：内村瑠美子ほか 『フランス語でサバイバル!』 (白水社)

特修 7 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・3) ローラン・バレイユ (特任)

授業内容：【フランス語会話の世界 1】フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス語会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めます。

・テキスト：Gael Crépieux, Olivier Massé, Jean-Philippe Rousse 『Interactions 1 - A1.1』 (CLE international)

特修 9 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・4) 藤本 智成 (非常勤)

授業内容：【フランス語検定の世界】実用フランス語技能検定試験 3 級 (大学 2 年修了程度) 合格を目指します。「基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる」という検定基準に到達するための訓練をします。

・テキスト：プリントを配布します。

基礎 3 (後期)

CI (月・2) 津川 廣行 (文)

・テキスト：小笠原洋子『《新版》ピエールとユゴー』(白水社)

EI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト：粕谷祐己『国際的にはたらこう』(白水社)

JI (月・1) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：大津俊克ほか『はじめてのパリ―新・改訂版―』(朝日出版社)

LI (月・2) 白田 由樹 (文)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

SI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

TI (月・4) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二、藤田知子、Sylvie Gillet『新・東京―パリ―初飛行』(駿河台出版社)

MI (月・3) 中條 健志 (非常勤)

・テキスト：中川努、中井珠子、曾我祐典『フランス語2020』(白水社)

HI (月・3) 辻 昌子 (非常勤)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

基礎 4 (後期)

CI (水・1) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：小笠原洋子『《新版》ピエールとユゴー』(白水社)

EI (水・2) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：甲斐基文『セ・ガニェ!』(第三書房)

JI (水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：大津俊克、瀧川広子、藤井宏尚『はじめてのパリ―新・改訂版―』(朝日出版社)

LI (水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

SI (水・4) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

TI (水・3) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二、知子、S. Gillet『新・東京―パリ―初飛行』(駿河台出版社)

MI (水・4) 大窪 優子 (非常勤)

・テキスト：中川努、中井珠子『フランス語2020』(白水社)

HI (水・4) 福島 祥行 (文)

・テキスト：江島泰子『アレグレス』(第三書房)

応用 2 A (後期)

JI (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：斎藤広信『シチュアション1』（早美出版社）

L I（金・4）ロラン・バレイユ（特任）

・テキスト：Bruno VANNIEU『Moi je… コミュニケーション』（Alma）

応用2B（後期）

C II（火・2）藤田 あゆみ（非常勤）

・テキスト：加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語2014年度版』（朝日出版社）、および適宜プリント配布

特修2（後期）

全II～IV（火・3）岩本 篤子（非常勤）

授業内容：【フランス語ポップスの世界】60年代から現在までのフランスのポップ・ミュージックを視聴し、歌詞を訳し、時には歌うことによって、フランス文化への理解を深める。

・テキスト：プリント使用

特修4（後期）

全II～IV（火・4）小田中 章浩（文）

授業内容：【フランス語の映画の世界】エリック・ロメール監督の映画『緑の光線』を題材にして、生きたフランス語会話の表現方法について学ぶ。

・テキスト：教室にてプリント配布

特修6（後期）

全II～IV（木・3）津川 廣行（文）

授業内容：【フランス語ことわざの世界】フランス語にはおもしろいことわざがたくさんあります。その理解、発音、書き取り、暗記などをつうじて、フランス語力を高めよう。

・テキスト：プリント配布

特修8（後期）

全II～IV（金・3）ロラン・バレイユ（特任）

授業内容：【フランス語会話の世界2】フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス語会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めます。

・テキスト：Marcella Beacco di Giura 他『Café Crème』（Hachette）

特修10（後期）

全II～IV（金・4）藤澤 秀平（非常勤）

授業内容：【フランス語ジャーナリズムの世界】インターネットを活用しつつフランスのテレビ・ラジオ・新聞を通してフランスの「今」をのぞく。現代のフランス社会を知ることにより、日本のあり方をあらためて捉え直す機会とする。

・テキスト：プリントなどを随時配布。中型の仏和辞典、あるいはそれに相当する電子辞書を必ず用意して下さい。

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まっていくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「中国語基礎1・2」（前期）（学部別提供 クラス指定制 2単位）

目標：中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1・2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(中国語の特徴や背景となる中国社会、文化について紹介する)
- 第2週～第5週：発音の基礎練習
- 第6週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方
- 第7週：副詞「也」「都」、選択疑問文
- 第8週：「呢」疑問文、指示代詞（これ、あれ）、「的」
- 第9週：疑問詞疑問文、時点（今日、今年）
- 第10週：形容詞述語文、反復疑問文
- 第11週：所有を表す動詞「有」、量詞、「几」と「多少」
- 第12週：文末の「了」、時刻
- 第13週：連動文、日付・曜日、疑問詞「怎么」
- 第14週：総復習

評価方法：平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

- 第1週：前期の復習
- 第2週：指示代詞（ここ、あそこ）、方位詞、「在」と「有」
- 第3週：動詞の後の「了」、動詞の重ね型、前置詞「给」
- 第4週：経験の「过」、動作量補語、前置詞「跟」
- 第5週：時間量、時間量補語、前置詞「从」「到」「离」
- 第6週：助動詞「会」、助動詞「能」、主述述語文
- 第7週：比較、「多」+形容詞、年齢の尋ね方
- 第8週：「是～的」構文、100以上の数、金額の言い方
- 第9週：状態補語、二重目的語、「有点儿」
- 第10週：方向補語、進行の「在」、禁止

第11週：結果補語、処置文、助動詞「可以」

第12週：受身文、使役文、補語のまとめ

第13週：近い未来、「越来越～」、複文

第14週：総復習

評価方法：平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週：指示代詞（ここ、あそこ）、方位詞、「在」と「有」

第3週：動詞の後の「了」、動詞の重ね型、前置詞「给」

第4週：経験の「过」、動作量補語、前置詞「跟」

第5週：時間量、時間量補語、前置詞「从」「到」「离」

第6週：助動詞「会」、助動詞「能」、主述語文

第7週：比較、「多」+形容詞、年齢の尋ね方

第8週：「是～的」構文、100以上の数、金額の言い方

第9週：状態補語、二重目的語、「有点儿」

第10週：方向補語、進行の「在」、禁止

第11週：結果補語、処置文、助動詞「可以」

第12週：受身文、使役文、補語のまとめ

第13週：近い未来、「越来越～」、複文

第14週：総復習

評価方法：平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用1A」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

授業内容・授業計画：

第1週～第4週：発音の基礎練習

第5週：呼称、挨拶

第6週：自己紹介

第7週：これは何ですか

第8週：これはいかがですか(1)

第9週：これはいかがですか(2)

第10週：買い物(1)

第11週：買い物(2)

第12週：どこにありますか(1)

第13週：どこにありますか(2)

第14週：総復習

評価方法：平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用2A」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

授業内容・授業計画：

- 第1週：何がありますか（1）
- 第2週：何がありますか（2）
- 第3週：何時に行きますか（1）
- 第4週：何時に行きますか（2）
- 第5週：ホテルのフロントで（1）
- 第6週：ホテルのフロントで（2）
- 第7週：タクシーに乗る（1）
- 第8週：タクシーに乗る（2）
- 第9週：試着と支払い（1）
- 第10週：試着と支払い（2）
- 第11週：苦情を訴える（1）
- 第12週：苦情を訴える（2）
- 第13週：紛失届を出す（1）
- 第14週：紛失届を出す（2）

評価方法：平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用1B」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

授業内容・授業計画：

- 第1週～第2週：既習事項の確認
- 第3週～第6週：中国語の応用能力への導入
- 第7週～第10週：中国語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：中国語の応用能力の発展的養成

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用2B」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

授業内容・授業計画：

- 第1週～第2週：＜応用1B＞の既習事項の確認
- 第3週～第6週：中国語の応用能力の拡充
- 第7週～第10週：中国語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：中国語の応用能力の仕上げ

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：1回生の基礎1～4で身につけた正確な発音を基に、自由に会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行う。また口頭作文、言い換え、暗誦などを通して「話す」力も高め、会話でよく用いられる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで話せることを目指す。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修3」（前期）（全学提供 2単位）

「特修4」（後期）（全学提供 2単位）

目標：中国語検定に合格する能力の養成を目標とする。前期の特修3は、学習歴1年のレベルを想定した中国語検定4

級を到達目標とする。後期の特修4は、学習歴2年程度に該当する中国語検定3級レベルへの到達を目指す。前期、後期と継続して受講することが望まれる。月に一度は模擬試験の形式により、定着度を測る。また問題の解答・解説に終始するのではなく、日本人学習者のウィークポイントに絞って、その克服に努める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修5」(前期) (全学提供 2単位)

「特修6」(後期) (全学提供 2単位)

目標：中国語を読む力、聴く力を鍛え、中国語の基礎的文献を理解する力を養成すると同時に、そのテキスト内容を通して、急速な成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することを目的とする。テキストは、最近の新聞、雑誌、書籍などから、ふさわしい話題性、問題性に富むものを選び、また必要に応じて書き下ろした。この授業で、中国語を身につけながら、すでにあるステレオタイプな「中国」像ではなく、歴史的、文化的背景に基づいた新しい「中国」像を、自らの手で作り上げてもらいたい。この授業は、テキストの購読を中心とし、文の構造の分析や解釈に重点を置くほか、適宜リスニングも取り入れる。また、テキストの内容に関わる報告やレポートの提出も求める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点(報告・レポートなど)、学期末試験を総合して判定する。

「特修7」(前期) (全学提供 2単位)

「特修8」(後期) (全学提供 2単位)

目標：視聴覚教材を用いて、聞き取りと会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらうようにする。

評価方法：出席を前提とし、平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修9」(前期) (全学提供 2単位)

「特修10」(後期) (全学提供 2単位)

目標：一回生で習った事柄を中心に、日常的な会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、できるだけ中国語を多く使って授業を行う。自然な中国語に近づけるよう訓練する。

評価方法：出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

基礎 1・2 (前期)

C1a (月・2) 山口 博子(非常勤)、(水・1) 池平 紀子(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C1b (月・2) 秋岡 英行(非常勤)、(水・1) 王 標(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C1c (月・2) 福田 知可志(非常勤)、(水・1) 城山 拓也(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C1d (月・2) 田淵 欣也(非常勤)、(水・1) 趙 冬輝(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E1a (月・1) 秋岡 英行(非常勤)、(水・2) 王 標(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E1b (月・1) 福田 知可志(非常勤)、(水・2) 史 形春(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E1c (月・1) 韓 艶玲(非常勤)、(水・2) 大野 陽介(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E1d (月・1) 田淵 欣也(非常勤)、(水・2) 趙 冬輝(非常勤)

・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

J 1 a (月・1) 大岩本 幸次 (文)、(水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

J 1 b (月・1) 山口 博子 (非常勤)、(水・2) 松浦 恆雄 (文)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 a (月・2) 岩本 真理 (文)、(水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 b (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・1) 松浦 恆雄 (文)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

M 1 H 1 a (月・3) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

H 1 b (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 a (月・4) 山口 博子 (非常勤)、(水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 b (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・3) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 c (月・4) 田渕 欣也 (非常勤)、(水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 d (月・4) 王 標 (非常勤)、(水・3) 城山 拓也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

応用 1 A (前期)

J 1 a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

J 1 b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

L 1 a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

L 1 b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

応用 1 B (前期)

C 2 a (火・2) 趙 冬輝 (非常勤)

・テキスト: 陳淑梅・劉光赤: 『しゃべっていいとも 中国語2 ステップアップ編』 (朝日出版社)

C 2 b (火・2) 城山 拓也 (非常勤)

・テキスト: 篠原征子: 『中国語中級テキスト 楊逸エッセイを中国語で読む!』 (光生館)

C 2 c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 2年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

C 2 d (火・2) 大岩本 幸次 (文)

・テキスト: 洪潔清: 『Chinese Adventure ～DVDで学ぶ中国文化～』 (金星堂)

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

- ・講義内容：すでに学習した文法事項を復習しながら、準中級レベルの表現を繰り返して進んでいきます。飲食、キャンパス生活、趣味、旅行など、身近なテーマに沿って、ゆとりを持って各場面に対応できるコミュニケーション力を身につけるように目指します。
- ・テキスト：守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』（朝日出版社）

特修 3 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 岩本 真理 (文)

- ・講義内容：中国語検定4級レベルのリスニング、文法問題に取り組む。教科書の例文暗唱と不得手とする問題の解説により、総合的な語学力の向上を図る。受講生同士のペアによる応用会話や、個別のシャドーイング課題にも取り組む。
- ・テキスト：プリント配布

特修 5 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (水・3) 井出 克子 (非常勤)

- ・講義内容：長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。成績は、出席・平常点（報告・レポートなど）・学期末試験を総合して判断する。
- ・テキスト：松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』（白帝社）

特修 7 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (木・3) 張 新民 (文)

- ・講義内容：最近の映画などを教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。
- ・テキスト：プリント配布

特修 9 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・3) 范 紫江 (非常勤)

- ・講義内容：「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。成績は全クラス共通で設定された要求水準に準拠し、平常点、出席、定期試験の内容により総合的に判断する。出席重視。
- ・テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 2年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

基礎 3 (後期)

C1 a (月・2) 山口 博子 (非常勤)

- ・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

C1 b (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)

- ・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

C1 c (月・2) 福田 知可志 (非常勤)

- ・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

C1 d (月・2) 田淵 欣也 (非常勤)

- ・テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

E 1 a (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 b (月・1) 福田 知可志 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 c (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 d (月・1) 田渕 欣也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

J 1 a (月・1) 大岩本 幸次 (文)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

J 1 b (月・1) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 a (月・2) 岩本 真理 (文)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 b (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

M 1 H 1 a (月・3) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

H 1 b (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 a (月・4) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 b (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 c (月・4) 田渕 欣也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 d (月・4) 王 標 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

基礎 4 (後期)

C 1 a (水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

C 1 b (水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

C 1 c (水・1) 城山 拓也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

C 1 d (水・1) 趙 冬輝 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 a (水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 b (水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 c (水・2) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

E 1 d (水・2) 趙 冬輝 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

J 1 a (水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

J 1 b (水・2) 城山 拓也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 a (水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

L 1 b (水・1) 松浦 恆雄 (文)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

M 1 H 1 a (水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

H 1 b (水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 a (水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 b (水・3) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 c (水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

T 1 d (水・3) 城山 拓也 (非常勤)

・テキスト: 杉野元子・黄漢青: 『大学生のための初級中国語24回』 (白帝社)

応用 2 A (後期)

J 1 a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

J 1 b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

L 1 a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

L 1 b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社)

応用 2 B (後期)

C 2 a (火・2) 趙 冬輝 (非常勤)

・テキスト: 陳淑梅・劉光赤: 『しゃべっていいとも 中国語2 ステップアップ編』 (朝日出版社)

C 2 b (火・2) 城山 拓也 (非常勤)

- ・テキスト：篠原征子：『中国語中級テキスト 楊逸エッセイを中国語で読む!』(光生館)

C 2 c (火・2) 張 新民 (文)

- ・テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

C 2 d (火・2) 大岩本 幸次 (文)

- ・テキスト：洪潔清：『Chinese Adventure ～DVDで学ぶ中国文化～』(金星堂)

特修 2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

- ・講義内容：すでに学習した文法事項を復習しながら、準中級レベルの表現を繰り返して進んでいきます。飲食、キャンパス生活、趣味、旅行など、身近なテーマに沿って、ゆとりを持って各場面に対応できるコミュニケーション力を身につけるように目指します。
- ・テキスト：守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』(朝日出版社)

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 岩本 真理 (文)

- ・講義内容：中国語検定3級レベルのリスニング、文法問題に取り組む。教科書の例文暗唱と不得手とする問題の解説により、総合的な語学力の向上を図る。受講生同士のペアによる応用会話や、個別のシャドーイング課題にも取り組む。
- ・テキスト：プリント配布

特修 6 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (水・3) 井出 克子 (非常勤)

- ・講義内容：長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。成績は、出席・平常点(報告・レポートなど)・学期末試験を総合して判断する。
- ・テキスト：松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』(白帝社)

特修 8 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (木・3) 張 新民 (文)

- ・講義内容：最近の映画などを教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。
- ・テキスト：プリント配布

特修10 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・3) 范 紫江 (非常勤)

- ・講義内容：「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。成績は全クラス共通で設定された要求水準に準拠し、平常点、出席、定期試験の内容により総合的に判断する。出席重視。
- ・テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

ロシア語 Russian

学習の意義

「近年、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）の活躍は目覚ましい。ロシア経済も好調を維持している。今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。1991年にソ連邦が崩壊したが、今でも、ウクライナ、ベラルーシ、エストニア、ラトビア、アルメニア、カザフスタン、キルギスなど、また、グルジア、モルドバなどを旅行する際にはロシア語の知識は大いに有効である。日本アニメは相変わらず圧倒的人気を保ち、村上春樹など日本作家の本が書店に並ぶ。日本の食文化への関心も高い。ロシアの魅力は何か、と聞かれたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チャーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ラフマーニノフ、ショスタコーヴィチなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ブルシェンコなど有力選手を輩出するロシアのフィギュアスケート、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつで、世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ぜひロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。」

目標と評価方法

「ロシア語基礎1・2」（前期）（2クラス提供 2単位）

目標：担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」（後期）（各2クラス提供 各1単位）

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

〈基礎4〉

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1A」（前期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。発音が主として中心になるが、学習に参加する学生との「ふれあい」を大切に授業を行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門3」に読み替えることができる。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で行う。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音の補強
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

評価方法：平常点を加味して、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用2A」（後期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。生きたロシア語の表現を学ぶクラスで、ネイティブの教員が担当する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級3」に読み替えることができる。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で行う。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：平常点を加味して、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1B」（前期）「ロシア語応用2B」（後期）（全学提供 各1単位）

目標：1年次に修得した事項をより確かなものにするため、役に立つ会話を中心に、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの教員が担当する。

評価方法：出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

授業内容・授業計画：

〈応用1B〉

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：ロシア語応用能力の導入
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

〈応用2B〉

- 第1週：〈応用1B〉既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」（前期）「ロシア語特修2」（後期）（全学提供 各2単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲ある学生を対象に、様々な映像を活用してロシアの文化（音楽、演劇、映画など）を学びながらロシア語の知識を習得し、ロシア語の運用能力の向上を目指す。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で行う。

「ロシア語特修3」（前期）「ロシア語特修4」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をしつつ、会話と読解の力の向上を目指す。ネイティブの教員が担当し、ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りなどを紹介しつつ、高度のコミュニケーション能力を身につけてもらう。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で判断する。

基礎1・2（前期）

（月・3）バクン・エレナ（非常勤講師）

講義内容：コミュニケーションな学習の基礎作りを特徴にしている。キリル文字に慣れること、簡単な表現の習得を主要な内容とする。

- ・成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリント配布。

（月・2）浅岡 宣彦（特任）

講義内容：平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進め、同時にロシア語の骨組みを理解してもらう。ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

- ・成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリントを配布する。

（水・1）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤講師）

講義内容：文法の復習をしながら、会話練習を中心にし、ロール・プレイや問答等を取り入れ会話を養う。ビデオやプリントを通して現代のロシア人の日常生活を紹介する。

- ・成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。
- ・教科書：プリント配布。

（水・4）浅岡 宣彦（特任）

講義内容：平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進める。同時に、ロシア語の骨組みを理解してもらう。ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

- ・成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』（大学書林）適宜プリントを配布する。

基礎3（後期）

（月・2）浅岡 宣彦（特任）

講義内容：前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

- ・成績評価の方法：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリント配布。

（月・3）バクン・エレナ（非常勤講師）

講義内容：やさしい日常の表現と基本的文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。

- ・成績評価の方法：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリント配布。

基礎 4 (後期)

(水・1) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤講師)

講義内容: 『会話で学ぶロシア語 初級』の残りを仕上げ、更にコミュニケーション能力のアップを目指していく。ロシアだけでなく、旧ソ連の国々も紹介する。

- ・成績評価の方法：平常点、定期試験の成績で総合的に行う。
- ・教科書：プリント配布。

(水・4) 浅岡 宣彦 (特任)

講義内容: 前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

- ・成績評価の方法：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。
- ・教科書：黒田龍之介著『ロシア語文法への旅』(大学書林) 適宜プリントを配布する。

応用 1 A (前期)

(金・4) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤講師)

講義内容: 文字と発音に慣れ、簡単な表現を習得する事を目標とする。アルファベット・発音、基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数、を取り扱う。

- ・成績評価の方法 定期試験の成績
- ・教科書：「ロシア語習字ノート」(ナウカ) プリント配布。

応用 2 A (後期)

(金・4) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤講師)

講義内容: 「聞く・話す・読む・書く」の基本的力を養う。運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結び付き、造格、完了体・不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞、活動体・不活動体(対格)、総合練習、を取り扱う。

- ・成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績
- ・教科書：プリント配布。

応用 1 B (前期)

(月・4) バクン・エレーナ (非常勤講師)

講義内容: 色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。挨拶の表現・部屋の中の語彙・教室の語彙・食べ物の語彙・飲み物の語彙・家族の語彙・買い物の語彙などを学習する。

- ・成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績。
- ・教科書：プリント配布。

応用 2 B (後期)

(月・4) バクン・エレーナ (非常勤講師)

講義内容: 色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。家族の表現・交通の表現・買い物の表現・旅の表現・場所の表現・時の表現などを学習する。

- ・成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績。
- ・教科書：プリント配布。

特修 1 (前期)

(水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

講義内容: 復習を兼ねながら、基礎で触れていない文法事項 (副動詞・形動詞など) を取り上げ、読解の力の養成を目指す。視聴覚教材を用いてロシアの文化を紹介する。

- ・成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。
- ・教科書: 適宜、プリントを配布する。

特修 2 (後期)

(水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

講義内容: テーマに沿った映像を鑑賞しつつ、原作の一部を詳しく講読する。並行して、ロシアの歴史と文化を紹介し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

- ・成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。
- ・教科書: 適宜、プリントを配布する。

特修 3 (前期)

(金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤講師)

講義内容: 教科書『ロシア語教程 I』の第12課まで復習しつつ学ぶことを目標とする。関係代名詞の用法、無人称文 (副詞と述語)、数詞 (40-2000)、動詞の体 (その3)、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体 (その4)、体調の表現、西暦年代、を取り扱う。

- ・成績評価の方法: 平常点を加味して、定期試験の成績。
- ・教科書: 『ロシア語教程 I』 (東京ロシア語学院)

特修 4 (後期)

(金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤講師)

講義内容: 『ロシア語教程 I』の残りを仕上げ、コミュニケーティヴ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。数量の表現、複数生格、数詞 (3000-5000000)、動詞の体 (その5)、活動体対格 (複数)、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞、を取り扱う。

- ・成績評価の方法: 平常点を加味して、定期試験の成績。
- ・教科書: 『ロシア語教程 I』 (東京ロシア語学院)

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

「朝鮮語基礎 1・2」(前期) (学部別提供 クラス指定 2単位)

目標: ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門 1・2」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

〈授業計画〉

- 第1回 ハングルの歴史と構造
文字の成り立ちの理解。
- 第2～4回 文字と発音(基礎母音・基礎子音・激音・濃音・合成母音など)
ハングル文字の正確な発音と書き方の習得。
- 第5～8回 単語の読み方、基礎的な構文(体言文の肯定・否定・場所の表現・助詞)
文章における発音の規則、名詞を中心とした表現の習得。
- 第9～12回 用言文の肯定・否定、存在詞を用いた表現
動詞・形容詞を用いた構文と語法の習得。
- 第13～15回 進行形・敬語表現・数詞(固有数詞、漢数詞)など
基礎的な会話表現と数量表現の習得。

「朝鮮語基礎 3」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 「朝鮮語基礎 1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎 4」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級 1」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

〈授業計画〉

- 第1～4回 連体形・命令表現
活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。
- 第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現
母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

- 第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など
さまざまな表現、および不規則活用の習得。
- 第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形
語法の仕上げと論説文体の習得。

「朝鮮語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

＜授業計画＞

- 第1～4回 連体形・命令表現
活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。
- 第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現
母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。
- 第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など
さまざまな表現、および不規則活用の習得。
- 第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形
語法の仕上げと論説文体の習得。

「朝鮮語応用1A」（前期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語基礎1・2」を履修中の人を対象に、「基礎1・2」と連携しながら、ハングル文字の発音からはじめ、朝鮮語の基礎的な構造と活用形（連体形・連用形・過去形など）や、日常生活でよく用いられる主な語法（仮定法や比喩表現など）と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざすのは基礎クラスと同じですが、それに加えて、ビデオ教材なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解の十分なまでにはまだ至りません。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2A」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語応用1A」を履修した人を対象に、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力を養成するとともに、ビデオ教材を活用し、ニュースや映画などの生き生きした言葉に触れ、朝鮮語の感覚に慣れるようつとめます。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級3」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用1B」(前期) (全学提供 1単位)

目標: 「朝鮮語基礎1・2」の履修を終えた人を対象に、「基礎1・2」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、新たに日常生活でよく用いられる語法や語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などが独力でできる、いわゆる独り立ちできる語学力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。本講座をマスターすれば、やや高度な会話や構文を理解できるようになります。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2B」(後期) (全学提供 1単位)

目標: 「朝鮮語応用1B」の履修を終えた人を対象に、「応用1B」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、より高度な語法や語彙を習得し、日常会話や読解に使える実践的な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などのスピードアップが独力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。本講座をマスターすれば、比較的高度な会話や構文を理解できるようになります。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級3」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」(前期) (全学提供 2単位)

「朝鮮語特修2」(後期) (全学提供 2単位)

目標: 語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのためにネイティブの教師が少人数クラスで集中的な授業を行い、正確な発音と作文力や読解力・語彙力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。また、受講生の要望に応じ、検定試験対策も試みます。

評価方法: 定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

「朝鮮語特修3」(前期) (全学提供 2単位)

「朝鮮語特修4」(後期) (全学提供 2単位)

目標: 教科書の中にある言葉ではなく、映画に登場する会話や新聞・雑誌などの文章をテキストとしながら、実際に使われている「生きた言葉」に触れることを目的とします。

語学的な理解のみならず、現代韓国の社会や伝統文化など、感性においてもより深いアプローチができることをめざします。

評価方法: 定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な質疑応答が重視されます。

基礎 1・2 (前期)

CTI (月・2) 野崎 充彦 (文)、(水・3) 北島 由紀子 (特任)

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。
・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMHI (月・3) 野崎 充彦 (文)、(水・4) 北島 由紀子 (特任)

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。
・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

JLI (月・4) 野崎 充彦 (文)、(水・4) 金 宝英 (特任)

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。
・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

応用 1 A (前期)

全I (木3) 金 宝英 (特任)

授業内容：基礎 1・2 と並行して朝鮮語の文字発音や基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。
・テキスト：生越直樹『ことばの架け橋』(白帝社)

応用 1 B (前期)

全II (木4) 金 宝英 (特任)

授業内容：基礎クラスで学び残した語法をマスターして確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の養成をめざします。具体的なシチュエーションに適した会話を通じ、短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。
・テキスト：プリント配布

特修 1 (前期)

全II～IV (水・3) 金 宝英 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることが目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。
・テキスト：プリント配布

特修 3 (前期)

全II～IV (火・3) 野崎 充彦 (文)

授業内容：映画やニュース、それに昔話やエッセイなど実際に使われている生きた言葉にふれ、楽しみながら学ぶことを目指します。それによって、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるようになるでしょう。
・テキスト：プリント配布

基礎 3 (後期)

CTI (月・2) 野崎 充彦 (文)

授業内容: 基礎 1・2 で学んだ事柄を復習しながらさらに学習を進め、規則活用や不規則活用、および日常生活でよく用いられる語法 (可能・不可能表現や婉曲語法など) を習得していきます。また、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』 (国書刊行会)

EMHI (月・3) 野崎 充彦 (文)

授業内容: 前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』 (国書刊行会)

JLI (月・4) 野崎 充彦 (文)

授業内容: 前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』 (国書刊行会)

基礎 4 (後期)

CTI (水・3) 北島 由紀子 (特任)

授業内容: 前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 金京子・喜多多恵子『パランセ韓国語』 (喚火出版社)

EMHI (水・4) 北島 由紀子 (特任)

授業内容: 前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト: 金京子・喜多多恵子『パランセ韓国語』 (喚火出版社)

JLI (水・4) 金 宝英 (特任)

授業内容: 前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: プリント配布

応用 2 A (後期)

全 I (木・3) 金 宝英 (特任)

授業内容: 基礎 3・4 と並行して朝鮮語の基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

・テキスト: 生越直樹『ことばの架け橋』 (白帝社)

応用 2 B (後期)

全 II (木・4) 金 宝英 (特任)

授業内容: 基礎クラスで習得した事柄を復習しながら、確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には日常会話でよく用いられる語法を中心に短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト: プリント配布

特修 2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (水・3) 金 宝英 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：プリント配布

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 野崎 充彦 (文)

授業内容：映画やニュース、それに昔話やエッセイなど実際に使われている生きた言葉にふれ、楽しみながら学ぶことを目指します。それによって、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるようになるでしょう。

・テキスト：プリント配布

日本語 Japanese

学習の意義

留学生にとって日本語の習得がいかに大切なものであるかは、いうまでもない。ただ、日本語の習得といっても、その内容はさまざまである。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアによる日本語の言葉を通しての娯楽など。しかし、ここでは大学生活にとって必要な日本語の習得である。大学生活を実り豊かにするために学習・研究活動のための十分な日本語能力を身につけることが肝要である。学習活動に必要な日本語能力とは講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力などである。研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで、要約し、ゼミなどで発表する、あるいはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。「日本語1～4」ではそのような能力の養成につとめる。なお、それぞれ内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお、「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

目標と評価方法

「日本語1A・1B」（前期・後期）（全学提供 各1単位）

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。具体的には①高度な論説文の読解力をつける。②むずかしい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語2A・2B」（前期・後期）（全学提供 各1単位）

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力をつける。①論文などを要約・説明・発表する。②レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を身につける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語3A・3B」（前期・後期）（全学提供 各1単位）

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、さまざまな文献を読みこなす力を養う。①高度な論説文を読み、論点を整理する。②多彩な文献の速読能力を養う。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語4A・4B」（前期・後期）（全学提供 各1単位）

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語で議論する能力を養う。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語5A・5B」（前期・後期）（全学提供 各1単位）

目標：大学での学習活動に要する日本語能力を身につける。短期留学や交換留学の学生、とくに非漢字文化圏の学習者に対応した学習内容とする。履修に関しては担当者の許可を必要とする。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

1 A 第1部（前期）

全（月曜日・3限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：その日の新聞を読む。政治・経済・社会・文化・生活などさまざまな記事を速読する。それによって日本の現在を知る。

・テキスト：授業時に指示する。

2 A 第1部（前期）

全（火曜日・3限）坂本 美加（非常勤）

授業内容：簡単な作文を通じて、レポート・論文といった論理的な文章を書くために必要な基礎的事項について学ぶ。

・テキスト：二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

3 A 第1部（前期）

全（月曜日・2限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：日本の文学作品を読む。芥川龍之介『羅生門』、川端康成『伊豆の踊子』、三島由紀夫『潮騒』などを読み、議論する。

・テキスト：授業時に指示する。

4 A 第1部（前期）

全（火曜日・4限）坂本 美加（非常勤）

授業内容：口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が設定したテーマで発表を行い、クラスで討論する。

・テキスト：授業時に指示する。

5 A 第1部（前期）

全（水曜日・4限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：日本の文化についてテーマを設け、それぞれが発表する。なお、この授業は交換留学生を対象とする。

・テキスト：授業時に指示する。

1 B 第1部（後期）

全（月曜日・3限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：日本語に関する文章を読む。それによって日本語の特色を知る。

・テキスト：授業時に指示する。

2 B 第1部（後期）

全（火曜日・3時限）坂本 美加（非常勤）

授業内容：レポート・論文を書くための作文トレーニングを行う。特に、文章の構成や要約のしかたについて学ぶ。

・テキスト：二通信子・佐藤不二子『留学生のための論理的な文章の書き方』他 スリーエーネットワーク、適宜プリント配付

3 B 第1部（後期）

全（月曜日・2限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：日本の文化と歴史に関する文章を読む。

・テキスト：授業時に指示する。

4 B 第1部（後期）

全（火曜日・4限）坂本 美加（非常勤）

授業内容：口頭発表技術を高める活動を中心に行う。より実践的な形での発表練習をする。

・テキスト：授業時に指示する。

5 B 第1部（後期）

全（月曜日・3限）高坂 史朗（文学部教員）

授業内容：日本の都市と文化について、それぞれが調べ発表する。なおこの授業は交換留学生を対象とする。

・テキスト：授業時に指示する。

(2) 第 2 部

英 語

ドイツ語

フランス語

中国語

ロシア語

英語 English

(平成20年度入学者用)

カリキュラム概要

きめ細かな指導を行うため、1年、2年共に少人数のクラス編制とする。また、必修科目としてCollege English (CE) が1年で4時間、2年で2時間の合計6時間提供される。このことにより、市大生に求められる英語運用能力の習得を目指す。

1年は、前・後期の授業を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標としている。CE IとCE IIIは、リスニング・リーディング中心、CE IIとCE IVは、スピーキング・ライティング中心のクラスである。前期の目標は、中学・高校で習得した基本的な英語の運用能力に基づきながら、大学生の知的レベルに合った話題を扱い、4技能の基礎的能力を育成・強化することにある。後期は前期の授業を発展させ、大学生の知的好奇心を満足させる話題を扱いながら、4技能の応用力を培うことにより、英語で大意を把握し、同時に表現する能力の開発を目指す。

2年では、1年に培った英語力に基づき、応用力・実践力を身につけることを目的とする。1年に習得した英語運用能力をさらに発展させ、専門教育につながる高度なレベルのリーディング・ライティング能力の習得に重点を置いた授業を行う。CE Vでは、1年次のCE I～IVの成果を踏まえ、多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CE VIは、専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。

また、意欲的な学生を対象に、プレゼンテーションのような高度な英語運用能力の習得を目指した自由選択科目のAdvanced College English (ACE)を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
1年	前期	CE I*	CE II*	ACE*
	後期	CE III*	CE IV*	
2年	前期	CE V		
	後期	CE VI		

*平成25年度開講なし

CE VはCE I, II, III, IV, VIと読替可能。CE VIはCE I, II, III, IV, Vと読替可能。

履修科目内容

(1) College English V (CEV)

多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CEVは、CEI～IVの総仕上げの意味を持つ。長文を読み、長文を書く能力を身につけることを目標とする。

クラス	曜・時限	担当者
全	木・1	山本

(2) College English VI (CEVI)

専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。単に英文が読める、書けるということではなく、専門的な内容について、読み書きできる基本的な能力を育成することを目標とする。

クラス	曜・時限	担当者
全	火・1	山崎

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることが諸君に期待する。

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1年次前期	基礎1 Basic 1	基礎2 Basic 2
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4
2年次以降	特修1 Specialized 1 特修2 Specialized 2	

(詳細は各学部で異なるので、所属学部の履修規定を参照すること)

§ 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「基礎1」(1単位)、「基礎2」(1単位)を履修すること。
2. 原則として、「基礎1」「基礎2」を受講したのち、1年次後期で、「基礎3」「基礎4」を受講すること。
3. さらに学習したい者は、2年次以降で「特修1」(2単位)、「特修2」(2単位)を履修することができる。「特修1」「特修2」は毎年開講されるが、これは重複履修してよい。なお、「基礎」を受講したうえで不合格だった者も、「特修」を履修することができる。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」の不合格者は、2年次で、不合格であったのと同じ番号の「基礎」を再度履修すること。

※平成16年度以前入学学生は、17年度以降入学学生向けの科目をもって読み替える。

詳細は、学部事務室に問い合わせること。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらし、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語特修1」(前期)(全学提供 2単位)

目標：基礎段階を履修した学生を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、少人数授業によって、充実したドイツ語能力を身につけることをめざす。

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

特修1 第2部

全Ⅱ～Ⅳ(木・2) 神竹 道士(文学部教員)

授業内容：初学者向けの初級ドイツ語文法を学習します。分かりやすい説明と簡単な練習問題を通して、基礎的な文法事項が過度な負担なく楽しく習得できると思います。発音指導には特に時間をかけますので、積極的な授業参加が望まれます。

・テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』朝日出版社

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語＋第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

「フランス語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

目標：「基礎」や「応用」を修得したのち、もっと学びたいという、意欲ある学生のために提供される「特修」では、年度ごと、クラスごとにそれぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、口頭表現、長文読解、仏検準備などであり、いずれのクラスもテーマに特化した授業がおこなわれる。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

特修1 （前期）

全（火・1）小田中 章浩（文）

授業内容：【フランス語の歴史の世界】池田理代子『ベルサイユのばら』のフランス語版を読むことで、この時代のフランスの文化と歴史に関する理解を深める。

・テキスト：教室にてプリント配布

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まっていくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「特修1」(前期) (全学提供 2単位)

目標: 特に意欲のある学生のために開設する科目である。既習事項を基礎として、より複雑な構文や多様な文体に触れ、理解を深めていく。また、ナチュラルスピードで語られる録音教材や、最近の映画なども教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

評価方法: 平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

特修1 (前期)

全(火・1)大岩本 幸次(文)

講義内容: 「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して「話す」力を高め、会話でよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。

・テキスト: プリント配布

ロシア語 Russian

学習の意義

学習の意義「近年、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）の活躍は目覚ましい。ロシア経済も好調を維持している。今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。1991年にソ連邦が崩壊したが、今でも、ウクライナ、ベラルーシ、エストニア、ラトビア、アルメニア、カザフスタン、キルギスなど、また、グルジア、モルドバなどを旅行する際にはロシア語の知識は大いに有効である。日本アニメは相変わらず圧倒的人気を保ち、村上春樹など日本の作家の本が書店に並ぶ。日本の食文化への関心も高い。ロシアの魅力は何か、と聞かれたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チャーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ラフマーニョフ、ショスタコーヴィチなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ブルシェンコなど有力選手を輩出するロシアのフィギュアスケート、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつで、世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ぜひロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。」

目標と評価方法

「ロシア語基礎2」（前期）（全学提供 1単位）

目標：創意をこらした教材を用いて、週1回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎4」を継続することが望ましい。

授業内容・授業計画：

〈基礎2〉

- 第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音
- 第4週～第8週：ロシア語の基礎的な文法事項の初歩的養成
- 第9週～第14週：ロシア語の基礎的な文法事項の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

「ロシア語基礎4」（後期）（全学提供 1単位）

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎4」は、原則として「基礎2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

授業内容・授業計画：

〈基礎4〉

- 第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

基礎2 (前期)

(木・2) 角 伸明 (非常勤講師)

講義内容：文字の読み方から始めて、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、歌を覚えたり、ビデオ教材を用いてロシア文化（アニメ、映画、歴史的建築等）の紹介も行う。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

・教科書：黒田龍之介著『ロシア文法への旅』（大学書林）

基礎4 (後期)

(木・2) 角 伸明 (非常勤講師)

講義内容：前期の教科書を継続し、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、カードを使って日常に使用する語彙やフレーズを覚えていく。歌も唄い、ロシア文化の紹介も積極的に行う。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

・教科書：黒田龍之介著『ロシア文法への旅』（大学書林）

5. 健康・スポーツ科学科目

- 健康・スポーツ科学科目の履修について
- 実習授業時の集合場所
- シラバス

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

学習の意義

近年の著しい科学技術の発達は、生活の利便性を向上させる一方で、人々の健康に大きな影を落としている。日常生活における機械化、電動化、モータリゼーションの発達等による運動不足が「生活習慣病」の要因であることは周知の事実である。かつて成人病と呼ばれたこの疾患は、もはや子ども世代にも深刻な問題を投げかけており、生涯を通して身体運動を実践することの重要性が指摘されている。発育発達の完成期を迎える大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学び、かつ体験することは、将来健康で豊かな社会生活を送るために必要不可欠なものである。

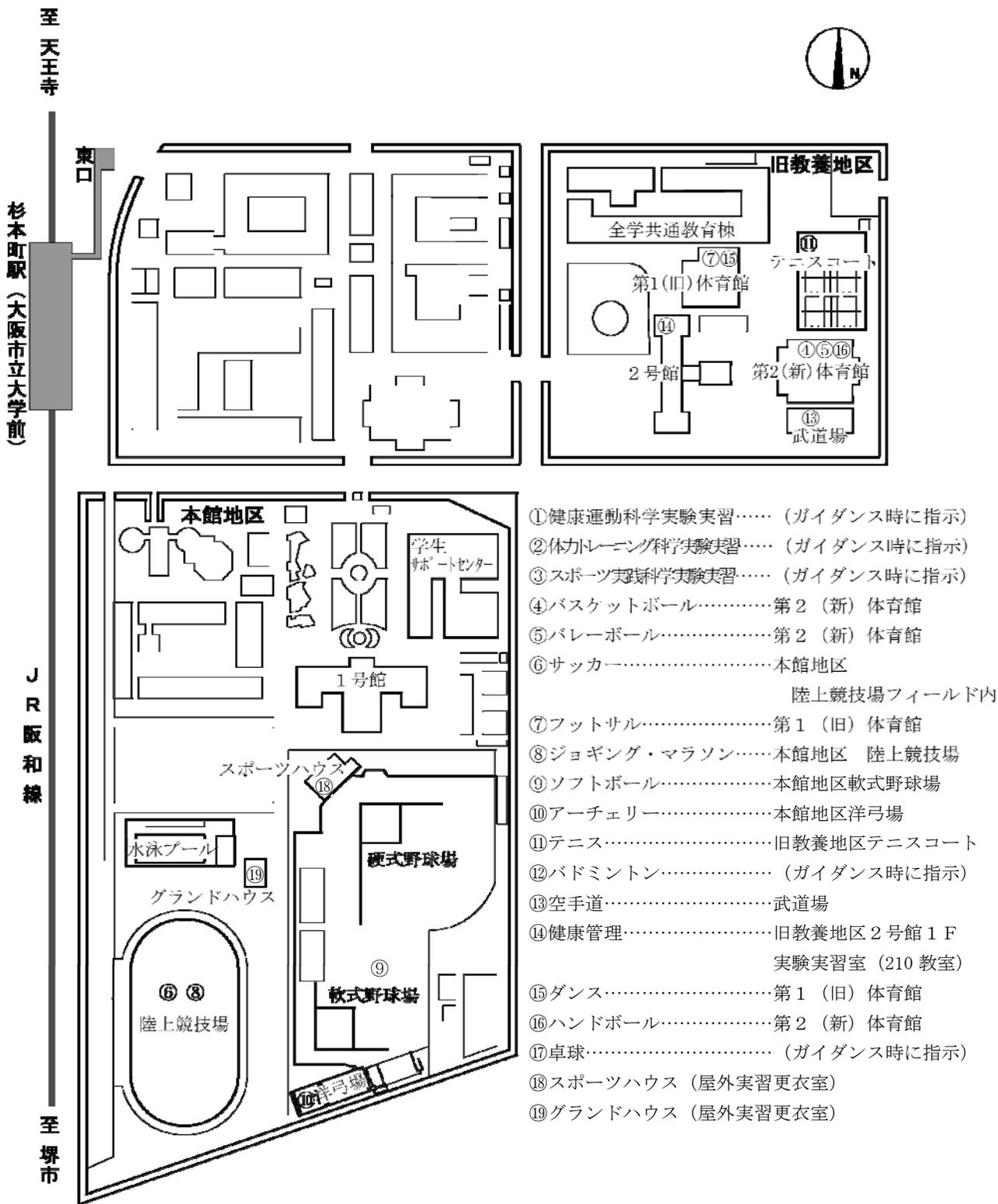
本科目では、1) 健康・スポーツ科学講義、2) 健康・スポーツ科学実習を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通してスポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部の指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学講義（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (5) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (6) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (7) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (8) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (9) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (10) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者については、火曜日（前期4時限、後期2時限）に「健康管理1（実習）」を、開講している。
- (11) 健康上の理由により、学期途中で実施を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (12) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理実習への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (13) 実習は、全開講数の3/4以上の出席がなければ、単位を修得することができない場合がある。
- (14) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (15) 実習に関するその他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館横の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。



[健康・スポーツ科学講義]

Health Exercise and Sport Science throughout Life

健康運動科学

2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	宮側敏明(健スポ)

科目の主題

健康を「健康度」として捉えることは、病気との共存を考慮に入れた新しい健康観と言える。すなわち、主観的な個人の生き方を肯定し、自分のやりたいことが自分の許容範囲であれば、健康であることを理解させる。また、ヒトは動物であり動く物、すなわち運動することが健康につながることを理解させる。

授業の到達目標

本講義においては、運動・栄養・休養の健康維持・増進に果たす効用と役割について、科学的根拠に基づき、やさしく解説することにより、QOL:クオリティ・オブ・ライフ（:生活の質）を重視した新しい健康観を会得する。

授業内容・授業計画

【授業内容】 ストレス社会における現代人にとっての健康問題について、身近な問題を取りあげながら解説する。また、生活習慣病の予防や運動処方について解説する。健康は貯金できることを理解させると共に、青年期

健康運動科学

2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	横山久代(健スポ)

科目の主題

競技アスリートたちの活躍は、観戦するものに大きな感動や活力をもたらしてくれる。しかし、スポーツは言うまでもなく選ばれた人“選手”だけがその効用を享受するものではない。昨今のマラソンブームに象徴されるように、スポーツ・運動による健康や体力維持に対する国民の関心は高まっている。一方で、肥満・糖尿病をはじめとする生活習慣病は、誰しもが直面しうる common diseaseでありながら、心血管疾患などの死亡リスクを増大させ、本邦でも深刻な健康問題となっている。さらに世界に先駆け超高齢化社会を迎える長寿国日本において、ロコモティブシンドローム（運動器障害により介護を要する状態）対策により高齢者の日常生活を自立させ、「健康寿命」の延伸を図ることは喫緊の課題である。

将来、さまざまな分野での活躍が期待される学生が、

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側敏明(健スポ)

における健康づくりの意義について解説する。

【授業計画】 1. ヒトの進化、適応能、寿命、2. 健康のとらえ方と生活習慣病（メタボリックシンドローム）、3. 肥満の成因とその予防、4. 運動処方、5. 運動と体温調節、6. 筋肉の種類と筋収縮メカニズムおよび筋トレーニング、7. 骨粗鬆症の発症要因とその予防

評価方法

試験、コミュニケーションカード内容、出席状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

授業は、普段不思議に思っていることや誤解していることなどを、図解を用いて解説する。テキストを準備すること。

教材

1. テキスト：朝山正己 他編：「イラスト運動生理学」（東京教学社）
2. 配布資料

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・4	横山久代(健スポ)

地域保健をとりまく情勢、とりわけ生活習慣病について十分な問題意識を持ち、スポーツが本来もつ文化的価値のみならず、それら健康障害の予防手段としてのスポーツを科学的に理解し、実践する能力を養う。

授業の到達目標

- ・生活習慣病や、今後さらなる患者数増加が予測される認知症、骨粗鬆症などの各種疾患の概要について説明できる
- ・予防、治療の方法について、特に運動の役割について説明できる
- ・スポーツを環境や社会的問題との関わりの中で捉え、市民の健康増進に結びつけるための実践方法について論述できる

授業内容・授業計画

1. 総論（この講義全体の目標、ガイダンス）、地域、行

- 政における健康づくり対策
2. 肥満とメタボリックシンドローム
 3. 糖尿病の概念
 4. 糖尿病の治療
 5. 痛風・高尿酸血症
 6. 高血圧
 7. 女性が健康に生きるために
 8. 脂質異常症
 9. 認知症
 10. 嗜好品と健康障害
 11. 運動による生体適応
 12. スポーツ現場における救急医療
 13. メディカルチェック
 14. 各種疾患における運動の実践方法
 15. まとめ

評価方法

期末筆記試験 (40%)

レポート課題 (40%)

ミニテスト (20%)

受講生へのコメント

現場での勤務実績を重ねた医師の視点から、身近なケースや診療経験をふまえてわかりやすく解説するので、高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できる内容となっている。これまで、健康やスポーツにとくに関心のなかった学生の受講も歓迎する。

教材

特定の教科書は使用しない。

参考図書：健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方（講談社、2012年発行、田口貞善監修）、スポーツ医学研修ハンドブック（文光堂、2012年発行、日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修）その他必要に応じて参考資料などを配布する。

体カトレーニング科学

2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	岡崎和伸(健スポ)

科目の主題

体力は、競技スポーツ選手が優れた成績を収めるために重要な因子である。これに加え、体力は、各種疾患や生活習慣病の罹患と関係すること、また、体力が低下すると日常生活活動が制限されて、支援・介護が必要になることが示されている。このように、体力は競技スポーツ選手にとって重要であるだけでなく、我々の日常生活や健康に深く関わっている。

本科目では、体力の捉え方、体力に影響する因子、および、体力トレーニングについて学び、運動やスポーツを楽しむ（する・見る）ための基礎を習得する。これらを通して、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するために、どんな運動をどのくらい実施すれば良いか？ といった具体的な実践方法とその習慣を獲得する。また、運動やスポーツに親しむことで、アクティブで充実した社会生活を営むための下地を養う。

授業の到達目標

自身の‘からだ’の中で‘体力’をどのように捉えれば良いか？ 実生活で経験する、年齢、環境、食生活などが体力にどのように影響するのか？ 競技スポーツのパフォーマンスを決定する体力はどんなものか？ を理解すること、さらに、運動による‘からだ’の応答や体力トレーニングによる‘からだ’の適応変化を科学的に理解することを目標とする。

授業内容・授業計画

1. 体力とは何か、2. 体力と健康、3～4. 体力とスポーツ：一流スポーツ選手の体力、5. 体力に影響する因子：心理的因子と生理的因子、6. 体力トレーニングの基礎、7～8. 循環器系トレーニング、9～10. 骨格筋系トレーニング、11～12. トレーニング効果（トレーニングナビリティ）を決定する因子、13～14. エルゴジェニクエイド：ドーピングとサプリメント、15. まとめ

評価方法

期末試験の成績、レポート内容、課題提出および出席状況から評価する。

受講生へのコメント

自身の‘からだ’に関する講義であり、誰でも興味を持って受講できます。毎回、講義内容に沿った簡単な課題や調査、測定、実験を行ったり、あるいは、身体を動かしたりしながら理解を深めていきます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

体カトレーニング科学

2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	今井大喜(健スポ)

科目の主題

体カトレーニングといえば、一般的に筋パワーや持久力のみをイメージしがちである。しかし、体力には多岐にわたる要素があり、我々の心体は、それらが総合的に連関して「健康」というものを維持している。

本科目では、科学的なエビデンスに基づいた、多様な体力要素をトレーニングする術を養い、社会へはばたくための基礎を築く。

授業の到達目標

各種の体力要素およびそのトレーニング方法について理解する。

授業内容・授業計画

1. 体力の捉え方、2. 健康と体力、3. 体力における精神的要素、4. トレーニングの概念、5-6. 筋・

骨格系とトレーニング、7-8. 呼吸・循環とトレーニング、9-10. 脳・神経系とトレーニング、11-12. スポーツトレーニング、13. バイオフィードバックトレーニング、14. コンディショニングのための栄養、15. まとめ

評価方法

期末試験、レポート課題、出席状況から総合的に評価する。

受講生へのコメント

単に「筋カトレーニング」のい・ろ・はについて講義する科目ではない。

教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

スポーツ実践科学

2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	荻田 亮(健スポ)

科目の主題

我々人間にとって、スポーツとは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。また、スポーツは単に楽しみとして実施するだけではなく、身体機能の向上や健康づくりのためには不可欠である。

本講義では、生涯にわたってスポーツや身体活動を実践するために必要な身体諸機能と、目的に応じた効果的な運動・スポーツ実践についての理解を深める。

授業の到達目標

運動に対する身体適応や、個々の目的に応じた効果的な運動方法についての理解を深めるとともに、生活の中における運動・スポーツの実践方法を習得することを目標とする。

授業内容・授業計画

1. スポーツの概念
2. スポーツの意義
3. スポーツと健康
4. スポーツと体力

5. スポーツと身体の仕組み
6. スポーツと身体の適応
7. 発育発達とスポーツ
8. 加齢・老化とスポーツ
9. スポーツ障害と予防
10. 環境の変化と身体の適応
11. 健康と運動処方
12. スポーツとトレーニング
13. ダイエットとスポーツ
14. スポーツと生活
15. まとめ

評価方法

試験、小テスト、レポート、出席状況等により、総合的に評価する。

受講生へのコメント

運動やスポーツに興味を持ち、主体的に講義に取り組む学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

スポーツ実践科学

2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	渡辺一志(健スポ)

科目の主題

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利である（スポーツ基本法）。スポーツの本質を理解し、スポーツを享受し、競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上から健康寿命の延伸に寄与する生涯スポーツを創造するための最新スポーツ科学について教授する。

授業の到達目標

現代社会におけるスポーツは、目的が多様化し高度化（競技スポーツ）と大衆化（生涯スポーツ）が進んでいる。スポーツを実践する人の目的に応じたパフォーマンスの向上や運動の成果を実感するためには、身体運動に関する科学的な理論と目的に応じたスポーツ実践の方法を理解することが重要である。それらの科学的な理論と実践の方法について理解し、生涯を通じてスポーツを享受して実践することができる知識を習得することを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・現代社会とスポーツ（1）
現代社会におけるスポーツの本質と役割
スポーツ科学について
- ・スポーツと健康・体力について（2）
健康と体力のとらえ方
身体組成、肥満
- ・スポーツと体力（4～5）
筋の構造と特徴

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	渡辺一志(健スポ)

骨格筋の形態や機能に及ぼす影響

エネルギー代謝

- ・スポーツとコンディショニング（6～7）
ストレッチ、ウォームアップ、クールダウン、アイシング
熱中症とスポーツにおける水分補給
- ・スポーツとトレーニング（8～13）
トレーニングの原理・原則
体力要素（筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力、調整力、柔軟性）の理解とそのトレーニング法
運動と生活習慣病
- ・スポーツと骨（14）
- ・スポーツと栄養（15）

評価方法

試験、レポート、小テスト、出席状況等を総合的に評価する。

受講生へのコメント

できるだけ相方向的な授業を心がけています。講義を通じて身近な疑問や課題を解決して、自分の生活の中にスポーツを享受して実践できるように解説します。競技スポーツを実践している学生、これから運動やスポーツを始めようという学生の積極的な受講を期待する。

教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[健康・スポーツ科学実習]

Practice Courses

〈実験実習〉 Experimental Education for HESS

健康運動科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS (Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CL I (全文)	火・3	横山久代(健スポ)
	EJ I (全文)	火・3	横山久代(健スポ)
	ST I (全理)	木・2	横山久代(健スポ)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	ST I (全理)	木・2	横山久代(健スポ)

科目の主題

健康は「単に病気でない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」(WHO)と定義されており、さまざまな生体のしくみを理解することなく健康を評価、具現化することは難しい。生理学は人の身体の働き(機能)とそのメカニズムを扱う学問であり、医学分野の基礎となっていることは言うまでもないが、その研究成果は栄養やスポーツ現場で広く応用され、我々の健康づくりに貢献している。「健康」やそれを支える基盤としての「体力」を構成する生体諸機能と、運動によりこれらに生じる変化について、実験を通じて自ら体験することにより理解を深め、健康的な日常生活の実践力を養うことを本実習の目的とする。

授業の到達目標

- ・実習を通じて生体の仕組みや、運動することによって生じる身体機能の変化を体験し、考察できる
- ・健康増進につながる運動の効果について説明でき、自ら実践できる

授業内容・授業計画

1. ガイダンス (この実習全体の目標)
2. 血圧、心拍数の測定①
3. 血圧、心拍数の測定②

6. 血糖値の測定

7. 骨塩定量
8. コンディショニング (姿勢改善アプローチ)
9. 救命処置の実際
10. 身体計測
11. 健康関連体力測定
12. 運動負荷試験① 実施
13. 運動負荷試験② データ解析、運動処方作成
14. 運動負荷試験③ グループごとの発表
15. まとめ

評価方法

- 出席状況 (50%)
- レポート課題 (50%)

受講生へのコメント

実習に関しては高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できるように、また臨床医としての経験をふまえた結果の考察、解説を行うため、生体のしくみや健康に関心はあるがこれまでに学習、実践の経験がなかった学生も不安なく受講できる。

教材

- 特定の教科書は使用しない。
- 必要に応じて参考資料などを配布する。

健康運動科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS (Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CL I (全文)	火・3	宮側敏明(健スポ)
	全	火・4	宮側敏明(健スポ)

4. 心電図
5. 呼吸機能の評価

科目の主題

自然科学の諸概念は、実験や観察に基づいて得られたものである。実験実習を通じて、はじめて教科書や講義の内容がよく理解できるといっても過言ではないことを理解させる。

授業の到達目標

本実験実習では人体を対象として、形態計測や運動中の生理現象を詳細に記録や観察をし、また、それらのデータについての深い分析や疑義を深めることによって、実習の生理学的意義を考察させる。さらに、なかには複雑

な機械を用いた実習もあるので、実験装置の原理や取り扱いについての留意点を理解できるようにさせる。そして、実習成果の発表をおこない、さらに、それらの内容に関するレポートを完成させる。

授業内容・授業計画

【授業内容】 実習課題に取り組む前に、課題内容の説明をそのつど詳しくおこない、目的と実習内容を十分理解させる。実習にあたっては、グループ毎に取り組み、グループ内でのデータ検討を十分にさせる。実習課題別にグループによる自由課題についても実施させる。授業の最終日には、実習成果発表会を設定し、グループ毎にプレゼンテーションを行い、個人レポート作成の一助とする。

【授業計画】 1. 研究と実験の意義についての解説と

レポートのまとめ方、2. ヒトの姿勢変化に伴う心拍数、血圧の測定、3. 身体計測と体脂肪および筋肉量測定、4. 自転車エルゴメータ運動時のエネルギー代謝、心拍数、血圧測定、5. トレッドミル歩行運動時のエネルギー代謝、心拍数、血圧測定、6. 実習グループ別の実習結果プレゼンテーションと質疑応答

評価方法

実習レポート、出席状況、履修態度によって、総合的に評価する。

受講生へのコメント

自分の体型やからだのメカニズムを客観的に知（識）ることができる楽しい実習である。

教材

配布資料など。

体カトレーニング科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	岡崎和伸(健スポ)

科目の主題

自身の‘体力’の測定・評価を体験することで、体力についての理解を深め、さらに、競技スポーツや運動における体力の役割、あるいは、我々の日常生活や健康と体力の関わり合いについての理解を深める科目である。また、実際に体カトレーニングを実施し、自身の体力の変化を体験する。本科目は、講義「体カトレーニング科学」の内容を踏まえて展開する。

授業の到達目標

自身を測定対象として、体力の測定、さらに、実生活で経験する、運動、環境、食生活などが体力に及ぼす影響の測定・解析を行い、それらから自己を客観的に評価出来ることを目標とする。また、体カトレーニングのノウハウを習得し、運動やスポーツを楽しむ（する・見る）ための基礎と、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するための習慣を養うことを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】

数題の実習テーマを設け、そのテーマごとに目的および内容の詳説、実験準備、実施、データ解析を行い、ショートレポートを作成する。最終的に、グループごとに自由

課題に取り組む、グループディスカッションおよび研究成果の発表を実施する。また、それに関する個人レポートを作成する。

【授業計画】

1～3. 体力の計測・評価、4～5. 生活・運動習慣の計測・評価、6～7. 循環器系トレーニングの実際、8～9. 骨格筋系トレーニングの実際、10～13. グループ自由課題の計画・実施、14. データディスカッションと研究成果発表、15. まとめ

評価方法

研究発表およびレポート内容、課題提出および出席状況から評価する。

受講生へのコメント

本実習は、「体カトレーニング科学」を受講した学生が履修することが望ましい。本実習を通して、講義内容がさらに深く理解できます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

スポーツ実践科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS, Kinematic and Practical Science for Sports 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	E J I (全文)	木・1	渡辺一志(健スポ)

科目の主題

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利である(スポーツ基本法)。現代社会におけるスポーツの本質と身体運動に関する科学的理論および目的に応じたスポーツ実践の方法について理解し、スポーツ実践のために必要な種々の体力要素およびスポーツ技術(動作)の解析方法について測定・実験を通じて学び考察する。

授業の到達目標

身体組成、運動の発現(筋力・スピード・パワー)や運動に伴う呼吸循環機能の応答、さらには動作時の筋活動の定量・評価を筋電図を用いて測定・分析する方法を学ぶ。実習を通して、種々体力の評価および運動やスポーツ動作の仕組みを科学的に理解し、今後の健康づくりやスポーツ実践に応用することを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・ガイダンス(1)
- ・運動・スポーツと体力(形態)(2~3)
形態と身体組成測定の意義と方法および測定原理を理解し、自分のからだを客観的に知る。
- ・運動・スポーツと筋力・スピード・パワー(4~6)

様々な測定機器を利用し、筋力(上肢・下肢)、スピード(各種反応時間)およびパワー(脚伸展パワー、自転車駆動および垂直跳におけるパワー)の測定を行いその測定原理を理解する。

- ・運動・スポーツと呼吸循環応答(7~11)
姿勢変化や運動時の心拍数、血圧の変化とその調節機序および運動強度の変化に伴う呼吸循環応答と酸素摂取量の動態から健康づくりに必要な運動について考える
- ・運動・スポーツと筋の活動(12~14)
筋電図の測定を行い筋の活動状態を評価する方法について理解し、筋電図を用いた動作やスポーツ技術の分析を試みる。
- ・レポートの作成と統括(15)

評価方法

レポート、出席状況により評価する。

受講生へのコメント

積極的に参加し、運動・スポーツに関する科学的な理解を楽しく深めましょう。

教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

〈スポーツ実習〉 Practice-Field Work for HESS

バスケットボール 1

1 単位

Basketball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	C L I (全文)	火・3	荻田 亮(健スポ)
	全	火・4	荻田 亮(健スポ)
	全	水・2	荻田 亮(健スポ)
	E J I (全文)	木・1	荻田 亮(健スポ)

科目の主題

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待できる。

本実習では、バスケットボールに関わる技術の習得だけでなく、安全にスポーツを行うための基礎知識を深めるなど、スポーツの実践に関わる総合的な能力を高める。

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	C L I (全文)	火・3	荻田 亮(健スポ)
	全	火・4	荻田 亮(健スポ)

授業の到達目標

バスケットボールの基礎的な個人技術の習得と、その技術を集団の中で活用するための応用技能の習得を目標とする。また、安全に楽しくスポーツを実践するための基礎知識、ならびにスポーツ実践に取り組む態度の習得を目標とする。

授業内容・授業計画

1. 競技特性と安全性
2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 姿勢と身体の調整

4. 身体の仕組みと動きの分析
5. シュート技術の分析と実践
6. パス技術の分析と実践
7. ドリブル技術の分析と実践
8. 個人技術の応用 (1 on 1)
9. 個人的対峙の理解と実践
10. 集団の理解と実践 (2 on 1)
11. 状況の認識と判断
12. 集団的対峙の理解と実践
13. ゲームの運営と規則
14. ゲームの実践
15. まとめ

評価方法

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となります。アクセサリ(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めません。自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

バスケットボール 2

1 単位

Basketball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	STI(全理)	木・2	荻田 亮(健スポ)

科目の主題

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われるチームスポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

本実習では、バスケットボールを通して、チームスポーツに対する理解を深めるとともに、生涯にわたってスポーツを実践するための知識と技能を高める。

授業の到達目標

バスケットボールを通してチームスポーツを理解し、実践できる技能の習得を目標とする。また、集団の中で安全に楽しくスポーツを実践するための基礎的な知識、ならびにチームスポーツへの取り組み方の習得を目標とする。

授業内容・授業計画

1. 集団的な安全行動と規則
2. 集団プレーの原理と原則
3. 集団プレーの分類
4. 集団的対峙の理解と実践
5. 動きの連携と協同

6. 個人の役割と責任分担
7. 空間の認識と先取り
8. 動きの認識と先取り
9. 集団技術の基礎 (2 on 1, 2 on 2)
10. 集団技術の応用と実践 (3 on 2, 3 on 3)
11. ゲームの運営と規則
12. 戦術行動の基礎と応用
13. 技術の指導法
14. ゲームの実践
15. まとめ

評価方法

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となります。アクセサリ(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めません。自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

バレーボール 1

1単位

Volleyball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CL I (全文)	火・3	中嶋紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋紀子(非常勤)

科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めるとともに、自主性・協調性・積極性を育てる。

授業の到達目標

基本技術の習得とゲーム展開に必要なとなる、フォーメーション・各ポジションの動きを理解することを目標とする。

授業内容・授業計画

1. バレーボール競技中や準備段階に起きる障害害礼とその予防について説明。
2. 基本技術の習得
オーバーハンドパス（ボールハンドリング・一人パス・対人パス）
3. 基本技術の習得
オーバーハンドパス（ジャンプ・ロング・バックパス）
4. 基本技術の習得
アンダーパス（片手・組み手パス、対人パス）
5. 基本技術の習得
アンダーパス（移動パス、対人レシーブ）

6. 基本技術の習得
スパイク（助走、ステップ、腕の振り）
7. 基本技術の習得
サーブ（サーブの種類と打ち方）
サーブカット
8. 応用技術の習得
チャンスボールからの連携
サーブカットからの連携
9. 応用技術の習得
フォーメーション・各ポジションの動き
10. 応用技術の習得
6人制バレーボールの特徴とルール
- 11～15. 応用技術の習得
ゲームの実践

評価方法

出席状況、協調性、積極性などを総合的に評価する。

受講生へのコメント

真摯な態度で授業に参加すること。
授業前の準備及び後片づけなど、積極的に行うこと。

バレーボール 2

1単位

Volleyball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CL I (全文)	火・3	中嶋紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋紀子(非常勤)

科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めるとともに自主性・協調性・積極性を育てる。

授業の到達目標

ゲーム展開に必要な基本技術を習得するとともに、バレーボールのフォーメーションを理解し、ポジションの固定、更にはコンビバレーを取り入れたゲーム展開を図る。

授業内容・授業計画

- 1～4. 基礎技術の確認
パス（オーバー・アンダーパス）
レシーブ（スパイク・サーブレシーブ）
スパイク（オープン・平行・クイック）
ブロック

- 5～6. 連携練習
パス→トス→スパイク
パス→トス→スパイク→ブロックカバー
- 7～10 総合技術の練習
フォーメーションプレー
攻攻防の実践的練習（チャンスボール・サーブレシーブからの乱打練習）
- 11～15. ゲームの実践

評価方法

出席状況、協調性、積極性などを総合的に評価する。

受講生へのコメント

真摯な態度で授業に参加すること。
授業前の準備及び後片づけなど、積極的に行うこと。

サッカー 1

1 単位

Association Football (Soccer 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	鈴木崇士(非常勤)
	全	木・4	鈴木崇士(非常勤)

科目の主題

サッカーは世界中で愛されており、最も競技人口が多いスポーツである。Jリーグや日本代表戦のみならず海外の試合が、連日メディアを通じて触れることができる。また、今年にはワールドカップブラジル大会が開催されるため、より一層サッカーが盛り上がることを期待される。

これらをより楽しむためには、まず「経験」し、サッカーをより良く「知る」ことが大切である。そしてそれらを通して「観る」能力を養うことが重要であると考えられる。

また、サッカーにはスポーツとしての要素のみならず、我々が社会生活を行う上で必要とされる様々な要素が多く含まれている。本実習では、サッカーによる体力維持、向上のみならず、チームプレーを通して、集団生活に必要な要素を体得する。

授業の到達目標

本実習では、ボールを足で「とめる」「蹴る」「運ぶ」といった基本動作から、フィールドでの動き方を習得するとともに、ゲームを通じて集団でのコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性についての能力を養うことを目的とする。

実際にチームを編成し、試合形式のゲームを行う。そして、チーム内でゲーム内容について協議し、改善していくものとする。

総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネイトしていく。

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	鈴木崇士(非常勤)
	全	木・4	鈴木崇士(非常勤)

授業内容・授業計画

1. オリエンテーション
2. 競技特性について
ウォーミングアップとストレッチ
- 3-4. キック動作
ボールコントロール
- 5-6. シュート技術
ルール、審判法
ミニゲーム
- 7-8. システム、戦術
- 9-10. 応用テクニック
ゲーム分析
11. 総合ゲーム

評価方法

積極性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力、出席状況などを総合的に評価する。

受講生へのコメント

本実習はサッカーに関する基本的な動作習得から始めるので、経験の有無は問わない。

実習は基本的には屋外で実施する。雨天時においては、施設使用状況によるが、屋内で実施する可能性もあるので、その際は別途体育館シューズを必要とする。詳細についてはその都度連絡を行う。

教材

必要に応じて参考資料（文献、DVDなど）の紹介をおこなう。

サッカー 1

1 単位

Association Football (Soccer 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	E J I (全文)	木・1	今井大喜(健スポ)
	S T I (全理)	木・2	今井大喜(健スポ)

科目の主題

サッカーは、世界的にポピュラーで、我々にとって身近なスポーツである。そして、11人でおこなうチームスポーツの為、多くのコミュニケーション要し、個人の社会性を養うスポーツでもある。また、大きなグラウンドで大いに全身を活動させる為、我々に心地良い運動量を提供するであろう。本科目では、このようなサッカーの

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	C L I (全文)	火・3	今井大喜(健スポ)
	全	火・4	今井大喜(健スポ)
	E J I (全文)	木・1	今井大喜(健スポ)

競技特性や魅力を理解し実践する。

授業の到達目標

サッカーの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、サッカーを楽しむ術を獲得する。また、集団競技の利点を活かして、社会活動に必要な個人のスキルを養う。

授業内容・授業計画

【授業内容】 ボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフense・ディフェンス別の集団技術を習得する。そして数回ゲームを行った後にチーム課題を見出して、解決策を講じることで勝利に挑む。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、キック、トラップ、3. パス、ヘディング、ドリブル、4. オフense練習（シュート練習含む）、5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、6. セットプレー、7. 審判法、ミニゲーム、8. ゲーム①、9. ゲー

ム②、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

基本的な技能獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。また視聴覚教材を使用する場合がある。

ハンドボール I

1単位

Handball I

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	小林 稔(非常勤)
	全	木・4	小林 稔(非常勤)

科目の主題

ハンドボールは、近代競技の最重要要素である3S (Speed Skill Science)に富み、さらに、ダイナミックな動きと、高度な即時的判断力が要求されるスポーツである。他方、ボールは手で軽く握れる程度の大きさで、且つ、走・跳・投という基本的な動作のみが必要とされるだけなので、わずかな練習で簡単にパスやシュートができる特性を有している。また、身体活動を増強させるばかりでなく、運動習慣の定着を図ると同時に、チームスポーツなので、協調性を高めることが期待できる。

授業の到達目標

- 1) 他の者と協調しながらゲームに参加することができる。
- 2) パス、シュートなどの基本的な技能を身に付ける。

授業内容・授業計画

授業はゲームを中心に進めるが、前半は個人スキル(パス・シュート・フィールドでの動き)及び集団のスキル(一般的なオフenseとディフェンス)について学ぶ。また、審判法も含め、ゲームの運営方法を理解する。

1. ハンドボールについて(グループ分けなど)
2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 基本的な個人スキルI(パス・シュート・ドリブル等)
4. 基本的な個人スキルII(サイドシュート・フェイント)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	小林 稔(非常勤)
	全	木・4	小林 稔(非常勤)

5. 集団のスキル(オフense編)
6. 集団のスキル(ディフェンス編)
7. 集団のスキルのまとめとミニゲームI
8. ミニゲームII
9. 試しのゲームI
10. 試しのゲームII
11. リーグ戦I
12. リーグ戦II
13. リーグ戦III
14. リーグ戦IV
15. リーグ戦V

評価方法

参加態度(出席率を含む)、レポート、基本的スキル、ゲーム参加時の様子を総合的に判断し評価する。

受講生へのコメント

女子用のボールを用いるなど、これまで経験のない者でも比較的容易に参加できるよう授業工夫がなされる。ただし、ハンドボールは、見た目よりかなり激しい動きを伴うので、受講まで、あるいは受講期間中は、少しでも良いので、日常的に身体を動かしておくこと。また、ケガ予防の観点から、前日はよく休息し、授業前はしっかりと準備運動を行うこと。

教材

体育館シューズと運動着。

アーチェリー 1

1単位

Archery 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CL I (全文)	火・3	渡辺一志(健スポ)
	全	火・4	渡辺一志(健スポ)
	ST I (全理)	木・2	渡辺一志(健スポ)

科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢(安定したフォームの形成)、筋力(繰り返して射つ筋力)、集中力(メンタルコントロール)が特に重要となる。

本科目では、初めてアーチェリーという新しいスポーツに接し、アーチェリーの基本技術を習得し、集中力を養うとともに生涯スポーツに通ずるコンディショニングやトレーニングの方法を習得する。

授業の到達目標

アーチェリーの基本技術(射法8節;スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー)を習得し、インドア競技で実施されている18メートルからシューティングできる技術を獲得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング(ストレッチング等)や種々の筋力トレーニングの方法(アイソトニック・アイソメトリック)について理解し、応用できることを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・アーチェリーの歴史と競技の概要(1)

- ・弓具とその取り扱いについて(2~4)
- ・基本技術(射法8節;スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー)の習得とシューティング(2~14)
- ・素引き(2~3)
- ・近射(4~5)
- ・射距離の延長とサイトの調節(5~8)
- ・スコアリングと個々の技術向上(9~14)
- ・コンディショニング(ストレッチング)および筋力トレーニング(アイソトニック・アイソメトリック)の方法(2~9)
- ・知識の復習と総括(15)

評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。

受講生へのコメント

初心者を対象とします。積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

教材

必要に応じて資料の配付、ビデオの視聴を行う。

アーチェリー 2

1単位

Archery 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	水・1	渡辺一志(健スポ)

科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢(安定したフォームの形成)、筋力(繰り返して射つ筋力)、集中力(メンタルコントロール)が特に重要となる。

本科目は、アーチェリー競技についてより発展させた実習である。シューティング技術の向上と競技全般に渡る知識の習得と併せてアーチェリーを通して集中力を高め、生涯スポーツとしてアーチェリーを楽しむ。

授業の到達目標

基礎的な技術(射法8節;スタンス、セット、ノッキ

ング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー)をふまえて、10~30mのシューティングを行う。アーチェリーの競技におけるより深い知識、より高い技術の習得および弓具の使用などを発展させた実習である。生涯スポーツとしてアーチェリーを実践できるようにすることを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・アーチェリー競技の概要とルール(1~14)
- ・シューティングフォームおよび技術の発展(2~14)
- ・視覚情報(鏡、ビデオ等)の活用(2~12)
- ・レクリエーション・アーチェリーの体験(7~8)
- ・シューティング時の重心動揺や筋活動などの変化とパ

パフォーマンスの関係について（7～12）

- ・弓具の発展と取り扱いについて（2～12）
- ・シューティング距離の延長と競技の体験（9～14）
- ・30メートル（80cm的）のシューティング（12）
- ・18メートル（インドア40cm的）のシューティング（13）
- ・復習と総括（15）

評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断す

ソフトボール 1 1単位

Softball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	E J I (全文)	木・1	宮側敏明(健スポ)

科目の主題

ソフトボールは、アメリカのシカゴで1887年に生まれ、日本には、1921年に初めて紹介されたスポーツである。ソフトボールは、野球に比べてボールが大きく重く、また、バットは細く軽いので、比較的狭い場所でも、年齢、性別に関係なく、誰でも気軽にできる特徴を持ち、多くの人々を熱中させていることを理解させる。

授業の到達目標

本実習では、ファースト・ピッチを中心に、キャッチング、ピッチング、バッティング、フィールドイング、連係プレイなどの基本技術をしっかり獲得させると共に、ルールの説明をおこない、ゲームの楽しみ方を教授する。

●授業内容・授業計画

【授業内容】安全に授業を進めるために、ウォームアップの仕方とキャッチング技能の向上から導入する。次いで、その他の基本的技能を科学的根拠に基づき説明しな

ソフトボール 1 1単位

Softball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	今井大喜(健スポ)

科目の主題

ソフトボールは、野球に比して老若男女行える生涯スポーツとして、社会で広く認識されている。ダイナミックなウィンドミル投法により投球されるボールを、瞬時に判断して打ち返す喜びは、ソフトボールが生涯スポーツとして発展している魅力の一つであろう。本科目では、ソフトボールの競技特性や魅力を理解し実践する。

授業の到達目標

ソフトボールの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、ソフトボールを楽しむ術を獲得

る。

受講生へのコメント

アーチェリー1の受講者またはアーチェリー経験者が対象です。より深くアーチェリーの楽しさ、醍醐味を味わって下さい。

教材

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

から十分に理解させ、習得させる。基本的技能を習得したのち、ゲームに必要な応用プレイについて習得させる。最終的に、ゲームを中心として展開する。

【授業計画】 1. ウォームアップとウォームダウン、2. ソフトボール施設および用具とルールの説明、3. キャッチボール、4. ゴロの補球、5. スローイング、6. ピッチングとキャッチャー補給、7. バッティング、8. 各ポジションの守備および連係プレイ、9. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度などから総合評価する。

受講生へのコメント

基本的な技能獲得することから進めるので、初心者はもちろん経験者も楽しく受講できる。

雨天時には、教室でビデオ鑑賞やルールの説明を行う。

教材

配布資料、ビデオなど。

する。また、集団競技の利点を活かして、社会活動に必要な個人のスキルを養う。

授業内容・授業計画

【授業内容】 投げる、捕る、打つ、といった基礎的な個人技術を習得した後、ポジション別の守備技術や連係プレーを習得する。そして数回ゲームを行った後にチーム課題を見出して、解決策を講じることで勝利に挑む。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明キャッチボール、ゴロ捕球、3. ピッチング（ウィ

ンドミル投法)、4. バッティング、5. ティーバッティング、6. ポジション別守備練習、7. 審判法、8. ゲーム①(スローピッチ)、9. ゲーム②(ファーストピッチ)、10. チーム毎の課題別練習、11~15. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度、チーム別の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価す

ソフトボール 1

1単位

Softball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・1	加藤由香(非常勤)
	全	火・2	加藤由香(非常勤)
	CL I(全文)	火・3	加藤由香(非常勤)

科目の主題

ソフトボールはアメリカ発祥のスポーツで、日本には大正時代に紹介された。ソフトボールにはファーストピッチとスローピッチがある。その他に平成24年度から文部科学省・学習指導要領の改訂に伴い、小学生高学年から中学校の球技にベースボール型としてソフトボールが加わり「学校体育ソフトボール」が導入される。本実習では、ファーストピッチとスローピッチの基本からゲームまでと併せて、将来の学校現場での指導者を想定して、学校体育ソフトボールを紹介する。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などの重要性を養う。

授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、ゲームで活用できるようにする。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明し習得させ

る。

受講生へのコメント

基本的な技能獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

る。基本的な個人技術習得後は、ゲームに必要となる応用技術を習得する。次に、チーム編成を行い、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】 1. ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本練習 2. キャッチボール、ゴロ捕球・フライ捕球 3. 守備練習 4. ウインドミルピッチング 5. バッティング、バント 6. グループ別バッティング・守備練習 7. 審判法、ルール 8~10. ゲーム 11. チーム再編成、チーム別練習 12~15. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決策および目標達成度などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

基本的な技術獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ソフトボール 2

1 単位

Softball 2

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・4	加藤由香(非常勤)

科目の主題

ソフトボール2では、ソフトボール、野球経験者およびソフトボール1受講者を対象に、ソフトボール1で習得した基礎的な内容に加え、ソフトボールの醍醐味であるファーストピッチソフトボールにおける守備や攻撃それぞれの組織プレー、サインプレーを習得して、本格的なゲームまで行えるようにする。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などの重要性を養う。

授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、オフィシャルルールに則ってゲームを円滑に行う。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明し基本技術

の確認をする。基本的な個人技術確認後は、ゲームに必要な応用技術を習得する。守備においてはランナーを想定した守備フォーメーションの習得、攻撃においては得点を取るための打撃、走塁などの攻撃方法を習得する。次に、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】 1. ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本確認 2. キャッチボール、守備練習 3. ウインドミルピッチング 4. バッティング、バント 5. フリーバッティング 6. 走塁、ヒットエンドラン、スクイズ、審判法、ルール 7. グループ別攻守練習 8～10. ゲーム 11. チーム再編成、チーム別練習 12～15. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決策および目標達成度などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

野球、ソフトボール経験者向けのソフトボール上級コース。ソフトボール1の受講者も参加可。

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

テニス 1

1 単位

Tennis 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	CL I (全文)	火・3	宮側敏明(健スポ)
	全	火・4	宮側敏明(健スポ)

科目の主題

テニスは、1) 幅が広くしかも奥行きが深いスポーツである。また、どのような人でもそれぞれに楽しさを味わうことができ、上手になるにつれて、そのつど新しい楽しさに満ちた世界が開けてくるスポーツであること。

2) テニスの基本とは、「そうしなくてはならない」ということではなく、「なぜそうしなければならないか」をかんがえる「考え方」が重要であること。これら1)、2)をよく理解させ、また、それぞれのプレーの身体的、精神的特徴について理解させる。

授業の到達目標

本実習は、テニスの基本的な構えと技術の習得、そし

て、ルールの説明をおこない、ゲーム展開を通してテニスの楽しさを教授する。

授業内容・授業計画

【教授内容】 初めてテニスを体験する人のために、初歩から段階的に進めていく。授業中はなるべくラケットやボールに触れる時間を多くとり入れ、ラケットが自分のからだの一部と感じるようにする。基礎的技能をマスターしたのち、ルールに従い、ゲームを楽しむ。

【授業計画】 1. ルールおよびラケットグリップの説明とボール遊び、2. ミニゲーム、3. テニスの構え、フットワーク、ラケットスイングの説明、4. フォアハンドストロークとバックハンドストロークの基本、5.

グラウンドストローク、ボレーとスマッシュの基本、6. サービスとレシーブの基本、7. ラリー、ゲームの基本、8. ダブルスゲーム

評価方法

出席状況、履修態度、技能獲得度などから総合的に評価する。

テニス 1

1単位

Tennis 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	E J I (全文)	木・1	松原慶子(非常勤)
	S T I (全理)	木・2	松原慶子(非常勤)
	全	木・3	松原慶子(非常勤)
	全	木・4	松原慶子(非常勤)

科目の主題

テニスは、ラケットを使いネットを介しボールを打ち合うスポーツである。どのようにラケットを操作すれば上手く打てるかを気づかせながら技術向上の近道をさせる。またゲームでは、戦術面、心理面等相手との駆け引きを知る。

授業の到達目標

本授業で、テニスの知識を深め基礎技術の習得、そしてゲーム展開ができるようになる。

授業内容・授業計画

テニスは、老若男女を問わず生涯スポーツとして人気のある種目である。本授業では、初心者を対象としテニスの基礎技術の習得、ルールや審判法の理解とともにゲームの楽しみ方を知る。

【授業計画】

1. オリエンテーション、“テニスとは”
2. ラケットティング、グリップと打点の考え方
3つの段階、ショートラリー
3. グラウンドストローク

受講生へのコメント

初心者を対象としているので、初めてラケットを握る人でも安心して履修できる。雨天時には、教室でビデオ鑑賞やルールの説明を行う。

教材

配布資料、ビデオなど。

(フォアハンド・バックハンドストローク)

4. サーブの導入、フットワーク、ボディワーク、ラリー
 5. パワーの伝達について
サーブからのラリー、簡易ゲーム
 6. テニスのゲーム、ルールおよび審判法
 7. ネットプレー、簡易ゲーム
 8. ダブルスのフォーメーション
 9. ダブルスの戦術
 10. シングルの戦術
 - 11~15. リーグ戦、チーム戦、トーナメント
- *天候により順を変更する場合があります。

評価方法

出席状況、履修態度、技能から総合的に評価する。

受講生へのコメント

実習では、スポーツウェア、テニスシューズを用意する事。

教材

必要に応じ資料を配布する。

テニス 2

1 単位

Tennis 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	E J I (全文)	木・1	松原慶子(非常勤)
	S T I (全理)	木・2	松原慶子(非常勤)
	全	木・3	松原慶子(非常勤)
	全	木・4	松原慶子(非常勤)

科目の主題

テニスは、上達するにつれます面白くなると言われている。ゲームにおいて、個人の能力が遺憾なく発揮されること、また駆け引きの面ではメンタル、体力の必要性を理解する。

授業の到達目標

テニスの技術面、メンタル面、体力面の向上を図り各自のゲームの質を向上させる。

授業内容・授業計画

本授業では、テニス熟練者および経験者（テニス1の履修済みの者も含む）を対象とし、より実践的な内容を展開する。効率のよい動作、そして動作の正確性を高めより高度な技術の習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り入れゲームレベルの向上を図る。またコーディネーション能力の必要性も理解する。講義では、テニスの科学や戦術についても行う。

【授業計画】

1. オリエンテーションおよび“テニスの特性について”
2. 各ストロークについて

3. サーブ、ラリー練習、簡易ゲーム
 4. ネットプレー、応用技術について
 5. 各技術の自己評価と矯正法
 6. テニスの科学（運動連鎖他）
 7. ゲーム（ターブレック方式も含む）
 8. 戦術について（分析も含む）
 9. ダブルスのフォーメーション
 10. シングルのゲーム
 11. ダブルスのゲーム
 - 12～15. リーグ戦、チーム戦、トーナメント
- *天候により順が変更する場合がある。

評価方法

出席状況、履修態度、技能から総合的に評価する。

受講生へのコメント

実習では、スポーツウェア、テニスシューズを用意する事。

教材

必要に応じ資料を配布する。

フットサル 1

1 単位

Futsal 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	C L I (全文)	火・3	今井大喜(健スポ)
	全	火・4	今井大喜(健スポ)

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・1	今井大喜(健スポ)

科目の主題

フットサルは、室内で行う5人制のミニサッカーであり、近年日本においても盛んに行われている。また、サッカーに比べてピッチが小さい為、ボールに触れる回数や得点シーンの多いスポーツである。したがって、得点の喜びを味わうチャンスが、初心者にも多数あることは、フットサルの大きな魅力といえよう。本科目では、フットサルの競技特性や魅力を理解し実践する。

授業の到達目標

フットサルの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、フットサルを楽しむ術を獲得する。また、集団競技の利点を活かして、社会活動に必要な個人のスキルを養う。

授業内容・授業計画

【授業内容】 フットサル特有のボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフフェンス・ディフェンス別の集団技術を習得する。そし

て数回ゲームを行った後にチーム課題を見出し、解決策を講じることで勝利に挑む。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、キック、トラップ、3. パス、応用テクニック、4. オフェンス練習（シュート練習含む）、5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、6. 簡単なシミュレーション、7. 審判法、8. ゲーム①、9. ゲーム②、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

ジョギング・マラソン 1

Jogging・Marathon 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CL I (全文)	火・3	岡崎和伸(健スポ)
	全	火・4	岡崎和伸(健スポ)
	EJ I (全文)	木・1	岡崎和伸(健スポ)

科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195km（フルマラソン）を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギング未経験者や初心者が、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う。

授業の到達目標

“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】

ウォーキングから“ゆっくり走る”ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移行する。

評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

基本的な技能獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

1 単位

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CL I (全文)	火・3	岡崎和伸(健スポ)
	ST I (全理)	木・2	岡崎和伸(健スポ)

ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションなども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、2. ジョギング体験、3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、4. ジョギングフォーム、各種ドリル、5. “ゆっくり走る”ジョギング①、6. “ゆっくり走る”ジョギング②、7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）、10. ファルトレイクラン、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義（雨天時）、12. ジョギングマップ作成、13. ロングスローディスタンス（LSD）、14. 簡易持久力評価テスト、自己評価

評価方法

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

受講に際して、ジョギングやマラソンの経験の有無、走能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

ジョギング・マラソン 2

Jogging・Marathon 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	岡崎和伸(健スポ)

科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195km（フルマラソン）を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギングやマラソン経験者が、フルマラソンや半分の距離を走るハーフマラソンの完走や目標記録の達成のためのトレーニングを実践し、それらを通してジョギングやマラソンの楽しみ方を学ぶ。

授業の到達目標

持久力評価テスト結果から自己の走能力を把握し、それを参考にして目標を設定すること、また、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】

ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、毎回それを提出する。

1 単位

練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、4. 無酸素性作業閾値（AT）の計測、マラソンペースの設定、5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、6. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）①、7. ファルトレイクラン、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ロングスローディスタンス（LSD）①、10. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）②、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義（雨天時）、12. インターバル走、13. ロングスローディスタンス（LSD）②、14. 持久力評価テスト、自己評価

評価方法

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

ジョギング・マラソン1の受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

卓球 1

1 単位

Table Tennis 1

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・1	荻田 亮(健スポ)

科目の主題

卓球は、老若男女を問わず誰でもが手軽に楽しむことができるレクリエーション性を有したスポーツである。また、卓球は奥深い技術性も兼ね備えているため、競技スポーツとしても広く親しまれているスポーツ種目である。

本科目では、卓球の基礎的な技術だけではなく、安全に楽しくスポーツを行うための知識・技術を修得し、生涯を通してスポーツを実践するための総合的な能力を養

う。

授業の到達目標

卓球の基礎的な技術を修得し、楽しくゲームを実践できることを目標とする。また、競技の特性やルールに対する理解を深めるとともに、ゲームを通してコミュニケーション能力の向上を目標とする。

授業内容・授業計画

1. 競技特性と安全性
2. ウォーミングアップとストレッチ

- 3～6. フォアハンド、バックハンドの基本技術
- 7～10. サーブ、スマッシュの基本技術
- 11. ルール、審判法の理解とゲームの進行
- 12～14. ゲームの実践（シングルス、ダブルス）
- 15. まとめ

評価方法

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

空手道 1

1 単位

Karate-do 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・4	橋本秀樹(理) 木下 勇(理)

科目の主題

本科目は空手をスポーツとしてのみではなく武道に原点を求める。武道としての、そして、護身術としての空手を、初めて空手に接する人を前提に行う。流派として、糸東流空手道を学ぶ事により、この中に含まれている武道の心を学ぶことで日常生活のプラスとする。

授業の到達目標

現代において、拳や蹴りを用いた争いがあるのはならない。本空手道は、争いを未然に防ぎ、これを回避するために、真摯な姿勢で武道に取り組むことにより、文武両道の粋を極める事を目的とする。そのために、初心から、空手の基本である突き、蹴り、そして防御を修練し、古武道である空手道の珠玉である、型を鍛錬する。

授業内容・授業計画

1. 礼に始まり礼に終わること。
2. 基本の突き、基本の受け。
3. 突きと受けの連続技。
4. 移動しての突きが空手の基本であること。
5. 移動しての突きと受け。
6. 基本の蹴り、蹴りと受け。

受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となります。アクセサリー(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めません。自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を期待します。

教 材

必要に応じて資料等の配布を行う。

7. 基本の型、連続的な身のこなしと型の演武という発想。
8. 鍛錬としての型、三戦(サンチン)の構え。
9. 基本の型の修練。
10. 基本の型を用いた約束一本組み手。
11. 平安(ピーアン)2段の型。
12. 平安2段の型の修練。
13. 平安2段の型を用いた約束一本組み手。
14. 先取り自由一本組み手への展開。
15. 型と実践の解説。

評価方法

基本の型を中心に型の理解、武道としての空手道を実技により問う。

受講生へのコメント

経験の有・無、性別は問わない。健康維持・増進、体のシェープアップが可能である。徒手空拳での身の処し方を武道の観点より例示する。

教 材

空手道衣の購入を基本とする。

ダンス I

1 単位

Dance 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	CL I (全文)	火・3	加藤真由子(非常勤)
	全	火・4	加藤真由子(非常勤)

科目の主題

ダンスの発生や歴史的発展など理解し、以下の内容を通して、自ら創り踊り発表することができるようになることを目標とする。1. ウォーミングアップ：からだほぐしと身体意識の覚醒 2. 新しい動きの探求：日常的な動きからダンス的な動きへの発展 3. イメージから動きの創造：即興や創作を通して新しい動きへの挑戦 4. 作品構成：クラスやグループによる創作 5. クラス内発表

授業の到達目標

ダンスのスキル習得獲得だけを目標とするのではなく、他者との身体を介したコミュニケーションをはかりながらソーシャルスキルにも着目し、自らの心身への気づきと学習の場となることも目標とする。

授業内容・授業計画

1. オリエンテーション(授業内容や最終目標について) 2. ウォーミングアップ(リズムカルな動きでからだほぐし) 3. 移動運動のいろいろ(歩く、走るなどの

空間運動) 4. 個の運動のいろいろ(曲げる、伸ばす、縮めるなど) 5. 創作その1(移動運動と個の運動) 6. ミラーリングとシェイプ 7. 創作その2(ミラーリングとシェイプ) 8. 即興と模倣(遊びからダンスへ) 9. 創作その3(物を用いた即興) 10. いろいろなダンス(フォークダンスや現代的なリズムのダンス) 11～12. 作品構成 13. クラス内発表と観賞(VTR撮影) 14. VTR観賞と相互評価、自己評価 15. まとめ

評価方法

実技のため、出席を重視する。また、受講態度、レポートの状況などを総合的に評価する。

受講生へのコメント

「できる・できない」ではなく、「やってみる」という受講態度を重視します。上手に踊ることよりも、ダンスを通じた受講者同士のコミュニケーションを楽しみましょう。

教 材

必要に応じて参考資料を配布する。

健康管理 1

1 単位

Health Promotion Program for The People with Physical Disability 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・4	横山久代(健スポ)

科目の主題

従来の体力測定では、筋力や瞬発力、持久力といった要素が主たる評価項目とされてきた。それはこれらの要素が比較的測定、数値化しやすいからである。しかし、例えば変形性膝関節症を患った高齢者が楽しく毎日を送るには、何cm前屈ができるか、ということよりも、ひとりで身の回りのことができ、趣味のガーデニングに勤しめる、といったことのほうが重要である。すなわち、調整力、巧緻性、防衛体力(抵抗力)など数値化が難しい項目が実際には体力の本質をなす。何らかの身体的障害があったり、年齢を重ねたりしても、豊かな日常生活を送れること(生きがい、身体能力、精神機能を保ち、疾病を予防できること)に重きをおいて、体力諸要素の状態を高めるべきである。

一方で、人々がスポーツをする目的は「健康増進」、「ストレス解消」、「仲間との交流」などさまざまであり、いうまでもなく、身体的能力に優れた一部のアスリートの

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	全	火・2	横山久代(健スポ)

みとその効果や楽しさを享受するものではない。身体的理由から、けがや疾病の悪化を懸念してスポーツに参加することを躊躇する場合でも、自身の身体特性を理解し、適切な運動種目、強度を選択することによりスポーツを始め、生涯にわたり実践することが可能である。

本実習では、身体的理由により健常人と同様の運動に参加困難な学生が、各々の「体力」と「目的」に応じた運動、スポーツを継続して取り入れるための方法を理解し、実践する能力を養う。

授業の到達目標

- ・身体計測や体力測定により自身の身体特性について把握する
- ・日常生活動作の向上や健康増進につながるストレッチ、運動の効果について説明でき、実践方法を身につけ、自ら実践できる

授業内容・授業計画

1. 総論(この実習全体の目標、ガイダンス)、問診

2. 血圧、心拍数の測定
3. 心電図
4. 呼吸数、呼吸機能の測定
5. 血糖値と運動
6. 身体計測
7. 体力測定 1
8. 体力測定 2
9. ストレッチ 1
10. ストレッチ 2
11. ストレッチ 3
12. 軽スポーツ 1
13. 軽スポーツ 2
14. 軽スポーツ 3

15. まとめ

評価方法

出席状況、履修態度などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

講師はスポーツドクターとしての競技大会での実務や、主として生活習慣病を対象とした運動処方の実績を重ねており、スポーツに関心はあるが安全面に不安を有する学生や、これまでに実践の経験がない学生でも安心して受講できる。

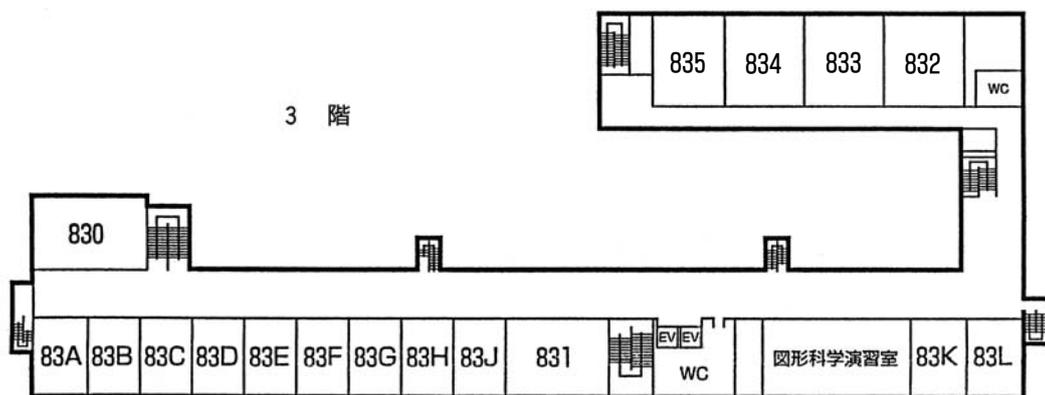
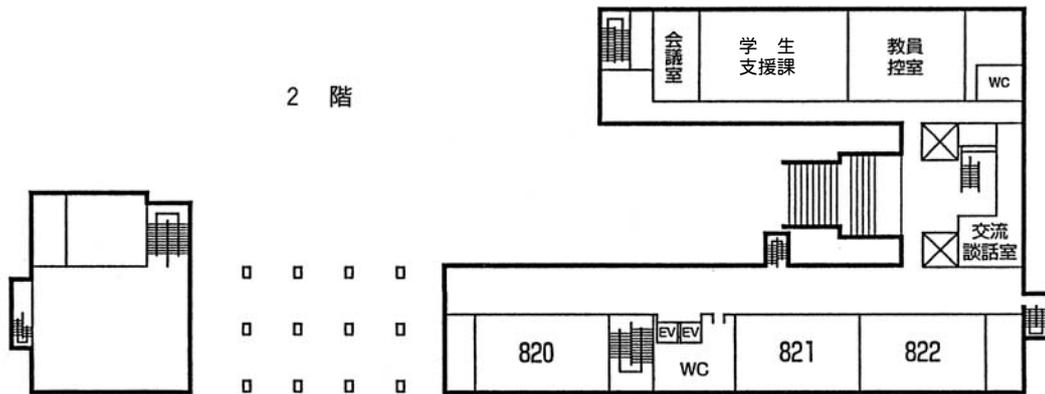
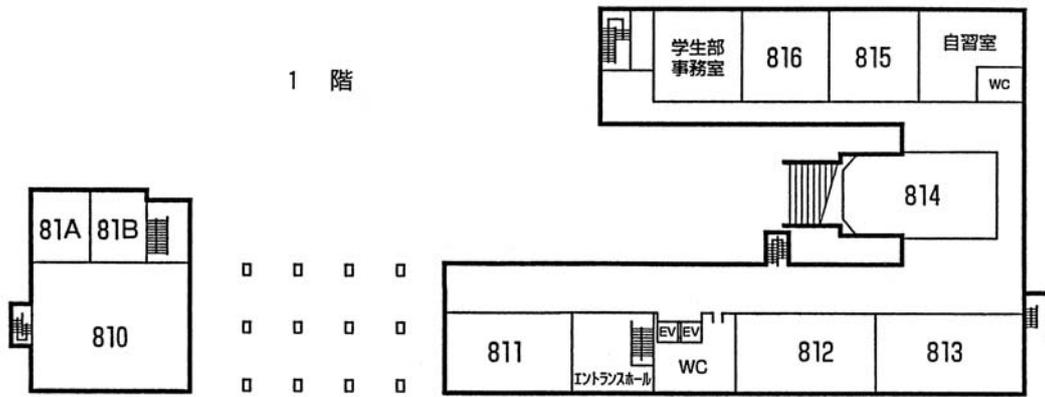
教材

特定の教科書は使用しない。

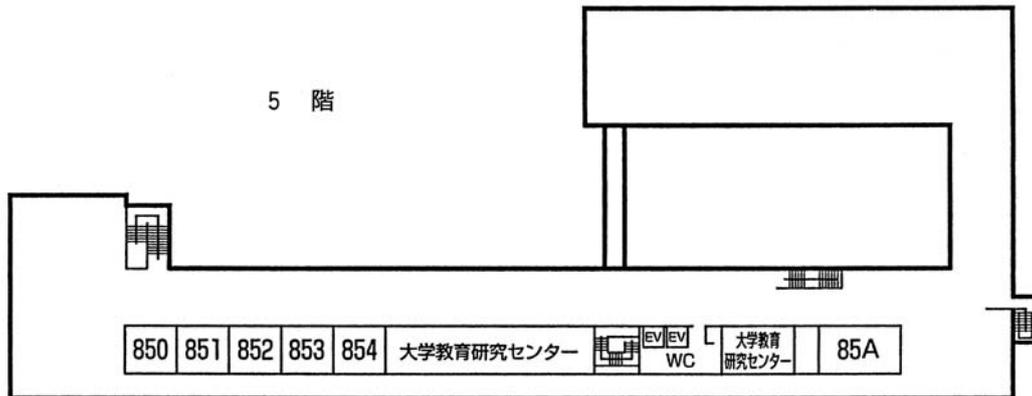
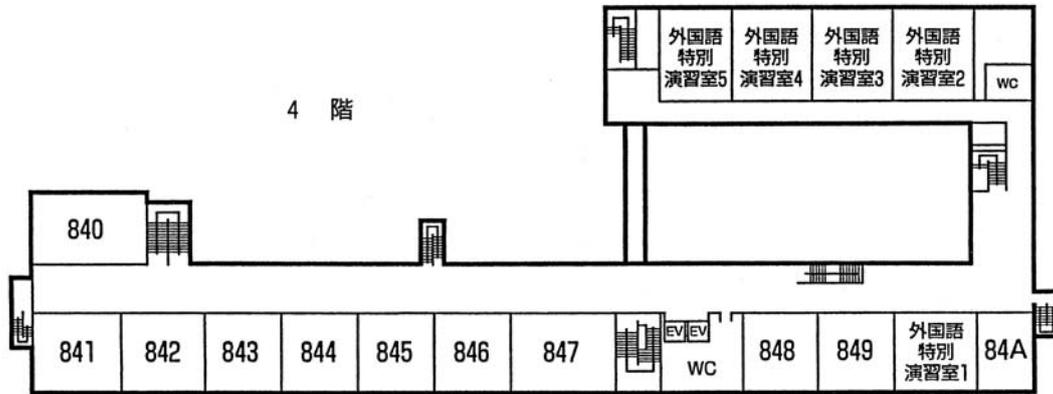
必要に応じて参考資料などを配布する。

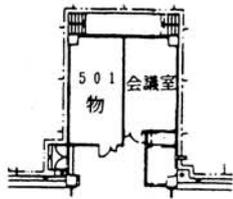
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟



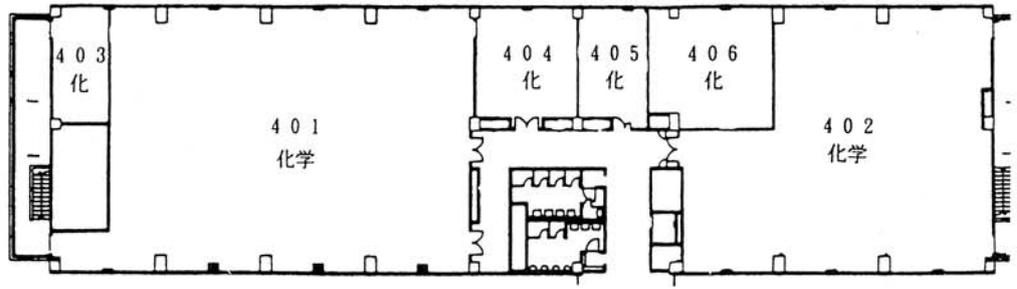
各教室見取図



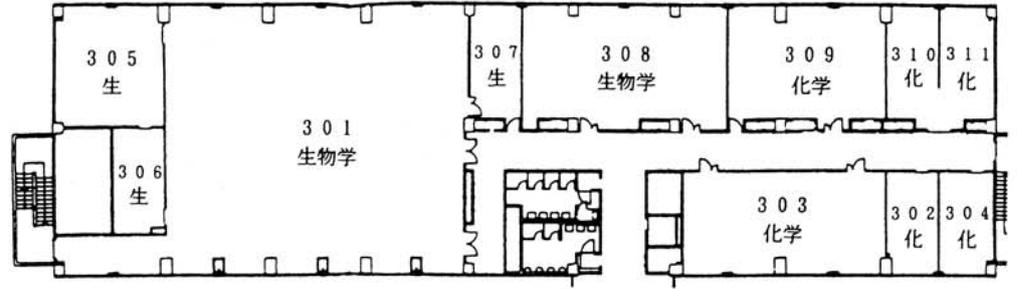


5階

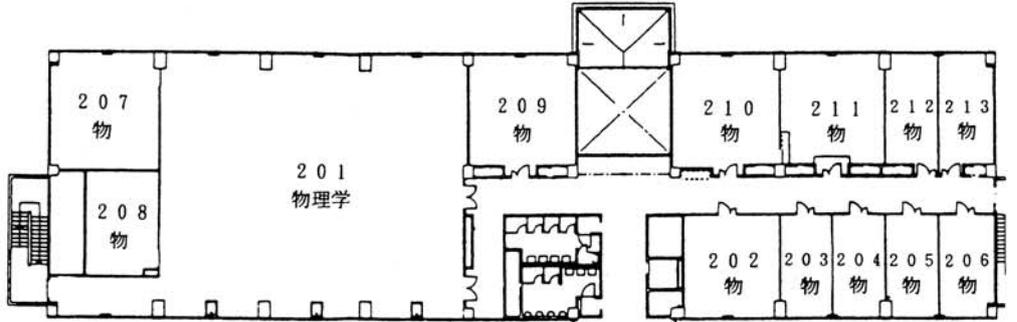
4階



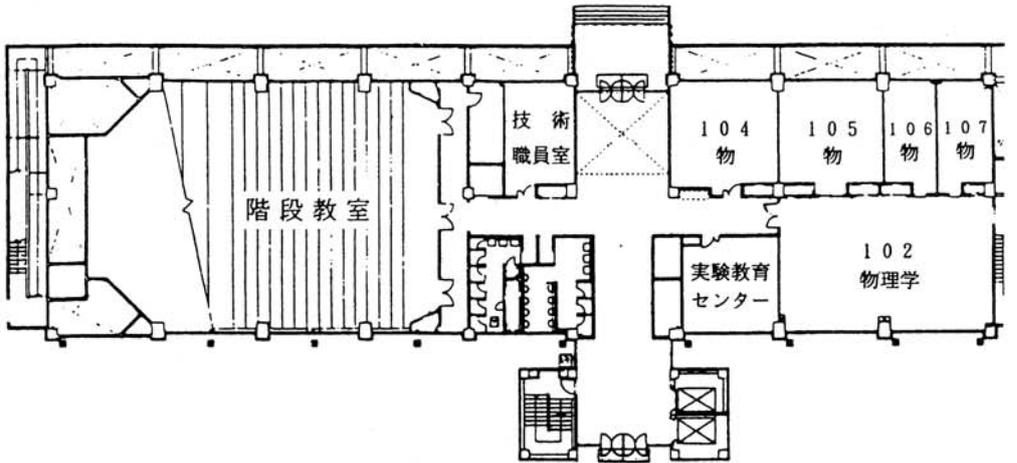
3階



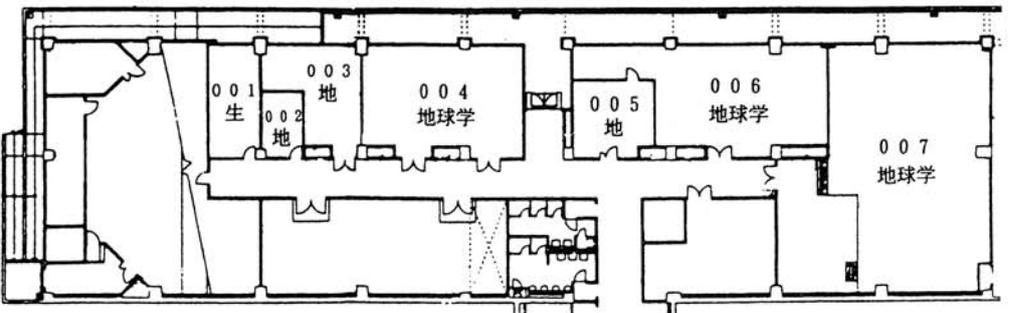
2階



1階



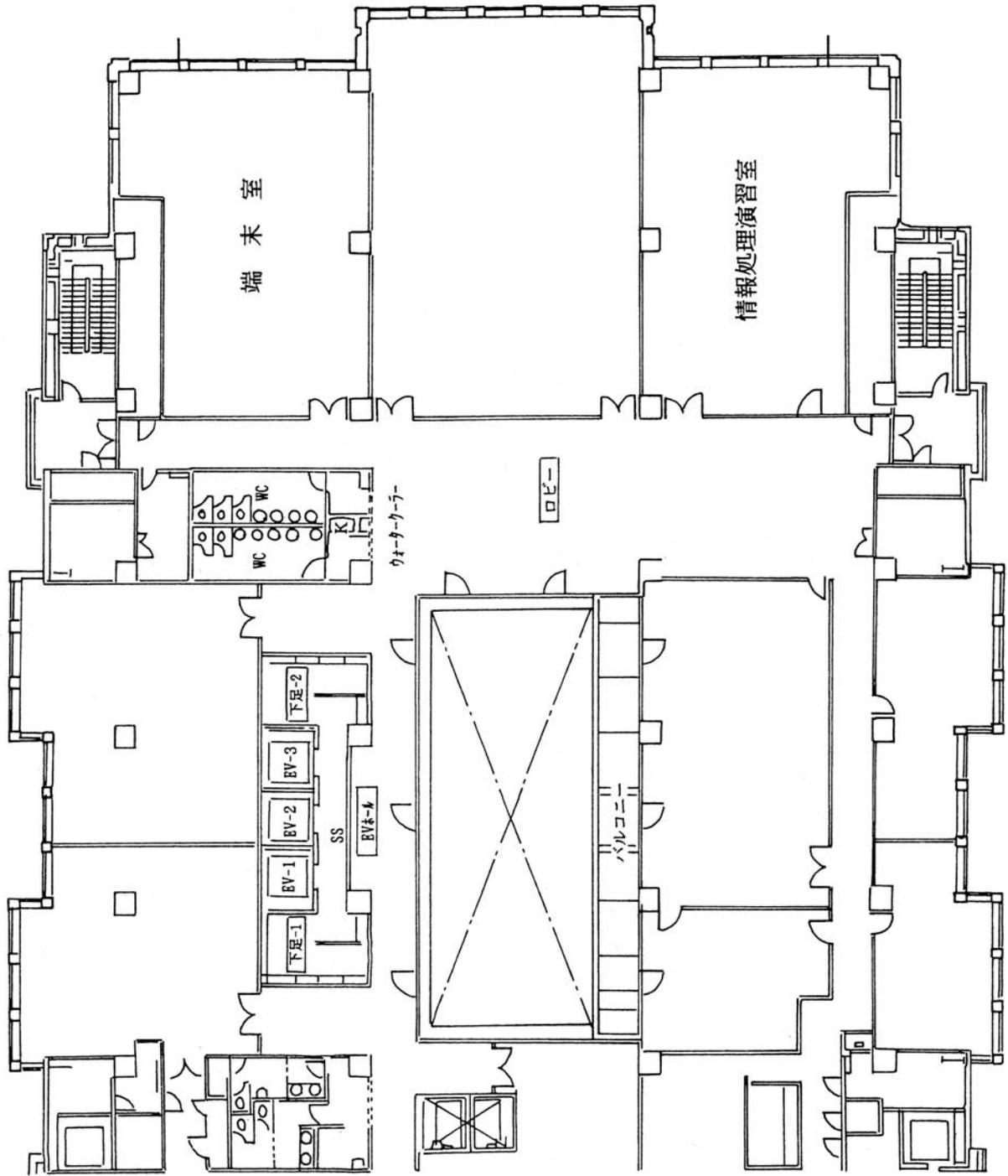
地下1階



基礎教育実験棟

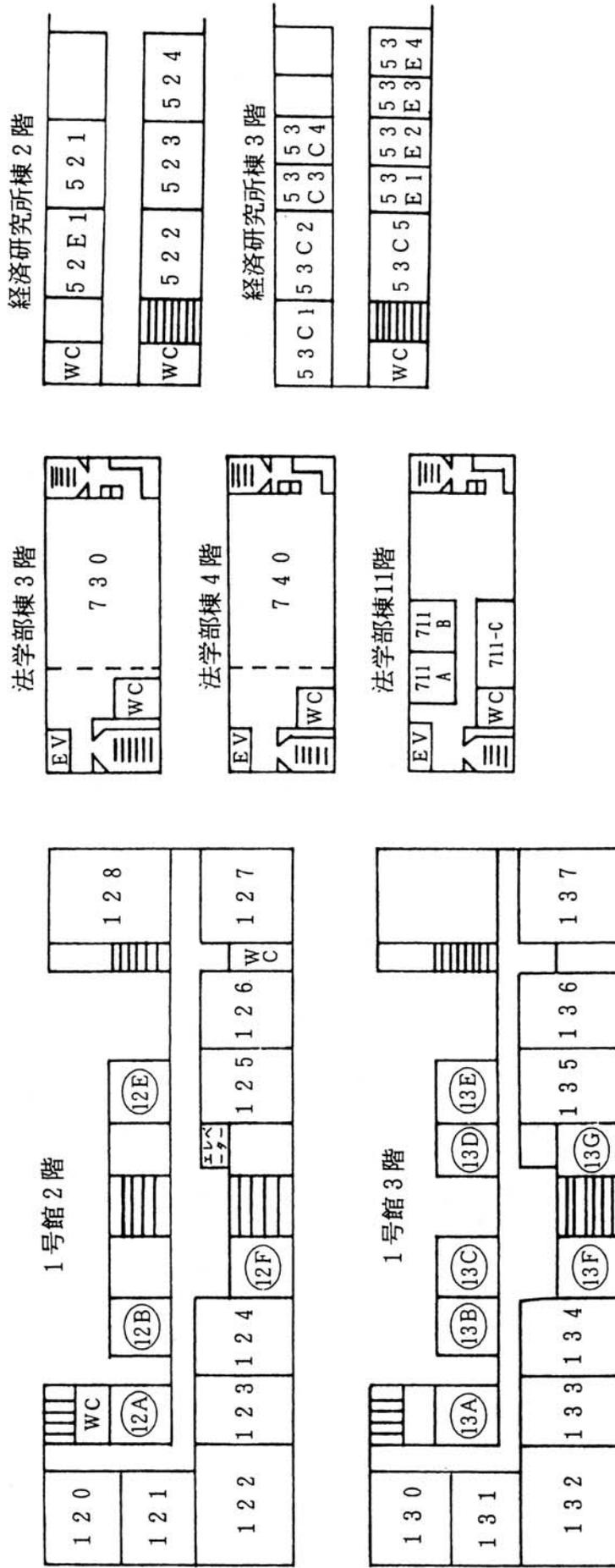
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター 9F

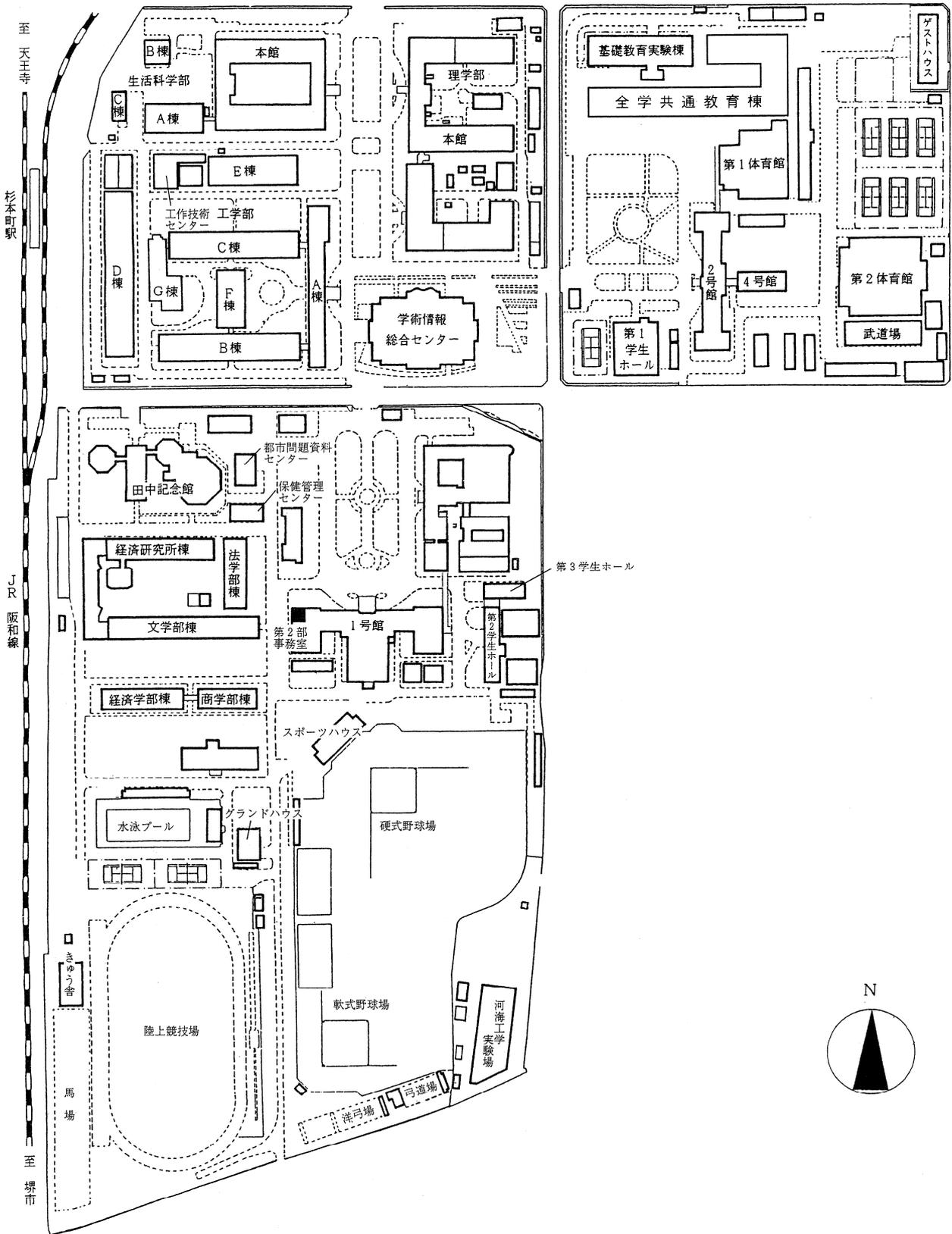


(西側省略)

本館地区各教室見取図



杉本学舎配置図



V 学 則

大阪市立大学学則

第1章 総則

(目的)

第1条 大阪市立大学(以下「大学」という。)は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法(昭和22年法律第26号)の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

(学部等)

第2条 大学の学部(医学部を除く。)、学科、入学定員、第3年次編入学定員(第11条第1項及び第2項の規定による編入学の定員をいう。)及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	第1部(夜間授業の課程以外の課程をいう。以下同じ。)			第2部(夜間授業の課程をいう。以下同じ。)	
		入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
		名	名	名	名	名
商学部	商学科	220		880		
経済学部	経済学科	220		880		
法学部	法学科	165	5	670		
文学部	哲学歴史学科	32	3	134		
	人間行動学科	56	3	230		
	言語文化学科	67	4	276		
	人文学科					
	計	155	10	640		
理学部	数学科	24		96		
	物理学科	33		132		
	化学科	42	3	174		
	生物学科	29	3	122		
	地球学科	16	3	70		
	計	144	9	594		
工学部	機械工学科	56		224		
	電子・物理工学科	42		168		
	電気情報工学科	42		168		
	化学バイオ工学科	56		224		
	建築学科	34		136		
	都市学科	50		200		
	計	280		1,120		
生活科学部	食品栄養科学科	35		140		
	居住環境学科	43		172		
	人間福祉学科	45		180		
	計	123		492		
合計		1,307	24	5,276		

2 医学部の学科、入学定員、第2年次編入学定員(第11条第3項の規定による編入学の定員をいう。)、第3年次編入学定員(同条第4項の規定による編入学の定員をいう。)及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
	名	名
医学科	92	552
看護学科	55	220
合計	147	772

3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。

- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学連携推進本部及び国際化戦略本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター及び複合先端研究機構を置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学連携推進本部及び国際化戦略本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、国際センター、地域連携センター、健康科学イノベーションセンター、人工光合成研究センター、複合先端研究機構、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

- 2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
 - (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
 - (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
 - (6) その他学長が必要と認めた日
- 2 学長は、特別の事情があると認めたときは、前項第3号から第5号までの休業日を取りやめ、又は変更することができる。

第2章 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の議を経て学部長が定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の議を経て学部長が定める。

第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 - (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による資格検定に合格した者
 - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。
- 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第1部、文学部第1部又は理学部物質科学科、化学科、生物学科若しくは地球学科の第3年次への編入学（第6号に該当する者にあつては、文学部第1部への編入学に限る。）を志願するものについては、教授会において選考の上学長が入学を許可することがある。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
 - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
 - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
 - (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
 - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
 - (6) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者（同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。）で学部長が定めるもの
- 2 前項に定めるもののほか、理学部地球学科の第3年次への編入学を志願する社会人（前項第1号から第5号までに掲げる者又は学校教育法第124条の規定による専修学校（以下「専修学校」という。）の専門課程（学校教育法施行規則第186条第1項に規定する基準を満たすものに限る。）を修了した者（同法第90条第1項に規定する者に限る。）のうち、理学部長が別に定める要件を満たすものをいう。）については、教授会において選考の上学長が入学を許可することがある。

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のあつた場合に限り、教授会において選考の上学長が入学を許可することがある。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (6) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者

2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号の規定により除籍された者が再入学を願い出

たときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

(転学部及び転学科)

第13条 本学の他学部転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の協議を経て、学長がこれを許可することがある。

- 2 転学科を志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長がこれを許可することがある。
- 3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の議を経て学部長が定める。

(留学)

第14条 外国の大学(外国の短期大学を含む。以下同じ。)に留学することを願い出た者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学と協議のうえ、学長がこれを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の議を経なければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が復学を許可することがある。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- 2 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍することがある。
 - (1) 授業料を納付しない者
 - (2) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
 - (3) 教授会の議を経て学部長が定める期間内に所定の単位を修得しない者
 - (4) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を次条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性かん養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目及び教職に関する科目とする。

- 2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。

- 3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生（医学部医学科の学生を除く。）は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

- 2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の議を経て同項の単位数を増加することができる。
- 4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の議を経て学部長が定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学（国内の短期大学を含む。以下同じ。）の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学との協議のうえ、学長がこれを承認することができる。

- 2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。
- 3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、既修得単位（大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）をいう。）を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

- 2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。
- 4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計算方法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学部長は教授会の議を経て卒業を認定する。

2 学長は、前項の規定により卒業を認定された者に対し、次の区分に従って学士の学位を授与する。

商学部 学士(商学)

経済学部 学士(経済学)

法学部 学士(法学)

文学部 学士(文学)

理学部 学士(理学)

工学部 学士(工学)

医学部

医学科 学士(医学)

看護学科 学士(看護学)

生活科学部 学士(生活科学)

第5節 教員免許

(教員免許)

第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
商学部	商学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
		商業	
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
		商業	
法学部	法学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
文学部	哲学歴史学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
	人間行動学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
	言語文化学科	国語	中学校教諭1種免許状
		中国語	高等学校教諭1種免許状
		英語	
		ドイツ語	
		フランス語	
	人文学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
国語		中学校教諭1種免許状	
理学部	数学科	数学	高等学校教諭1種免許状
	物理学科	理科	
	化学科		

学部	学科	免許教科	免許状の種類
	生物学科		
	地球学科		
工学部	機械工学科	工業	高等学校教諭1種免許状
	電子・物理工学科		
	電気情報工学科		
	化学バイオ工学科		
	建築学科		
	都市学科		
生活科学部	食品栄養科学科	家庭	中学校教諭1種免許状
			高等学校教諭1種免許状
			栄養教諭1種免許状
	居住環境学科	家庭	中学校教諭1種免許状
			高等学校教諭1種免許状

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

第6節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

- 2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。
- 3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において選考の上、学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議において選考の上、学長が入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額は、次表のとおりとする。

区分	入学検定料	入 学 料		授業料	
		本市住民及びその子	その他の者		
学生	第1部	17,000円	222,000円	342,000円	1年 535,800円
	第2部	10,000円	111,000円	171,000円	1年 267,900円
科目等履修生	9,800円	22,200円	34,200円	1単位	14,800円
研 修 生	9,800円	66,600円	102,600円	1月	29,700円

- 2 前項の規定にかかわらず、第10条第3項、第11条又は第12条第1項の規定により入学を願い出た者に係る入学検定料の額については、第1部にあっては30,000円、第2部にあっては18,000円とする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、長期履修学生の授業料の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号の1に該当する場合には、この限りでない。

- (1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合
- (2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学（以下「法人」という。）理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

- 2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することができる。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

- 2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することができる。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

- (1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、産学連携推進本部長、国際化戦略本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長
- (2) 教授、准教授、講師、助教
- (3) 事務職員、技術職員
- (4) その他必要な職員

(事務組織)

第40条 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。

- 2 大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター教員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

- 2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。
- 3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
 - (2) 教育研究評議員の選挙に関する事項
 - (3) 研究に関する事項
 - (4) 学科、課程及び履修方法に関する事項
 - (5) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
 - (6) 科目等履修生及び研修生に関する事項
 - (7) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
 - (8) その他学部における重要事項
- 2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

- 2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。
 - (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学長が指名する理事
 - (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
 - (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員
- 3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。
- 4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に関係のある学部の教授会）、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に関係のある学部）、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則及び大阪市立大学大学院学則の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項
- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の懲戒処分の審査に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (8) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (9) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- (10) 学生の身分に関する重要事項
- (11) 学生の厚生補導に関する事項
- (12) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項
- (13) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

14) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

(招集及び議事)

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。

3 議長は、教育研究評議会を主宰する。

4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が定める。

第7章 雑則

(改正)

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

(施行の細目)

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。

3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 各学部各学科の第1部収容定員

学 部	学 科	平成18年度 名	平成19年度 名
商学部	商学科	751	775
経済学部	経済学科	751	775
法学部	法学科	612	600
文学部	哲学歴史学科	120	122
	人間行動学科	196	200
	言語文化学科	227	235
理学部	数学科	90	93
	物理学科	114	119
	物質科学科	62	68
	化学科	89	97
	生物学科	98	108
工学部	地球学科	68	71
	応用化学科	107	109
	都市基盤工学科	56	84

学 部	学 科	平成18年度	平成19年度
	応用物理学科	107	109
	情報工学科	100	106
	バイオ工学科	56	84
	知的材料工学科	100	106
	環境都市工学科	100	106
生活科学部	食品栄養科学科	130	135
	人間福祉学科	175	177

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

学 部	平成18年度	平成19年度
	名	名
文学部	543	557
理学部	521	556
工学部	1,063	1,090
生活科学部	477	484

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
4,718	4,836

(4) 医学部看護学科の収容定員

平成18年度	平成19年度
名	名
160	230

(5) 医学部の収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
640	710

- 3 平成18年度から平成20年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第2部収容定員、文学部の第2部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
		名	名	名
商学部	商学科	250	225	200
経済学部	経済学科	280	270	260
法学部	法学科	240	210	180
文学部	哲学歴史学科	36	24	12
	人間行動学科	42	28	14
	言語文化学科	42	28	14
	人文学科	60	90	120
	計	180	170	160
合計		950	875	800

- 4 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成17年3月31日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和30年大阪市規則第18号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。
- 5 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部に在学する者（平成17年3月31日までに入学した者に限る。）については、第2条第1項、第7条、第8条及び第26条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。
- 6 平成11年3月31日までに入学した者に係る授業料の額は、第33条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成18年11月21日規程第173号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日規程第184号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第2条の改正規定は、平成18年12月19日から施行する。

附 則（平成19年3月20日規程第14号）

（施行期日）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成19年3月31日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成19年7月24日規程第72号）

（施行期日）

1 この規則は、平成19年10月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成19年9月30日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成20年3月18日規程第14号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年7月29日規程第86号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月16日規程第15号）

（施行期日）

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成21年度から平成23年度までの各年度における理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員、理学部の第1部収容定員の合計、工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員並びに全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員

学 科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	名	名	名
物理学科	126	128	130
物質科学科	53	32	16
化学科	123	140	157
生物学科	119	120	121
地球学科	72	70	70

(2) 理学部の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名	名	名
589	586	590

(3) 工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員

学 科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	名	名	名
機械工学科	140	168	196
電子・物理工学科	42	84	126
情報工学科	126	140	154

学 科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
化学バイオ工学科	56	112	168
建築学科	118	124	130
都市学科	50	100	150

(4) 全学部(医学部を除く。)の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名 4,973	名 4,970	名 4,974

3 平成21年度から平成25年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 490	名 500	名 510	名 520	名 530

(2) 医学部の収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 720	名 730	名 740	名 750	名 760

4 この規則の施行の際、現に理学部に在学する者(平成21年3月31日までに理学部物質科学科に入学した者に限る。)及び工学部に在学する者(平成21年3月31日までに工学部電気工学科、応用化学科、都市基盤工学科、応用物理学科、バイオ工学科、知的材料工学科、環境都市工学科に入学した者に限る。)については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則 (平成22年3月31日規程第64号)

(施行期日)

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成22年度から平成24年度までの各年度における商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員、文学部の第1部の収容定員の合計、全学部(医学部を除く。)の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員並びに文学部第1部の収容定員の合計

学 部	学 科	平成22年度	平成23年度	平成24年度
商学部	商学科	名 820	名 840	名 860
経済学部	経済学科	820	840	860
法学部	法学科	620	640	655
文学部	哲学歴史学科	127	130	132
	人間行動学科	211	218	224
	言語文化学科	253	262	269
	計	591	610	625

(2) 全学部(医学部を除く。)の第1部の収容定員の合計

平成22年度	平成23年度	平成24年度
名 5,057	名 5,136	名 5,206

3 平成22年度から平成26年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
名 502	名 514	名 526	名 538	名 550

(2) 医学部の収容定員の合計

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
名 732	名 744	名 756	名 768	名 780

附 則（平成22年9月27日規程第111号）

この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成23年3月30日規程第139号）

（施行期日）

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成23年3月31日までに生活科学部に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成24年3月30日規程第17号）

（施行期日）

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成24年度から平成25年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成24年度	平成25年度
名 212	名 194

(2) 医学部の収容定員の合計

平成24年度	平成25年度
名 764	名 746

附 則（平成24年6月29日規程第75号）

この規則は、平成24年7月1日から施行する。

附 則（平成25年1月31日規程第2号）

この規則は、平成25年2月1日から施行する。

附 則（平成25年3月29日規程第23号）

（施行期日）

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成25年度から平成27年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成25年度	平成26年度	平成27年度
名 197	名 195	名 205

(2) 医学部の収容定員の合計

平成25年度	平成26年度	平成27年度
名 735	名 745	名 757

附 則（平成25年5月31日規程第56号）

この規則は、平成25年6月1日から施行する。

附 則（平成25年10月31日規程第106号）
この規則は、平成25年11月1日から施行する。

別表（第2条関係）

商学部

部門名	科目名
経営学部門	経営学 経営学原理 経営組織論 経営学史 経営史 企業形態論 公益事業論 中小企業経営論 国際経営論 経営管理論 生産管理論 マーケティング管理論 情報管理論 経営財務論 人的資源管理論 経営統計論 オペレーションズ・マネジメント 経営戦略論 経営倫理 組織行動論 組織間関係論 コーポレート・ガバナンス論 アントレプレナーシップ論 イノベーション・マネジメント リスク・マネジメント論 サービス経営論 情報戦略論 経営科学 非営利組織経営論 情報社会論 情報システム開発論 データ分析論 情報産業論 情報処理演習 企業経営概論 経営情報概論 企業システム特講 マネジメント特講 情報論特講
商学部門	経済学 金融論 金融政策論 証券市場論 証券分析論 金融機関論 金融制度論 国際金融論 国際通貨体制論 外国為替論 商業論 卸売商業論 流通政策論

部門名	科目名
	小売国際経営論 流通システム論 マーケティング経済論 小売商業論 経営ロジスティクス論 貿易論 通商政策論 交通論 保険論 社会保険論 貿易実務 工業論 アメリカ産業論 日本産業論 地域経営論 中小企業論 地域産業論 産業立地論 国際立地論 産業統計論 統計方法論 技術論 技術史 サービス産業論 環境論 環境政策論 金融概論 商業概論 国際ビジネス概論 産業概論 金融論特講 流通論特講 産業論特講 国際ビジネス論特講 都市経営論特講 証券市場論特講
会計学部門	会計基礎論 会計学 財務会計論 ディスクロージャー論 会計手続選択論 企業評価論 実証会計論 経営分析論 社会関連会計論 国際会計論 中級簿記 簿記原理 管理会計論 国際管理会計論 原価計算論 コスト・マネジメント論 会計史 公会計論 会計監査論 会計情報システム論 コンピュータ会計論 英文会計論 非営利組織会計論

部門名	科目名
	税務会計論 会計学概論 財務会計論特講 管理会計論特講

経済学部

部門名	科目名
経済理論部門	経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ 経済学方法論 経済変動論 経済学説史 近代経済学説史 経済思想史 社会思想史 社会経済論 数理経済学 貨幣論 オープンマクロ経済学 経済理論特講
経済統計論部門	統計解析論 計量経済学 経済統計論 国民所得論 産業連関論 経済情報論 計算機経済学 経済統計論特講
経済史部門	経済史概論 日本経済史 西洋経済史 東洋経済史 企業経済史 現代経済史 戦後日本経済史 経済史特講
経済政策論部門	経済政策論 社会政策論 産業政策論 国際経済政策論 経済計画論 公共経済学 財政学 地方財政論 環境経済学 金融経済論 物価論 証券経済論 労働経済論 日本経済論 生命経済学 経済政策論特講
経済構造論部門	産業経済論 農業経済論 産業技術論 流通経済論 交通経済論 都市経済論

部門名	科目名
	医療経済学 経済地理学 寡占経済論 現代資本主義論 産業組織論 経済構造論特講 世界経済論 国際経済学 国際貿易論 国際通貨論 経済開発論 比較経済論 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 ロシア経済論 アジア経済論 中国経済論 各国経済論特講 国際経済論特講

法学部

部門名	科目名
基礎法学	法哲学 法社会学 法情報学 日本法制史 日本近代法制史 東洋法制史 西洋法制史 ローマ法 基礎法学特講
公法	憲法第1部 憲法第2部 行政法第1部 行政法第2部 租税法 刑法第1部 刑法第2部 刑事訴訟法 刑事政策 公法特講
私法	民法第1部 民法第2部 民法第3部 民法第4部 民法第5部 民法特講 商法第1部 商法第2部 商法第3部 金融商品取引法 商法特講 民事訴訟法 民事執行・保全法 倒産法
社会法	労働法 社会保障法 経済法

部門名	科目名
	知的財産法 社会法特講
国際関係・外国法	国際法 国際組織法 国際経済法 国際私法 英米法 ドイツ法 フランス法 アジア法 外国法特講
政治・行政学	政治学 比較政治学 政治過程論 政治学史 日本政治外交史 欧州政治外交史 国際政治 行政学 公共政策論 都市行政論 政治学特講

文学部

学科名	コース名	科目名
哲学歴史学科	哲学	哲学 哲学史 論理学 倫理学 宗教学
	日本史	日本史学Ⅰ 日本史学Ⅱ 日本史学Ⅲ
	世界史	世界史学Ⅰ 世界史学Ⅱ 世界史学Ⅲ 世界史学Ⅳ 世界史学Ⅴ 世界史学Ⅵ
	共通	人間文化学
	人間行動学科	社会学
人間行動学科	心理学	心理学 実験心理学 精神測定学 応用心理学
	教育学	教育学 教育方法学 教育心理学 教育社会学
	地理学	地理学Ⅰ 地理学Ⅱ 地理学Ⅲ 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ
	共通	人間行動学

学科名	コース名	科目名
言語文化学科	国語国文学	国語学Ⅰ 国語学Ⅱ 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 国文学史
	中国語中国文学	中国語学Ⅰ 中国語学Ⅱ 中国文学 中国文化学
	ドイツ語フランス語圏言語文化	ドイツ語学 ドイツ文学 ドイツ文化論 フランス語学 フランス文学 フランス文化論 ドイツ語フランス語圏言語文化論
	言語応用	言語学 言語情報論 言語応用論 言語比較論 言語教育論
	表現文化	文化理論 表現文化論 表象文化論 比較表現論
	共通	言語文化論
	歴史文化	日本史学 世界史学 都市文化学
人文学科	人間行動学	社会学方法論 応用心理学 人文地理学 教育方法学
	言語文化・思想	国語学 国文学 中国文学 表現文化論 言語文化論 哲学 倫理学

理学部

学科名	講座名
数学	数理構造論 数理解析学
物理学	基礎物理学 宇宙・高エネルギー物理学 物性物理学
化学	物理化学 無機化学 有機化学
生物学	生物分子機能学 生体機能生物学 自然誌機能生物学
地球学	環境地球学 地球物質進化学

工学部

学科名	講座名
機械工学	機械工学 知的材料工学
電子・物理工学	電気工学 応用物理学
電気情報工学	情報工学
化学バイオ工学	応用化学 バイオ工学
建築学	建築学 都市基盤工学
都市学	環境都市工学

医学部

学科名	講座名	専門分野
医学	分子生体医学	分子病態薬理学 分子病態学 分子制御生物学 システム神経科学 分子細胞生理学 機能細胞形態学 細胞情報学 細胞機能制御学 実験動物学 器官構築形態学 薬効安全性学
	都市医学	分子病理学 病理病態学 産業医学 都市環境医学 公衆衛生学 運動生体医学 運動環境生理学 医学医療情報学 法医学 ウイルス学 細菌学 寄生虫学
	老年医科学	免疫制御学 生体機能解析学 脳神経科学 遺伝子制御学 老年血管病態学 老年腫瘍病態学 分子制御
	臓器器官病態内科学	循環器内科学 腎臓病態内科学 呼吸器内科学 肝胆膵病態内科学 消化器内科学 代謝内分泌病態内科学 血液腫瘍制御学 神経精神医学 血行動態力学 臨床腫瘍学（特別分野）
	病態診断・生体機能管理医学	放射線医学

学科名	講座名	専門分野
		核医学 診断病理学 麻酔科学 救急医学
	生殖発達医学	女性生涯医学 女性病態医学 発達小児医学 老年内科学
	臓器器官病態外科学	腫瘍外科学 消化器外科学 肝胆膵外科学 循環器外科学 泌尿器病態学
	感覚・運動機能医学	皮膚病態学 視覚病態学 耳鼻咽喉(いんこう)病態学 上気道機能病態学 脳神経外科学 脳神経病態学 整形外科学 リウマチ外科学 形成外科学
	医療管理医学	医薬品・食品効能評価学 総合医学教育学 臨床感染制御学 医療安全管理学
看護学	看護学	看護基礎科学 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 母性看護学 小児看護学 在宅看護学 公衆衛生看護学

生活科学部

学科名	講座名	専門分野
食品栄養科学	食品栄養科学	食・健康科学
居住環境学	居住環境学	居住環境学
人間福祉学	人間福祉学	総合福祉科学 臨床心理学

VI 各学部等の電話番号・所在地

各学部等の電話番号・所在地

杉本学舎

学 部 等	電 話 番 号	所 在 地
商 学 部	06-6605-2201	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
経 済 学 部	06-6605-2251	
法 学 部	06-6605-2303	
文 学 部	06-6605-2353	
理 学 部	06-6605-2504	
工 学 部	06-6605-2653	
生 活 科 学 部	06-6605-2803	
2 部 事 務 室	06-6605-2151	
学 生 支 援 課	06-6605-2932	(全学共通教育全般)
	06-6605-2936	(教育実習)
	06-6605-2141	(入試等)

阿倍野学舎

学 部 等	電 話 番 号	所 在 地
医学部学務課 (医 学 科)	06-6645-3611	〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
医学部学務課 (看護学科)	06-6645-3511	

学 部		学籍番号	
氏 名			